大学院文学研究科
シラバス

平成28年度
［2016年度］

大阪市立大学大学院
文学研究科

www.lit.osaka-cu.ac.jp

平成 28 年度学年歴

学　年　開　始	４月１日（金）
新入生ガイダンス	４月１日（金）
入　　学　　式	４月４日（月）
新入生健康診断	４月７日（木）
前期授業開始日	４月８日（金）
博士論文提出期間（９月修了）	５月２日（月）～６月10日（金）
創　立　記　念　日	６月１日（水）（通常通り授業実施）
授業・試験期間	７月25日（月）～８月５日（金）
夏　季　休　業	８月５日（金）～９月15日（木）
研　修　期　間	９月16日（金）～９月30日（金）
後期授業開始	10月３日（月）
博士論文提出期間	11月１日（火）～12月12日（月）
振　替　授　業　日	11月８日（火）金曜日の授業を実施
冬　季　休　業	12月23日（金）～１月７日（土）
修士論文提出期限	１月10日（火）
振　替　授　業　日	１月17日（火）金曜日の授業を実施
授業・試験期間	２月１日（水）～２月14日（火）
研　修　期　間	２月15日（水）～３月19日（日）
春　季　休　業	３月20日（月）～

※振替授業日　―　各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。
※研修期間―集中講義や補講などが行われることがある。
※授業・試験期間―定期試験や授業を行う。

振替試験日及び試験日

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、１セメスターで授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施するばあいがあります。（平成28年度においては８月５日が夏季休業期間ですが、授業・試験を実施）

平成 28 年度カレンダー（大学院）

〔前期〕

	日	月	火	水	木	金	土
4月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

1日(金)　新入生ガイダンス
2日(土)　新入生TOEFL
4日(月)　入学式
7日(木)　新入生健康診断
8日(金)　前期授業開始

	日	月	火	水	木	金	土
5月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土
6月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

	日	月	火	水	木	金	土
7月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

25日(月)～8月5日(金)
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
8月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

5日(金)～9月15日(木)
夏季休業期間
(ただし5日(金)は
授業・試験を実施)

	日	月	火	水	木	金	土
9月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

16日(金)～30日(金)
研修期間

〔後期〕

	日	月	火	水	木	金	土
10月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

3日(月)　後期授業開始

	日	月	火	水	木	金	土
11月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

2日(水)
4日(金)
8日(火)　振替授業
（金曜の授業を実施）

	日	月	火	水	木	金	土
12月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

23日(金)～1月7日(土)
冬季休業期間

	日	月	火	水	木	金	土
1月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

13日(金)　センター試験に伴う
休講措置

17日(火)　振替授業
（金曜の授業を実施）

	日	月	火	水	木	金	土
2月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28				

1日(水)～14日(火)
授業・試験期間

15日(水)～3月19日(日)
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
3月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

20日(月)～春季休業期間

目　　次

平成 28 年度学年暦 …… i

平成 28 年度カレンダー（大学院） …… ii

履修上の注意 …… 1

前期博士課程科目 …… 2

後期博士課程科目 …… 163

教　員　名　簿 …… 177

教 室 見 取 り 図 …… 182

杉本キャンパスマップ …… 188

前期博士課程

・哲学歴史学専攻

・人間行動学専攻

・言語文化学専攻

・アジア都市文化学専攻

・共　通　科　目

履修上の注意

●大学院科目表に整理番号を付与して、掲載番号順に授業概要（シラバス）を作成した。開講期欄に時間割を記入しているが、時間割表と違う場合は、時間割表が優先するので、必ず時間割表で確認すること。

●2016年度より、大阪市立大学で開講されているすべての科目に９桁のアルファベットおよび数字によるナンバーづけ（ナンバリング）が行われている。文学研究科の科目に関するナンバリングの基本的な考え方は以下の通りである。なお､学部の科目や教職科目等については学部の『科目履修の手引き』などを参照のこと。

①最初のアルファベット２桁は、科目の提供主体である文学研究科と専攻を意味するＬＡ（哲学歴史学専攻）･ＬＢ（人間行動学専攻）･ＬＣ（言語文化学専攻）･ＬＤ（アジア都市文化学専攻）とし、研究科共通科目はＬＸとする。

②３～５桁目のアルファベットは専修（ないしは専攻分野）を表す。

・哲学歴史学専攻:哲学＝ＰＨＬ、日本史＝ＪＰＨ、東洋史学＝ＷＨＥ、西洋史学＝ＷＨＷ

・人間行動学専攻:社会学＝ＳＯＣ、心理学＝ＰＳＹ、教育学＝ＥＤＵ、地理学＝ＧＥＯ

・言語文化学専攻:国語国文学＝ＪＰＮ、中国語中国文学＝ＣＨＮ、英米言語文化＝ＥＮＧ、ドイツ語圏言語文化領域＝ＤＦＤ、フランス語圏言語文化領域＝ＤＦＦ、言語応用＝ＬＮＧ、表現文化＝ＡＲＴ

・アジア都市文化学専攻＝ＡＳＡ

・研究科で共通の科目、専攻で共通の科目は、ＧＥＮとする。

③６桁目は、学修マップ上の位置づけを、以下の４段階で表示する。

・前期博士課程　専攻共通科目＝１　分野専門科目＝２　研究指導科目＝３

・後期博士課程　論文指導＝４　その他＝４

④７桁目は、標準履修年次の最小学年を表す。具体的には、Ｍ１＝５、Ｍ２＝６、Ｄ１～＝７とする。

⑤８～９桁目は科目特定番号であり、科目表の配列順になっている。

●大学院学生は、教育職員免許の専修免許状取得の前提となる、１種教育職員免許取得のために、学部提供科目を履修して不足単位を補うことができる。履修については、当該教授会での許可が必要である。履修登録を行うとともに、別途「学部提供科目履修願」を学生サポートセンター文学研究科教務担当に提出して学部科目を受講すること。後日、全学ポータルサイトへの掲載および、掲示により通知するので必ず確認すること。許可されなかった場合は、学部提供科目は履修できない。

●大学院学生は、学芸員資格に関する学部提供科目を履修することができる。履修については、当該教授会での許可が必要である。履修登録を行うとともに、別途「学部提供科目履修願」を学生サポートセンター文学研究科教務担当に提出して学部科目を受講すること。後日、全学ポータルサイトへの掲載および、掲示により通知するので必ず確認すること。許可されなかった場合は、学部提供科目は履修できない。

●他研究科の大学院生で履修を希望する者は、開講前に科目提供専修（アジア都市文化学は専攻）に相談すること。共通科目については、事務担当まで申し出ること。

●大学院科目表の＊印は特任教員、［　］は非常勤講師を表す。

前期博士課程科目

科目番号	科目名	教員名	単位数	備考
■哲学歴史学専攻				
M１	人間文化学研究Ⅰ	仲原	２単位	
M２	人間文化学研究Ⅱ	塚田・平田・大黒	２単位	
M３	哲学研究	仲原	２単位	
M４	哲学研究演習	高梨	２単位	
M５	西洋哲学史研究	［脇坂］	２単位	学部と共通
—	西洋哲学史研究演習	（休）	２単位	
M６	倫理学研究	土屋	２単位	
M７	倫理学研究演習	土屋	２単位	
M８	美学研究	高梨	２単位	
M９	美学研究演習	高梨	２単位	
M10	宗教学研究	仲原	２単位	
M11	宗教学研究演習	仲原	２単位	
—	論理学・科学哲学研究Ⅰ	（休）	２単位	
—	論理学・科学哲学研究Ⅱ	（休）	２単位	
M12	哲学総合研究Ⅰ	仲原・高梨・土屋	２単位	
M13	哲学総合研究Ⅱ	仲原・高梨・土屋	２単位	
M14	哲学研究指導Ⅰ	仲原・高梨	２単位	
M15	哲学研究指導Ⅱ	仲原・高梨	２単位	
M16	日本史学研究Ⅰ	磐下	２単位	
M17	日本史学研究演習１	磐下	２単位	
M18	日本史学研究Ⅱ	仁木	２単位	
M19	日本史学研究演習２	仁木	２単位	
M20	日本史学研究Ⅲ	塚田	２単位	
M21	日本史学研究演習３	塚田	２単位	
M22	日本史学研究Ⅳ	佐賀	２単位	
M23	日本史学研究演習４	佐賀	２単位	
M24	日本史学研究Ⅴ	［湯浅］	２単位	学部と共通
M25	日本史学研究Ⅵ	［後藤］	２単位	学部と共通
M26	考古学研究	岸本	２単位	
M27	考古学研究演習	岸本	２単位	
M28	日本史学総合研究Ⅰ	塚田・仁木・岸本・佐賀・磐下	２単位	
M29	日本史学総合研究Ⅱ	塚田・仁木・岸本・佐賀・磐下	２単位	
M30	日本史学研究指導Ⅰ	塚田・仁木・岸本・佐賀	２単位	
M31	日本史学研究指導Ⅱ	塚田・仁木・岸本・佐賀	２単位	
M32	東洋史学研究Ⅰ	平田	２単位	
M33	東洋史学研究演習１	平田	２単位	
M34	東洋史学研究Ⅱ	平田	２単位	
M35	東洋史学研究演習２	平田	２単位	
M36	東洋史学研究Ⅲ	平田	２単位	
M37	東洋史学研究演習３	野村	２単位	
M38	東洋史学研究Ⅳ	［秋葉］	２単位	学部と共通
—	東洋史学研究演習４	（休）	２単位	
M39	東洋史学研究Ⅴ	［松本］	２単位	学部と共通
M40	東洋史学研究Ⅵ	［上田］	２単位	学部と共通
M41	東洋史学総合研究Ⅰ	平田・野村	２単位	
M42	東洋史学総合研究Ⅱ	平田・野村	２単位	
M43	東洋史学研究指導Ⅰ	平田	２単位	
M44	東洋史学研究指導Ⅱ	平田	２単位	
M45	世界史学研究	野村	２単位	
M46	世界史学研究演習	野村	２単位	
M47	西洋史学研究Ⅰ	草生	２単位	
—	西洋史学研究演習１	（休）	２単位	
M48	西洋史学研究Ⅱ	［中谷］	２単位	学部と共通

科目番号	科目名	教員名	単位数	備考
M49	西洋史学研究演習 2	草生	2 単位	
M50	西洋史学研究Ⅲ	大黒	2 単位	
M51	西洋史学研究演習 3	大黒	2 単位	
M52	西洋史学研究Ⅳ	北村	2 単位	
M53	西洋史学研究演習 4	北村	2 単位	
—	西洋史学研究Ⅴ	（休）	2 単位	
M54	西洋史学研究Ⅵ	［南］	2 単位	学部と共通
M55	西洋史学総合研究Ⅰ	大黒・北村・草生	2 単位	
M56	西洋史学総合研究Ⅱ	大黒・北村・草生	2 単位	
M57	西洋史学研究指導Ⅰ	大黒・北村	2 単位	
M58	西洋史学研究指導Ⅱ	大黒・北村	2 単位	

■人間行動学専攻

M59	人間行動学研究Ⅰ	石田	2 単位	学部と共通
M60	人間行動学研究Ⅱ	［東山］	2 単位	学部と共通
M61	人間行動学研究Ⅲ	［山﨑（洋）］	2 単位	学部と共通
M62	人間行動学研究Ⅳ	［山口］	2 単位	学部と共通
M63	社会学基礎問題研究Ⅰ	進藤	2 単位	
M64	社会学基礎問題研究演習 1	進藤	2 単位	
M65	社会学基礎問題研究Ⅱ	石田	2 単位	
M66	社会学基礎問題研究演習 2	石田	2 単位	
M67	社会学特殊問題研究Ⅰ	伊地知	2 単位	
M68	社会学特殊問題研究演習 1	伊地知	2 単位	
M69	社会学特殊問題研究Ⅱ	［白波瀬］	2 単位	学部と共通
M70	社会学特殊問題研究演習 2	川野	2 単位	
M71	社会学特殊問題研究Ⅲ	［野村］	2 単位	学部と共通
—	社会学特殊問題研究演習 3	（休）	2 単位	
M72	社会学特殊問題研究Ⅳ	［田間］	2 単位	学部と共通
—	社会学特殊問題研究Ⅴ	（休）	2 単位	
M73	社会学総合研究Ⅰ	進藤・石田・伊地知・川野	2 単位	
M74	社会学総合研究Ⅱ	進藤・石田・伊地知・川野	2 単位	
M75	社会学研究指導Ⅰ	進藤・石田・伊地知	2 単位	
M76	社会学研究指導Ⅱ	進藤・石田・伊地知	2 単位	
M77	心理学基礎問題研究	池上	2 単位	
M78	心理学基礎問題研究演習	池上	2 単位	
M79	実験心理学研究	山	2 単位	
M80	実験心理学研究演習	山	2 単位	
M81	心理学特殊問題研究Ⅰ	川邉	2 単位	
M82	心理学特殊問題研究演習 1	川邉	2 単位	
M83	心理学特殊問題研究Ⅱ	佐伯	2 単位	
M84	心理学特殊問題研究演習 2	佐伯	2 単位	
—	心理学特殊問題研究Ⅲ	（休）	2 単位	
—	心理学特殊問題研究Ⅳ	（休）	2 単位	
M85	心理学総合研究Ⅰ	池上・山・川邉・佐伯	2 単位	
M86	心理学総合研究Ⅱ	池上・山・川邉・佐伯	2 単位	
M87	心理学研究指導Ⅰ	池上・山	2 単位	
M88	心理学研究指導Ⅱ	池上・山	2 単位	
M89	教育学基礎問題研究	柏木	2 単位	
M90	教育学基礎問題研究演習	柏木	2 単位	
M91	学校教育学研究Ⅰ	島田	2 単位	
M92	学校教育学研究演習 1	島田	2 単位	
M93	学校教育学研究Ⅱ	森	2 単位	学部と共通
M94	学校教育学研究演習 2	森	2 単位	
M95	教育学特殊問題研究Ⅰ	［滝沢］	2 単位	
M96	教育学特殊問題研究演習 1	［滝沢］	2 単位	
M97	教育学特殊問題研究Ⅱ	添田	2 単位	
M98	教育学特殊問題研究演習 2	添田	2 単位	

科目番号	科目名	教員名	単位数	備考
M99	教育学総合研究Ⅰ	柏木・添田・森・島田	2単位	
M100	教育学総合研究Ⅱ	柏木・添田・森・島田	2単位	
M101	教育学研究指導Ⅰ	柏木	2単位	
M102	教育学研究指導Ⅱ	柏木	2単位	
M103	地理学基礎問題研究	山﨑（孝）	2単位	
M104	地理学基礎問題研究演習	山﨑（孝）	2単位	
M105	地理情報論研究	木村	2単位	
M106	地理情報論研究演習	木村	2単位	
M107	人文地理学特殊問題研究Ⅰ	水内	2単位	学部と共通
M108	人文地理学特殊問題研究演習1	水内	2単位	
M109	人文地理学特殊問題研究Ⅱ	大場	2単位	
M110	人文地理学特殊問題研究演習2	大場	2単位	
M111	人文地理学特殊問題研究Ⅲ	祖田	2単位	
M112	人文地理学特殊問題研究演習3	祖田	2単位	
M113	地理学総合研究Ⅰ	大場・水内・山﨑（孝）・祖田・木村	2単位	
M114	地理学総合研究Ⅱ	大場・水内・山﨑（孝）・祖田・木村	2単位	
M115	地理学研究指導Ⅰ	大場・水内・山﨑（孝）	2単位	
M116	地理学研究指導Ⅱ	大場・水内・山﨑（孝）	2単位	

■言語文化学専攻

M117	言語文化学研究Ⅰ	［大東］	2単位	
—	言語文化学研究Ⅱ	（休）	2単位	
—	言語文化学研究Ⅲ	（休）	2単位	
M118	言語文化学研究Ⅳ	津川	2単位	
M119	国文学研究Ⅰ	久堀	2単位	
M120	国文学研究演習1	久堀	2単位	
M121	国文学研究Ⅱ	小林	2単位	
M122	国文学研究演習2	小林	2単位	
—	国文学研究Ⅲ	（休）	2単位	
—	国文学研究演習3	（休）	2単位	
M123	国文学研究Ⅳ	奥野	2単位	
M124	国文学研究演習4	奥野	2単位	
M125	国語学研究	丹羽	2単位	
M126	国語学研究演習	丹羽	2単位	
M127	国語国文学研究	［水谷］	2単位	学部と共通
M128	国語国文学研究演習	［水谷］	2単位	学部と共通
M129	国語国文学総合研究Ⅰ	丹羽・小林・久堀・奥野	2単位	
M130	国語国文学総合研究Ⅱ	丹羽・小林・久堀・奥野	2単位	
M131	国語国文学研究指導Ⅰ	丹羽・小林	2単位	
M132	国語国文学研究指導Ⅱ	丹羽・小林	2単位	
M133	中国文学研究	松浦	2単位	
M134	中国文学研究演習	松浦	2単位	
M135	中国文化学研究	張	2単位	
M136	中国文化学研究演習	張	2単位	
M137	中国語学研究	岩本	2単位	
M138	中国語学研究演習	岩本	2単位	
M139	中国文献文化学研究Ⅰ	大岩本	2単位	
M140	中国文献文化学研究演習1	大岩本	2単位	
M141	中国文献文化学研究Ⅱ	［秋岡］	2単位	学部と共通
M142	中国語応用研究	松浦・張	2単位	
M143	中国語中国文学総合研究Ⅰ	松浦・岩本・張	2単位	
M144	中国語中国文学総合研究Ⅱ	松浦・岩本・張	2単位	
M145	中国語中国文学研究指導Ⅰ	松浦・岩本・張	2単位	
M146	中国語中国文学研究指導Ⅱ	松浦・岩本・張	2単位	
—	英文学研究Ⅰ	（休）	2単位	
—	英文学研究演習1	（休）	2単位	
M147	英文学研究Ⅱ	田中（孝）	2単位	

科目番号	科目名	教員名	単位数	備考
M148	英文学研究演習 2	田中（孝）	2 単位	
M149	英文学研究Ⅲ	杉井	2 単位	
M150	英文学研究演習 3	杉井	2 単位	
M151	米文学研究	古賀	2 単位	
M152	米文学研究演習	古賀	2 単位	
M153	英米文化学研究	リチャーズ	2 単位	
M154	英米文化学研究演習	リチャーズ	2 単位	
M155	英語学研究Ⅰ	豊田	2 単位	
M156	英語学研究演習 1	豊田	2 単位	
—	英語学研究Ⅱ	（休）	2 単位	
—	英語学研究演習 2	（休）	2 単位	
M157	英米言語文化論	［原］	2 単位	学部と共通
M158	英語英米文学総合研究Ⅰ	杉井・田中（孝）	2 単位	
M159	英語英米文学総合研究Ⅱ	杉井・田中（孝）	2 単位	
M160	英語英米文学研究指導Ⅰ	杉井・田中（孝）	2 単位	
M161	英語英米文学研究指導Ⅱ	杉井・田中（孝）	2 単位	
M162	ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅰ	髙井	2 単位	学部と共通
—	ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅱ	（休）	2 単位	
M163	ドイツ語圏文学研究Ⅰ	髙井	2 単位	
M164	ドイツ語圏文学研究演習 1	髙井	2 単位	
M165	ドイツ語圏文学研究Ⅱ	［廣瀬（千）］	2 単位	
—	ドイツ語圏文学研究演習 2	（休）	2 単位	
M166	ドイツ語圏文化学研究	髙井	2 単位	
—	ドイツ語圏文化学研究演習	（休）	2 単位	
M167	ドイツ語学研究	神竹	2 単位	
M168	ドイツ語学研究演習	神竹	2 単位	
M169	フランス語圏文学研究	津川	2 単位	
M170	フランス語圏文学研究演習	津川	2 単位	
M171	フランス語圏文化学研究	白田	2 単位	
M172	フランス語圏文化学研究演習	白田	2 単位	
M173	フランス語学研究	福島	2 単位	
M174	フランス語学研究演習	福島	2 単位	
M175	フランス語圏言語文化論Ⅰ	津川	2 単位	
M176	フランス語圏言語文化論Ⅱ	白田	2 単位	
—	ヨーロッパ言語文化学研究	（休）	2 単位	
M177	多文化学研究	福島	2 単位	学部と共通
M178	地域社会文化学研究Ⅰ	神竹	2 単位	
—	地域社会文化学研究Ⅱ	（休）	2 単位	
M179	ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅰ	神竹・髙井・津川・福島・白田	2 単位	
M180	ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅱ	神竹・髙井・津川・福島・白田	2 単位	
M181	ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ	神竹・津川・福島	2 単位	
M182	ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ	神竹・津川・福島	2 単位	
M183	言語応用学研究Ⅰ	関	2 単位	
M184	言語応用学研究演習 1	関	2 単位	
M185	言語応用学研究Ⅱ	井狩	2 単位	
M186	言語応用学研究演習 2	井狩	2 単位	
M187	言語応用学研究Ⅲ	山崎（雅）	2 単位	
M188	言語応用学研究演習 3	山崎（雅）	2 単位	
M189	言語応用学研究Ⅳ	田中（一）	2 単位	
M190	言語応用学研究演習 4	田中（一）	2 単位	
M191	言語応用学総合研究Ⅰ	関・井狩・山崎（雅）・田中（一）	2 単位	
M192	言語応用学総合研究Ⅱ	関・井狩・山崎（雅）・田中（一）	2 単位	
M193	言語応用学研究指導Ⅰ	関・井狩・山崎（雅）・田中（一）	2 単位	
M194	言語応用学研究指導Ⅱ	関・井狩・山崎（雅）・田中（一）	2 単位	
M195	表現文化学研究Ⅰ	小田中	2 単位	
M196	表現文化学研究演習 1	小田中	2 単位	
M197	表現文化学研究Ⅱ	野末	2 単位	

科目番号	科目名	教員名	単位数	備考
M198	表現文化学研究演習 2	野末	2 単位	
M199	表現文化学研究Ⅲ	三上	2 単位	
M200	表現文化学研究演習 3	三上	2 単位	
M201	表現文化学研究Ⅳ	海老根	2 単位	
M202	表現文化学研究演習 4	海老根	2 単位	
M203	表現文化学研究Ⅴ	高島	2 単位	
M204	表現文化学研究演習 5	中川	2 単位	
—	表現文化学研究Ⅵ	（休）	2 単位	
M205	表現文化学特殊研究	［日比野］	2 単位	学部と共通
M206	表現文化学総合研究Ⅰ	三上・小田中・野末	2 単位	
M207	表現文化学総合研究Ⅱ	三上・小田中・野末	2 単位	
M208	表現文化学研究指導Ⅰ	三上・小田中・野末	2 単位	
M209	表現文化学研究指導Ⅱ	三上・小田中・野末	2 単位	

■アジア都市文化学専攻

M210	アジア都市文化学基礎研究Ⅰ	中川・多和田	2 単位	
M211	アジア都市文化学基礎研究Ⅱ	野崎・増田	2 単位	
M212	都市文化学研究	増田	2 単位	
M213	都市文化学研究演習	増田	2 単位	
M214	都市環境学研究	中川	2 単位	
M215	都市環境学研究演習	中川	2 単位	
M216	アジア地域文化学研究Ⅰ	中川	2 単位	
M217	アジア地域文化学研究演習 1	中川	2 単位	
M218	アジア地域文化学研究Ⅱ	野崎	2 単位	
M219	アジア地域文化学研究演習 2	野崎	2 単位	
—	アジア歴史文化学研究	（休）	2 単位	
—	アジア歴史文化学研究演習	（休）	2 単位	
M220	アジア民族文化学研究	多和田	2 単位	
M221	アジア民族文化学研究演習	多和田	2 単位	
M222	アジア比較文化学研究	堀	2 単位	
M223	アジア比較文化学研究演習	堀	2 単位	
—	アジア大阪比較都市文化学研究Ⅰ	（休）	2 単位	
—	アジア大阪比較都市文化学研究Ⅱ	（休）	2 単位	
—	アジア比較言語文化学研究	（休）	2 単位	
M224	アジア観光文化学研究	天野	2 単位	
M225	アジア観光文化学研究演習	天野	2 単位	
M226	アジア都市文化学特講Ⅰ	［橋本］	2 単位	
—	アジア都市文化学特講Ⅱ	（休）	2 単位	
M227	アジア都市文化学総合研究Ⅰ	中川・野崎・多和田・増田・堀・天野	2 単位	
M228	アジア都市文化学総合研究Ⅱ	中川・野崎・多和田・増田・堀・天野	2 単位	
M229	アジア都市文化学研究指導Ⅰ	中川・野崎・多和田	2 単位	
M230	アジア都市文化学研究指導Ⅱ	中川・野崎・多和田	2 単位	

◆共通科目

—	比較文化交流論Ⅰ	（休）	2 単位	
M231	比較文化交流論Ⅱ	［ラングリー・小野原］・IS運営委員長	2 単位	学部と共通
—	国際都市文化論Ⅰ	（休）	2 単位	
—	国際都市文化論Ⅱ	（休）	2 単位	
—	国際都市社会論Ⅰ	（休）	2 単位	
—	国際都市社会論Ⅱ	（休）	3 単位	
M232	アカデミック・コミュニケーション演習Ⅰ	［リー］	2 単位	
M233	アカデミック・コミュニケーション演習Ⅱ	［リー］	2 単位	

哲学歴史学専攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAGEN1501	開講期	単位数
M1	人間文化学研究Ⅰ			後月 4	2 単位
	英文名 Higher Studies in Human and Culture Ⅰ			担当教員名 仲原 孝 教授	

●科目の主題

哲学の基本的な研究態度を身につけるとともに、受講者各自が主体的に問題を立て、必要な文献を探索して読解し、それを使って研究論文を構築するまでのプロセスを実践的に学ぶ。

●到達目標

受講者各自が哲学的な研究論文を構築する技能を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

今年はカントの『純粋理性批判』をとりあげ、それを原書講読しながら、受講者が各自の問題意識に応じたテーマを設定し、それについての研究論文的レポートを作成するところまでを指導する。ただし授業進度の都合上、授業計画に多少の変更が行なわれる場合もありうることを付記しておく。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　原書講読（1）
第 3 回　原書講読（2）
第 4 回　原書講読（3）
第 5 回　原書講読（4）
第 6 回　原書講読（5）
第 7 回　中間研究発表と講評
第 8 回　資料探索とレポート構築とのための指示
第 9 回　原書ないし資料講読（1）
第 10 回　原書ないし資料講読（2）
第 11 回　原書ないし資料講読（3）
第 12 回　原書ないし資料講読（4）
第 13 回　原書ないし資料講読（5）
第 14 回　最終研究発表と講評
第 15 回　レポートへの評価。論文構成上の指導

●評価方法

平常点、すなわち毎回の授業にどの程度主体的に取り組んだかに応じて、評価する。

●受講生へのコメント

遅刻は大幅に減点する。特に自分の担当する回に特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。

●参考文献・教材

必要な資料は印刷して授業中に配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAGEN1502	開講期	単位数
M2	人間文化学研究Ⅱ			後火 1	2 単位
	英文名 Higher Studies in Human and Culture Ⅱ			担当教員名 塚田 孝 教授／平田 茂樹 教授／ 大黒 俊二 教授	

●科目の主題

歴史学の意義と研究法

●到達目標

各受講生が歴史研究を行うに際して、専門とする分野に限定されない広い視野を養う。

●授業内容・授業計画

人間文化を歴史的に把握する意義を、理念・学史・方法の視点から検討する。日本史、東洋史、西洋史を横断し、広く「歴史とは何か」を考え、歴史的世界に規定された人間文化の併存と現代社会における人間文化の統合について理解を深め、現代社会において歴史学研究を行なう意味を確認する。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　歴史とは何か①
第 3 回　歴史とは何か②
第 4 回　歴史学の歴史―日本―①
第 5 回　歴史学の歴史―日本―②
第 6 回　歴史学の歴史―中国―①
第 7 回　歴史学の歴史―中国―②
第 8 回　歴史学の歴史―ヨーロッパ―①
第 9 回　歴史学の歴史―ヨーロッパ―②
第 10 回　現代歴史学の方法①
第 11 回　現代歴史学の方法②
第 12 回　現代歴史学の方法③
第 13 回　現代歴史学の方法④
第 14 回　現代歴史学の方法⑤
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点（出席、報告）。

●受講生へのコメント

具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

プリント配布。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2501	開講期	単位数
M3	**哲学研究**			後水 4	2 単位
	英文名 Advanced studies in Philosophy			担当教員名 仲原 孝 教授	

●科目の主題

哲学の主要問題について、特定のテキストを取り上げながら、読解を中心に哲学研究を行う。

●到達目標

哲学研究における問題意識の進化を目指す。

●授業内容・授業計画

本年度は、物理学（physics）と形而上学（metaphysics）の関係について考える。
適宜解説を加えつつ、次のテキストの講読を行う。
Tim Maudlin (2012) Philosophy of Physics: Space and Time, Princeton University Press.

第 1 回　導入：物理学を哲学する
第 2 回　第 1 章の講読 1 および「時間と空間に関する古典的な説明」についての講義 1
第 3 回　第 1 章の講読 2 および「時間と空間に関する古典的な説明」についての講義 2
第 4 回　第 2 章の講読 1 および「空間と時間の構造に関するエビデンス」についての講義 1
第 5 回　第 2 章の講読 2 および「空間と時間の構造に関するエビデンス」についての講義 2
第 6 回　第 3 章の講読 1 および「観察不可能な構造の消去」についての講義 1
第 7 回　第 3 章の講読 2 および「観察不可能な構造の消去」についての講義 2
第 8 回　第 4 章の講読 1 および「特殊相対性理論」についての講義 1
第 9 回　第 4 章の講読 2 および「特殊相対性理論」についての講義 2
第 10 回　第 5 章の講読 1 および「測定の物理学」についての講義 1
第 11 回　第 5 章の講読 2 および「測定の物理学」についての講義 2
第 12 回　第 6 章の講読 1 および「一般相対性理論」についての講義 1
第 13 回　第 6 章の講読 2 および「一般相対性理論」についての講義 2
第 14 回　第 7 章の講読 1 および「時間の向きとトポロジー」についての講義 1
第 15 回　第 7 章の講読 1 および「時間の向きとトポロジー」についての講義 1

●評価方法

平常点と期末テストの採点による。

●受講生へのコメント

積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確にしていくことを期待する。

●参考文献・教材
授業中に提示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2502	開講期	単位数
M4	哲学研究演習			前水 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Philosophy			担当教員名 高梨 友宏 教授	

●科目の主題
哲学の主要問題について、特定のテキストを取り上げながら、読解を中心に哲学研究を行う。
●到達目標
哲学研究における問題意識の進化を目指す。
●授業内容・授業計画
前期に引き続き、物理学（physics）と形而上学（metaphysics）の関係について考える。
適宜解説を加えつつ、次のテキストの講読を行う。
Tim Maudlin（2007）The Metaphysics within Physics, Oxford University Press.

第 1 回　導入：物理学と形而上学の関係を考える
第 2 回　第 1 章の講読 1 および「自然法則、反事実的条件法、説明」についての講義 1
第 3 回　第 1 章の講読 2 および「自然法則、反事実的条件法、説明」についての講義 2
第 4 回　第 2 章の講読 1 および「ヒューム主義のプロジェクト」についての講義 1
第 5 回　第 2 章の講読 2 および「ヒューム主義のプロジェクト」についての講義 2
第 6 回　第 3 章の講読 1 および「形而上学に向かうための物理学」についての講義 1
第 7 回　第 3 章の講読 2 および「形而上学に向かうための物理学」についての講義 2
第 8 回　第 4 章の講読 1 および「時間の経過」についての講義 1
第 9 回　第 4 章の講読 2 および「時間の経過」についての講義 2
第 10 回　第 4 章の講読 3 および「時間の経過」についての講義 3
第 11 回　第 5 章の講読 1 および「因果、反事実的条件法、第三の要因」についての講義 1
第 12 回　第 5 章の講読 1 および「因果、反事実的条件法、第三の要因」についての講義 1
第 13 回　第 5 章の講読 1 および「因果、反事実的条件法、第三の要因」についての講義 1
第 14 回　第 6 章およびエピローグの講読
第 15 回　全体のまとめ

●評価方法
平常点と期末テストの採点による。
●受講生へのコメント
積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確化していくことを期待する。
●参考文献・教材
授業中に提示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2503	開講期	単位数
M5	西洋哲学史研究			後火 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in the History of Western Philosophy			担当教員名 脇坂 真弥 非常勤講師	

●科目の主題
「人間の尊厳」や「意志の自由」を重視する哲学的思想が現実の中でどのような困難に突き当たるのか、そこで顕わになる問題とは何か、その際に人間にどのような可能性がありうるのかを、シモーヌ・ヴェイユの思想を中心に考察する。
●到達目標
「自律」という人間の在り方と、それが抱える矛盾について、授業を基礎としながら自分なりに展開して考察できるようになることを目標とする。
●授業内容・授業計画
シモーヌ・ヴェイユが体験した工場労働をめぐる問題を、「自由」「尊厳」「不幸」といったキーワードから考えていく。その際に、カントの「自律」に関する考え方や、現代の「道徳的運」と呼ばれる倫理的問題についても触れてみたい。できるかぎり以下の計画に従うが、状況によっては多少の変更を加える。

第 1 回　オリエンテーション／シモーヌ・ヴェイユとは
第 2 回　ヴェイユの生涯（1）「2 人のヴェイユ」説
第 3 回　ヴェイユの生涯（2）キリスト教との三度の出会い
第 4 回　工場体験と周囲の反応
第 5 回　人間の尊厳とは―カントの倫理思想
第 6 回　「尊厳の喪失」について
第 7 回　《自由》の陥穽と「盲目のメカニズム」
第 8 回　「不幸」について（1）
第 9 回　「不幸」について（2）
第 10 回　「道徳的運」について（1）
第 11 回　「道徳的運」について（2）
第 12 回　もうひとつの尊厳（1）「善への欲求」との関連から
第 13 回　もうひとつの尊厳（2）「従順」との関連から
第 14 回　「なぜ私なのか」という問い
第 15 回　総括

●評価方法
論述式の試験か、あるいはレポートを課す予定。詳細は講義中に指示する。

●受講生へのコメント
授業中の私語は厳禁なので、注意すること。

●参考文献・教材
テキストは用いず、必要があれば資料を配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2505	開講期	単位数
M6	倫理学研究			前火 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Ethics			担当教員名 土屋 貴志 准教授	

●科目の主題
現代英米倫理学の基本文献を原語で読み進めながら解説する。

●到達目標
現代倫理学の主要課題について基礎的知識と展望を得るとともに、倫理学を研究するために必要な英語力を身に付ける。

●授業内容・授業計画
テキストを読み進みながら検討する。全員、該当部分を予め通読してくることを必須課題とする。
具体的には下記のように進める予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。
第 1 回　序論
第 2 回　第 1 章
第 3 回　第 1 章（続き）
第 4 回　第 2 章
第 5 回　第 2 章（続き）
第 6 回　第 3 章
第 7 回　第 3 章（続き）
第 8 回　第 4 章
第 9 回　第 4 章（続き）
第 10 回　第 5 章
第 11 回　第 5 章（続き）
第 12 回　第 6 章
第 13 回　第 6 章（続き）
第 14 回　第 7 章
第 15 回　第 7 章（続き）

●評価方法
毎回の読解課題の達成度を平常点として評価する。

●受講生へのコメント
内容の要点と論理を正確に把握することを重視する。全体を平板に訳すのではなく、重要な箇所を見極めて、アウトラインをしっかりつかむ読み方を心がけること。そのためには、重要箇所を正確に理解し翻訳できる語学力が

前提になるので、日頃から英語力の向上に努めてほしい。

●参考文献・教材

下記の文献をテキストの候補とするが、受講者と相談の上で、これ以外のテキストを読むこともありうる。

A. Sen & B. A. O. Williams（eds.）, *Utilitarianism and beyond*, Cambridge University Press, 1982.

参考文献については授業中に紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2506	開講期	単位数
M7	**倫理学研究演習**			後火 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Ethics			担当教員名 土屋 貴志 准教授	

●科目の主題

「倫理学研究」に引き続き、現代英米倫理学の基本文献を原語で読む。

●到達目標

現代倫理学の主要課題について基礎的知識と展望を得るとともに、倫理学を研究するために必要な英語力を身に付ける。

●授業内容・授業計画

テキストを読み進めながら検討する。全員、該当部分を予め通読してくることを必須課題とする。

具体的には下記のように進める予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

第 1 回　第 8 章
第 2 回　第 8 章（続き）
第 3 回　第 9 章
第 4 回　第 9 章（続き）
第 5 回　第 10 章
第 6 回　第 10 章（続き）
第 7 回　第 11 章
第 8 回　第 11 章（続き）
第 9 回　第 12 章
第 10 回　第 12 章（続き）
第 11 回　第 13 章
第 12 回　第 13 章（続き）
第 13 回　第 14 章
第 14 回　第 14 章（続き）
第 15 回　まとめ

●評価方法

毎回の読解課題の達成度を平常点として評価する。

●受講生へのコメント

内容の要点と論理を正確に把握することを重視する。全体を平板に訳すのではなく、重要な箇所を見極めて、アウトラインをしっかりつかむ読み方を心がけること。そのためには、重要箇所を正確に理解し翻訳できる語学力が前提になるので、日頃から英語力の向上に努めてほしい。

なお「倫理学研究」を前期に履修しておくことが望ましい。

●参考文献・教材

下記の文献をテキストの候補とするが、受講者と相談の上で、これ以外のテキストを読むこともありうる。

A. Sen & B. A. O. Williams（eds.）, *Utilitarianism and beyond*, Cambridge University Press, 1982.

参考文献については授業中に紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2507	開講期	単位数
M8	**美学研究**			前木 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Aesthetics			担当教員名 高梨 友宏 教授	

●科目の主題

カント美学についての研究。

●到達目標

Immanuel Kant の *_Kritik der Urteilskraft,1790*（判断力批判）の論点を整理して、第 1 部「美的判断力の批判」におけるいわゆる「カント美学」の概要を把握し、さらに、同書第 1 部の内容と第 2 部「目的論的判断力の批判」との関係について検討したい。なお、概要の説明はなるべく早く切り上げ、本来後期に予定している講読演習を前倒しして始めたい。

●授業内容・授業計画

できるかぎり、以下のプランに沿って進めたい。ただし、必ずしもこのプラン通りにならない可能性がある点、了承願いたい。

第 1 回　導入
第 2 回　趣味判断の諸相 1　四つの契機
第 3 回　趣味判断の諸相 2　アプリオリな総合判断
第 4 回　趣味判断の諸相 3　趣味の体系的意義
第 5 回　天才論
第 6 回　崇高論 1　美学史における意義
第 7 回　崇高論 2　現代との関連
第 8 回　目的論 1　主観的合目的性と客観的合目的性
第 9 回　目的論 2　目的論的世界観へ
第 10 回　総括：目的論としての美学
第 11 回　『判断力批判』の独語原書講読演習（以下、演習と略記）1
第 12 回　演習 2
第 13 回　演習 3
第 14 回　演習 4
第 15 回　演習 5

●評価方法

平常点による評価。

●受講生へのコメント

・ドイツ語原書の講読演習も含むので、受講に当たってはドイツ語中級程度の読解力が条件となる。
・授業中のディスカッションを歓迎。積極的な姿勢で臨むことを希望する。

●参考文献・教材

適宜コピー等を配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2508	開講期	単位数
M9	美学研究演習			後木 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Aesthetics			担当教員名 高梨 友宏 教授	

●科目の主題

Immanuel Kant の *Kritik der Urteilskraft,1790*（判断力批判）の講読演習。同書を読みながら、カント美学の諸問題について考える。

●到達目標

できるだけ先まで進むように努力する。ただし、毎回できる限り疑問を払拭しながら、読み進めることとしたい。

●授業内容・授業計画

すでに数年越しで同文献を読んでいるので、文献は最初からではなく、前年度に到達した箇所以降を読む。今年度もドイツ語文献の読解にほとんどの時間を充てる予定。

第 1 回　導入
第 2 回　『判断力批判』の独語原書講読演習（以下、演習と略記）1
第 3 回　演習 2
第 4 回　演習 3
第 5 回　演習 4
第 6 回　演習 5
第 7 回　演習 6
第 8 回　演習 7
第 9 回　演習 8
第 10 回　演習 9

第 11 回　演習 10
第 12 回　演習 11
第 13 回　演習 12
第 14 回　演習 13
第 15 回　演習 14

●評価方法
平常点による評価。
●受講生へのコメント
受講に当たっては、ドイツ語中級程度の読解力が必要。また前期に開講する美学研究もあわせて受講することが望ましい。
●参考文献・教材
テキストや参考文献については適宜コピーを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2509	開講期	単位数
M10	宗教学研究			前月 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in the Study of Religion			担当教員名 仲原 孝 教授	

●科目の主題
宗教学・宗教哲学の基礎的文献を原書講読する。さらに、当該文献に関する出席者の研究発表の機会も随時もうける予定である。
●到達目標
外国語の文献を正確に読解した上で、それに関する研究を行なうために必要な手法を修得することを目標とする。
●授業内容・授業計画
ハイデガーの主著『存在と時間』を原書により研究的に読解しながら、そこに含まれる哲学的問題について、議論の中で思考を深めることを目指す。
授業計画は以下の通り。研究 I では「世界」の分析を中心に読解・検討する。ただし授業進度の都合上、授業計画に多少の変更が行なわれる場合もありうることを付記しておく。

第 1 回　§ 14 (1)
第 2 回　§ 14 (2)
第 3 回　§ 14 (3)
第 4 回　§ 15 (1)
第 5 回　§ 15 (2)
第 6 回　§ 15 (3)
第 7 回　§ 16 (1)
第 8 回　§ 16 (2)
第 9 回　§ 16 (3)
第 10 回　§ 17 (1)
第 11 回　§ 17 (2)
第 12 回　§ 17 (3)
第 13 回　§ 18 (1)
第 14 回　§ 18 (2)
第 15 回　§ 18 (3)

●評価方法
授業で課せられた担当課題を適切に果たしたか、議論にどの程度積極的に参加したか、を考慮して評価する。
●受講生へのコメント
欠席・遅刻は大幅に減点する。特に自分の担当する回に特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。
●参考文献・教材
テキストは、Martin Heidegger: *Sein und Zeit,* Max Niemeyer Verlag を使用する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2510	開講期	単位数
M11	**宗教学研究演習**			後月 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in the Study of Religion			担当教員名 仲原 孝 教授	

●科目の主題

宗教学・宗教哲学の基礎的文献を原書講読する。さらに、当該文献に関する出席者の研究発表の機会も随時もうける予定である。

●到達目標

外国語の文献を正確に読解した上で、それに関する研究を行なうために必要な手法を修得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

前期の「宗教学研究」に引きつづき、ハイデガーの『存在と時間』を原書講読する。後期は「内存在」の分析論のところを講読する。

授業計画は以下の通り。ただし、授業進度の都合上、授業計画に多少の変更が行なわれる場合もありうることを付記しておく。

第 1 回　§ 28 (1)
第 2 回　§ 28 (2)
第 3 回　§ 29 (1)
第 4 回　§ 29 (2)
第 5 回　§ 30 (1)
第 6 回　§ 30 (2)
第 7 回　§ 31 (1)
第 8 回　§ 31 (2)
第 9 回　§ 32 (1)
第 10 回　§ 32 (2)
第 11 回　§ 33 (1)
第 12 回　§ 33 (2)
第 13 回　§ 34 (1)
第 14 回　§ 34 (2)
第 15 回　§ 34 (3)

●評価方法

授業で課せられた担当課題を適切に果たしたか、議論にどの程度積極的に参加したか、を考慮して評価する。

●受講生へのコメント

欠席・遅刻は大幅に減点する。特に自分の担当する回に特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。

●参考文献・教材

テキストは、Martin Heidegger: *Sein und Zeit,* Max Niemeyer Verlag を使用する（初回授業時にテキストのコピーを配布する）。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2513	開講期	単位数
M12	**哲学総合研究 I**			前金 2	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Philosophy I			担当教員名 仲原 孝 教授／高梨 友宏 教授／ 土屋 貴志 准教授	

●科目の主題

哲学研究に要する基本的事項を総合的に研究、講義する。

●到達目標

哲学研究を行うための基本的な方法の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

総合研究 I では、研究のために必要な基本的事項を、哲学の様々な領域（哲学、哲学史、倫理学、宗教哲学、美学）にわたって教授する。問題領域に応じて、資料収集から問題点の設定に至るまで幅広く指導する一方で、適宜、研究発表会を開催し、発表の仕方、論文の書き方についての具体的な指導も行う。

●評価方法
平常点で評価する。
●受講生へのコメント
積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確にするよう努めること。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL2514	開講期	単位数
M13	哲学総合研究Ⅱ			後金 2	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Philosophy Ⅱ			担当教員名 仲原 孝 教授／高梨 友宏 教授／ 土屋 貴志 准教授	

●科目の主題
哲学研究に要する基本的事項を総合的に研究、講義する。
●到達目標
哲学研究を行うための基本的な方法の習得を目標とする。
●授業内容・授業計画
総合研究Ⅱでは、各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら、研究を行う。
●評価方法
平常点で評価する。
●受講生へのコメント
積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確にするよう努めること。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL3601	開講期	単位数
M14	哲学研究指導Ⅰ			前金 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Phirosophy Ⅰ			担当教員名 仲原 孝 教授／高梨 友宏 教授	

●科目の主題
哲学、哲学史、倫理学、宗教哲学、美学を主たるテーマとする修士論文の作成に必要な研究上の指導を行う。
●到達目標
受講生各自の具体的な研究テーマに則しながら、哲学的な考え方、論述構成の手法、基礎的な資料の扱い方などについて、論文作成のための指導を行う。
●授業内容・授業計画
研究指導Ⅰでは、研究発表を通じて、テーマの絞り込みにつとめる。各担当者の指導内容は以下の通り。
（仲原　孝教授）哲学を宗教との関連で考察することに比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・宗教哲学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解にもとづいた修士論文の作成のための指導を行う。
（高梨友宏教授）ドイツ近現代美学・芸術学、京都学派の芸術論に比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・美学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解にもとづいた修士論文の作成のための指導を行う。
●評価方法
研究発表の内容など、平常点で評価する。
●受講生へのコメント
積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確にするよう努めること。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL3602	開講期	単位数
M15	**哲学研究指導Ⅱ**			後金 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Phirosophy Ⅱ			担当教員名 仲原 孝 教授／高梨 友宏 教授	

●科目の主題

哲学、哲学史、倫理学、宗教哲学、美学を主たるテーマとする修士論文の作成に必要な研究上の指導を行う。

●到達目標

受講生各自の具体的な研究テーマに則しながら、哲学的な考え方、論述構成の手法、基礎的な資料の扱い方などについて、論文作成のための指導を行う。

●授業内容・授業計画

研究指導Ⅱでは、それぞれのテーマに応じて、論述の仕方などについての具体的な指導を行う。各担当者の指導内容は以下の通り。

（仲原　孝教授）哲学を宗教との関連で考察することに比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・宗教哲学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解にもとづいた修士論文の作成のための指導を行う。

（高梨友宏教授）ドイツ近現代美学・芸術学、京都学派の芸術論に比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・美学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解にもとづいた修士論文の作成のための指導を行う

●評価方法

研究発表の内容など、平常点で評価する。

●受講生へのコメント

積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確にするよう努めること。

●参考文献・教材

適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2501	開講期	単位数
M16	**日本史学研究Ⅰ**			前火 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese History Ⅰ			担当教員名 磐下 徹 准教授	

●科目の主題

古記録の読解

●到達目標

平安末期に源俊房が書き残した日記である『水左記』の読解を通し、古記録読解に必要な基本知識やスキルを身につける

●授業内容・授業計画

『水左記』の記事を 2 ～ 3 日分ずつ割り振り、その読解と記述内容に関する考察を発表してもらう。本年度は自筆本の残る康平 7 年を読み進める予定。

なお、学修効果を考慮して授業内容や予定が変更されることもある。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　発表①
第 3 回　発表②
第 4 回　発表③
第 5 回　発表④
第 6 回　発表⑤
第 7 回　発表⑥
第 8 回　発表⑦
第 9 回　発表⑧
第 10 回　発表⑨
第 11 回　発表⑩
第 12 回　発表⑪
第 13 回　発表⑫

第 14 回　発表⑬
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点（発表内容 80%、出席状況 20%）
●受講生へのコメント
幅広い視野を持ちながら発表・討議に参加してほしい
●参考文献・教材
必要に応じて配布・指示

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2502	開講期	単位数
M17	**日本史学研究演習 1**			後火 2	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Japanese History 1			担当教員名 磐下 徹 准教授	

●科目の主題
日本古代史の研究発表
●到達目標
研究発表とそれにもとづく討議を行い、各自の研究の深化をはかる
●授業内容・授業計画
受講者が自分の取り組んでいるテーマについての研究発表を行い、それにもとづき討議を進める。討議内容を踏まえ、再報告が行われることもある。
なお、学修効果を考慮し、授業内容や計画が変更されることがある。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　発表①
第 3 回　発表②
第 4 回　発表③
第 5 回　発表④
第 6 回　発表⑤
第 7 回　発表⑥
第 8 回　発表⑦
第 9 回　発表⑧
第 10 回　発表⑨
第 11 回　発表⑩
第 12 回　発表⑪
第 13 回　発表⑫
第 14 回　発表⑬
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点（発表内容 80%、出席状況 20%）
●受講生へのコメント
幅広い視野を持ちながら発表・討議に積極的に臨んでほしい
●参考文献・教材
必要があれば適宜指示する

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2503	開講期	単位数
M18	**日本史学研究Ⅱ**			前月 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese History Ⅱ			担当教員名 仁木 宏 教授	

●科目の主題
中世文書（活字）の読解能力を高めるとともに、中世社会を考察する基本的力量を身につける。
●到達目標
戦国時代の各地の戦国大名が発給した法令を素材にする。文書を読解した上で、その歴史的意義や背景、関

連する文書・事項などについて総合的に検討し、報告することで、中世史研究能力を涵養する。
戦国時代の社会的特質を多面的に考察し、中世社会の本質を解明する。

●授業内容・授業計画

佐藤進一・百瀬今朝雄編『中世法制史料集』第 5 巻・武家家法Ⅲを輪読する。以下の番号は仮番号であり、第 1 回の授業時に指示する。

第 1 回　文書番号 845 ／ 846
第 2 回　同 847 ／ 848
第 3 回　同 849 ／ 850
第 4 回　同 851 ／ 852
第 5 回　同 853 ／ 854
第 6 回　同 855 ／ 856
第 7 回　同 857 ／ 858
第 8 回　同 859 ／ 860
第 9 回　同 861 ／ 862
第 10 回　同 863 ／ 864
第 11 回　同 865 ／ 866
第 12 回　同 867 ／ 868
第 13 回　同 869 ／ 870
第 14 回　同 871 ／ 872
第 15 回　同 873 ／ 874

●評価方法

担当回の報告内容、ならびに史料をめぐる議論における発言によって評価する。

●受講生へのコメント

毎回、地図を用意することを求める。歴史環境の中で法の本質を読みとる工夫をしてほしい。

●参考文献・教材

『中世法制史料集』第 5 巻（上述）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2504	開講期	単位数
M19	**日本史学研究演習 2**			後月 2	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Japanese History 2			担当教員名 仁木 宏 教授	

●科目の主題

各人の研究内容について、史資料をもとに発表し、関連する文書・事項などについても総合的に検討し、報告する能力を養う。

●到達目標

史資料をもとに実証的に研究を進めるとはどういうことか。具体的な事例の中で学ぶ。

●授業内容・授業計画

毎回、1 ～ 2 人ずつ、順番に報告してゆく。初めの 4 回分で、中世史専攻の院生が報告し、次の 3 回分で、他の時代専攻の院生が報告する。これを 2 度くり返す。以下は仮の順番であり、第 1 回の授業時に指示する。

第 1 回　中世史専攻院生の報告
第 2 回　中世史専攻院生の報告
第 3 回　中世史専攻院生の報告
第 4 回　中世史専攻院生の報告
第 5 回　中世以外の時代を専攻する院生の報告
第 6 回　中世以外の時代を専攻する院生の報告
第 7 回　中世以外の時代を専攻する院生の報告
第 8 回　中世史専攻院生の報告
第 9 回　中世史専攻院生の報告
第 10 回　中世史専攻院生の報告
第 11 回　中世史専攻院生の報告
第 12 回　中世以外の時代を専攻する院生の報告
第 13 回　中世以外の時代を専攻する院生の報告
第 14 回　中世以外の時代を専攻する院生の報告
第 15 回　まとめ

●評価方法
担当回の報告内容が、いかにオリジナルなものであるか、説得性をもつかを評価する。
担当回以外の授業中の発言内容も評価対象に入れる。
●受講生へのコメント
担当回の報告が不十分である場合、「宿題」として、次回、あらためてよりレベルの高い報告を求めることになる。
●参考文献・教材
特になし。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2505	開講期	単位数
M20	日本史学研究Ⅲ			前水 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese History Ⅲ			担当教員名 塚田 孝 教授	

●科目の主題
地域社会史の研究史―和泉地域に即して―
●到達目標
近世の地域社会史研究は、地域社会の崩壊に直面した現代の課題を受けとめながら、「地域史の思想と方法」を模索し、地域史料の発掘と分析に基づく地域社会構造の解明を進める方向で進展してきた。その中で、全国各地で多くの成果が生み出されているが、その重要な発信源の一つである和泉地域の成果を踏まえて、今後の研究方向を展望する。
●授業内容・授業計画
この授業では、はじめに「地域史の思想と方法」に関する方法的な提言を含む論考を検討する。その上で、和泉地域をフィールドとして積み上げられてきた地域社会構造に関する研究成果を、〈村と生活世界〉〈宗教組織と地域〉〈広域組織を持つ集団〉〈生産と生活〉などの側面から検討する。これらの和泉の地域社会史に関する論文を精読することを通して、近世の地域社会史の研究状況とその基盤にある問題意識や分析方法を考え、今後の研究の発展方向を探っていく。授業は、受講生の報告によって進める。

第 1 回　「地域史の思想と方法」①
第 2 回　「地域史の思想と方法」②
第 3 回　和泉地域の〈村と生活世界〉①
第 4 回　和泉地域の〈村と生活世界〉②
第 5 回　和泉地域の〈村と生活世界〉③
第 6 回　和泉地域の〈宗教組織と地域〉①
第 7 回　和泉地域の〈宗教組織と地域〉②
第 8 回　和泉地域の〈宗教組織と地域〉③
第 9 回　和泉地域の〈広域組織を持つ集団〉①
第 10 回　和泉地域の〈広域組織を持つ集団〉②
第 11 回　和泉地域の〈広域組織を持つ集団〉③
第 12 回　和泉地域の〈生産と生活〉①
第 13 回　和泉地域の〈生産と生活〉②
第 14 回　和泉地域の〈生産と生活〉③
第 15 回　総括

●評価方法
授業における報告や発言、および最終レポートで総合的に評価する。
●受講生へのコメント
論文を読むとはどういうことなのか。それをしっかり考えてほしい。
●参考文献・教材
テキスト『第 4 回地域史惣寄合報告集　地域の全体史と現代』（和泉市史紀要第 22 集、和泉市教育委員会、2016 年
その他、取り上げる論文は授業で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2506	開講期	単位数
M21	日本史学研究演習 3			後水 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Japanese History 3			担当教員名 塚田 孝 教授	

●科目の主題

地域社会史研究－和泉地域に即して－

●到達目標

近年、各地で多様な地域史の模索が行なわれている。それは地域のもつ全体性に依拠しながら、歴史学の全体性の回復を求めるものでもある。こうした動向に学びつつ、地域史について実践的に考える。それを通して、地域史の思想と方法の発展をめざすとともに、史料の深い読解力・分析力を養成する。

●授業内容・授業計画

受講者各人が和泉地域の一次史料（時代は限定しない）を用いた研究報告を行い、討論する。但し、近世以前の報告では近世への展望を、近代以降の報告では近世からの展開を、必ず意識すること。

第 1 回　地域史研究の動向
第 2 回　地域史研究の意義
第 3 回　研究報告①
第 4 回　研究報告②
第 5 回　研究報告③
第 6 回　研究報告④
第 7 回　研究報告⑤
第 8 回　研究報告⑥
第 9 回　研究報告⑦
第 10 回　研究報告⑧
第 11 回　研究報告⑨
第 12 回　研究報告⑩
第 13 回　研究報告⑪
第 14 回　研究報告⑫
第 15 回　総括

●評価方法

授業における報告や発言、および最終レポートで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

〈地域史の思想と方法〉に自覚的に取り組んでほしい。

●参考文献・教材

テキスト　プリント配布

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2507	開講期	単位数
M22	日本史学研究Ⅳ			前火 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese History Ⅳ			担当教員名 佐賀 朝 教授	

●科目の主題

「近現代の都市史研究の再検討」をテーマに、近年の主要な研究成果について検討する。都市政治史や経済史、建築史などの成果にも目配りしながら、都市社会構造分析の視点から、近年の研究成果を批判的に吟味する。

各研究分野から、いくつかの論文や著作を取り上げ、一つ一つの論文を可能な限り精読していく。

●到達目標

近年の研究成果を批判的に検討することを通じて、史料に即して研究を深化させる方向性を明らかにし、課題を整理することを目ざす。

●授業内容・授業計画

主要成果を論文単位で取り上げる（1 回に 2 本ていど）。受講生が順番に報告（要約・論評）を担当し、全員で合評する。

報告者には、次の授業の際、前回の議論の要旨をまとめた、簡単な確認の報告もしてもらう。

第 1 回　ガイダンス・打ち合わせ

第 2 回　論文の検討と討論（その 1）
第 3 回　論文の検討と討論（その 2）
第 4 回　論文の検討と討論（その 3）
第 5 回　論文の検討と討論（その 4）
第 6 回　論文の検討と討論（その 5）
第 7 回　論文の検討と討論（その 6）
第 8 回　論文の検討と討論（その 7）
第 9 回　論文の検討と討論（その 8）
第 10 回　論文の検討と討論（その 9）
第 11 回　論文の検討と討論（その 10）
第 12 回　論文の検討と討論（その 11）
第 13 回　論文の検討と討論（その 12）
第 14 回　論文の検討と討論（その 13）
第 15 回　まとめ

●評価方法
授業における報告や発言、レポートなどを総合的に評価する。
●受講生へのコメント
日本史学研究演習 4 とあわせて受講してください。
●参考文献・教材
授業のなかで随時、提示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2508	開講期	単位数
M23	日本史学研究演習 4			後火 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Japanese History 4			担当教員名 佐賀 朝 教授	

●科目の主題
「近現代地域史研究の実践」をテーマに、近現代の大阪（都市・農村を含め）を主な対象に、地域史研究を実践的に学ぶ。受講生が各自でテーマを設定し、近現代の地域史料を用いた研究報告を実践し、全員で質疑・討論を行う形で進める。
●到達目標
多様な史料にもとづいて地域の社会構造を明らかにするための視点や方法の修得をめざす。
●授業内容・授業計画
扱う史料や報告内容・報告順などについては、第 1 回目に受講生と相談のうえ決める。
必要に応じて、授業で取り上げた地域のフィールドワーク（まち歩き）なども実施する。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　報告その 1
第 3 回　報告その 2
第 4 回　報告その 3
第 5 回　報告その 4
第 6 回　報告その 5
第 7 回　報告その 6
第 8 回　報告その 7
第 9 回　報告その 8
第 10 回　報告その 9
第 11 回　報告その 10
第 12 回　報告その 11
第 13 回　報告その 12
第 14 回　報告その 13
第 15 回　まとめ
●評価方法
授業における報告や発言、レポートなどを総合的に評価する。
●受講生へのコメント
日本史学研究Ⅳとあわせて受講してください。

●参考文献・教材
授業のなかで随時、提示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2509	開講期	単位数
M24	日本史学研究Ⅴ			前集中	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese History V			担当教員名 湯浅 治久 非常勤講師	

●科目の主題
中世～近世移行期の社会編成と地域社会
－あらたな移行期研究を目ざして－
●到達目標
中世～近世移行期研究は、自立的村落の研究の進展により確実に進展をみたが、その後新たな枠組みが必要な時期にさしかかったものと思われる。とくに重要な点は、村落内外の「変化」を総合的に把握するための視角と方法の開拓である。本講義では、研究史の吟味から独自の視角を確保し、かつ移行期の社会編成を具体的に論じ、また新たな方法を模索してみることにより、今後の研究を展望してみたい。
●授業内容・授業計画
中世史研究から村落と社会編成の論点を提示し、また近世成立期の研究の論点との関連を吟味してゆく。そして具体的なフィールドとして近江とその周辺を設定し、織豊期の諸政策と地域社会の関わりを具体的に論じてゆく。
第 1 回　社会編成とは何か－視角の提示－
第 2 回　中世における村落史研究の展開（1）二重構成論まで
第 3 回　中世における村落史研究の展開（2）自立的村落論以降
第 4 回　中世における村落史研究の展開（2）自立的村落論以降
第 5 回　畿内の惣村・東国の郷村－村落の形成と諸類型－
第 6 回　中世村落と社会的権力としての土豪
第 7 回　中世村落と地域社会
第 8 回　中世村落と宗教－融通と信仰－
第 9 回　惣村（郷村）の運動の方向性
第 10 回　移行期における社会編成の展開－指出と検地－
第 11 回　移行期における中間団体と身分・階級
第 12 回　畿内近国における武家知行制の変質
第 13 回　織豊期における土地制度の改変と身分
第 14 回　公儀領主制と近世村落への展開
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点（出席・積極的受講）30%、定期試験 70%
●受講生へのコメント
日本史の時代区分ごとの研究スタイルに拘泥せず、中世史と近世史の両方の展開に興味を持つことで、歴史を連続的に把握するように務めて欲しい。
●参考文献・教材
レジュメのプリントを配付するので、それに沿って講義をすすめることにする。
参考文献：湯浅治久「惣村と土豪」（『岩波講座日本歴史第 9 巻中世 4』、岩波書店、2015 年 2 月）、同「中近世移行期における社会編成と諸階層」（『日本史研究』掲載予定、2016 年 4 月）。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2510	開講期	単位数
M25	日本史学研究Ⅵ			前集中	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese History Ⅵ			担当教員名 後藤 雅知 非常勤講師	

●科目の主題
近世房総の漁業社会
●到達目標
日本近世における山野河海の利用形態は、自然環境が異なるため各地域によって多様であったが、村落の構造的特質や年貢・諸役の負担の相違によっても大きく異なった。本講義ではそれらをふまえつつ、房総沿岸にお

ける漁場利用のありようを、具体的な近世史料の読解を通じて明らかにする。史料からどのように社会のありようを読み取れるのか、講義を通じて理解するとともに、近世史料の分析方法を身につけることも講義の目標である。

●授業内容・授業計画

日本近世の漁業社会の特質をおおまかに解説した上で、房総沿岸に即して、史料から漁業社会の構造を詳細に明らかにしていく。漁民がどのように存在したのか、村落のありようを検討した上で、漁業社会の社会的権力ともいえる浦請負人の存在形態に注目し、漁業社会におけるその位置を探りながら、房総沿岸の漁業社会構造を全体として明らかにしていく。

第 1 回　日本近世における漁業社会の構造的特質とは
第 2 回　房総沿岸における海付村落の構造（1）
第 3 回　房総沿岸における海付村落の構造（2）
第 4 回　房総沿岸における海付村落の構造（3）
第 5 回　房総沿岸の浦請負人と地域社会（1）
第 6 回　房総沿岸の浦請負人と地域社会（2）
第 7 回　房総沿岸の浦請負人と地域社会（3）
第 8 回　房総沿岸の浦請負人と地域社会（4）
第 9 回　浦請負人と村社会（1）
第 10 回　浦請負人と村社会（2）
第 11 回　領主の交代と浦請負人（1）
第 12 回　領主の交代と浦請負人（2）
第 13 回　領主の交代と浦請負人（3）
第 14 回　領主の交代と浦請負人（4）
第 15 回　全体のまとめ

●評価方法

授業中に適宜行う小テスト（30%）と、最終的な試験（70%）で評価する。

●受講生へのコメント

近世の活字史料を、かなりの分量にわたって読みながら講義をすすめる。かなりの史料を読むことを覚悟して欲しい。

●参考文献・教材

講義に必要な近世の活字史料は適宜プリントして配布する。その他、参考文献としては、後藤雅知『近世漁業社会構造の研究』山川出版社、2001 年、後藤雅知「近世後期の漁業構造と地域社会」『千葉大学教育学部研究紀要』49- Ⅱ、2001 年。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2511	開講期	単位数
M26	考古学研究			前木 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Archaeology			担当教員名 岸本 直文 教授	

●科目の主題

修士論文の研究内容を固めることを意識し、各自の研究テーマに即して関連ある考古学的成果を取り上げ、先行研究について理解を深める。

●到達目標

各自の研究テーマとしている時代や地域あるいは分野についての考古学研究について、先行研究の成果を学習し、どういった研究があるのか、どのような資料があるのか、研究上の課題は何かといった点を整理する。

●授業内容・授業計画

3 回程度の発表を予定する。その内容について参加者で討論し、そのなかから次回の発表について考えていく。

第 1 回　受講者の研究テーマによる考古学的課題の相談
第 2 回　受講者の研究についての発表と質疑（1）
第 3 回　受講者の研究についての発表と質疑（2）
第 4 回　受講者の研究についての発表と質疑（3）
第 5 回　受講者の研究テーマによる考古学的課題の設定
第 6 回　先行研究の把握（1）
第 7 回　先行研究の把握（2）
第 8 回　先行研究の把握（3）
第 9 回　先行研究の把握（4）

第 10 回　先行研究を踏まえての課題設定の相談
第 11 回　研究課題の整理（1）
第 12 回　研究課題の整理（2）
第 13 回　研究課題の整理（3）
第 14 回　研究課題の整理（4）
第 15 回　まとめ

●評価方法
発表内容、質疑への参加状況を総合的に評価する。
●受講生へのコメント
修士論文を意識し、発表機会を生かして自分の研究を深めていくよう、意欲的に取り組んでほしい。
●参考文献・教材
とくになし

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2512	開講期	単位数
M27	**考古学研究演習**			後木 2	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Archaeology			担当教員名 岸本 直文 教授	

●科目の主題
考古学研究を承けて、各自の研究テーマに即して関連ある考古学的課題を設定し、研究発表を通じて、考古学的な肉付けをすることを主題とする。
●到達目標
各自の研究テーマについて、地理情報など空間的な分析や、具体の遺跡や遺物の検討により、考古学的な観点を加味した総合化を試みる。
●授業内容・授業計画
設定した考古学的課題について、関連する考古資料を取り上げ、関係する遺跡や遺物の先行研究に学びつつ、発掘調査報告書などを用いて独自に吟味し研究発表を行う。その内容について参加者で討論し、そのなかから次回の発表について考えていく。3 回の発表を予定している。
第 1 回　受講者との課題に関する相談
第 2 回　受講者の発表 1 回目（1）
第 3 回　受講者の発表 1 回目（2）
第 4 回　受講者の発表 1 回目（3）
第 5 回　受講者の発表 1 回目（4）
第 6 回　和泉市合同調査のまとめ（1）
第 7 回　受講者の発表 2 回目（1）
第 8 回　受講者の発表 2 回目（2）
第 9 回　受講者の発表 2 回目（3）
第 10 回　受講者の発表 2 回目（4）
第 11 回　和泉市合同調査のまとめ（2）
第 12 回　受講者の発表 3 回目（1）
第 13 回　受講者の発表 3 回目（2）
第 14 回　受講者の発表 3 回目（3）
第 15 回　受講者の発表 3 回目（4）
●評価方法
発表内容質疑への参加状況を総合的に評価する。
●受講生へのコメント
修士論文を意識し、発表機会を生かして自分の研究を深めていくよう、意欲的に取り組んでほしい。途中、和泉市合同調査の成果についての討議の場を設ける。
●参考文献・教材
とくになし、適宜、参考文献を示す。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2513	開講期	単位数
M28	**日本史学総合研究Ⅰ**			前月 1	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Japanese History Ⅰ			担当教員名 塚田 孝 教授／仁木 宏 教授／ 岸本 直文 教授／佐賀 朝 教授／ 磐下 徹 准教授	

●科目の主題

日本史学研究法（研究計画立案）。

●到達目標

日本史学研究法の基礎を学び、考古学から古代・中世・近世・近現代にわたる日本史の総合的な研究遂行能力を養成することをめざす。

●授業内容・授業計画

受講生各自が研究テーマの設定と研究計画を立案する基礎能力を獲得するため、担当教員が分担して各時代・分野の研究状況について講ずる。その上で、受講生の関心にしたがっていくつかの研究テーマを設定し、それに関する専門書や学術論文の体系的かつ批判的検討を行う。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

必要な資料はコピー等で配付する。

参考文献は授業時間に指示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LAJPH2514	開講期	単位数
M29	**日本史学総合研究Ⅱ**			後月 1	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Japanese History Ⅱ			担当教員名 塚田 孝 教授／仁木 宏 教授／ 岸本 直文 教授／佐賀 朝 教授／ 磐下 徹 准教授	

●科目の主題

日本史学研究法（史料）。

●到達目標

日本史学研究法を史料の点から論じ、考古学から古代・中世・近世・近現代にわたる日本史の基礎的な史料分析能力を養成することをめざす。

●授業内容・授業計画

受講生が日本史の研究能力の基盤をなす史料分析能力を広く身につけるため、担当教員が分担して各時代・分野の史資料の特徴について講ずる。その上で、受講生の関心を考慮して対象史料を選定し、具体例を通じて各時代・分野の歴史史料の調査・読解・分析の基礎能力の高度化をはかる。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

日本史学総合研究Ⅰを履修していることが望ましい。

具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

必要な資料はコピー等で配付する。

参考文献は授業時間に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH3601	開講期	単位数
M30	日本史学研究指導Ⅰ			前金 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Japanese HIstory Ⅰ			担当教員名 塚田 孝 教授／仁木 宏 教授／ 岸本 直文 教授／佐賀 朝 教授	

●科目の主題

日本史に関する修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

修士論文へ向けた中間レポートを完成させる。

●授業内容・授業計画

論文テーマの設定、文献・史料の調査・収集、史料の分析、主題とそれを論じる研究方法の適合性、論文の構成、主題に即した論述の一貫性、論文の形式的な統一など、修士論文作成に必要な事項について指導する。学期末には、修士論文へ向けた中間レポートと今後の研究計画を提出すること。

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（岸本直文教授） 主に、考古学分野と古代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

（仁木　宏教授） 主に、古代から中世にかけての時代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

（塚田　孝教授） 主に、中世から近世にかけての時代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

（佐賀　朝教授） 主に、近世から近代にかけての時代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

●評価方法

平常点（出席と研究報告、および中間レポート）。

●受講生へのコメント

修士論文は長丁場の取り組みであり、山もあれば谷もある。そこを乗り越えて頑張ってほしい。

●参考文献・教材

プリント配布。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH3602	開講期	単位数
M31	日本史学研究指導Ⅱ			後金 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Japanese HIstory Ⅱ			担当教員名 塚田 孝 教授／仁木 宏 教授／ 岸本 直文 教授／佐賀 朝 教授	

●科目の主題

日本史に関する修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

各自の研究計画に基づき、それぞれの研究を遂行する。具体的には、研究テーマに関わる史料の収集を行い、その分析に基づく研究報告を順次行うとともに、その上に立って当該研究テーマに関する先行研究の問題点の摘出を試みる。これにより修士論文の完成をめざす。

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（岸本直文教授） 主に、考古学分野と古代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

（仁木　宏教授） 主に、古代から中世にかけての時代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行う。

（塚田　孝教授） 主に、中世から近世にかけての時代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行う。

（佐賀　朝教授） 主に、近世から近代にかけての時代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行う。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

自分で納得のいく修士論文を完成させた喜びはひとしおである。そこへ向けて頑張ってほしい。

●参考文献・教材

プリント配布。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2501	開講期	単位数
M32	**東洋史学研究 I**			前火 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Oriental History I			担当教員名 平田 茂樹 教授	

●科目の主題

「中国史研究法」

●到達目標

中国史の研究方法の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

中国史の研究方法について講義する。

第 1 回　日本の中国史の現状と課題
第 2 回　内藤湖南の歴史学
第 3 回　桑原 隲蔵の歴史学
第 4 回　宮崎市定の歴史学
第 5 回　西嶋定生の歴史学
第 6 回　谷川道雄の歴史学
第 7 回　川勝義雄の歴史学
第 8 回　新しい中国史学（1）中国史研究会の専制国家論
第 9 回　新しい中国史学（2）地域社会論
第 10 回　新しい中国史学（3）「東アジア近世論」と「伝統社会論」
第 11 回　新しい中国史学（4）宋代史における新たな取り組み「ネットワーク論」
第 12 回　新しい中国史学（5）宋代史における新たな取り組み「空間とコミュニケーション」
第 13 回　時代区分論の展開
第 14 回　中国史学の新たな可能性
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点（100%）

●受講生へのコメント

毎回、授業のまとめの小レポートを課しますので、事前にしっかり予習するとともに、講義の内容を十分に把握するように努めてください。

●参考文献・教材

谷川道雄『戦後日本の中国史論争』（河合出版）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2502	開講期	単位数
M33	**東洋史学研究演習 1**			後火 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Oriental History 1			担当教員名 平田 茂樹 教授	

●科目の主題

「中国古代史の史料分析方法」

●到達目標

中国古代史の各種の史料を読みながら、その分析方法を修得することを目指す。

●授業内容・授業計画

以下の順序に従い、各種の史料分析方法を学んで行く。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　正史
第 3 回　実録
第 4 回　会要
第 5 回　政書
第 6 回　行状
第 7 回　墓誌銘
第 8 回　日記

第 9 回　手紙
第 10 回　小説
第 11 回　随筆
第 12 回　詩
第 13 回　地方志
第 14 回　石刻史料
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点（100%）
●受講生へのコメント
毎回担当を決めて史料を読んで行きますので、きちんと準備して出席をするようにしてください。
●参考文献・教材
狩野直喜『漢文研究法』（みすず書房）
井波陵一『知の座標―中国目録学』（白帝社）』

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2503	開講期	単位数
M34	東洋史学研究Ⅱ			前水 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Oriental History Ⅱ			担当教員名 平田 茂樹 教授	

●科目の主題
「南宋文集を用いた政治史研究」
●到達目標
宋代には数多くの文集が残されており、当時の政治や社会の実態を読み解く上での重要な史料となっている。今回は呉泳『鶴林集』の「書」（手紙）を読み解く作業を通じて、南宋後半期の政治の実態を解析して行く。
●授業内容・授業計画
魏了翁『鶴林集』をテキストとし、担当を決め、順次、史料を読んでいくとともに、宋代政治構造の変化について講義する。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　呉泳とは？
第 3 回　理宗時代の政治
第 4 回　手紙の選読 1
第 5 回　手紙の選読 2
第 6 回　手紙の選読 3
第 7 回　手紙の選読 4
第 8 回　手紙の選読 5
第 9 回　手紙の選読 6
第 10 回　手紙の選読 7
第 11 回　手紙の選読 8
第 12 回　手紙の選読 9
第 13 回　手紙の選読 10
第 14 回　宋代の政治構造の変化
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点（100%）
●受講生へのコメント
文集を読んでいくことを通じて、漢文読解方法を身につけるとともに、宋代の政治構造の変化について学ぶことを目指してください。
●参考文献・教材
テキストはプリント配布。
参考文献は、『世界歴史大系中国史 3　五代－元』（山川出版社）、平田茂樹『宋代政治構造研究』（汲古書院）。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2504	開講期	単位数
M35	**東洋史学研究演習 2**			後水 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Oriental History 2			担当教員名 平田 茂樹 教授	

●科目の主題

呂中『皇朝中興大事記』選読。

●到達目標

宋代には数多くの歴史評論の史料が残されており、当時の政治実態を読み解く上での重要な史料となっている。今回は南宋の呂中が書き残した『皇朝中興大事記』を読み解く作業を通じて、南宋前半期の政治の実態を解明して行く。

●授業内容・授業計画

『皇朝中興大事記』をテキストとし、担当を決め、順次、史料を読んでいくとともに、南宋初期の政治構造について講義する。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　『皇朝中興大事記』第一部選読
第 3 回　『皇朝中興大事記』第二部選読
第 4 回　『皇朝中興大事記』第三部選読
第 5 回　『皇朝中興大事記』第四部選読
第 6 回　『皇朝中興大事記』第五部選読
第 7 回　『皇朝中興大事記』第六部選読
第 8 回　『皇朝中興大事記』第七部選読
第 9 回　『皇朝中興大事記』第八部選読
第 10 回　『皇朝中興大事記』第九部選読
第 11 回　『皇朝中興大事記』第十部選読
第 12 回　『皇朝中興大事記』第十一部選読
第 13 回　『皇朝中興大事記』第十二部選読
第 14 回　『皇朝中興大事記』第十三部選読
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点（100%）

●受講生へのコメント

白文の漢文史料を読んでいくことを通じて、漢文読解方法を身につけるとともに、宋代の政治構造の変化について学ぶことを目指してください。

●参考文献・教材

テキストはプリント配布。参考文献は、『世界歴史大系中国史 3 五代－元』（山川出版社）、平田茂樹『宋代政治構造研究』（汲古書院）。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2505	開講期	単位数
M36	**東洋史学研究Ⅲ**			前水 5	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Oriental History Ⅲ			担当教員名 平田茂樹教授	

●科目の主題

外国の中国唐宋史研究に関する学術史

●到達目標

中国唐宋史の研究は、中国・台湾・香港を中心とした中華圏、欧米、日本・韓国を三つの極として発展してきた。本講では中華圏を代表とする研究者の論文を読み進めながら、その学術上の意義について明らかにするとともに、受講者には高度な学術史に関する知識を修得させることを目指して行く。

●授業内容・授業計画

中華圏の中国唐宋史研究者の代表的な研究を紹介するとともに、その内容について議論を行い、学術史に関して理解を深めていく。

第 1 回　ガイダンス

第 2 回　陳寅恪の研究
第 3 回　錢穆の研究
第 4 回　劉子健の研究
第 5 回　鄧広銘の研究
第 6 回　漆侠の研究
第 7 回　王曾瑜の研究
第 8 回　朱瑞熙の研究
第 9 回　鄧小南の研究
第 10 回　黄寛重の研究
第 11 回　包偉民の研究
第 12 回　梁庚堯の研究
第 13 回　柳立言の研究
第 14 回　劉静貞の研究
第 15 回　総括

●評価方法
平常点

●受講生へのコメント
多様な論文にふれることを通じて、学術史の整理の仕方、課題の発見、分析方法についての基本的な知識を修得することを期待する。

●参考文献・教材
配布プリント

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2506	開講期	単位数
M37	**東洋史学研究演習 3**			前火 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Oriental History 3			担当教員名 野村親義准教授	

●科目の主題
アジア近世・近代史文献講読

●到達目標
近世、近代史に関わる英文の各種文献を読み、研究状況の把握を目指す。

●授業内容・授業計画
アジア近世、近代史に関する主要文献を輪読し、その内容に関して議論する。主に以下のテーマに関する文献を扱うことを予定している。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　近世帝国のとらえ方
第 3 回　奴隷と労働
第 4 回　余暇の誕生
第 5 回　人と物の移動
第 6 回　穀物供給
第 7 回　国際商業と都市社会
第 8 回　近代国家化のとらえ方
第 9 回　高等教育と社会的流動性
第 10 回　公権力と地域社会
第 11 回　支配エリート
第 12 回　都市社会の近代
第 13 回　教育改革と近代
第 14 回　民族と宗教
第 15 回　総括討論

●評価方法
平常点（50%）
報告内容（50%）

●受講生へのコメント
研究分野に関わる専門的な知識を必要としますので、時間をかけて準備をし、授業に際しては自分なりの見解を必ず述べることができるようにしておいて下さい。
●参考文献・教材
参考書：授業中に適宜紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2507	開講期	単位数
M38	東洋史学研究Ⅳ			前集中	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Oriental History Ⅳ			担当教員名 秋葉 淳 非常勤講師	

●科目の主題
オスマン帝国史上の諸問題を、17 ～ 18 世紀を中心に論ずる。この時期は従来、「衰退期」とされ、比較的研究の蓄積が薄かったが、ここでは近年の研究成果を踏まえ、新しい見方を提示する。
●到達目標
オスマン帝国史に関する基礎的な知識を身につけるとともに、研究史を理解し、歴史研究の視点や史料の読解方法を学ぶ。
●授業内容・授業計画
おおよそ以下の項目に沿って講義を進める予定である。9/27 ～ 9/30 の 4 日間で集中講義を行う。9/27：第 1 回～第 4 回、9/28：第 5 回～第 8 回、9/29：第 9 回～第 12 回、9/30：第 13 回～第 15 回。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　古典期オスマン帝国の支配体制
第 3 回　王位継承問題
第 4 回　帝国支配層の変容
第 5 回　オスマン社会の動揺
第 6 回　財政構造の変化
第 7 回　社会思想と宗教
第 8 回　「チューリップ時代」
第 9 回　都市社会と権力
第 10 回　「アーヤーン」層の台頭
第 11 回　法廷から見るオスマン社会
第 12 回　法廷史料に見る婚姻・離婚
第 13 回　罪と罰
第 14 回　嘆願と紛争処理
第 15 回　総括
●評価方法
平常点（30%）、試験（70%）
●受講生へのコメント
下記の参考書のうち、少なくとも『オスマン帝国 500 年の平和』は授業の前に読んでおくこと。
●参考文献・教材
基本参考文献：
林佳世子『オスマン帝国 500 年の平和』講談社、2008.
鈴木董『オスマン帝国 イスラム世界の「柔らかい専制」』講談社，1992.
永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム世界』（世界の歴史 15）中央公論社，1998.
その他の参考文献は授業中に紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2509	開講期	単位数
M39	東洋史学研究Ⅴ			前金 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Oriental History Ⅴ			担当教員名 松本 保宣 非常勤講師	

●科目の主題
隋・唐・五代の御前会議と朝儀

●到達目標
隋・唐・五代王朝の御前会議と朝会儀礼の考察を通して、中国王朝の皇帝政治の特質を理解する。
●授業内容・授業計画
中世中国王朝の政策決定過程の一環である聴政（御前会議）と、臣僚の皇帝に対する服属儀礼である朝会儀礼（主に常朝）の創出とその変容を、隋・唐・五代にわたってたどる。
第 1 回　序論　中国皇帝政治の特質と政策決定過程について
第 2 回　隋・唐の都城―長安と洛陽
第 3 回　隋朝の朝儀と聴政
第 4 回　唐前期の朝儀と聴政―対仗奏事と仗下奏事①
第 5 回　唐前期の朝儀と聴政―対仗奏事と仗下奏事②
第 6 回　長安と洛陽の宮室構造の変容
第 7 回　安史の乱後の聴政―延英殿の登場
第 8 回　安史の乱後の聴政―延英殿の登場
第 9 回　唐代宮城における常朝の変容―入閤とは何か、常朝の場はどこか①
第 10 回　唐代宮城における常朝の変容―入閤とは何か、常朝の場はどこか②
第 11 回　唐文宗朝から宣宗朝の政治改革①
第 12 回　唐文宗朝から宣宗朝の政治改革②
第 13 回　五代王朝における朝儀の変容①
第 14 回　五代王朝における朝儀の変容②
第 15 回　まとめ―聴政と朝儀の形成と変容
●評価方法
出席（50%）とレポート（50%）
●受講生へのコメント
できれば、隋唐五代の歴史の予備知識があるのが望ましいです。
概説書は参考文献に記載しておきます。
●参考文献・教材
専門書
松本保宣『唐王朝の宮城と御前会議―唐代聴政制度の展開』（晃陽書房、2006 年）
概説書
岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、2015）→ごく初歩的な概説書です。
冨谷至・森田憲司編『概説 中国史 古代―中世』（昭和堂、2016 年）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2510	開講期	単位数
M40	**東洋史学研究Ⅵ**			後水 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Oriental History Ⅵ			担当教員名 上田 貴子 非常勤講師	

●科目の主題
19 世紀末以降、森林・草原地帯に交通・運輸・金融・移民によって急激な変化がもたらされ、中国東北地域には近代「満洲」が誕生した。ここでは、植民地経営や在地社会の近代化によって、鉄道に加え農業・工業・土木・医療そして官僚制等様々な近代的テクノロジーの導入・普及がなされ、これらは 1945 年以降も新中国で取捨選択され、継承されていった。この授業では近代的テクノロジーの導入・普及・継承からみた近代「満洲」社会の変容過程について、研究を行う。
●到達目標
医療・農業・工業を中心に近代的テクノロジーの導入・普及・継承に関する先行研究の理解を基礎に、そこで使用されるさまざまな史料の用い方を検討する。さらに、そこから一歩進んでテクノロジーの導入・普及・継承に切り込む視点を議論したい。
●授業内容・授業計画
期間を通じていくつかの先行研究の到達点について理解する。その研究手法・研究視点について議論を行う。
第 1 回　近代「満洲」の成立（1）
第 2 回　近代「満洲」の成立（2）
第 3 回　近代「満洲」の成立（3）
第 4 回　鉄道がもたらしたもの（1）
第 5 回　鉄道がもたらしたもの（2）

第 6 回　鉄道がもたらしたもの（3）
第 7 回　農業技術が変えたもの（1）
第 8 回　農業技術が変えたもの（2）
第 9 回　農業技術が変えたもの（3）
第 10 回　衛生の制度化（1）
第 11 回　衛生の制度化（2）
第 12 回　衛生の制度化（3）
第 13 回　総括（1）
第 14 回　総括（2）
第 15 回　総括（3）

●評価方法
事前に文献を読んでの内容理解 20%
議論への参加 40%
レポート 40%

●受講生へのコメント
各回のテーマに即した議論への積極的な参加を求めます。

●参考文献・教材
朴敬玉『近代中国東北地域の朝鮮人移民と農業』御茶の水書房、2015 年
藤原辰史『稲の大東亜共栄圏：帝国日本の「緑の革命」』吉川弘文館、2012 年
安冨歩・深尾葉子編『満洲の成立：森林の消尽と近代空間の成立』名古屋大学出版会、2009 年
飯島渉『ペストと近代中国：衛生の「制度化」と社会変容』研文出版、2000 年
ほか適宜提示

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2511	開講期	単位数
M41	**東洋史学総合研究Ⅰ**			前火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Oriental History Ⅰ			担当教員名 平田 茂樹 教授／ 野村 親義 准教授	

●科目の主題
東洋史学の特徴を理解し、その長所を生かした研究について考える。

●到達目標
それぞれの研究テーマに即して、研究目的や方法を明確化する。

●授業内容・授業計画
東洋史学を総合的に理解するよう、基本的諸問題および史学史について、担当教員がそれぞれの専門分野にしたがって講ずる。あわせて、研究目的・方法を明確にし、修士論文の研究テーマの設定と研究計画の立案ができるよう、受講生にレポートや研究報告を求め、それに基づく討論を行う。

●評価方法
出席（30%）と報告内容（70%）

●受講生へのコメント
自分の研究テーマだけでなく、ほかの受講生のテーマにも関心をもって、ディスカッションに参加できるようにしてください。

●参考文献・教材
随時紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHE2512	開講期	単位数
M42	**東洋史学総合研究Ⅱ**			後火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Oriental History Ⅱ			担当教員名 平田 茂樹 教授／野村 親義 准教授	

●科目の主題
受講生各自が研究テーマの特徴を理解したうえで、研究に取り組むことを考える。

●到達目標
研究状況の把握や史料収集方法に関する能力を高められるようにする。
●授業内容・授業計画
東洋史学の研究手法を総合的に理解するよう、基本的な専門書・論文の収集・読解・分析の仕方を、担当教員がそれぞれの専門分野にしたがって講ずる。あわせて、受講生各自のテーマにかんする史料の所在の確認・収集の仕方を指導し、受講生各自のレポートに基づいて、より高度な基礎能力を獲得できるよう討論を行う。終了時に、研究計画書の提出を求める。
●評価方法
出席（30%）と報告内容（70%）
●受講生へのコメント
自分の研究テーマだけでなく、ほかの受講生のテーマにも関心をもって、ディスカッションに参加できるようにしてください。
●参考文献・教材
随時紹介する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LAWHE3601	開講期	単位数
M43	**東洋史学研究指導Ⅰ**			前木 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Oriental HIstory Ⅰ			担当教員名 平田 茂樹 教授	

●科目の主題
研究計画に基づき史料の収集・読解・分析を行う。その際、史料解析の問題点を指摘し、データの整理の仕方を会得するよう努める。
●到達目標
修士論文の作成に必要とされる史料解析能力を習得させる。
●授業内容・授業計画
学生はその研究テーマに応じて教員の指導を受けるものとする。
中国史に関する研究テーマにかかわる修士論文の研究指導を行う。
●評価方法
出席（30%）と報告内容（70%）
●受講生へのコメント
自分の研究テーマを相対化できるよう、幅広い知見をもってください。
●参考文献・教材
随時紹介する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LAWHE3602	開講期	単位数
M44	**東洋史学研究指導Ⅱ**			後木 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Oriental HIstory Ⅱ			担当教員名 平田 茂樹 教授	

●科目の主題
論文の構成、執筆上の問題点などを指摘しながら、論文の完成度を高める。
●到達目標
論文の完成に至るまで、緊密な個別指導と共同指導を行う。
●授業内容・授業計画
学生はその研究テーマに応じて、教員の指導を受けるものとする。
中国史に関する研究テーマにかかわる修士論文の研究指導を行う。
●評価方法
出席（30%）と報告内容（70%）
●受講生へのコメント
自分の研究テーマを相対化できるよう、幅広い知見をもってください。
●参考文献・教材
随時紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAGEM2501	開講期	単位数
M45	**世界史学研究**			前木 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in World History			担当教員名 野村 親義 准教授	

●科目の主題

本講の主題は、数量経済史研究の成果の一端を、満州国経済に注目しつつ、学習することである。なお本講は、輪読形式で授業を行う。

●到達目標

本講の到達目的は、数量経済史研究の成果の一端を、満州国経済に注目しつつ、習得することである。

●授業内容・授業計画

本講は、満州経済史に関する専門書を、輪読形式で読む。輪読するテキストは、授業初日、参加者と協議のうえ決定する。

第 1 回　導入
第 2 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 1 回
第 3 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 2 回
第 4 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 3 回
第 5 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 4 回
第 6 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 5 回
第 7 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 6 回
第 8 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 7 回
第 9 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 8 回
第 10 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 9 回
第 11 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 10 回
第 12 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 11 回
第 13 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 12 回
第 14 回　満州経済史に関する専門書の輪読　第 13 回
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点。

●受講生へのコメント

授業で指摘する関連文献も、積極的に目を通してください。

●参考文献・教材

授業初日に、参加者と協議のうえ、決定する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAGEM2502	開講期	単位数
M46	**世界史学研究演習**			後木 2	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in World History			担当教員名 野村 親義 准教授	

●科目の主題

本講の主題は、社会経済史研究の研究成果の一端を、満州の社会経済史に注目しつつ、学習することである。

●到達目標

本講の到達目的は、社会経済史研究の研究成果の一端を、満州の社会経済史に注目しつつ、習得することにある。

●授業内容・授業計画

満州の社会経済史に関する専門書を輪読する。輪読するテキストは、授業初日に参加者と協議のうえ決定する。

第 1 回　導入
第 2 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 1 回
第 3 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 2 回
第 4 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 3 回
第 5 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 4 回
第 6 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 5 回

第 7 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 6 回
第 8 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 7 回
第 9 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 8 回
第 10 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 9 回
第 11 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 10 回
第 12 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 11 回
第 13 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 12 回
第 14 回　満州の社会経済史に関する専門書の輪読　第 13 回
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点。
●受講生へのコメント
授業で指摘する関連文献も、積極的に読み込んでください。
●参考文献・教材
輪読するテキストは、授業初日に参加者と協議のうえ決定する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2503	開講期	単位数
M47	西洋史学研究 I			前木 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Western History I			担当教員名 草生 久嗣 准教授	

●科目の主題
西洋における古代・中世の都市社会（合同生活圏研究として）
●到達目標
歴史的な都市空間について、その理解を支える分析手法や議論について学習したのち、現在のわれわれが考察対象とすべき都市空間・景観のありかたについて意見を持てるようになる。
●授業内容・授業計画
歴史における都市文化研究を行う際には、表面的な現状調査に留まらない視点や知識をもって行うことが求められる。地中海沿岸諸都市を中心に、世界史に現在に至るまで機能するヨーロッパ、ギリシャ（ビザンツ）、イスラムの都市の特性について検討してゆく。
第 1 回　イントロダクション：ガイダンス「合同生活圏」・参加者によるサブ・テーマ提案
第 2 回　基礎固め：歴史都市研究の動向（1） 都市史 （世界史）
第 3 回　基礎固め：歴史都市研究の動向（2） 都市史 （日本史）
第 4 回　古典古代の都市（1） オイクメネー （ギリシャ）
第 5 回　古典古代の都市（2） ポイティンガー図 （ローマ）
第 6 回　古代末期の都市（1） パウロ
第 7 回　古代末期の都市（2） コンスタンティノープル
第 8 回　古代末期の都市（3） ピレンヌ・テーゼ
第 9 回　ヨーロッパの都市
第 10 回　地中海都市
第 11 回　辺境の都市
第 12 回　イスラーム都市
第 13 回　アジアと日本の都市
第 14 回　まとめと報告（1）
第 15 回　まとめと報告（2）
●評価方法
クラスでの活動実績、指定した課題の提出と成果の口頭報告による。
●受講生へのコメント
本授業は、「西洋史学研究演習 2」とも連動する。歴史学他専攻者は、自分が研究その他で親しむ「都市」の具体例を念頭において、臨まれたい。
●参考文献・教材
講読用資料や教科書は授業前後に指示する。【重要参考文献】
弘文堂『歴史学事典』
板垣雄三，後藤明編『事典イスラームの都市性』亜紀書房，1992.

Barrington Atlas of the Greek and Roman World, Princeton UP, 2000（学情 2F 地図ほか所蔵あり）
A. H. M. Jones, The Greek city from Alexander to Justinian, Oxford UP, 1988（=1940）.
A. H. M. Jones, The Cities of the Eastern Roman Provinces, Oxford UP, 1971.
Atlas zur Kirchengeschichte, 2004（学情 2 F参考大型）
Tabula Imperii Byzantini（文 213 室に配架）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2505	開講期	単位数
M48	西洋史学研究Ⅱ			後金 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Western History Ⅱ			担当教員名 中谷 功治 非常勤講師	

●科目の主題

古代ローマ帝国の「正統な」継承国家であるビザンツ帝国について，主に中期ビザンツの成立をめぐって考察する。分析の中心となるのはコンスタンティノープル皇帝政権と地方のテマ軍団の関係である。

●到達目標

6 世紀までの後期ローマ帝国と 9 世紀以降のビザンツ帝国では，どのような面で変化があったのか，あるいは継承された要素は何か。中央政府と小アジアを中心とする地方のテマ軍団の関係から，7 ～ 9 世紀前半までの政治過程について理解を深める。

●授業内容・授業計画

7 ～ 9 世紀前半のビザンツ帝国の政治過程について，テマ（軍団ならびに軍管区）のはたした役割，とりわけテマ反乱に注目しつつ考察する。同時に皇帝位の継承や中央政府との関連などから当時の帝国の政治のありかたを明らかにする。

第 1 回　イントロダクション：ビザンツ帝国の時代区分について
第 2 回　ディオクレティアヌス・コンスタンティヌス体制
第 3 回　後期ローマ帝国における皇帝の即位儀礼
第 4 回　問題提起：軍事優位国家としての中期ビザンツ帝国
第 5 回　テマをめぐる問題：テマ反乱とビザンツ帝国
第 6 回　7 世紀の情勢：ヘラクレイオス帝と後継者たち
第 7 回　混乱の時代：7 世紀末～ 8 世紀初
第 8 回　レオン 3 世とコンスタンティノス 5 世の政権
第 9 回　エイレネ政権：摂政期と女帝期
第 10 回　ニケフォロス 1 世の政権
第 11 回　レオン 5 世とスラヴ人トマスの乱：テマ反乱の終焉
第 12 回　テマの改革と専制国家体制の確立
第 13 回　テマ制の起源をめぐって
第 14 回　授業内試験
第 15 回　授業の総括

●評価方法

平常点とする。
ただし，最終授業の 1 週前の授業時にテストを実施する（90%）。
出席そのものは評価の対象とはしないが，毎回の「感想・質問」については成績評価に加えることがある（10%）。
授業内試験は，（a）穴埋式と（b）記述式とからなり，前者は講義での内容を確認するためのもの，後者については事前に題目を提示する。
上記の授業内テストにおいては，自筆ノートのみ持ち込み可とする（誰かの授業ノートのコピーを利用することは禁止）。ただし，配布したプリント類は別とする。

●受講生へのコメント

授業内試験での（b）記述式については，各自が参考にした文献の提示が求められる。したがって，13 回目の授業までに，各自があわせて自主的な学習を進めることが必要となる。
授業全体の説明となる初回のイントロダクションについては，かならず出席してほしい。

●参考文献・教材

井上浩一『生き残った帝国ビザンティン』（講談社学術文庫，2009 年）
J・ヘリン『ビザンツ 驚くべき中世帝国』（白水社，2010 年）
根津由喜夫『ビザンツ国家と社会』（山川出版社，2008 年）
その他，授業において随時参考図書を紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2506	開講期	単位数
M49	**西洋史学研究演習 2**			後木 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Western History 2			担当教員名 草生 久嗣 准教授	

●科目の主題

コンスタンティノープル（現イスタンブル）地誌

●到達目標

中世コンスタンティノープルにまつわる同時代史料に接することで、現在のイスタンブールに連なる帝国首都としてのありかたについて理解を深める（平成 27 年度からの継続）。

●授業内容・授業計画

原則訳読とその発表。ただし特定の小テーマについての調査報告なども含む。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　中世のコンスタンティノープル（1）
第 3 回　中世のコンスタンティノープル（2）
第 4 回　中世のコンスタンティノープル（3）
第 5 回　『パトリア』と『建築について』概観
第 6 回　訳読作業（1）
第 7 回　訳読作業（2）
第 8 回　訳読作業（3）
第 9 回　訳読のまとめ（1）
第 10 回　訳読作業（4）
第 11 回　訳読作業（5）
第 12 回　訳読作業（6）
第 13 回　訳読のまとめ（2）
第 14 回　総括
第 15 回　予備

●評価方法

輪読への参加とその成果の報告・提出による。

●受講生へのコメント

受講生の西洋史学・ビザンツ学についての知識および使用言語に応じて、内容を調整する。

●参考文献・教材

【講読用史料（ともに英訳付）】

― *Accounts of medieval Constantinople : the Patria*, translated by Albrecht Berger, Harvard University Press, (Dumbarton Oaks medieval library ; 24) , 2013.
― Procopius with an English translation by H.B. Dewing with the collaboration of Glanville Downey, *Buildings*, Harvard University Press (The Loeb classical library 343 . { Procopius 7}) , 1940.【基礎参照文献】
― 野中恵子『寛容なる都 コンスタンティノープルとイスタンブール』春秋社 2008 年
― ジョン・フリーリ『イスタンブール 三つの顔をもつ帝都』NTT出版、2005 年
― 渡辺金一『コンスタンティノープル千年―革命劇場―』岩波新書 , 1985 年
― 橋口倫介『中世のコンスタンティノープル』講談社学術文庫（1180）, 1995=1982 年
― 栗本薫、和田廣、井上浩一、太記祐一各氏の邦文業績
― *The Oxford Dictionary of Byzantium*, 3vols. Oxford.【参照用専門事典】
― W. Müller-Wiener, *Bildlexikon zur Topographie Istanbuls : Byzantion, Konstantinupolis, Istanbul bis zum Beginn d. 17. Jh.*, Wasmuth 1977.（文・220）
― R. Janin, *Les églises et les monastères*, Paris 1969.（文・230）
― R. Janin, *Constantinople byzantine : dévelopment urbain et répertoire topographique*, Paris 1964.（文・歴史学）
― Cristoforo Buondelmonti, *Liber insularum archipelagi : Universitäts- und Landesbibliothek Düsseldorf Ms. G 13, Faksimile*, herausgegeben von Irmgard Siebert und MaxPlassmann, Reichert, 2005.（学情 3 F）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2507	開講期	単位数
M50	西洋史学研究Ⅲ			前水 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Western History Ⅲ			担当教員名 大黒 俊二 教授	

●科目の主題

「限界リテラシー」、「エゴ・ドキュメント」、「標準イタリア語」という相互に重なりながら異なる 3 つの視点を手掛かりに中・近世イタリアの書字文化の特徴を探る。

●到達目標

「文字を書く」、「言語を操る」、「自己について語る」行為に注目することにより歴史研究にどのような新しい視界が開かれるか、という点について一通りの理解を得ること。

●授業内容・授業計画

講義を 4 部に分け、歴史的背景、限界リテラシー、エゴ・ドキュメント、標準イタリア語について順に検討し、最後に限界リテラシー、エゴ・ドキュメント、標準イタリア語の 3 者の関係について総括を行う。

第 1 回　序論：限界リテラシー、エゴ・ドキュメント、標準イタリア語
第 2 回　歴史的背景（1）：二重言語体制
第 3 回　歴史的背景（2）：俗語の発展
第 4 回　歴史的背景（3）：イタリア語の形成
第 5 回　歴史的背景（4）：マクロ流通本とミクロ流通本
第 6 回　歴史的背景（5）：「もの書き商人」とエゴ・ドキュメント
第 7 回　歴史的背景（6）：代筆と限界リテラシー
第 8 回　限界リテラシー分析（1）：レーナ・ストロッツィとラーパ・アッチャイオーリの手紙
第 9 回　限界リテラシー分析（2）：ベネデット・デル・マッサリツィアの会計帳簿
第 10 回　エゴ・ドキュメント分析（1）：ジョヴァンニ・モレッリの『覚書』
第 11 回　エゴ・ドキュメント分析（2）：ジョヴァンニ・ダ・ファイエの自伝
第 12 回　エゴ・ドキュメント分析（3）：マッダレーナ・ナルドゥッチの遺言書
第 13 回　標準イタリア語（1）：ピエトロ・ベンボとイタリア語標準化
第 14 回　標準イタリア語（2）：「隠れたイタリア語」
第 15 回　総括

●評価方法

レポート。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

大黒俊二『声と文字』岩波書店、2010 年。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2508	開講期	単位数
M51	西洋史学研究演習 3			後水 2	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Western History 3			担当教員名 大黒 俊二 教授	

●科目の主題

中世ラテン語講読

●到達目標

中世ラテン語文選を順次読み進めていくことにより、西洋中世史研究には不可欠のラテン語史料読解力を養う。

●授業内容・授業計画

テキストとして中世ラテン語文選 K. M. Goullet et M. Parisse, *Apprendre le latin médiéval*, Paris, 1996 を用い、毎回原則として 1 セクションずつ読み進める。

第 1 回　授業の進め方についての説明
第 2 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.145-147
第 3 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.148-149
第 4 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.150-151
第 5 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.152-154

第 6 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.154-155
第 7 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.156-158
第 8 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.159-161
第 9 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.161-163
第 10 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.164-165
第 11 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.166-167
第 12 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.168-169
第 13 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.170-171
第 14 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.172-173
第 15 回　*Apprendre le latin médiéval*, pp.173-176

●評価方法
平常点。
●受講生へのコメント
古典ラテン語をしっかり学んでおくことが前提である。古典ラテン語の素養があってはじめて中世ラテン語の特徴も理解しうる。
●参考文献・教材
K. M. Goullet et M. Parisse, *Apprendre le latin médiéval*, Paris, 1996.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2509	開講期	単位数
M52	西洋史学研究Ⅳ			前月 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Western History Ⅳ			担当教員名 北村 昌史 教授	

●科目の主題
西洋史をめぐる諸問題。受講生の語学力や関心に応じて、英語ないしはドイツ語の研究書をもとに討論を行う授業をおこない、その後参加者による自由発表をおこなう。
●到達目標
高度な研究書を読み込んで議論を展開する能力を身につけ、自由発表によりその能力を実践する。
●授業内容・授業計画
研究書は未定。研究書ないしは論文を読む際には、毎回担当書を決めレジュメを作成してきていただいて、それをもとに報告していただく。それを受けて出席者で討論する。自由発表は受講生が現在関心を持っているテーマについて報告していただく。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 3 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 4 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 5 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 6 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 7 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 8 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 9 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 10 回　英語ないしはドイツ語の研究書
第 11 回　自由発表
第 12 回　自由発表
第 13 回　自由発表
第 14 回　自由発表
第 15 回　総括
●評価方法
平常点：100%
●受講生へのコメント
研究書に基づいて討論する授業では予習は必須。自由発表では、出席者は必ず質問すること。
●参考文献・教材
授業で適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2510	開講期	単位数
M53	**西洋史学研究演習 4**			後月 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Western History 4			担当教員名 北村 昌史 教授	

●科目の主題

西洋史をめぐる諸問題。歴史研究の土台である「史料」について検討する。担当教員および受講生が現在取り組んでいる史料をそれぞれ紹介し、その史料の持つ研究上の可能性を議論する。

●到達目標

「史料」のもつ可能性と限界についての議論を通じて、「史料」から何がわかるかについての感覚を身につける。

●授業内容・授業計画

担当教員がまず自分の「史料」をいくつか紹介し、それを受けて受講生による「史料」の紹介を行う。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　担当教員が検討している史料
第 3 回　担当教員が検討している史料
第 4 回　担当教員が検討している史料
第 5 回　担当教員が検討している史料
第 6 回　受講生が検討している史料
第 7 回　受講生が検討している史料
第 8 回　受講生が検討している史料
第 9 回　受講生が検討している史料
第 10 回　受講生が検討している史料
第 11 回　受講生が検討している史料
第 12 回　受講生が検討している史料
第 13 回　受講生が検討している史料
第 14 回　総括的議論
第 15 回　総括的議論

●評価方法

平常点：100%

●受講生へのコメント

授業を自分が作るくらいの気概で臨んでほしい。

●参考文献・教材

とくになし。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2512	開講期	単位数
M54	**西洋史学研究Ⅵ**			前木 5	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Western History Ⅵ			担当教員名 南 直人 非常勤講師	

●科目の主題

ドイツを中心にヨーロッパの食の歴史を考察する。

●到達目標

「食」という視点から、近代に重点を置きつつ、ドイツを中心としたヨーロッパの歴史についての理解を深める。

●授業内容・授業計画

食の歴史を、生産・消費・流通、政治・国家、日常生活・文化、思想・言説等の多様な側面から考察する。

第 1 回　ヨーロッパの食文化概説（1）
第 2 回　ヨーロッパの食文化概説（2）
第 3 回　古代・中世の食（1）
第 4 回　古代・中世の食（2）
第 5 回　「コロンブスの交換」（1）
第 6 回　「コロンブスの交換」（2）
第 7 回　コーヒー・茶・砂糖の世界史（1）
第 8 回　コーヒー・茶・砂糖の世界史（2）

第 9 回　コーヒー・茶・砂糖の世界史（3）
第 10 回　工業化と食の変遷（1）
第 11 回　工業化と食の変遷（2）
第 12 回　都市化と食の変遷（1）
第 13 回　都市化と食の変遷（2）
第 14 回　現代世界と食
第 15 回　総括

●評価方法
平常点 30%、試験 70%
●受講生へのコメント
特になし
●参考文献・教材
南直人『＜食＞から読み解くドイツ近代史』ミネルヴァ書房、2015 年
南直人『世界の食文化⑱ドイツ』農文協、2003 年

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2513	開講期	単位数
M55	**西洋史学総合研究Ⅰ**			前火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Western HIstory Ⅰ			担当教員名 大黒 俊二 教授／北村 昌史 教授／ 草生 久嗣 准教授	

●科目の主題
西洋史学研究法の基礎を学ぶ
●到達目標
参考図書の使い方、文献探索・収集の方法、史料読解法などについての基本的な技術を習得することをめざす。
●授業内容・授業計画
西洋史学に関する基本的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマ（「ビザンツ史」、「イタリア中・近世文化史」「近・現代ドイツ社会史」など）について、総合的に講じる。それと並行して各種研究方法について概説し、歴史資料の扱いについても講じる。また受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討論をする。
●評価方法
平常点（出席と研究報告）。
●受講生へのコメント
具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。
●参考文献・教材
必要な資料はコピー等で配付する。
参考文献は授業時間に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW2514	開講期	単位数
M56	**西洋史学総合研究Ⅱ**			後火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Western HIstory Ⅱ			担当教員名 大黒 俊二 教授／北村 昌史 教授／ 草生 久嗣 准教授	

●科目の主題
西洋史研究法をより具体的に論じる。
●到達目標
西洋史学総合研究Ⅰで学んだ西洋史学研究法を各自の研究テーマに適用しつつ、修士論文作成へ向けて準備作業を進める。
●授業内容・授業計画
担当教員がそれぞれの専門分野における個別的テーマ（「ビザンツ帝国における異端問題」「ルネサンス期イタリア都市における書字文化」「19 世紀ベルリン都市史」など）を取り上げて、研究史・研究方法について具体的に講じる。それと並行して受講生から、予定している修士論文のテーマとその概要について、あるいはそれに関わ

る研究について報告を求め、それに基づく討論をする。終了時に、研究計画書の提出を求める。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）

●受講生へのコメント

西洋史学総合研究１を履修していることが望ましい。
具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

必要な資料はコピー等で配付する。
参考文献は授業時間に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW3601	開講期	単位数
M57	**西洋史学研究指導Ⅰ**			前月 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Western HIstory Ⅰ			担当教員名 大黒 俊二 教授／北村 昌史 教授	

●科目の主題

西洋史学に関する修士論文作成の指導を行なう。

●到達目標

学界が要求する水準の論文を完成することを目指す。

●授業内容・授業計画

論文テーマの設定、文献・史料の調査・収集、資料の分析、主題とそれを論じる研究方法の適合性、論文の構成、主題に即した論述の一貫性、論文の形式的な統一など、修士論文作成に必要な事項について指導し、論文完成に至らしめる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。
（大黒俊二教授） 主に、古代から中世にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。
（北村昌史教授） 主に、近代から現代にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

論文内容とともに口頭によるプレゼンテーションの方法にも工夫してほしい。

●参考文献・教材

随時指示。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAWHW3602	開講期	単位数
M58	**西洋史学研究指導Ⅱ**			後月 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Western HIstory Ⅱ			担当教員名 大黒 俊二 教授／北村 昌史 教授	

●科目の主題

西洋史学に関する修士論文作成の指導を行なう。

●到達目標

学界が要求する水準の論文を完成することをめざす。

●授業内容・授業計画

論文テーマの設定、文献・史料の調査・収集、資料の分析、主題とそれを論じる研究方法の適合性、論文の構成、主題に即した論述の一貫性、論文の形式的な統一など、修士論文作成に必要な事項について指導し、論文完成に至らしめる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。
（大黒俊二教授） 主に、古代から中世にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。
（北村昌史教授） 主に、近代から現代にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

論文内容とともに口頭によるプレゼンテーションの方法にも工夫してほしい。

●参考文献・教材

随時指示。

人間行動学専攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEN1501	開講期	単位数
M59	人間行動学研究Ⅰ			前火 3	2 単位
	英文名 Specific Lecture in Human Behavioral Sciences Ⅰ			担当教員名 石田 佐恵子 教授	

●科目の主題

内容分析、ディスコース分析の手法を学ぶ

●到達目標

メディアの文化、新聞記事、雑誌記事、テレビコマーシャル、テレビ番組などを題材に、内容分析、ディスコース分析の手法を用いて、社会学論文（レポートや修士論文など）を書く能力を身につける。

●授業内容・授業計画

最初のガイダンスで受講の仕方を説明するので、必ず出席すること。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　内容分析、ディスコース分析の手法（1）
第 3 回　内容分析、ディスコース分析の手法（2）
第 4 回　内容分析、ディスコース分析の手法（3）
第 5 回　内容分析、ディスコース分析の手法（4）
第 6 回　資料収集とテーマの設定（1）
第 7 回　資料収集とテーマの設定（2）
第 8 回　データ入力と分析（1）
第 9 回　データ入力と分析（2）
第 10 回　データ入力と分析（3）
第 11 回　受講生による個人報告（1）
第 12 回　受講生による個人報告（2）
第 13 回　受講生による個人報告（3）
第 14 回　まとめと講評
第 15 回　レポートの作成と提出

●評価方法

内容分析・ディスコース分析の実施と報告、講義終了後のレポート作成による。

●受講生へのコメント

「メディア文化」をテーマに論文を書こうとする学生を歓迎する。本科目は実習・実践的な科目であり、授業時間以外の予習と復習が必須である。また、表計算ソフト、エクセルが使えることを前提に授業を進める。授業時には、パーソナルコンピュータ、タブレット、スマートフォンなどで、エクセルを動かせる体制で参加すること。

なお、この科目は、文学部専門科目「社会学特論 1」との共通科目である。

●参考文献・教材

教科書：有馬明恵『内容分析の方法』ナカニシヤ出版
参考書：『メディアの卒論』ミネルヴァ書房

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEN1502	開講期	単位数
M60	人間行動学研究Ⅱ			前集中	2 単位
	英文名 Specific Lecture in Human Behavioral Sciences Ⅱ			担当教員名 東山 篤規 非常勤講師	

●科目の主題

『体性感覚の心理学』

体性感覚とは，皮膚感覚（触覚，温度感覚，痛覚）と自己受容感覚（体の位置，運動，力の感覚）を併せたものをさします。ひとことで言えば「体の感覚」です。本講義では，この体性感覚がもつ機能について精神物理学 Psychophysics の知見をもとにお話しします。

●到達目標

われわれの知識の大半は，感覚を通して外界からもたらされます。本講義では，体性感覚という素材を通して，1）精神物理学の方法を学び，2）環境に適応する感覚的機能の多様な様式について学ぶことを目標とします。

●授業内容・授業計画

最初に「精神物理学的測定法」について述べます。それに続いて，受動的触覚 touch の研究を紹介し，さらに能動的触覚 haptics の研究について紹介します。最後に，体性感覚と他の感覚（主に視覚）との相互作用について述べ，感覚諸機能が統合的にはたらいているようすを描出します。

第 1 回　精神物理学的方法　閾の概念
第 2 回　精神物理学的方法　閾の測定
第 3 回　精神物理学的方法　スティーブンスの直接法（1）
第 4 回　精神物理学的方法　スティーブンスの直接法（2）
第 5 回　触の感覚
第 6 回　振動感覚
第 7 回　触覚の順応
第 8 回　加重と抑制
第 9 回　触材の次元
第 10 回　触覚的形の知覚
第 11 回　位置・間隔・運動の知覚
第 12 回　体性感覚と視覚の相互作用　シャルパンティエの錯覚
第 13 回　体性感覚と視覚の相互作用　股のぞきの研究
第 14 回　体性感覚と視覚の相互作用　垂直水平の錯視
第 15 回　体性感覚と視覚の相互作用　視覚的垂直

●評価方法

講義への出席とレポートの提出を総合的に勘案して評価します。

●受講生へのコメント

講義を受講されるにあたって，予備的な知識は必要ありません。好奇心が強い人，議論が好きな人，心理学を科学的に学んでみたいと思われる人，文系理系にとらわれない人には，きっと興味をもっていただけると思います。

●参考文献・教材

教科書
東山篤規（著）『体と手がつくる知覚世界』勁草書房，2012.
授業が始まる前に，この書籍を入手しておいてほしい。
参考文献
東山篤規ほか（著）『触覚と痛み』おうふう
カッツ，D（著）/ 東山篤規・岩切絹代（訳）『触覚の世界』新曜社

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEN1503	開講期	単位数
M61	人間行動学研究Ⅲ			後集中	2 単位
	英文名 Specific Lecture in Human Behavioral Sciences Ⅲ			担当教員名 山﨑 洋子 非常勤講師	

●科目の主題

教育における今日的なトピック・課題を念頭におきながら、イギリスの学校教育の歴史を講述し、考察を加える。

●到達目標

産業革命を最も早くなし遂げた国家・イギリスにおいて展開された学校教育の歴史的考察を通して、教育という営為を思想史的な文脈に位置づけて理解することをめざす。具体的には、19 世紀から 20 世紀の期間のイギリスで展開された教育事象に内包する理論・理想・現実を理解し、そのことを通じて、またそれらを参照枠としながら、日本の今日の学校教育の出来事・事象を客観的に理解する知見や態度を習得する。

●授業内容・授業計画

基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて、質疑やグループ討論の時間を作る。

第 1 回　ガイダンス：近代化と学校教育
第 2 回　イギリスの学校教育・教授法の史的変遷（1）モニトリアルシステム、ギャラリーシステム
第 3 回　イギリスの学校教育・教授法の史的変遷（2）オーウェンの性格形成学院と幼児教育運動
第 4 回　イギリスの学校教育・教授法の史的変遷（3）出来高払い制と教員養成
第 5 回　新教育運動の生起と展開（1）中等教育改革と新学校
第 6 回　新教育運動の生起と展開（2）初等教育改革と「教育の新理想」
第 7 回　国際的な新教育運動の生起と展開―新教育連盟の誕生と教師
第 8 回　ニイルの教育思想（1）サマーヒルの誕生

第 9 回　ニイルの教育思想（2）The Problem Child, Parent and Teacher
第 10 回　ニイル新教育思想の普及と課題
第 11 回　Dartington School の理想と限界
第 12 回　進歩主義教育の出現と展開（1）Eveline Lowe Primary School と Black paper
第 13 回　進歩主義教育の出現と展開（2）その終焉
第 14 回　進歩主義教育の歴史的課題
第 15 回　まとめ

●評価方法
最後に、講義の中で出てきたトピックに関する試験を実施する。
●受講生へのコメント
教育という事象を知的かつ歴史的に理解したいと思う学生の受講を歓迎する。
●参考文献・教材
山﨑洋子『ニイル「新教育」思想の研究－社会批判にもとづく「自由学校」の地平－』1996，大空社
宮野安治，山﨑洋子，菱刈晃夫『講義　教育原論－人間・歴史・道徳－』2011，成文堂
Roy Lowe 著，山﨑洋子・添田晴雄監訳『進歩主義教育の終焉』2013、知泉書館
Richard Aldrich 著，山﨑洋子・木村裕三監訳『教育史に学ぶーイギリス教育改革からの提言－』2009，知泉書館

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEN1504	開講期	単位数
M62	**人間行動学研究Ⅳ**			後金 3	2 単位
	英文名 Specific Lecture in Human Behavioral Sciences Ⅳ			担当教員名 山口 覚 非常勤講師	

●科目の主題
空間的な移動や都市空間との関わりの中で生成する社会と文化、近代国家の変容や狭間におけるアイデンティティの変容・再構成といった社会地理学の基礎的なテーマについて具体的な事例から見ていく。
●到達目標
それぞれの事例は簡潔な理論によってまとめられるようなものではない。地理学（ないし歴史地理学）的な説明方法に慣れてもらいたい。
●授業内容・授業計画
まずイントロダクションでは朝鮮寺と呼ばれる在日コリアンの宗教施設などについて触れる。本編では 4 つのテーマを取り上げる予定である。（1）大阪大都市圏における沖縄出身者。（2）集団就職と呼ばれた若年労働力移動の制度。（3）アメリカ合衆国の都市空間との関係の中で生み出された音楽（ラップ／デトロイト・テクノ）。（4）イギリス・スコットランドにおける独立論やスコットランド系ディアスポラの動向，文化の生成。空間と社会の関係史がこの授業のテーマとなる。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　大阪大都市圏と沖縄出身者（1）
第 3 回　大阪大都市圏と沖縄出身者（2）
第 4 回　大阪大都市圏と沖縄出身者（3）
第 5 回　集団就職（1）：若年労働力移動の制度
第 6 回　集団就職（2）：若年労働者の実存的問題
第 7 回　都市空間と文化（1）：アメリカの黒人社会と脱工業化
第 8 回　都市空間と文化（2）：デトロイトと音楽（1）
第 9 回　都市空間と文化（3）：デトロイトと音楽（2）
第 10 回　スコットランド（1）：イギリスという国？
第 11 回　スコットランド（2）：脱工業化と独立論
第 12 回　スコットランド（3）：2 つのナショナリズムと移民社会
第 13 回　スコットランド（4）：タータンという文化
第 14 回　スコットランド（5）：ディアスポラ・ツーリズム
第 15 回　授業中試験

●評価方法
最終回に実施する授業中試験で評価する（予定）。
●受講生へのコメント
状況に応じて内容を変更する場合がある。評価方法も変更する可能性がある。

●参考文献・教材
特になし。必要に応じて適宜プリントを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2501	開講期	単位数
M63	社会学基礎問題研究 I			前月 4	2 単位
	英文名 Fundamental Topics of Scociology I			担当教員名 進藤 雄三 教授	

●科目の主題
社会学理論の基礎的知見を獲得すること、およびその理論を現実上の問題に応用する能力を涵養することを目的とする。
●到達目標
1. 各自のテーマに関連した基本的理論的文献を読み、理解する。
2. その理論を、各自のテーマ即して実際に応用する。
●授業内容・授業計画
以下のスケジュールに従って、報告・発表方式で進める。
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　社会学理論文献講読 1
第 3 回　社会学理論文献講読 2
第 4 回　社会学理論文献講読 3
第 5 回　社会学理論文献講読 4
第 6 回　社会学理論文献講読 5
第 7 回　社会学理論文献講読 6
第 8 回　中間報告
第 9 回　理論応用実践報告 1
第 10 回　理論応用実践報告 2
第 11 回　理論応用実践報告 3
第 12 回　理論応用実践報告 4
第 13 回　理論応用実践報告 5
第 14 回　理論応用の総括 1
第 15 回　理論応用の総括 2
●評価方法
文献購読発表および応用報告の内容（5)、提示方法（2)、議論への貢献度（3）によって評価する。
●受講生へのコメント
受講生には講読発表と、応用報告が課される。討論への積極的参加が求められる。
●参考文献・教材
開講時に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2502	開講期	単位数
M64	社会学基礎問題研究演習 1			後月 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Fundamental Topics of Sociology 1			担当教員名 進藤 雄三 教授	

●科目の主題
特定の研究主題に対して、報告者の問題関心を掘り下げ、問題設定、理論枠組み、分析手法、解釈にいたる研究進展過程を、演習形式によって習得することを目的とする。
●到達目標
1. 修士論文作成にむけて、論文作成の具体的手順、技法、論理展開などの習得。
2. 特に、理論の展開と実証データの関係づけ方、方法論的問題意識の涵養。
●授業内容・授業計画
以下のスケジュールに従って、発表・討議方式で進める。
第 1 回　オリエンテーション

第 2 回　研究演習方法概説
第 3 回　研究演習実践報告 1
第 4 回　研究演習実践報告 2
第 5 回　研究演習実践報告 3
第 6 回　研究演習実践報告 4
第 7 回　研究演習実践報告 5
第 8 回　中間総括
第 9 回　研究演習実践報告 6
第 10 回　研究演習実践報告 7
第 11 回　研究演習実践報告 8
第 12 回　研究演習実践報告 9
第 13 回　研究演習実践報告 10
第 14 回　総括 I
第 15 回　総括 II

●評価方法
研究演習報告の内容（5)、提示方法（2)、議論への貢献度（3）によって評価する。
●受講生へのコメント
研究演習での 2 回以上の報告が課される。討論への積極的参加が求められる。
●参考文献・教材
随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2503	開講期	単位数
M65	社会学基礎問題研究 II			前火 4	2 単位
	英文名 Fundamental Topics of Scociology II			担当教員名 石田 佐恵子 教授	

●科目の主題
知識社会学、文化社会学、カルチュラル・スタディーズの理論や方法、分析、実践などを幅広く学ぶ。
●到達目標
社会学的研究の問題設定について、報告や討論を通じて、各自の考えを深める。受講生は主体的な文献・情報収集の能力、プレゼンテーション能力を身につけていくことを目標とする。
●授業内容・授業計画
知識社会学、文化社会学、カルチュラル・スタディーズを主題とした最新のテキストを講読する。後半には、各自の関心に従って報告と討議を行う。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　文献・資料の探し方と大学院における学習方法について
第 3 回　基本文献の購読（1)
第 4 回　基本文献の購読（2)
第 5 回　基本文献の購読（3)
第 6 回　基本文献の購読（4)
第 7 回　基本文献の購読（5)
第 8 回　基本文献の購読（6)
第 9 回　基本文献の購読（7)
第 10 回　基本文献の購読（8)
第 11 回　各自の関心に基づく現代文化研究の探求（1)
第 12 回　各自の関心に基づく現代文化研究の探求（2)
第 13 回　各自の関心に基づく現代文化研究の探求（3)
第 14 回　第 14 回 各自の関心に基づく現代文化研究の探求（4)
第 15 回　レポートの作成と提出について
●評価方法
毎回の出席と参加態度、報告水準、および、学期末のレポートによる。
●受講生へのコメント
受講生には、毎回の予習と復習、インターネットの積極的な活用、掲示板での議論など、熱心な参加を求める。

●参考文献・教材
テキスト：開講時に相談の上、決定する。
参考書：随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2504	開講期	単位数
M66	社会学基礎問題研究演習 2			後火 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Fundamental Topics of Sociology 2			担当教員名 石田 佐恵子 教授	

●科目の主題
ミクロな社会理論、特に、文化社会学、映像社会学、メディア文化研究に関係する専門領域について、学説研究や理論、方法などについて幅広く学ぶ。
●到達目標
修士論文のテーマ設定を意識しながら、各自の関心領域についての知識を深める。演習の後半には、それぞれの関心に応じた個人報告を求める。学会発表における報告スタイル、プレゼンテーション能力を身につける。
●授業内容・授業計画
映像社会学・メディア文化研究等を主題とした最新のテキストを講読する。後半には、各自の関心に従って報告と討議を行う。

第 1 回　ガイダンス（報告・発表スケジュールの決定）
第 2 回　映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読（1）
第 3 回　映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読（2）
第 4 回　映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読（3）
第 5 回　映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読（4）
第 6 回　映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読（5）
第 7 回　映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読（6）
第 8 回　学会発表における報告スタイルについて
第 9 回　各自の関心に基づく報告と議論（1）
第 10 回　各自の関心に基づく報告と議論（2）
第 11 回　各自の関心に基づく報告と議論（3）
第 12 回　各自の関心に基づく報告と議論（4）
第 13 回　各自の関心に基づく報告と議論（5）
第 14 回　各自の関心に基づく報告と議論（6）
第 15 回　レポートの作成と提出

●評価方法
毎回の出席、参加態度、報告水準、および学期末のレポートによる。
●受講生へのコメント
受講生には、毎回の予習と復習、インターネットの積極的な活用、掲示板での議論など、熱心な参加を求める。
●参考文献・教材
テキスト：開講時に相談の上、決定する。
参考書：随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2505	開講期	単位数
M67	社会学特殊問題研究 I			前水 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Special Sociological Fields I			担当教員名 伊地知 紀子 教授	

●科目の主題
質的調査の理論と実践技法について基礎と応用力を会得することを目的としている。
●到達目標
フィールドワーク、参与観察法、インタビュー調査、ライフヒストリー分析、エスノグラフィーといった質的社会調査の手法と実践について事例を踏まえながら演習形式で学習する。
●授業内容・授業計画
地域社会学や実践人類学を主題とした最新のテキストを講読する。後半には、各自の関心に従って報告と討議

を行う。

第 1 回　質的調査とフィールドワーク
第 2 回　対象選定と倫理
第 3 回　調査者と被調査者
第 4 回　対話と分析（1）
第 5 回　対話と分析（2）
第 6 回　参与観察（1）
第 7 回　参与観察（2）
第 8 回　インタビュー調査（1）
第 9 回　インタビュー調査（2）
第 10 回　ライフヒストリー（1）
第 11 回　ライフヒストリー（2）
第 12 回　エスノグラフィー（1）
第 13 回　エスノグラフィー（2）
第 14 回　エスノグラフィー（3）
第 15 回　質的調査の課題と可能性

●評価方法

平常点、学期末のレポートによる。

●受講生へのコメント

受講生には、毎回の予習と復習、熱心な参加を求める。

●参考文献・教材

テキスト：開講時に相談の上、決定する。
参考書：随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2506	開講期	単位数
M68	**社会学特殊問題研究演習 1**			後水 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Special Sociological Fields 1			担当教員名 伊地知 紀子 教授	

●科目の主題

エスノグラフィを学ぶ。

●到達目標

社会学、人類学などで蓄積されてきたエスノグラフィを購読し、理論、方法、記述などについて幅広く学ぶ。

●授業内容・授業計画

秀逸なエスノグラフィを丹念に読み解くことで、修士論文の方向性を模索し課題設定へと進める。後半には受講生各自の関心にもとづいた報告をする。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　エスノグラフィの購読（1）
第 3 回　エスノグラフィの購読（2）
第 4 回　エスノグラフィの購読（3）
第 5 回　エスノグラフィの購読（4）
第 6 回　エスノグラフィの購読（5）
第 7 回　エスノグラフィの購読（6）
第 8 回　エスノグラフィの課題と可能性について
第 9 回　受講生の報告と議論（1）
第 10 回　受講生の報告と議論（2）
第 11 回　受講生の報告と議論（3）
第 12 回　受講生の報告と議論（4）
第 13 回　受講生の報告と議論（5）
第 14 回　受講生のと議論（6）
第 15 回　レポートの作成と提出

●評価方法

学期末のレポートによる。

●受講生へのコメント

受講生には、毎回の予習と復習、演習での議論への熱心な参加を求める。

●参考文献・教材
テキスト：開講時に相談の上、決定する。
参考書：随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2507	開講期	単位数
M69	社会学特殊問題研究Ⅱ			前金 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Special Sociological Fields Ⅱ			担当教員名 白波瀬 達也 非常勤講師	

●科目の主題
社会調査の企画・設計・実施を行い、分析・集計するための実践的な知識と能力を習得する。社会調査の一連の流れに沿って、社会調査におけるデータ収集と分析の技法を解説する。
●到達目標
受講者は、授業の進行に合わせて、自身の調査企画案を構想することが求められる。
●授業内容・授業計画
授業は一方的な講義スタイルをとらない。受講者自身の調査関心をシェアし、調査計画立案を受講者・教員が共同で検討する予定である。なお、調査の実施、調査結果の発表・レポート作成はグループではなく個人としておこなうものとする。

第 1 回　調査テーマの選び方
第 2 回　先行研究の調べ方
第 3 回　リサーチクエスチョンの決め方
第 4 回　調査計画の作り方
第 5 回　調査倫理
第 6 回　事前調査
第 7 回　調査のアポイントの取り方
第 8 回　調査時の基本姿勢
第 9 回　調査の実施（参与観察）
第 10 回　調査の実施（インタビュー）
第 11 回　調査データの整理
第 12 回　調査データの分析
第 13 回　調査結果の発表（口頭発表）
第 14 回　調査結果の発表（報告書・論文作成）
第 15 回　授業のまとめ

●評価方法
平常点とレポートで評価する。
配点は以下の通りである。
平常点：20 点
レポート：80 点
●受講生へのコメント
●参考文献・教材
北川由紀彦・山北輝裕『社会調査の基礎』（2015 年 , NHK 出版）
小田博志『エスノグラフィー入門』（2010 年 , 春秋社）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2508	開講期	単位数
M70	社会学特殊問題研究演習 2			後木 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Special Sociological Fields 2			担当教員名 川野 英二 准教授	

●科目の主題
多変量解析の応用に関する演習
●到達目標
計量論文を読み書きするために必要な多変量解析の基本的な技法を習得する。
●授業内容・授業計画
授業では、各分析についての説明を行ったのち、ソフトウェアを用いて実際にデータの分析を行う。基本的な統

計学的知識のあることが望ましいが、それよりもむしろ、統計ソフトを使いこなし、試行錯誤しながらデータを分析することに習熟することが目的である。

第 1 回　統計ソフトの使用法 1
第 2 回　統計ソフトの使用法 2
第 3 回　ソフトウェアを使った統計学の復習 1
第 4 回　ソフトウェアを使った統計学の復習 2
第 5 回　重回帰分析の復習 1
第 6 回　重回帰分析の復習 2
第 7 回　データを用いた演習
第 8 回　ロジスティック回帰分析 1
第 9 回　ロジスティック回帰分析 2
第 10 回　順序・多項ロジット分析
第 11 回　データを用いた演習
第 12 回　ネットワーク分析 1
第 13 回　ネットワーク分析 2
第 14 回　その他の分析手法
第 15 回　データを用いた演習

●評価方法

平常点、提出物（論文・レポートなど）、出席回数

●受講生へのコメント

この授業は専門社会調査士科目（I）に相当するため、学部の社会調査士科目A～Fを履修済もしくは履修中であるか、学部レベルの社会調査に関する知識を前提とする。

●参考文献・教材

鄭躍軍ほか『R で学ぶデータサイエンス 社会調査データ解析』共立出版、2011 年

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2509	開講期	単位数
M71	**社会学特殊問題研究Ⅲ**			前金 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Special Sociological Fields Ⅲ			担当教員名 野村 明宏 非常勤講師	

●科目の主題

現代の社会と文化的事象の分析をとおして、社会的なものと個人的なものの関係の変容について学ぶ。

●到達目標

理論社会学や文化研究などの知見に基づき、モダニティとポストモダニティに関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、今日の社会の変容が受講生自らの問題としてリアリティをもって考えられる力を身につける。

●授業内容・授業計画

現代の社会や文化に関連する多様なトピックを具体的に取り上げながら、社会学的知見を深める。

近代に成立した国民国家の体制は、今日大きな揺らぎをみせており、グローバル化や個人化の潮流の中で、社会と個人のあり方には根本的な変容が生じている。また、こうした現代の変容は既存の社会学そのものの再検討を迫っているともいえる。本講義では現代の「社会」と「社会学」の両者を再考し、新たな知見やパースペクティヴを探究することになる。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　文化と文明の概念
第 3 回　国民国家とコロニアリズム
第 4 回　国民国家とポストコロニアリズム
第 5 回　オリエンタリズムとセルフオリエンタリズム
第 6 回　コミュニティの変容と文化の客体化
第 7 回　現代文化とオーセンティシティ
第 8 回　小括
第 9 回　構造化と主体化
第 10 回　権力と統治性
第 11 回　規律社会論（1）
第 12 回　規律社会論（2）
第 13 回　管理社会論（1）

第 14 回　管理社会論（2）
第 15 回　総括

●評価方法
出席状況 50%、授業時のレポート等提出物 50%によって総合的に評価する。
●受講生へのコメント
●参考文献・教材
授業中に適宜紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2511	開講期	単位数
M72	社会学特殊問題研究Ⅳ			後集中	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Special Sociological Fields Ⅳ			担当教員名 田間 泰子 非常勤講師	

●科目の主題
家族とジェンダーに関わる諸問題のなかで、特に生殖（リプロダクション）をめぐる諸問題の検討を通してポスト近代／現代的課題を考察する。
●到達目標
①家族とリプロダクションに関する基礎知識と理論をふまえたうえで、現代的課題を指摘することができる。
②現代的課題について、問題の広がりと深さを理解したうえで、今後の課題解決に向けて討議することができる。
●授業内容・授業計画
①基礎知識を確認する。
②基礎的理論を確認する。
③いかなる現代的課題が存在するかを、日本と他国を比較しつつ理解する。
④現代的課題の諸側面について討議することで、研究課題を深める。
第 1 回　基礎知識の確認①基礎的統計から
第 2 回　基礎知識の確認②歴史から
第 3 回　基礎的理論の確認①機能主義・社会的ネットワーク論
第 4 回　同②第一波フェミニズム・第二波フェミニズム
第 5 回　同③マルクス主義フェミニズム
第 6 回　同④ポスト近代社会のジェンダー論とケアの正義論
第 7 回　小括：「家族」と「リプロダクション」のとらえ直し
第 8 回　家族とリプロダクションをめぐる現代的課題①概要（「家族計画」）
第 9 回　同②人工妊娠中絶と家族
第 10 回　同③生殖補助技術と家族
第 11 回　同④古典的手段（養子・里子など）と家族
第 12 回　同⑤セクシュアリティとリプロダクション
第 13 回　現代的課題についての討議①
第 14 回　同②
第 15 回　総括
●評価方法
出席回数による評価 50%、授業時の発表と積極性 50%により評価する。
●受講生へのコメント
下記参考文献は学部水準のテキストなので、読んでいない場合は事前学習しておくことが必要である（①～④の家族社会学については、いずれか一冊）。他のより専門的な文献は、受講生が確定した後に別途周知する。
●参考文献・教材
①岩間暁子・大和礼子・田間泰子『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015。
②宮本みち子・岩上真珠編『リスク社会のライフデザイン』放送大学教育振興会、2014。
③岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』第 3 版、有斐閣、2013。
④落合恵美子『21 世紀家族へ』改訂版、有斐閣、2004。
⑤千田有紀他『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2513	開講期	単位数
M73	社会学総合研究Ⅰ			前火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Sociology Ⅰ			担当教員名 進藤 雄三 教授／石田 佐恵子 教授／伊地知 紀子 教授／川野 英二 准教授	

●科目の主題
社会学の研究を行う上で必要となる基本的事項を担当教員全員で総合的に指導する。
●到達目標
修士論文の作成・完成を目標とする。
●授業内容・授業計画
社会学の理論、およびフィールド・ワークの方法、ならびにデータ処理のための分析法に関する広範な知識の技能を、基本的な課題において総合的に把握し、展開するために、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。また、受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討論によって理解を深める。
●評価方法
受講生による研究報告を評価の主な対象とする。
●受講生へのコメント
受講生による活発な議論を望む。
●参考文献・教材
随時指示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBSOC2514	開講期	単位数
M74	社会学総合研究Ⅱ			後火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Sociology Ⅱ			担当教員名 進藤 雄三 教授／石田 佐恵子 教授／伊地知 紀子 教授／川野 英二 准教授	

●科目の主題
社会学の研究を行う上で必要な基本的事項を実際に応用する具体的な方法について、担当教員全員で総合的に指導する。
●到達目標
修士論文の作成・完成を目標とする。
●授業内容・授業計画
社会学の理論と方法に関する広範な知識と技能を、特定の個別課題において総合的に把握し、展開するために、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。また、受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討論によって理解を深める。これと並行して、受講生から予定している修士論文のテーマとその概要についての報告を求め、それに基づき討論を行う。
●評価方法
受講者による研究報告を評価の主な対象とする。
●受講生へのコメント
受講生の積極的な討論を望む。
●参考文献・教材
随時指示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBSOC3601	開講期	単位数
M75	社会学研究指導Ⅰ			前月 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Sociology Ⅰ			担当教員名 進藤 雄三 教授／石田 佐恵子 教授／伊地知 紀子 教授	

●科目の主題
修士論文の研究課題を考察するために必要な内外の論文の検討を行いながら、立案した調査計画に基づいて、文献収集やフィールド・ワークを実施し、得られた知識の整理検討とデータの分析を行う。

●到達目標
修士論文の作成・完成をめざす。
●授業内容・授業計画
学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受け、修論執筆の進行状況について報告する。また、少なくとも一回は修論の中間報告を行い、教員全員からの指導を受ける。
●評価方法
学生による研究報告を主な評価対象とする。
●受講生へのコメント
積極的な関与が望まれる。
●参考文献・教材
随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC3602	開講期	単位数
M76	社会学研究指導Ⅱ			後月 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Sociology Ⅱ			担当教員名 進藤 雄三 教授／石田 佐恵子 教授／伊地知 紀子 教授	

●科目の主題
修士論文の研究課題を考察するために必要な内外の論文の検討を行いながら、フィールド・ワークなどの調査等で得られた知識の整理検討とデータの分析を行い、知見と問題点を明確にし、議論を発展させる。
●到達目標
こうした研究遂行の指導を通して、修士論文の完成をめざす。
●授業内容・授業計画
学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受け、修論執筆の進行状況について報告する。また、最終的な段階においては、論文報告会で修論の内容を報告し、教員全員からの指導を受ける。
●評価方法
学生による研究報告を主な評価対象とする。
●受講生へのコメント
積極的な参与が求められる。
●参考文献・教材
随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2501	開講期	単位数
M77	心理学基礎問題研究			前木 3	2 単位
	英文名 Fundamental Topics of Psychology			担当教員名 池上 知子 教授	

●科目の主題
人間は自分を取り巻く社会的世界の成り立ちや、そこに生起する事象をどのように認識し理解しているのだろうか。また、それは人々にどのような感情を喚起し行動を引き起こすことになるのだろうか。これらは心理学全体に通底する問いである。このような問いに答えることを中心的学問課題としているのが社会的認知研究である。社会的認知研究は、成立当初は純粋に認知レベルの問題に焦点があてられていたが、今日では扱う問題も多岐にわたり理論も格段に深化した。本授業では、例年、社会的認知研究のこれまでの展開を踏まえ、当該分野の最新動向を把握することを主題としている。本年度は、社会的葛藤に焦点をあて、テキストに準拠しながら上記の議論を深めたい。
●到達目標
社会的葛藤（対人葛藤や集団間葛藤）をめぐる問題に焦点をあて、そこで生起する諸現象の背後にある人間の認知、感情、行動を結ぶ心理学的メカニズムに対する理解を深めることを通して、心理学専修の院生が修士論文を作成するに際し必要となる高度な専門的知識の習得を図る。
●授業内容・授業計画
下記のテキストを使用しながら、毎回、特定のトピックに焦点をあてて議論する。また、適宜、関連する英語文献の発表を求める。
第 1 回　導入 －現代社会と社会的葛藤－

第 2 回　社会的葛藤と紛争の社会心理学
第 3 回　社会的葛藤解決の心理的障壁
第 4 回　社会的葛藤と認知バイアス
第 5 回　社会的葛藤と感情
第 6 回　社会的葛藤解決の心理社会的プロセス
第 7 回　社会的葛藤と人間関係
第 8 回　社会的葛藤解決における個人特性
第 9 回　集団間接触と寛容
第 10 回　集団間関係の修復と正義
第 11 回　騒乱のなかの寛容と和解
第 12 回　和平を促す社会情緒要因
第 13 回　中立的第三者の介入と和解
第 14 回　和解における謝罪の役割
第 15 回　赦しがもたらす感情的帰結

●評価方法
平常点により評価する。
●受講生へのコメント
少人数による授業であるので受講生の活発な議論を期待したい。
●参考文献・教材
大渕憲一（著）（2015）紛争と葛藤の心理学　－人はなぜ争い、どう和解するのか－　サイエンス社
Noor, M.（Eds.）（2015）Antecedents and consequences of intergroup forgiveness.
Group Processes & Intergroup Relations, Vol.18 Number 5（Special Issue）. Sage.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2502	開講期	単位数
M78	**心理学基礎問題研究演習**			後木 3	2 単位
	英文名 Seminar in Fundamental Topics of Psychology			担当教員名 池上 知子 教授	

●科目の主題
前期の「心理学基礎問題研究」の内容を踏まえ、友好的な集団関係の構築に求められる集団間接触のあり方について、下記のテキストを講読しながら考察を深める。
●到達目標
友好的な集団間関係の構築について多角的かつ体系的にまとめられた英語の学術書を精読することにより、心理学の修士論文を作成するために必要な文献読解力と組織的な研究計画を立案するための素養を培う。
●授業内容・授業計画
受講生全員で下記のテキストを輪読しながら、毎回、特定のトピックに焦点をあて討論する。
第 1 回　導入：集団間接触研究の変遷
第 2 回　集団間接触理論の起源
第 3 回　集団間接触と偏見の低減
第 4 回　集団間接触効果の般化
第 5 回　集団間接触効果の普遍性
第 6 回　集団間接触効果の境界条件（1）
第 7 回　集団間接触効果の境界条件（2）
第 8 回　集団間接触効果の生起メカニズム
第 9 回　集団間友情と集団間接触
第 10 回　集団間接触と集団の勢力関係
第 11 回　集団間接触の負の効果（1）
第 12 回　集団間接触の負の効果（2）
第 13 回　子どもと集団間接触
第 14 回　集団間接触研究の方法論的課題
第 15 回　集団間接触研究の限界と今後の展望
●評価方法
平常点により評価する。

●受講生へのコメント
少人数の授業であるため、受講者の積極的な議論を期待する。
●参考文献・教材
Pettigrew, T. F. & Tropp, L. R. (2011) *When groups meet: The dynamics of intergroup contact.* Psychology Press.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2503	開講期	単位数
M79	**実験心理学研究**			前火 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Experimental Psychology			担当教員名 山 祐嗣 教授	

●科目の主題
以下のテキストを読むことによって、進化心理学、文化心理学、認知心理学と科学的思考を理解することを目的とする。
●到達目標
心理学における重要な研究や最先端の研究は多くは英語で書かれている。本講では、英文の論文を読む訓練と、さらには科学的思考についての心理学研究に触れることを目標とする。
●授業内容・授業計画
最初に、科学的心理学のパラダイムに触れ、次いで、Carruthers, P., Stich, S., & Siegal, M. (eds.), (2002). The cognitive basis of science. の以下の章を受講生による発表形式で読み進める。

第 1 回 Outline of cognitive, evolutionary, and cultural psychology.
第 2 回 Introduction: What makes science possible?
第 3 回 Human evolution and the cognitive basis of science.
第 4 回 Modular and cultural factors in biological understanding.
第 5 回 The roots of scientific reasoning.
第 6 回 Understanding the role of cognition in science.
第 7 回 Thinking about causality.
第 8 回 The passionate sciencetist.
第 9 回 Social psychology and the theory of science.
第 10 回 研究発表
第 11 回 研究発表
第 12 回 研究発表
第 13 回 研究発表
第 14 回 研究発表
第 15 回 研究発表

●評価方法
授業中の発表・討論にもとづく平常点とする。
●受講生へのコメント
単にテキストを読むだけではなく、そこで引用されたあるいは各自の研究と関連する論文を併せて読むことが推奨される。
●参考文献・教材
テキスト：Carruthers, P., Stich, S., & Siegal, M. (eds.), (2002). The cognitive basis of science. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2504	開講期	単位数
M80	**実験心理学研究演習**			後火 2	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Experimental Psychology			担当教員名 山 祐嗣 教授	

●科目の主題
認知心理学、進化心理学、文化心理学の代表的な以下の論文を読むことによって、最新の基本的な概念、研究法を理解する。
●到達目標
心理学における重要な研究や最先端の研究は多くは英語で書かれている。本講では、英文の論文を読む訓練と、

さらには代表的な研究に触れることを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業では、各論文毎に受講者を割り当て、レジュメ発表と討議を行う。

第 1 回　認知心理学・進化心理学・文化心理学イントロダクション
第 2 回　Cheng, P. W., & Holyoak, K. J. (1985)
第 3 回　Cheng, P. W., & Holyoak, K. J. (1985)
第 4 回　Markus, H. R. and Kitayama, S. (1991)
第 5 回　Markus, H. R. and Kitayama, S. (1991)
第 6 回　Cummins, D. D. (1998)
第 7 回　Cummins, D. D. (1998)
第 8 回　Nisbett, R. E., Peng, K., Choi, I., & Norenzayan, A. (2001)
第 9 回　Nisbett, R. E., Peng, K., Choi, I., & Norenzayan, A. (2001)
第 10 回　Markovits, H., & Barrouillet, P. (2002)
第 11 回　Markovits, H., & Barrouillet, P. (2002)
第 12 回　Norenzayan, A., & Sharif, A. F. (2008)
第 13 回　Norenzayan, A., & Sharif, A. F. (2008)
第 14 回　研究発表
第 15 回　研究発表

●評価方法

授業中の発表と討論にもとづく平常点とする。

●受講生へのコメント

単に割り当てられた論文を読むだけではなく、自分の研究テーマと関連する論文も読み、興味の範囲を広げていくことが望まれる。

●参考文献・教材

・Cheng, P. W., & Holyoak, K. J. (1985). Pragmatic reasoning schema. Cognitive Psychology, 17, 391-416.
・Markus, H. R. & Kitayama, S. (1991). Culture and the self: Implication for cognition, emotion, and motivation. Psychological Review, 1991,98, 224-253
・Cummins, D. D. (1998). Social norms and other minds; The evolutionary roots of higher cognition. In D. D. Cummins & C. Allen (Eds.), The evolution of mind. New York: Oxford University Press, Pp. 30-50.
・Nisbett, R. E., Peng, K., Choi, I., & Norenzayan, A. (2001). Culture and system of thought: Holistic versus analytic cognition. Psychological Review, 108, 291-310.
・Markovits, H., & Barrouillet, P. (2002). The development of conditional reasoning: A mental model account. Developmental Review, 22, 5-36.
・Norenzayan, A., & Sharif, A. F. (2008). The origin and evolution of religious prosociality. Science, 322, 58-62.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2505	開講期	単位数
M81	**心理学特殊問題研究 I**			後月 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Selected Topics in Psychology I			担当教員名 川邉 光一 准教授	

●科目の主題

生理心理学・行動神経科学に関する基礎的なテキストの通読により、脳・神経系についての生物学的知識と、様々な精神機能・行動と脳・神経系の関係を学ぶ。

●到達目標

上記主題の内容を学ぶことにより、生理心理学・行動神経科学の基礎を習得する。

●授業内容・授業計画

テキストの各章について担当者を決め、その内容について発表してもらう。また、適宜その内容についての解説を加える。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　テキスト講読 (1)
第 3 回　テキスト講読 (2)
第 4 回　テキスト講読 (3)
第 5 回　テキスト講読 (4)
第 6 回　テキスト講読 (5)

第 7 回　テキスト講読（6）
第 8 回　テキスト講読（7）
第 9 回　テキスト講読（8）
第 10 回　テキスト講読（9）
第 11 回　テキスト講読（10）
第 12 回　テキスト講読（11）
第 13 回　テキスト講読（12）
第 14 回　テキスト講読（13）
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点により評価する。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
テキスト　授業中に指定する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2506	開講期	単位数
M82	**心理学特殊問題研究演習 1**			後月 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Selected Topics in Psychology 1			担当教員名 川邉 光一 准教授	

●科目の主題
生理心理学・行動神経科学に関するより専門的なテキストの通読により、精神機能や行動と脳・神経系の関係を学ぶ。
●到達目標
精神機能や行動と脳・神経系の関係について理解を深める。
●授業内容・授業計画
テキストの各章について担当者を決め、その内容について発表してもらう。
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　テキスト講読（1）
第 3 回　テキスト講読（2）
第 4 回　テキスト講読（3）
第 5 回　テキスト講読（4）
第 6 回　テキスト講読（5）
第 7 回　テキスト講読（6）
第 8 回　テキスト講読（7）
第 9 回　テキスト講読（8）
第 10 回　テキスト講読（9）
第 11 回　テキスト講読（10）
第 12 回　テキスト講読（11）
第 13 回　テキスト講読（12）
第 14 回　テキスト講読（13）
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点により評価する。
●受講生へのコメント
本演習の受講には脳・神経系についての生物学的知識が必要となるので、前期の「心理学特殊問題研究Ⅰ」とともに受講するのが望ましい。
●参考文献・教材
参考書　Andersen, P. et al. (Ed.) (2007) *The hippocampus book*. Oxford University Press.
Sweatt, J.D. (2010) *Mechanisms of memory*. 2nd ed. Academic Press.
Ward, J. (2009) *The student's guide to cognitive neuroscience*. 2nd ed. Psychology Press.
Ward, J. (2010) *The student's guide to social neuroscience*. Psychology Press.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2507	開講期	単位数
M83	**心理学特殊問題研究Ⅱ**			前火 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Selected Topics in Psychology Ⅱ			担当教員名 佐伯 大輔 准教授	

●科目の主題

ヒトや動物における「判断」、「意思決定」、「選択行動」の研究は、心理学、経済学、生物学等の研究分野においてなされてきた。この授業では、主に、学習心理学や認知心理学における研究を取り上げ、これまでに提案された理論とデータについて概観する。

●到達目標

ヒトや動物を対象とした「判断」、「意思決定」、「選択行動」の研究に関する知識を深め、研究対象や接近法の異なる研究領域間で、どのようにして理論やデータの比較ができるのかを理解することが到達目標である。

●授業内容・授業計画

主に以下の章立てで講義を進める。

第 1 回 1. はじめに
第 2 回 2. 確実状況下の意思決定（1）：Luce の選択公理
第 3 回 3. 確実状況下の意思決定（2）：多属性効用理論
第 4 回 4. 不確実状況下の判断（1）：ヒューリスティックとバイアス
第 5 回 5. 不確実状況下の判断（2）：基礎生起率判断の誤り
第 6 回 6. 不確実状況下の意思決定（1）：期待効用理論
第 7 回 7. 不確実状況下の意思決定（2）：プロスペクト理論
第 8 回 8. 学習理論に基づく選択行動研究
第 9 回 9. マッチング法則
第 10 回 10. 自己制御選択と遅延割引
第 11 回 11. リスク選択と確率割引
第 12 回 12. 選択行動における遅延と確率の関係
第 13 回 13. 協力選択と社会割引
第 14 回 14. 行動経済学
第 15 回 15. まとめ

●評価方法

授業への出席と学期末のレポートにより成績評価を行う。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

参考文献

広田すみれ・増田真也・坂上貴之［編著］(2006)『心理学が描くリスクの世界：行動的意思決定入門 改訂版』慶應義塾大学出版会

Rachlin, H. (1989) *Judgment, decision, and choice: A cognitive/behavioral synthesis.* New York: Freeman.

坂上貴之［編］(2009)『意思決定と経済の心理学』朝倉書店

佐伯大輔［著］(2011)『価値割引の心理学―動物行動から経済現象まで―』昭和堂

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2508	開講期	単位数
M84	**心理学特殊問題研究演習 2**			後火 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Selected Topics in Psychology 2			担当教員名 佐伯 大輔 准教授	

●科目の主題

ヒトや動物の「判断」、「意思決定」、「選択行動」に関して、学習心理学の立場から論じている Howard Rachlin の“*Judgment, decision, and choice*”を読み、認知的研究と行動的研究の融合可能性を探る。

●到達目標

各分野における研究内容の理解、さらに、異なる研究領域間における理論・データの比較の方法について理解することが到達目標である。

●授業内容・授業計画

前年度に引き続き、テキストを輪読形式で読んでいく。各受講者には、毎回の授業において、該当部分をその

場で訳出することが求められる。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　Chapter 8: Economics and choice (1)
第 3 回　Chapter 8: Economics and choice (2)
第 4 回　Chapter 8: Economics and choice (3)
第 5 回　Chapter 8: Economics and choice (4)
第 6 回　Chapter 8: Economics and choice (5)
第 7 回　Chapter 8: Economics and choice (6)
第 8 回　Chapter 8: Economics and choice (7)
第 9 回　Chapter 9: Rational thought (1)
第 10 回　Chapter 9: Rational thought (2)
第 11 回　Chapter 9: Rational thought (3)
第 12 回　Chapter 9: Rational thought (4)
第 13 回　Chapter 10: Decison and choice reconciled (1)
第 14 回　Chapter 10: Decison and choice reconciled (2)
第 15 回　まとめ

●評価方法
出席と授業での発表により評価する。

●受講生へのコメント
特になし。

●参考文献・教材
テキスト
Rachlin, H. (1989) *Judgment, decision, and choice: A cognitive/behavioral synthesis*. New York: Freeman.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2511	開講期	単位数
M85	**心理学総合研究Ⅰ**			前火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Psychology Ⅰ			担当教員名 池上 知子 教授／山 祐嗣 教授／ 川邉 光一 准教授／佐伯 大輔 准教授	

●科目の主題
心理学の各研究分野における基本的事項について理解を深める。

●到達目標
学術的テーマについて、各人が発表したり積極的に討論に参加することによって、プレゼンテーション能力の向上を図り、意見交換を行えるようなスキルを習得する。

●授業内容・授業計画
担当教員全員で総合的に指導する。受講生が研究発表を行い、各発表内容に対して担当教員がそれぞれの専門分野の観点からテーマについて解説し、受講生全員と討論を行う。自分の専門分野のみならず他分野の研究内容の理解を図るとともに、研究発表を行い討論することにより、互いに質問し批評し合う訓練の場としたい。

●評価方法
平常点により評価する。

●受講生へのコメント
積極的に発言することを期待する。

●参考文献・教材
特に使用しない。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY2512	開講期	単位数
M86	**心理学総合研究Ⅱ**			後火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Psychology Ⅱ			担当教員名 池上 知子 教授／山 祐嗣 教授／ 川邉 光一 准教授／佐伯 大輔 准教授	

●科目の主題
各研究分野の実験、調査などの研究方法やデータ解析法についての理解を深める。

●到達目標
学術的テーマについて、積極的に討論に参加し、意見交換を行えるようなスキルを習得する。
●授業内容・授業計画
担当教員が全員で総合的に指導する。各担当教員がそれぞれの専門分野における方法論を具体的な事例を取り上げて解説するとともに、受講生にも研究発表を行わせ、討論を通して、自分の専門分野のみならず他分野の研究方法やデータ解析法への理解を深める。研究発表を行い討論することにより、互いに質問し批評しあう訓練の場としたい。
●評価方法
平常点により評価する。
●受講生へのコメント
積極的に発言することを期待する。
●参考文献・教材
特に使用しない。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBPSY3601	開講期	単位数
M87	**心理学研究指導Ⅰ**			前月 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Psychology Ⅰ			担当教員名 池上 知子 教授／山 祐嗣 教授	

●科目の主題
修士論文の作成に必要な基本的事項を指導し、修士論文の完成を目指す。
●到達目標
修士論文作成のための系統だった研究計画を立て、実験もしくは調査を実施できるようにする。
●授業内容・授業計画
論文テーマの設定、テーマに関する理論、実験・調査などの研究方法並びにデータ解析法、さらに論文の構成、論文の形式など、心理学の各分野に応じた修士論文作成の指導を行う。研究指導の担当者は以下の通りである。
〔池上知子教授〕 社会的行動の基礎をなす認知と感情、自己と社会的アイデンティティなど、社会心理学の分野に関する修士論文の指導を行う。
〔山　祐嗣教授〕 思考と推論、認知の文化差など、認知心理学の分野に関する修士論文の指導を行う。
●評価方法
平常点により評価する。
●受講生へのコメント
主体的に研究課題を遂行することを期待する。
●参考文献・教材
適宜、紹介する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBPSY3602	開講期	単位数
M88	**心理学研究指導Ⅱ**			後月 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Psychology Ⅱ			担当教員名 池上 知子 教授／山 祐嗣 教授	

●科目の主題
心理学研究指導Ⅰに引き続いて、修士論文の作成に必要な基本的事項を指導し、修士論文の完成を目指す。
●到達目標
実験や調査により得られた成果を体系立てて提示し、先行研究と関連づけながら論旨の一貫した論文を作成できるようにする。
●授業内容・授業計画
論文テーマの設定、テーマに関する理論、実験・調査などの研究方法並びにデータ解析法、さらに論文の構成、論文の形式など、心理学の各分野に応じた修士論文作成の指導を行う。研究指導の担当者は以下の通りである。
〔池上知子教授〕 社会的行動の基礎をなす認知と感情、自己と社会的アイデンティティなど、社会心理学の分野に関する修士論文の指導を行う。
〔山　祐嗣教授〕 思考と推論、認知の文化差など、認知心理学の分野に関する修士論文の指導を行う。
●評価方法
平常点により評価する。

●受講生へのコメント
主体的に研究課題を遂行することを期待する。
●参考文献・教材
適宜、紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2501	開講期	単位数
M89	教育学基礎問題研究			前水 3	2 単位
	英文名 Higher Studies of Fundamental Problems in Education			担当教員名 柏木 敦 教授	

●科目の主題
初代文部大臣森有礼の言説を読み解く。『森有礼全集』に収録された文書をテキストとして、森の教育観や、教育政策で目指したものを検討してゆく。全体を三部に区分して言説の移り変わりを読み取ることを目的とする。
●到達目標
(1) 設定したテーマに関する知識を身につける。
(2) 日本の教育制度の形成期に関する資料の読解能力を身につける。
●授業内容・授業計画
以下のような内容で授業を進める。
●評価方法
各回の報告に加え、授業への参加度合い（発言など）、出席率によって総合的に評価する。
●受講生へのコメント
片仮名、旧漢字によって構成された文書を読むので、漢和辞典、国語辞典がサブテキストとなる。
●参考文献・教材
参考文献：大久保利謙監修、上沼八郎・犬塚孝明編『新修 森有礼全集』第 2 巻、文泉堂書店、1998 年
近代日本教育史料研究会編『編集復刻日本近代教育史料大系 公文記録 1 公文類聚』第 21 ～ 23 巻、龍渓書舎、2014 年
その他、授業中に適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2502	開講期	単位数
M90	教育学基礎問題研究演習			後水 3	2 単位
	英文名 Higher Seminar：Studies of Fundamental Problems in Education			担当教員名 柏木 敦 教授	

●科目の主題
日本近代の教育制度政策史に関する諸研究を検討し、教育史研究における研究到達点、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術などを習得する。それらの作業を通して、履修者の課題意識、方法意識を明確にすることを本演習の目的とする。
●到達目標
履修者の興味関心の対象を明確にし、基礎的な研究手法を身につける。
●授業内容・授業計画
概ね以下の項目に従って検討する。
第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 1870 年代から 1890 年代まで (1)
第 3 回 1870 年代から 1890 年代まで (2)
第 4 回 1870 年代から 1890 年代まで (3)
第 5 回 1890 年代から 1910 年代まで (1)
第 6 回 1890 年代から 1910 年代まで (2)
第 7 回 1890 年代から 1910 年代まで (3)
第 8 回 1890 年代から 1910 年代まで (4)
第 9 回 1920 年代から 1940 年代半ばまで (1)
第 10 回 1920 年代から 1940 年代半ばまで (2)
第 11 回 1920 年代から 1940 年代半ばまで (3)

第 12 回　戦後教育改革に関する研究（1）
第 13 回　戦後教育改革に関する研究（2）
第 14 回　戦後教育改革に関する研究（3）
第 15 回　まとめ

●評価方法
受講者各自の問題意識に基づくレポートを主な評価対象とし、授業参加の程度を加味する。
●受講生へのコメント
授業の進め方、文献選択方法等については、受講者と相談の上方針を作る。
●参考文献・教材
米田俊彦編『教育改革』（論集、現代日本の教育史、第 1 巻）、日本図書センター、2013 年
『東京茗渓会雑誌』（復刻版）、現代情報社
『教育学術界』（大空社復刻版）明治編・大正編、1989 ～ 1999 年
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2503	開講期	単位数
M91	**学校教育学研究 I**			前火 2	2 単位
	英文名 Higher Studies on Education Practicies in Schools I			担当教員名 島田 希 准教授	

●科目の主題
知識社会の到来に伴い、学校における学習やカリキュラムの転換が求められている。今日の学校教育に求められている変化や各国において進展する教育改革の動向をふまえつつ、わが国における教育改革の方向性について検討する。
●到達目標
①知識社会における学校・学習・カリキュラムの転換について、その特徴や課題を理解する。
②各国において進展する教育改革の動向とそこにみられる特徴や課題について理解する。
③上記①②をふまえた上で、知識社会における学校教育のあり方に関して考察を深める。
●授業内容・授業計画
知識社会における学校・学習・カリキュラムの転換および各国における教育改革の動向について、以下のテーマを中心に考察を深めていく。
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　知識社会とは―その特徴と課題―
第 3 回　知識社会の到来と学校教育に求められる変化
第 4 回　知識社会における学習・カリキュラムの転換①
第 5 回　知識社会における学習・カリキュラムの転換②
第 6 回　各国において進展する教育改革の動向①
第 7 回　各国において進展する教育改革の動向②
第 8 回　学習・カリキュラムの転換による教師の専門性の問い直し①
第 9 回　学習・カリキュラムの転換による教師の専門性の問い直し②
第 10 回　専門的な学習共同体としての学校①
第 11 回　専門的な学習共同体としての学校②
第 12 回　わが国における教育改革への示唆①
第 13 回　わが国における教育改革への示唆②
第 14 回　わが国における教育改革への示唆③
第 15 回　全体のまとめ
●評価方法
授業時の発表、ディスカッションへの参加、小レポート（60%）と期末レポート（40%）により、総合評価する。
●受講生へのコメント
以下に挙げる教材を読み進めるとともに、受講生相互によるディスカッションを中心に進めていく。教材となる文献を丁寧に読み解くこと、さらには、ディスカッションへの積極的な参加を求める。
●参考文献・教材
以下を主たる教材として進めていく。そのほか関連する文献については、授業中に適宜紹介する。
・アンディ・ハーグリーブス（2015）木村優ほか監訳『知識社会の学校と教師―不安定な時代における教育』金子書房 .

・ピーター・M・センゲほか（2014）リヒテルズ直子訳『学習する学校―子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する』英治出版 .

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2504	開講期	単位数
M92	**学校教育学研究演習 1**			後木 2	2 単位
	英文名 Higher Seminar on Education Practicies in Schools 1			担当教員名 島田 希 准教授	

●科目の主題

学校教育学研究 I の内容をふまえつつ、専門的な学習共同体としての学校を構想すべく関係する先行知見の検討を行う。具体的には、わが国における授業研究の蓄積と海外におけるその広がりについて、さらには、授業研究を基盤とした学校づくりに関して考察を深める。

●到達目標

①わが国における授業研究の歴史・実態・今日的課題や海外における広がりについて理解する。
②授業研究を基盤とした学校づくりに関するキーコンセプトについて理解する。
③上記①②をふまえた上で、授業研究の方法論および教育方法学研究としての今後の展開について考察を深める。

●授業内容・授業計画

わが国における授業研究の取り組みやその広がりについて検討することを通して、専門的な学習共同体としての学校について考察を深めていく。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　わが国における授業研究の蓄積①
第 3 回　わが国における授業研究の蓄積②
第 4 回　わが国における授業研究の実態と今日的課題①
第 5 回　わが国における授業研究の実態と今日的課題②
第 6 回　海外における授業研究の広がり①米国における展開
第 7 回　海外における授業研究の広がり②アジアにおける展開
第 8 回　海外における授業研究の広がり③北欧における展開
第 9 回　授業研究を基盤とした学校づくり①
第 10 回　授業研究を基盤とした学校づくり②
第 11 回　授業研究の方法論に関する理論的検討①
第 12 回　授業研究の方法論に関する理論的検討②
第 13 回　教育方法学研究としての授業研究の展開と展望①
第 14 回　教育方法学研究としての授業研究の展開と展望②
第 15 回　全体のまとめ

●評価方法

授業時の発表、ディスカッションへの参加、小レポート（60%）と期末レポート（40%）により、総合評価する。

●受講生へのコメント

以下に挙げる教材を読み進めるとともに、受講生相互によるディスカッションを中心に進めていく。教材となる文献を丁寧に読み解くこと、さらには、ディスカッションへの積極的な参加を求める。

●参考文献・教材

以下を主たる教材として進めていく。そのほか関連する文献については、授業中に適宜紹介する。

・水越敏行・吉崎静夫・木原俊行・田口真奈（2012）『授業研究と教育工学』ミネルヴァ書房 .
・日本教育方法学会編（2009）『日本の授業研究－授業研究の歴史と教師教育〈上巻〉』学文社 .
・日本教育方法学会編（2009）『日本の授業研究－－授業研究の方法と形態〈下巻〉』学文社 .
・田中耕治・森脇健夫・徳岡慶一（2011）『授業づくりと学びの創造』学文社 .

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2505	開講期	単位数
M93	**学校教育学研究Ⅱ**			前水 2	2 単位
	英文名 Higher Studies on Education Practicies in Schools Ⅱ			担当教員名 森 久佳 准教授	

●科目の主題

カリキュラムと教師をテーマとする諸文献の講読を進める。

●到達目標
(1) 教育方法学の前提となる教育学説に関する基本的素養を身につける
(2) 教育学説史について理解する
(3) 教育学説史の観点から教育方法学に対する専門的な理解を深める。

●授業内容・授業計画
指定したテキストの講読が中心となるが、状況に応じて関連文献の講読も行う。

第 1 回 オリエンテーション（授業の進め方等についての説明）
第 2 回 古代の教育学説（第 1 章）
第 3 回 キリスト教精神と中世の教育学説（第 2 章）
第 4 回 ルネサンス，宗教改革，反宗教改革の時代の教育学説（第 3 章）
第 5 回 バロックの世紀の教育学説（第 4 章）
第 6 回 啓蒙主義の時代の教育学説（第 5 章）①
第 7 回 啓蒙主義の時代の教育学説（第 5 章）②
第 8 回 古典主義・理想主義の時代の教育学説（第 6 章）①
第 9 回 古典主義・理想主義の時代の教育学説（第 6 章）②
第 10 回 産業化の時代の教育学説（第 7 章）①
第 11 回 産業化の時代の教育学説（第 7 章）②
第 12 回 20 世紀の教育学説（第 8 章）①
第 13 回 20 世紀の教育学説（第 8 章）②
第 14 回 20 世紀の教育学説（第 8 章）③
第 15 回 関連文献の講読とまとめ

●評価方法
平常点 40%（授業への参加状況、発表の様子）と期末レポート（60%）による。

●受講生へのコメント
学生自身が主体的、自律的に学んでいくことを重視する。

●参考文献・教材
＜テキスト＞
・アルベルト・レーブレ（2015）『教育学の歴史』広岡義之・津田徹訳，青土社（Aobert Reble, *Geshichte der Padagogik*, 20. Auf. lage. Klett-Otta, 2002）.
＜参考文献＞
・ダイアン・ラヴィッチ（2011）『教育による社会的正義の実現：アメリカの挑戦（1945 － 1980）』東信堂.
・ジョイ・A・パーマー他編著（2012）『教育思想の 50 人』広岡義之・塩見剛一他訳，青土社.
・橋本美保・田中智志編著（2015）『大正新教育の思想：生命の躍動』東信堂.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2506	開講期	単位数
M94	**学校教育学研究演習 2**			後水 2	2 単位
	英文名 Higher Seminar on Education Practicies in Schools 2			担当教員名 森 久佳 准教授	

●科目の主題
今日、学校を「ケアする場」としてのとらえ直す動きが、大きな流れの一つとしてある。そこで、本演習では、こうした「ケアする場としての学校」論の主要な提唱者の 1 人である J・R・マーティン（J. R. Martin）の『スクール・ホーム：＜ケア＞する学校』（*The Schoolhome: Rethinking Schools for Changing Families*）を講読し、「ケアする場としての学校」に関する基本的な理念等についての理解を深め、議論することを目指す。ただし、同書は、J・デューイ（J. Dewey）の『学校と社会』（*The School and Society*）に対する批判を前提に議論が進められているので、本演習は、まず前段階として、デューイの『学校と社会』の主要な箇所（第 1 章・第 2 章・第 3 章）を講読し、その上で、マーティンの『スクールホーム』の講読に進む予定である。

●到達目標
(1) デューイの教育理論について理解する
(2) 「ケアする場としての学校」という考え方を理解する
(3) 学校という観点から教育学に対する専門的な理解を深める。

●授業内容・授業計画
デューイの『学校と社会』の主要な箇所を講読した上で、マーティンの『スクールホーム』を講読する。その際に、関連文献の講読も併せて行う予定である。なお、講読に際しては、随時原文も参照する予定である（原文はこちらで用意する）。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　学校と社会進歩（『学校と社会』第 1 章）
第 3 回　学校と子どもの生活（『学校と社会』第 2 章）
第 4 回　教育における浪費（『学校と社会』第 3 章）
第 5 回　学校と家庭（『スクールホーム』第 1 章）①
第 6 回　学校と家庭（『スクールホーム』第 1 章）②
第 7 回　文化とカリキュラム（『スクールホーム』第 2 章）①
第 8 回　文化とカリキュラム（『スクールホーム』第 2 章）②
第 9 回　生きることへの学び（『スクールホーム』第 3 章）①
第 10 回　生きることへの学び（『スクールホーム』第 3 章）②
第 11 回　抑圧された家庭的事柄（『スクールホーム』第 4 章）①
第 12 回　抑圧された家庭的事柄（『スクールホーム』第 4 章）②
第 13 回　家庭と世界（『スクールホーム』第 5 章）①
第 14 回　家庭と世界（『スクールホーム』第 5 章）②
第 15 回　まとめと総括

●評価方法

平常点 40%（授業への参加状況、発表の様子）と期末レポート（60%）による。

●受講生へのコメント

学生自身が主体的、自律的に学んでいくことを重視する。

●参考文献・教材

＜テキスト＞

・J. デューイ（1998[1899]）『学校と社会・子どもとカリキュラム』（市村尚久訳）講談社学術文庫（J. Dewey（1990[1956]）. *The School and Society and The Child and the Curriculum*. The University of Chicago Press.）.
・ジェーン・R・マーティン（2007）『スクールホーム：＜ケア＞する学校』生田久美子監訳・解説，東京大学出版会（Jane Roland Martin（1992）*The Schoolhome: Rethinking Schools for Changing Families*. Harvard University Press.）.

＜参考文献＞

・ジェーン・R・マーティン（2008）『カルチュラル・ミスエデュケーション：「文化遺産の伝達」とは何なのか』生田久美子監訳，東北大学出版会（Jane Roland Martin.（2002）. *Cultural Miseducation: In Search of a Democratic Solution*.Teachers College Press.）.
・マイケル・W・アップル＆ジェームズ・A・ビーン編著（2013）『デモクラティック・スクール：力のある学校教育とは何か』澤田稔訳，上智大学出版（M. W. Apple & J. A. Beane eds.（2007）. *Democratic Schools: Lessons in Powerful Education, 2nd ed*. Portsmouth, NH: Heinemann.）.
・ダイアン・ラヴィッチ（2013）『偉大なるアメリカ公立学校の死と生：テストと学校選択がいかに教育をだめにしてきたのか』本図愛実監訳，協同出版（Diane Ravitch.（2010）. *The Death and Life of the Great American School System: How Testing and Choice Are Undermining Education*. New York: Basic Books.）.
・ダイアン・ラヴィッチ（2015）『アメリカ　間違いがまかり通っている時代：公立学校の企業型改革への批判と解決法』東信堂（Diane Ravitch.（2013）. *Reign of Error: The Hoax of the Privatizationi Movement and the Danger to America's Public Schools*. New York: Alfred A. Knopf.）.
・ピーター・M・センゲ（2014）『学習する学校：子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する』リヒテルズ直子訳，英治出版（Peter M. Senge et. al.（2012）. *Schools that Learn: A Fifth Discipline Fieldbook for Educators, Parents, and Everyone Who Cares about Education*. New York: Crown Business.）.
・デッカー・F・ウォーカー＆ジョナス・F・ソルティス（2015）『カリキュラムと目的：学校教育を考える』佐藤隆之・森山賢一訳，玉川大学出版部（Decker F. Walker & Jonas F. Soltis.（2009）. *Curriculum and Aims*. 5th edition, Thinking About Education Series, Teachers College Press.）.
・佐藤学（1999）『学びの快楽』世織書房.
・日本教育方法学会編（2014）『教育方法学研究ハンドブック』学文社.
・藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス　日本の教育と社会第 11 巻）日本図書センター.
・Connelly, F. Michael（ed.）.（2008）. *The SAGE Handbook of Curriculum and Instruction*. Sage Publications.
・Finders, David J. & Thornton, Stephen J.（ed.）.（2013）. *The Curriculum Studies Reader. Fourth Edition*, Routledge.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2507	開講期	単位数
M95	教育学特殊問題研究Ⅰ			前火 3	2 単位
	英文名 Higher Studies in Special Educational Fields Ⅰ			担当教員名 滝沢 潤 非常勤講師	

●科目の主題

グローバル化と国民国家の変容、少子化、社会の階層化（経済的格差の拡大）の進展といった社会の構造的な変化や、地方分権、規制緩和、市場化などの政策基調の中で、教育の公共性ないし公教育のあり方が問われている。本講義では、こうした特徴をもつ現代において教育行政・制度の課題やそのあり方を検討・考察するうえで重要となる概念、論点および社会経済的背景について、主にアメリカにおける理論的動向、改革動向との比較を行いながら、検討・考察していく。

●到達目標

現代の教育行政・制度に関する課題を検討・考察するうえで重要な概念、論点および社会経済的背景を理解し、現代の教育行政・制度を複眼的、体系的に捉えられる。

●授業内容・授業計画

講義内容（以下の各内容を複数回の授業で扱う）

第 1 回　オリエンテーション（現代の教育を行政、制度の観点から検討・考察することの重要性について）
第 2 回　教育行政・制度の歴史的展開　教育委員会制度の成立と変容を中心に①
第 3 回　教育委員会制度の成立と変容を中心に②
第 4 回　臨時教育審議会における教育の自由化の提唱
第 5 回　1990 年代以降の規制緩和、地方分権の推進①
第 6 回　1990 年代以降の規制緩和、地方分権の推進②
第 7 回　教育行政・制度の今日的課題　教育の市場化と学校選択論①
第 8 回　教育の市場化と学校選択論②
第 9 回　学力低下問題と社会階層①
第 10 回　学力低下問題と社会階層②
第 11 回　学校の自律性とアカウンタビリティ①
第 12 回　学校の自律性とアカウンタビリティ②
第 13 回　多言語化と教育の正統性・公共性①
第 14 回　多言語化と教育の正統性・公共性②
第 15 回　まとめ（現代の教育行政・制度を複眼的体系的にとらえる重要性について）

●評価方法

授業で取り上げた今日的課題に関するレポート 80%
受講態度　20%

●受講生へのコメント

受講者との対話を重視するなかで、受講者の関心（経験）に配慮しながら、多様な事例を取り上げることなどを通して、現代の教育行政・制度の諸課題を検討し、その意義について理解を深められるように努めていきたいと考えている。受講生の積極的な授業参加を期待する。

●参考文献・教材

・滝沢潤､佐竹勝利「徳島県における総合選抜制度の維持･拡大要因に関する実証的研究」『教育行政学研究』第 20 号、西日本教育行政学会、1999 年、45-58 頁。
・滝沢潤「カリフォルニア州の州民投票･提案 227 の課題－教育政策の評価と教育の正統性に着目して－」『教育制度学研究』第 9 号、日本教育制度学会、2002 年、202-215 頁。
・滝沢潤「言語マイノリティの平等な教育機会の保障における学校選択の可能性 ーカリフォルニア州における双方向イマージョン・プログラム実施校の検討ー」『日本教育行政学会年報』第 40 号、日本教育行政学会、2014 年。91-108 頁。

その他の参考文献については、授業中に適宜配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2508	開講期	単位数
M96	教育学特殊問題研究演習 1			後火 2	2 単位
	英文名 Higher Seminar in Special Educational Fields 1			担当教員名 滝沢 潤 非常勤講師	

●科目の主題

現代の教育行政・制度の課題に関する代表的な文献（英語論文を含む）を中心に検討し、議論を行う。なお、取り上げる文献については、受講生の関心を踏まえ、変更する場合がある。

●到達目標

教育行政・制度に関する講義を踏まえ、現代の教育行政・制度の課題について考察した代表的な文献購読（英語論文を含む）を通じて、現代の教育行政・制度の課題をより深く、多面的に考察できる。

●授業内容・授業計画

各回に指定された文献を事前に要約し、意見交換をしながら理解を深める。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　能力主義と教育①
第 3 回　能力主義と教育②
第 4 回　教育のアカウンタビリティと正統性①
第 5 回　教育のアカウンタビリティと正統性②
第 6 回　教育の多様化と教育理念による多様化
第 7 回　教育の市場化と学校選択制度①
第 8 回　教育の市場化と学校選択制度②
第 9 回　社会の階層化と Effective School ①
第 10 回　社会の階層化と Effective School ②
第 11 回　アメリカの言語マイノリティと教育　マイノリティ教育政策の評価①
第 12 回　言語マイノリティ教育政策の評価②
第 13 回　言語マイノリティの教育保障と多元的な教育の正統化システム①
第 14 回　言語マイノリティの教育保障と多元的な教育の正統化システム②
第 15 回　まとめ

●評価方法

論文要約、意見の内容等演習への取組 100％

●受講生へのコメント

オリエンテーションにおいて、授業概要で示した授業のすすめ方について説明する。
受講生の積極的な取り組みを期待する。

●参考文献・教材

・黒崎勲『教育行政学』岩波書店、1999 年。
・Edmonds, R., “Effective Schools for the Urban Poor,” Educational Leadership 37, 1979.
・Crawford, James, “The Proposition 227 Campaign: A Post Mortem” At War with Diversity: US Language Policy in an Age of Anxiety, Multilingual Matters, 2000, pp.104-127.
・滝沢潤「言語マイノリティの平等な教育機会の保障における学校選択の可能性 ーカリフォルニア州における双方向イマージョン・プログラム実施校の検討ー」『日本教育行政学会年報』第 40 号、日本教育行政学会、2014 年。91-108 頁。

などを予定。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2509	開講期	単位数
M97	教育学特殊問題研究Ⅱ			前月 2	2 単位
	英文名 Higher Studies in Special Educational Fields Ⅱ			担当教員名 添田 晴雄 准教授	

●科目の主題

対話を通した協働的な学びの理論と実践を比較教育文化的視点から考察する

●到達目標

(1) 対話を通した協働的な学びの理論についての先行研究を批判的に精読する
(2) 対話を通した協働的な学びの理論と実践を比較教育文化的視点から考察する

●授業内容・授業計画

佐藤公治『認識と文化 10 対話の中の学びと成長』金子書房、1999 年、岡田敬司『コミュニケーションと人間形成―かかわりの教育学Ⅱ』ミネルヴァ書房、1998 年、D.W. ジョンソン、R.T. ジョンソン、K.A. スミス／岡田一彦監訳『学生参加型の大学授業―協同学習への実践ガイド』玉川大学出版部、2001 年、等を手がかりにして、先行研究を批判的に精読し、対話を通した協働的な学びの理論と実践を比較教育文化的視点から考察する。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　アクティブ・ラーニングと対話を通した協働的な学び
第 3 回　対話の中の学びと成長（1）ヴィゴツキー
第 4 回　対話の中の学びと成長（2）社会的構成主義
第 5 回　対話の中の学びと成長（3）コミュニケーション的転回
第 6 回　対話の中の学びと成長（4）幼児の共同遊び
第 7 回　対話の中の学びと成長（5）教室の中の学習と対話
第 8 回　対話の中の学びと成長（6）他者との関わりと学び
第 9 回　コミュニケーションと人間形成（1）理解すること
第 10 回　コミュニケーションと人間形成（2）話し合うこと
第 11 回　コミュニケーションと人間形成（3）意味を表現すること
第 12 回　コミュニケーションと人間形成（4）状況依存から文脈依存
第 13 回　コミュニケーションと人間形成（5）文脈構築
第 14 回　コミュニケーションと人間形成（6）討論授業
第 15 回　コミュニケーションと人間形成（7）まとめ

●評価方法

平常点

●受講生へのコメント

比較教育文化的視点にたち、日本の特別活動が果たす役割についても考察して欲しい。

●参考文献・教材

佐藤公治『認識と文化 10 対話の中の学びと成長』金子書房、1999 年、岡田敬司『コミュニケーションと人間形成―かかわりの教育学Ⅱ』ミネルヴァ書房、1998 年、D.W. ジョンソン、R.T. ジョンソン、K.A. スミス／岡田一彦監訳『学生参加型の大学授業―協同学習への実践ガイド』玉川大学出版部、2001 年

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2510	開講期	単位数
M98	教育学特殊問題研究演習 2			後月 2	2 単位
	英文名 Higher Seminar in Special Educational Fields 2			担当教員名 添田 晴雄 准教授	

●科目の主題

対話を通した協働的な学びの理論と実践を比較教育文化的視点から考察する

●到達目標

（1）対話を通した協働的な学びの理論についての先行研究を批判的に精読する
（2）対話を通した協働的な学びの理論と実践を比較教育文化的視点から考察する

●授業内容・授業計画

佐藤公治『認識と文化 10 対話の中の学びと成長』金子書房、1999 年、岡田敬司『コミュニケーションと人間形成―かかわりの教育学Ⅱ』ミネルヴァ書房、1998 年、D.W. ジョンソン、R.T. ジョンソン、K.A. スミス／岡田一彦監訳『学生参加型の大学授業―協同学習への実践ガイド』玉川大学出版部、2001 年、等を手がかりにして、先行研究を批判的に精読し、対話を通した協働的な学びの理論と実践を比較教育文化的視点から考察する。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　コミュニケーションと人間形成（1）ロジャーズ
第 3 回　コミュニケーションと人間形成（2）フランスの制度主義的教育論
第 4 回　コミュニケーションと人間形成（3）西ドイツの解放的教育学
第 5 回　コミュニケーションと人間形成（4）コールバーグ道徳教育論
第 6 回　コミュニケーションと人間形成（5）討論の場
第 7 回　コミュニケーションと人間形成（6）汎批判的合理主義
第 8 回　コミュニケーションと人間形成（7）ディスクルス倫理学
第 9 回　学生参加型授業の大学授業（1）大学教育と協同学習
第 10 回　学生参加型授業の大学授業（2）協同学習に関する研究

第 11 回　学生参加型授業の大学授業（3）協同学習の基本要素
第 12 回　学生参加型授業の大学授業（4）建設的討論技法
第 13 回　学生参加型授業の大学授業（5）協同学習技法の総合的活用
第 14 回　学生参加型授業の大学授業（6）まとめ
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点
●受講生へのコメント
比較教育文化的視点にたち、日本の特別活動が果たす役割についても考察して欲しい。
●参考文献・教材
佐藤公治『認識と文化 10　対話の中の学びと成長』金子書房、1999 年、岡田敬司『コミュニケーションと人間形成―かかわりの教育学Ⅱ』ミネルヴァ書房、1998 年、D.W. ジョンソン、R.T. ジョンソン、K.A. スミス／岡田一彦監訳『学生参加型の大学授業―協同学習への実践ガイド』玉川大学出版部、2001 年

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2511	開講期	単位数
M99	**教育学総合研究Ⅰ**			前金 2	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Education Ⅰ			担当教員名 柏木 敦 教授／添田 晴雄 准教授／ 森 久佳 准教授／島田 希 准教授	

●科目の主題
教育学研究を行う上で必要となる課題設定や研究方法などを概説するとともに、討論を通じて総合的に指導する。
●到達目標
教育学研究を行う上で必要となる基本的な事項と研究方法を学ぶ。
●授業内容・授業計画
教育の思想や制度、内容や方法に関する基本的・総合的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講ずるとともに、受講生も研究発表を行い、討論を通して、教育学における論文作成に必要な基本的事項の理解を深める。
●評価方法
出席と研究報告による。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU2512	開講期	単位数
M100	**教育学総合研究Ⅱ**			後金 2	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Education Ⅱ			担当教員名 柏木 敦 教授／添田 晴雄 准教授／ 森 久佳 准教授／島田 希 准教授	

●科目の主題
各種の研究方法や研究資料・文献の取り扱いについて担当教員が概説するとともに、受講生に研究報告を求め、討論を行う。
●到達目標
研究の各分野に必要な基本的事項（理論と方法）について、総合的に習得する。
●授業内容・授業計画
教育学の各分野について実証的な手法を学び、また討論や資料調査、その分析手法などを習得する。
●評価方法
出席と研究報告による。
●受講生へのコメント
特になし。

●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBEDU3601	開講期	単位数
M101	教育学研究指導Ⅰ			前水 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Education Ⅰ			担当教員名 柏木 敦 教授	

●科目の主題
教育学の各分野に関する修士論文作成の指導を行う。
●到達目標
研究テーマと課題を設定し、研究計画を立て、修士論文作成に必要な理論と方法を習得する。
●授業内容・授業計画
主に、日本教育史、初等教育制度政策史に関する実証的研究の視点から指導する。
●評価方法
出席と研究報告
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
特になし。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBEDU3602	開講期	単位数
M102	教育学研究指導Ⅱ			後木 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Education Ⅱ			担当教員名 柏木 敦 教授	

●科目の主題
教育学の各分野に関する修士論文作成の指導を行う。
●到達目標
設定された研究の課題と計画に基づいて、それに必要な理論と方法を研鑽して、修士論文を作成する。
●授業内容・授業計画
各自の研究課題と計画に基づいて、それざれの研究を遂行する。得られた知識の整理と考察を行い、研究報告を行うとともに、討論等を通して考察を深め、修士論文の完成を目指す。
●評価方法
出席と研究報告による。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
特になし。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2501	開講期	単位数
M103	地理学基礎問題研究			後火 2	2 単位
	英文名 Graduate Studies on Basic Subjects in Geography			担当教員名 山﨑 孝史 教授	

●科目の主題
この科目は地理学という学問がどのような課題と方法を持つのかについて、19 世紀初頭における近代地理学成立以来の発展過程を振り返りながら、考察することを目的とする。とりわけ 1950 年代以降の英語圏の地理学における諸スクールの研究分野と基本概念について詳細に検討します。
●到達目標
今年度は領土問題に関する内外の諸研究を渉猟し、与那国島における現地調査（予定）を通して、政治地理学における領域論と境界論を統合的な理解を図ります。

●授業内容・授業計画

前半は文献の精読、後半は沖縄県与那国島での現地調査（予定）を実施する。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　政治地理学における領域論 1
第 3 回　政治地理学における領域論 2
第 4 回　政治地理学における境界論 1
第 5 回　政治地理学における境界論 2
第 6 回　領土問題を理解する 1
第 7 回　領土問題を理解する 2
第 8 回　領土問題を理解する 3
第 9 回　与那国島現地調査 1
第 10 回　与那国島現地調査 2
第 11 回　与那国島現地調査 3
第 12 回　与那国島現地調査 4
第 13 回　与那国島現地調査 5
第 14 回　領域論と境界論の統合：報告書作成 1
第 15 回　領域論と境界論の統合：報告書作成 2

●評価方法

各週の課題文献へのコメント、現地調査報告書の作成から評価します。

●受講生へのコメント

課題文献は各自でダウンロードないしコピーしていただきます。与那国島現地調査の日程は受講生と現地受入先と調整して決定します。

●参考文献・教材

課題文献：最初の授業時に指示します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2502	開講期	単位数
M104	**地理学基礎問題研究演習**			前火 3	2 単位
	英文名 Graduate Seminar on Basic Subjects in Geography			担当教員名 山﨑 孝史 教授	

●科目の主題

この科目は地理学という学問がどのような課題と方法を持つのかについて、19 世紀初頭における近代地理学成立以来の発展過程を振り返りながら、考察することを目的とする。とりわけ 1950 年代以降の英語圏の地理学における諸スクールの研究分野と基本概念について詳細に検討します

●到達目標

今年度は担当教員が刊行したテキスト『政治・空間・場所―「政治の地理学」にむけて〔改定版〕』の各章および関連文献を精読した上で、受講生による討論を行い、政治地理学の理解を深めます。

●授業内容・授業計画

テキストは 4 部 14 章からなります。第 1 部は、近代における政治地理学の展開、つまり戦前の地政学から現代の政治地理学までの流れを、英米と日本においてあとづけ、「新しい地政学」および「場所の政治」研究の視角を示します。第 2 部は、空間や場所と権力との関係を明らかにしつつ、その関係を反映する領域の性質を理論的に解説した上で、グローバル化とナショナリズムについて政治地理学的に考えます。第 3 部は、「コンテクスト」、「スケール」、そして「言説」という政治地理学にとって鍵となる概念について説明し、それらを実証研究のなかでどのように活用しうるかを検討します。第 4 部は、第 3 部までの理論的・概念的な議論が、具体的な事例研究としてどのように展開できるかを解説しています。

第 1 回　政治地理学の起源と地政学の盛衰
第 2 回　戦後の政治地理学―その日本的展開
第 3 回　政治地理学の展開と課題
第 4 回　空間分析批判
第 5 回　場所の政治的意味
第 6 回　人間の領域性
第 7 回　グローバル化とナショナリズム
第 8 回　コンテクストの政治
第 9 回　スケールの政治

第 10 回　言説の政治
第 11 回　大都市圏行政と公共選択論
第 12 回　政党の編成と投票行動
第 13 回　領域と社会運動
第 14 回　安全と安心のまちづくり
第 15 回　総合討論

●評価方法
各週の課題文献へのコメント、討論参加から評価します。
●受講生へのコメント
登録受講生は下記テキストを生協で購入してください。
●参考文献・教材
テキスト：山﨑孝史『政治・空間・場所―「政治の地理学」にむけて［改訂版］』ナカニシヤ出版、2013 年
関連文献：テキストの参考文献リストから適宜指示します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2503	開講期	単位数
M105	**地理情報論研究**			前木 3	2 単位
	英文名 Graduate Studies in Geographical Information			担当教員名 木村 義成 准教授	

●科目の主題
地理情報と言えば、何か特殊な分野に聞こえるが、Google Map や Yahoo Map に代表されるように、地理情報は、誰にとっても身近にアクセスでき、日々の生活の中で役立つ情報となっている。近年の IT 技術の進展により、地理情報は、GIS（地理情報システム）で管理・分析できるようになり、GPS（全地球測位システム）で高精度の位置情報を取得できるようになった。カーナビゲーションは、それらの一例である。
●到達目標
本講義では、地理情報の取得・分析方法を中心に説明を行う。また、地理情報がどのような分野で、どのように活用されているかについて数多く紹介する。本講義により、自身でわかりやすい地図の作成や、空間分析のアイディが生まれるようにしてもらう。
●授業内容・授業計画
以下のような内容を想定している。第 1 回のイントロダクションは、必ず受講すること。
第 1 回　・イントロダクション
第 2 回　・GIS（Geographic Information System）とは？
第 3 回　・GPS（Global Positioning System）とは？
第 4 回　・地理情報の取得方法①
第 5 回　・地理情報の取得方法②
第 6 回　・地理情報の取得方法③
第 7 回　・地理情報の管理方法
第 8 回　・地理情報の表現方法
第 9 回　・地理情報を用いた空間分析法①
第 10 回　・地理情報を用いた空間分析法②
第 11 回　・地理情報を用いた空間分析法③
第 12 回　・地理情報科学からみた研究例①
第 13 回　・地理情報科学からみた研究例②
第 14 回　・地理情報科学からみた研究例③
第 15 回　・総括
●評価方法
講義中の小課題やレポート等から総合的に評価する。
評価の比率は、小課題提出が 30%、レポート提出が 70%を想定している。
●受講生へのコメント
地理情報の技術的な側面のみならず、地理情報の活用事例を中心に判り易く説明するので受講されたい。
地理情報論研究演習と必ず同時に受講すること。
また、第 1 回のイントロダクションは必ず参加すること。
●参考文献・教材
講義の中で、定義参考文献を紹介する。なお、自習書としては以下の文献を推薦する。

岡部篤行著『空間情報科学の挑戦』岩波書店
マーク・モンモニア著『地図は嘘つきである』晶文社
Paul A. Longley, et al.『Geographic Information Systems and Science』John Wiley & Sons

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2504	開講期	単位数
M106	**地理情報論研究演習**			前木 4	2 単位
	英文名 Graduate Seminar on Basic Subjects in Human Geography			担当教員名 木村 義成 准教授	

●科目の主題
本演習の目的は修士論文や学術論文を作成していく上で必要な技術と知識を習得することである。
主に GIS を用いて自身で論文で用いる地図や、諸現象の空間分析を行えるようにしてもらう。
●到達目標
本演習では、GIS や GPS の考え方と使い方を習得する。本演習を受講後は、学会発表や修士論文などの論文作成で用いるマップや、空間分析について、自身で行えることを目標とする。
●授業内容・授業計画
地理学教室所有の GIS や GPS を利用した演習・実習を行う。
本演習は「地理情報論研究」と並行して開講されるので、必ず合わせて受講すること。
第 1 回 ・イントロダクション
第 2 回 ・空間データの作成と編集①
第 3 回 ・空間データの作成と編集②
第 4 回 ・空間データの作成と編集③
第 5 回 ・空間データの作成と編集④
第 6 回 ・各種マップの作成①
第 7 回 ・各種マップの作成②
第 8 回 ・各種マップの作成③
第 9 回 ・各種マップの作成④
第 10 回 ・空間解析①
第 11 回 ・空間解析②
第 12 回 ・空間解析③
第 13 回 ・空間データの統合利用①
第 14 回 ・空間データの統合利用②
第 15 回 ・総括
●評価方法
演習という講義の性格上、出席点を最重視する。
●受講生へのコメント
同時に「地理情報論研究」を必ず受講すること。演習だけの受講は認めない。
また、第 1 回のイントロダクションには、必ず参加すること。
●参考文献・教材
教材・参考文献については、随時紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2505	開講期	単位数
M107	**人文地理学特殊問題研究 I**			後月 2	2 単位
	英文名 Graduate Studies on Spacialized Subjects in Human Geography I			担当教員名 水内 俊雄 教授	

●科目の主題
都市社会・政治地理学の実践：都市地域における生活困難問題、住宅困窮問題、ホームレス問題、中山間地域の生活継続や就労問題にどのように接近し、観察し、関係者と接し、問題の改善にあたっての仕組みづくり、施策づくりの後方支援に関与することを、国内外のフィールドワークに参加しながら、身につけてゆくことをめざす。という前期の演習 1 の課題に連結し、授業形式では、こうした実践に対して、より理論的、分析フレームワークの整理をお互いに考える授業として、問題整理と理論紹介を通じて、論文執筆の一道程と位置づける。

●到達目標

都市社会問題や地域問題に関心を有する受講生向けに構想された授業である。もちろん修士論文や投稿論文につながることをめざしていると同時に、こうした都市社会問題に対する研究者としてのアプローチに触れたいという受講生にも門戸は開いている。実践的でアクティブな研究スタイルをシェアし、そしてネットワークのひろがる環境を享受してもらうことを目標としている。

●授業内容・授業計画

都市問題研究プロジェクト「野宿生活者・生活保護者の就労、福祉、居住支援に関する政策支援研究」と、水内を代表とする科研プロジェクト「排除から包摂をめざしたホームレスの中間居住施設と地域定着事業の支援体系構築」「東アジアのホームレス支援が創り出すもうひとつのインナーシティ再生の試み」に連動して、前期の演習を行い、それと関連して後期の授業をおこなう。関連する文献紹介を通じた理論の理解と、関連研究者の招聘なども加えたレクチャーを組み込むことで、実践に基づいた理論的思考の鍛錬を深める予定である。大きくは都市再生にかかわる具体的な実践を身近に取り込みつつ、かつ研究者としてどのようにこうした事象に有機的に関わってゆくかの切磋琢磨の機会ともしたい。

第 1 回　日本のセーフティネットの重荷と大学生として、大学としてわれわれが考えるべきこと
第 2 回　セーフティネットのほころび：その 1　ホームレス問題とハウスレス問題
第 3 回　脱ホームレス支援が居住福祉支援につながる実践事例の紹介：その 1
第 4 回　脱ホームレス支援が居住福祉支援につながる実践事例の紹介：その 1
第 5 回　脱ホームレス支援が居住福祉支援につながる実践事例の紹介：その 2
第 6 回　居住福祉の支援と社会的不動産、NPO との関係
第 7 回　社会的企業、NPO 論と都市論との関係の整理
第 8 回　居住福祉の支援は都市再生につながるその実例紹介
第 9 回　現場訪問その 1：寄せ場、簡易宿所集中地域における脱ホームレス支援の実態
第 10 回　現場訪問その 2：中間施設としての無料低額宿泊所の役割と NPO の機能
第 11 回　現場訪問その 3：NPO による支援付住宅という中間施設を用いた脱ホームレス支援
第 12 回　現場訪問その 4：脱ホームレス支援におけるアフターケア支援の実態
第 13 回　現場訪問その 5：アートマネジメントを生かした新しいまちづくり現場
第 14 回　現場訪問その 6：社会的不動産業による新しいまちづくり現場
第 15 回　現場訪問その 7：社会的不動産管理業による新しいまちづくり現場

●評価方法

学部生と共通講義としているので、形式的には授業毎のミニレポートと、最低限 2 回課すフィールドワークでもフィールドレポートを評価対象とする。授業期間のレポートによる平常点とするが、院生には別途具体のフィールドワークでの主体的参与が求められる。

●受講生へのコメント

単なる授業だけでなく、都市社会問題に接し、調査し、論文を書いてゆくという、院生の研究プロセスの実践そのものを実現し、プロジェクトと平行した形で、授業に参与していただきたい。

●参考文献・教材

『モダン都市の系譜―地図から読み解く社会と空間―』（ナカニシヤ出版）を参考書とする。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2506	開講期	単位数
M108	**人文地理学特殊問題研究演習 1**			前月 2	2 単位
	英文名 Graduate Seminar on Specialized Subjects in Human Geography 1			担当教員名 水内 俊雄 教授	

●科目の主題

都市社会・政治地理学の実践：広義の都市問題に取り組む社会的企業、NPO 研究に関する演習でもある。都市地域における生活困窮問題、住宅貧困問題、ホームレス問題、インナーシティでのまちづくり、中山間地域の生活継続や就労問題にどのように接近し、観察し、関係者と接し、問題の改善にあたっての仕組みづくり、施策づくりの後方支援に関与することを、国内外のフィールドワークに参加しながら、身につけてゆくことをめざす。関連する都市論や NPO 研究の論文や著書の輪読も行う。

●到達目標

都市社会問題や地域問題に関心を有する受講生向けに構想された演習である。もちろん修士論文や投稿論文につながることをめざしていると同時に、こうした都市社会問題や地域問題に対する研究者としてのアプローチに触れたいという受講生にも門戸は開いている。実践的でアクティブな研究スタイルをシェアし、理論面でのフォローアップも兼ね備え、そしてネットワークのひろがる環境を享受してもらうことを目標としている。

●授業内容・授業計画

水内が進めているプロジェクトにマッチングする受講生の指向を育成する演習をきめ細かく行う。そのプロジェクトとは、戦略的研究プロジェクト「自治体・NPO と協働する都市困窮地域のリジェネレーションと参加型 GIS 実践」、水内を代表とする科研プロジェクト「東アジアの広義のホームレス支援に基づく包摂型都市生成と支援の地理学の構築」、「自治体・NPO と協働する都市困窮地域の再成と居住福祉ビジネスの社会化」、COC プラスプロジェクト「紀伊半島地域の再生：命と生活のインフラプロジェクト」に連動した演習をおこなう。生活支援、居住支援 NPO 研究も学ぶことにもなる。演習と直結することになるフィールドワークについては、受講生の関心を十分に尊重しながら、国内は、全国のホームレス支援やまちづくりの現場や、紀伊半島の中山間地域、国外は、韓国内大都市、香港、台北のいずれかを選択してもらう予定である。あわせて後期の研究Ⅰも連動してとることを勧める。授業計画はプロジェクト毎に記しているが、受講生の関心を優先する柔軟な授業計画となることをも付記しておきたい。

第 1 回　大きくは都市や地域再生にかかわる具体的な実践を身近に取り込みつつ、かつ研究者としてどのようにこうした事象に有機的に関わってゆくかの切磋琢磨の機会ともしたい。このかかわり方についてそれぞれのプロジェクトについて相談の上演習で主体的に取り組むガイダンスとする
第 2 回　戦略的研究プロジェクト「自治体・NPO と協働する都市困窮地域のリジェネレーションと参加型 GIS 実践」の紹介
第 3 回　戦略的研究プロジェクトについて具体的なテーマ設定
第 4 回　対象地域のフィールドワーク　その 1
第 5 回　対象地域のフィールドワーク　その 2
第 6 回　科研プロジェクト「狭小低家賃住宅の社会住宅化を通じた日本的ジェントリフィケーションの唱導」の紹介
第 7 回　上記科研プロジェクトについて具体的なテーマ設定
第 8 回　対象地域のフィールドワーク　その 1
第 9 回　対象地域のフィールドワーク　その 2
第 10 回　科研プロジェクト「東アジアの広義のホームレス支援に基づく包摂型都市生成と支援の地理学の構築」の紹介
第 11 回　上記科研プロジェクトについて集中フィールドワーク設定に関するディスカッション
第 12 回　紀伊半島プロジェクト「命と生活のインフラプロジェクト」の紹介
第 13 回　上記プロジェクトについてテーマ設定
第 14 回　上記プロジェクトについての集中フィールドワーク設定に関するディスカッション　その 1
第 15 回　上記プロジェクトについての集中フィールドワーク設定に関するディスカッション　その 2

●評価方法

集中フィールドワークへの参加や、その報告書や論文、書籍の一部執筆をもって、評価とする。したがって平常点評価となる。

●受講生へのコメント

都市問題研究や教員の科研プロジェクト、研究プロジェクトと連動しておこなうので、通常時間以外の国内外のフィールドワークにも参加することが前提となるので、調査時間のフレキシブルさに対応できる体制をとっておくこと。フル参加を前提としているので、主体的参加を期待しています。

●参考文献・教材

演習時に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2507	開講期	単位数
M109	**人文地理学特殊問題研究Ⅱ**			前水 4	2 単位
	英文名 Graduate Studies on Specialized Subjects in Human Geography II			担当教員名 大場 茂明 教授	

●科目の主題

ハウジングと住宅政策をテーマとしてとりあげ、近年の経済・都市地理学ならびに隣接諸科学の研究動向とも関連づけながら、都市空間構造の変容を読み解いていく。

●到達目標

現代先進工業国における住宅政策の再編と、その背景にあるハウジング・システム（住宅割当てメカニズム）の変化について、具体的な事例にもとづき理解を深めるとともに、その意義と問題点、今後の課題について考えていく。

●授業内容・授業計画

本講義では、イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、日本におけるハウジング・システムと住宅政策の特徴を紹介するとともに、その背景にある社会経済的動向や都市形成過程の差異に留意しつつ、施策の評価を試みる。

第 1 回　本講義のねらい
第 2 回　住宅政策の再編とその背景
第 3 回　住宅政策の発展動向（1） イギリスの事例
第 4 回　イギリスにおけるハウジング・システムの課題
第 5 回　住宅政策の発展動向（2） アメリカの事例
第 6 回　アメリカにおけるハウジング・システムの課題
第 7 回　住宅政策の発展動向（3） フランスの事例
第 8 回　フランスにおけるハウジング・システムの課題
第 9 回　住宅政策の発展動向（4） ドイツの事例
第 10 回　ドイツにおけるハウジング・システムの課題
第 11 回　住宅政策の発展動向（5） 日本の事例
第 12 回　日本におけるハウジング・システムの課題
第 13 回　成長都市政策と住宅政策：ハンブルクの事例
第 14 回　住宅政策の展望：規制・築造・誘導をめぐって
第 15 回　まとめと今後の課題

●評価方法

講義で扱ったテーマの中から、各自が関心のある文献（授業内で紹介）を読んで、自分の意見を交えつつ作成してもらう期末レポートにより評価する。

●受講生へのコメント

授業では当該テーマに関わる内外の学術文献を使用しながら、あわせて受講者にも意見を求めるので、積極的に議論に参加する姿勢が求められる。

●参考文献・教材

テキスト：使用しない。資料は別途プリントを配布する。
参考書：必要に応じて授業中に適宜紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2508	開講期	単位数
M110	**人文地理学特殊問題研究演習 2**			後水 4	2 単位
	英文名 Graduate Seminar on Specialized Subjects in Human Geography 2			担当教員名 大場 茂明 教授	

●科目の主題

前年度にひきつづき、人口構造の変化にともなって先進工業国で顕在化しつつある都市縮退（shrinking city）現象に関する研究論文を熟読し、その概念と実態、欧米における近年の都市居住の動向、都市更新施策とその効果・問題点について、日本との比較を交えつつ検討を行う。

●到達目標

都市縮退にともなう空間構造の変化、日常生活圏の再編など、人口減少と超高齢化社会を前提とした都市のあり方について理解を深めるとともに、都市政策の新たな課題について総合的に議論していく。

●授業内容・授業計画

都市縮退現象の定義と実態、欧米における近年の都市居住の動向、都市更新施策とその効果と問題点をめぐる議論等を順次とりあげていく。その際には、日本での動向も念頭に置きながら、これまでの郊外開発を中心とした都市居住のあり方をいかに評価するかが併せて検討の対象となるが、この授業では、第二次大戦後の都市拡張期と今日との社会経済的条件の違いに留意しながら、政策の意図を読み取っていくことに重点を置く。

第 1 回　授業の進め方と基本文献の紹介
第 2 回　人口構造の変化（1）少子高齢化の現状
第 3 回　人口構造の変化（2）人口移動の動向
第 4 回　都市縮退現象とは何か？
第 5 回　「郊外の 20 世紀」をめぐって（1） 都市拡張の時代
第 6 回　「郊外の 20 世紀」をめぐって（2） 郊外化の功罪
第 7 回　近年の都市居住の動向（1） 産業構造の変化にともなう既成市街地の衰退
第 8 回　近年の都市居住の動向（2） ジェントリフィケーションの選択的進行
第 9 回　都市更新事業とその評価（1） 地区再開発
第 10 回　都市更新事業とその評価（2） 地区修復
第 11 回　都市更新事業とその評価（3） 地区保全

第 12 回　都市再生のコンセプト（1） コンパクト・シティ論
第 13 回　都市再生のコンセプト（2） 創造都市と文化政策
第 14 回　都市再生のコンセプト（3） ローカル・エンパワーメント
第 15 回　まとめと今後の課題

●評価方法
平常点と期末に作成してもらうレポートによる総合評価を行う。
●受講生へのコメント
授業では当該テーマに関わる内外の学術文献を使用するので、発表者には十分な準備が、参加者には積極的に討論に参加する姿勢が求められる。
●参考文献・教材
テキスト：プリントを配布する。
参考書：授業時に適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2509	開講期	単位数
M111	人文地理学特殊問題研究Ⅲ			前木 2	2 単位
	英文名 Graduate Studies on Specialized Subjects in Human Geography Ⅲ			担当教員名 祖田 亮次 准教授	

●科目の主題
本授業では、「災害」や「環境問題」といったテーマを通じて、人間－環境関係について考察するものである。近年、自然災害や環境問題を人文・社会科学的観点から捉えなおそうという試みが活発になっている。地理学においても、従来の自然地理学的な災害研究・環境研究だけではなく、災害や環境問題を社会的・文化的な側面から考察する必要性が指摘されている。このような観点から人間－環境関係を捉えようとする研究は、地理学の本来的な姿勢であると同時に、1980 年代以降活発に議論されてきた政治生態学の考え方と通じるものがある。本授業では、こうした研究の流れや関連諸分野の動向もおさえつつ、災害研究・環境研究の現在について考察したい。授業のキーワードは、「災害」「環境問題」「開発」「社会関係」「脆弱性」「回復力（resilience）」などである。
●到達目標
災害、環境といった視点から、地理学の人間－環境関係論を理解できるようになる。
●授業内容・授業計画
この授業では、教員側からいくつかの話題提供を行いつつ、学生が指示された国内外の文献を読み、それを紹介することで、積極的な議論の場を設けたい。こうした作業を通して、研究を行う上でのフレームワークの作り方についても学べるようにしたい。
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　話題提供 1
第 3 回　話題提供 2
第 4 回　フィールド・トリップ
第 5 回　日本語文献講読 1
第 6 回　日本語文献講読 2
第 7 回　日本語文献講読 3
第 8 回　日本語文献講読 4
第 9 回　フィールド・トリップ
第 10 回　英語文献講読 1
第 11 回　英語文献講読 2
第 12 回　英語文献講読 3
第 13 回　フィールド・トリップ
第 14 回　フィールド・トリップ
第 15 回　まとめ
●評価方法
この授業では、数回の課題提出および発表を求める。評価は、発表、数回の課題提出、フィールド・トリップへの参加、および最終レポートを総合的に判断して行う。
●参考文献・教材
授業中に紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2510	開講期	単位数
M112	**人文地理学特殊問題研究演習 3**			後木 2	2 単位
	英文名 Graduate Seminar on Specialized Subjects in Human Geography 3			担当教員名 祖田 亮次 准教授	

●科目の主題

この授業では、地理学の独自性と、隣接諸分野との関係性について、具体的な文献の読解を通じて考察する。

●到達目標

地理学は、経済学や文化人類学、社会学、政治学、都市工学など、多様な分野との接点を持つが、それら隣接分野との異同について、各学生の専門分野の立場から発表を行い、それをもとに議論する。そうした議論を通じて、自分自身の研究のオリジナリティを自覚できるようにする。

●授業内容・授業計画

各学生は、まず、地理学の主要雑誌を広くレビューし、自身の研究が学界内においてどのような位置づけにあるのかを発表する。次に、教員が指定した地理学雑誌のなかから、特に重要な最新の論文を選定し、その要旨を紹介したうえで、論点を提示する。さらに、隣接他分野における類似の成果と比較しながら、地理学的な意味について考察する。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　文献選定 1
第 3 回　文献選定 2
第 4 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 1
第 5 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 2
第 6 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 3
第 7 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 4
第 8 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 5
第 9 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 6
第 10 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 7
第 11 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 8
第 12 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 9
第 13 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 10
第 14 回　文献の要旨発表、論点提示、議論 11
第 15 回　まとめ

●評価方法

発表の内容、形式、および議論への参加を総合して評価する。

●参考文献・教材

授業中に紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2511	開講期	単位数
M113	**地理学総合研究 I**			前木 5	2 単位
	英文名 Graduate Studies in Geography I			担当教員名 大場 茂明 教授／水内 俊雄 教授／ 山﨑 孝史 教授／祖田 亮次 准教授／ 木村 義成 准教授	

●科目の主題

地表上の空間と景観にかかわる諸問題の総合的および分析的研究を志向する地理学について、基礎的素養を深める。

●到達目標

本科目では、地理学に関する個別的テーマを取り上げて講義し、地理学研究に対する知見を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

地理学の個別的テーマ（都市構造、国土開発、景観変遷、社会運動、グローバル化、地理情報システムなど）に関する講義のほか、受講生からレポートや報告を求め、それに基づいた討論を行う。

●評価方法
平常点による。
●受講生へのコメント
受講者は、日ごろから地理学的想像力を養い、社会のさまざまの部分で生起している問題や事象について注視することが求められる。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO2512	開講期	単位数
M114	**地理学総合研究Ⅱ**			後木 5	2 単位
	英文名 Graduate Studies in Geography II			担当教員名 大場 茂明 教授／水内 俊雄 教授／山﨑 孝史 教授／祖田 亮次 准教授／木村 義成 准教授	

●科目の主題
地表上の空間と景観にかかわる諸問題の総合的および分析的研究を志向する地理学について、基礎的素養を深める。
●到達目標
本科目では、地理学に関する個別的テーマを取り上げて講義し、修士論文作成に向けて地理学研究に対する知見を深めることを目標とする。
●授業内容・授業計画
地理学の個別的テーマ（都市構造、国土開発、景観変遷、社会運動、グローバル化、地理情報システムなど）に関する講義のほか、受講生から予定している修士論文のテーマと研究成果について報告を求め、それに基づいた討論を行う。
●評価方法
平常点による。
●受講生へのコメント
受講者は、日ごろから地理学的想像力を養い、社会のさまざまの部分で生起している問題や事象について注視することが求められる。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO3601	開講期	単位数
M115	**地理学研究指導Ⅰ**			前月 5	2 単位
	英文名 Preparation for Master's Thesis in Geography I			担当教員名 大場 茂明 教授／水内 俊雄 教授／山﨑　孝史 教授	

●科目の主題
地理学の各分野に関する修士論文作成の指導を行う。
●到達目標
内外の先行研究の検討を行いながら、自らの研究課題を具体的に絞り込む。
●授業内容・授業計画
設定した研究課題に対する内外の先行研究のレヴューを行いながら、立案した調査計画に基づいて、文献収集やフィールドワークを実施し、得られた知識の整理、検討とデータの分析を行う。受講者は、その研究テーマに応じて、主担・副担の研究指導教員の指導を受けるものとする。
●評価方法
研究テーマに関する先行研究の整理、研究課題の設定、調査実施計画など、研究の進捗状況に基づき、総合的に評価する。
●受講生へのコメント
研究指導教員の指導を受けるに当たっては、各自十分な準備をして臨むこと。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO3602	開講期	単位数
M116	**地理学研究指導Ⅱ**			後月 5	2 単位
	英文名 Preparation for Master's Thesis in Geography II			担当教員名 大場 茂明 教授／水内 俊雄 教授／ 山﨑 孝史 教授	

●科目の主題

地理学の各分野に関する修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

研究の中間報告に基づき、テーマと研究方法の適合性、論文の構成など、論文作成に必要な事項について議論し、修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

研究指導Ⅰに引き続き、立案した調査計画に基づいて、文献収集やフィールドワークを実施し、得られた知識の整理、検討とデータの分析を行う。受講者は、その研究テーマに応じて、主担・副担の研究指導教員の指導を受けるものとする。

●評価方法

研究テーマに関する先行研究の整理、研究課題の設定、調査実施計画など、研究の進捗状況に基づき、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

研究指導教員の指導を受けるに当たっては、各自十分な準備をして臨むこと。

言語文化学専攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LC GEN 1501	開講期	単位数
M117	言語文化学研究 I			前集中	2 単位
	英文名 >Advanced Studies in Languages and Cultures I			担当教員名 大東 和重 非常勤講師	

●科目の主題

近代日本において外国文学がいかに受容されたか、つまり、外国文学と日本文学の関係について、比較文学の手法を用いて学ぶ。日本近代文学を構成するのは、日本人の作家が書いた作品だけではない。大量の外国文学が紹介され、翻訳され、読まれることで、日本近代文学は形成されてきた。

この授業では、数多くの外国作家のうち、明治末から大正、昭和初期（戦前）に重点を置いて、当時流行した作家・思想家 9 名を選び出し、それらの作家の作品や伝記・研究書など、基本的事実を押さえた上で、日本でいかに読まれ受容されたのか、理解していく。受講者は学期中 3 回程度のタスクをこなさねばならないが、1 回ごとの負担は少なめにし、授業全体を通じて、近代日本における外国文学とは何だったのかという大きな問いに挑戦していただく。達成感のある授業を目指したい。

日本近代文学、外国文学ともに特に知識がなくともかまわない。

●到達目標

以下の三点を想定している。一、近代日本で流行した外国の作家・作品について知識を獲得する。二、どういった外国文学が近代日本で流行したのか、その理由について理解する。三、比較文学の視点にもとづく日本近代文学研究の手法を習得する。

●授業内容・授業計画

第 1 ～ 3 回のイントロダクションにつづき、第 4 回以降、日本で受容された外国の作家・思想家 9 名について、作家の作品、伝記、日本における受容、の三つの角度から扱う。第 4 ～ 7 回、第 8 ～ 11 回、第 12 ～ 15 回をそれぞれセットとする。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　比較文学とは
第 3 回　研究の具体例（ジャック・ロンドン）
第 4 回　シェイクスピア
第 5 回　イプセン
第 6 回　オスカー・ワイルド
第 7 回　小結
第 8 回　ニーチェ
第 9 回　マルクス
第 10 回　フロイト
第 11 回　小結
第 12 回　ドストエフスキー
第 13 回　トルストイ
第 14 回　チェーホフ
第 15 回　小結

●評価方法

発表 50%　レポート 25%　授業中課題（ミニッツペーパー）25%

●受講生へのコメント

第 1 ～ 3 回のイントロダクションにつづき、第 4 ～ 7 回、第 8 ～ 11 回、第 12 ～ 15 回をそれぞれセットとする。各セットについて、受講者は、1 名の作家を選び、作品・伝記・研究・受容のいずれかの項目について書籍を 1 冊読み、B4 用紙 1 枚のハンドアウトを準備し、簡単な報告を行っていただく。つまり、計 15 回の授業の中で、計 3 名の作家について、計 3 冊読み、計 3 回発表していただく予定である。やや負担にはなるだろうが、楽しめる本を推薦する。充実感のある、文学を大いに語る授業にしたい。

●参考文献・教材

受講者が毎回作成するハンドアウトが相当な分量になる。ファイルを用意しとじていくこと。教科書は指定しないが、しいて一冊あげれば、渡辺洋『比較文学研究入門』（世界思想社、一九九七年）。参考文献は授業中に随時指示するが、事典のみあげておくと、松田穣編『比較文学辞典』（東京堂出版、一九七八年）。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LC GEN 1504	開講期	単位数
M118	言語文化学研究Ⅳ			後火 2	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Languages and Cultures Ⅳ			担当教員名 津川 廣行 教授	

●科目の主題

文学研究・文化研究における複雑系的思考法

●到達目標

複雑系的思考の方法について学び、各自の研究に応用可能な力を身につける。

●授業内容・授業計画

複雑系の科学の思考法を、物理学、数学、経済学、気象学、生物学、進化論の観点から解説する。次に、その方法を、各自にとって関心のあるテーマに応用してもらう。

第 1 回　イントロダクション 1。ミッチェル・ワールドロップ『複雑系』。
第 2 回　イントロダクション 2。エドガール・モラン『複雑性とはなにか』。
第 3 回　ブライアン・アーサー『収益逓増と経路依存――複雑系の経済学――』。
第 4 回　ローレンツ『カオスのエッセンス』。気象学における複雑系 (1)。
第 5 回　ローレンツ『カオスのエッセンス』。気象学における複雑系 (2)。
第 6 回　イーヴァル・エクランド『偶然とは何か――北欧神話で読む現代数学理論全 6 章』。
第 7 回　これまでのまとめ。ディスカッション。質疑応答。
第 8 回　チャールズ・ダーウィン『種の起源』。複雑系的問題としての進化論。
第 9 回　ダーウィンからド・フリース、そして「現代の総合」へ。
第 10 回　リチャード・ドーキンスの「ミーム理論」。
第 11 回　イーヴァル・エクランド『数学は最善世界の夢を見るか？――最小作用の原理から最適化理論へ』。
第 12 回　受講者による発表 (1)。
第 13 回　受講者による発表 (2)。
第 14 回　受講者による発表 (3)。
第 15 回　まとめ。

●評価方法

平常点とレポート

●受講生へのコメント

特になし

●参考文献・教材

授業中に指示する

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2501	開講期	単位数
M119	国文学研究 I			前火 4	2 単位
	英文名 Higher Studies in Japanese Literature I			担当教員名 久堀 裕朗 准教授	

●科目の主題

江戸時代中期、大坂では「操り段々流行して歌舞伎は無きが如し」（浄瑠璃譜）と言われるほど、人形浄瑠璃が活況を呈した。中にも延享 3 年（1746）から寛延元年（1748）にかけての三年間は、今日でも三大名作として有名な『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』が相次いで初演され、人形浄瑠璃が最盛期を迎えた時期であった。一体、人形浄瑠璃という芸能はどのような史的過程を経て、このような盛期を迎えたのか。本授業では、この時期に至る直前の浄瑠璃作品を精読・分析するとともに、当期の人形浄瑠璃を巡る諸問題について考察し、人形浄瑠璃という芸能とそれを生み出した時代との関わりについて理解を深める。

●到達目標

1. 人形浄瑠璃の資料（浄瑠璃本・番付・絵尽等）に関する知識を身につける。
2. 浄瑠璃作品を精読しながら、作品注釈能力を高める。

●授業内容・授業計画

授業は講義と演習とを組み合わせて進めるが、まず研究上の問題の所在について講義をし、その後具体的な作品分析に入っていく。前期は文耕堂ほかの合作『ひらかな盛衰記』（元文 4 年竹本座初演）を取り上げる。

第 1 回　ガイダンス

第 2 回　『ひらかな盛衰記』について
第 3 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 4 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 5 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 6 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 7 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 8 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 9 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 10 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 11 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 12 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 13 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 14 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 15 回　まとめ／レポート提出

●評価方法
授業時の発表と期末レポートによる。
●受講生へのコメント
芸能や演劇の研究は、一般の文学作品研究以上に、様々な周辺研究分野と交わる部分がある。本授業を通じてそのことを知り、専門に固執しない広い視野を獲得してほしい。
●参考文献・教材
教材
プリントを配布する。
参考文献
『岩波講座 歌舞伎・文楽』（岩波書店）、『上方文化講座　義経千本桜』（和泉書院）その他授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2502	開講期	単位数
M120	国文学研究演習 1			後火 4	2 単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Japanese Literature 1			担当教員名 久堀 裕朗 准教授	

●科目の主題
江戸時代中期、大坂では「操り段々流行して歌舞伎は無きが如し」（浄瑠璃譜）と言われるほど、人形浄瑠璃が活況を呈した。中にも延享 3 年（1746）から寛延元年（1748）にかけての三年間は、今日でも三大名作として有名な『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』が相次いで初演され、人形浄瑠璃が最盛期を迎えた時期であった。一体、人形浄瑠璃という芸能はどのような史的過程を経て、このような盛期を迎えたのか。本授業では、この時期に至る直前の浄瑠璃作品を精読・分析するとともに、当期の人形浄瑠璃を巡る諸問題について考察し、人形浄瑠璃という芸能とそれを生み出した時代との関わりについて理解を深める。
●到達目標
1. 人形浄瑠璃の資料（浄瑠璃本・番付・絵尽等）に関する知識を身につける。
2. 浄瑠璃作品を精読しながら、作品注釈能力を高める。
●授業内容・授業計画
授業は講義と演習とを組み合わせて進めるが、まず研究上の問題の所在について講義をし、その後具体的な作品分析に入っていく。後期は並木千柳・竹田小出雲ほかの合作『軍法富士見西行』（延享 2 年竹本座初演）を取り上げる。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　『軍法富士見西行』について
第 3 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 4 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 5 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 6 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 7 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 8 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 9 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）

第 10 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 11 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 12 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 13 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 14 回　作品講読（関連講義＋受講者による発表）
第 15 回　まとめ／レポート提出

●評価方法
授業時の発表と期末レポートによる。
●受講生へのコメント
芸能や演劇の研究は、一般の文学作品研究以上に、様々な周辺研究分野と交わる部分がある。本授業を通じてそのことを知り、専門に固執しない広い視野を獲得してほしい。
●参考文献・教材
教材
プリントを配布する。
参考文献
『岩波講座 歌舞伎・文楽』（岩波書店）、『上方文化講座　義経千本桜』（和泉書院）その他授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2503	開講期	単位数
M121	国文学研究Ⅱ			前水 4	2 単位
	英文名 Higher Studies in Japanese Literature Ⅱ			担当教員名 小林 直樹 教授	

●科目の主題
中世説話文学の諸問題
●到達目標
中世の説話文学を、当該作品が成立した時代の文脈の中に位置づけて読み解こうとする基本姿勢の習得を目指す。
●授業内容・授業計画
鎌倉期の遁世僧・無住の最晩年の著作『雑談集』を精読する。
第 1 回　概説①
第 2 回　概説②
第 3 回　概説③
第 4 回　『雑談集』講読
第 5 回　『雑談集』講読
第 6 回　『雑談集』講読
第 7 回　『雑談集』講読
第 8 回　『雑談集』講読
第 9 回　『雑談集』講読
第 10 回　『雑談集』講読
第 11 回　『雑談集』講読
第 12 回　『雑談集』講読
第 13 回　『雑談集』講読
第 14 回　『雑談集』講読
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点およびレポートによる。
●受講生へのコメント
本科目は後期の研究演習 2 と併せて受講することが極めて望ましい。
●参考文献・教材
教材：プリントによる。
参考書：中世の文学『雑談集』（三弥井書店）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2504	開講期	単位数
M122	国文学研究演習 2			後水 4	2 単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Japanese Literature 2			担当教員名 小林 直樹 教授	

●科目の主題

中世説話文学の諸問題

●到達目標

中世の説話文学を、当該作品が成立した時代の文脈の中に位置づけて読み解こうとする基本姿勢の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

『雑談集』を注釈的に読解する。担当者の報告と受講生全員による討議を経て、作品理解を深めていく。

第 1 回　『雑談集』講読
第 2 回　『雑談集』講読
第 3 回　『雑談集』講読
第 4 回　『雑談集』講読
第 5 回　『雑談集』講読
第 6 回　『雑談集』講読
第 7 回　『雑談集』講読
第 8 回　『雑談集』講読
第 9 回　『雑談集』講読
第 10 回　『雑談集』講読
第 11 回　『雑談集』講読
第 12 回　『雑談集』講読
第 13 回　『雑談集』講読
第 14 回　『雑談集』講読
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点およびレポートによる。

●受講生へのコメント

本科目は前期の研究Ⅱと併せて受講することが極めて望ましい。

●参考文献・教材

教材：プリントによる。
参考書：中世の文学『雑談集』（三弥井書店）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2507	開講期	単位数
M123	国文学研究Ⅳ			前月 3	2 単位
	英文名 Higher Studies in Japanese Literature Ⅳ			担当教員名 奥野 久美子 准教授	

●科目の主題

井川（恒藤）恭日記の翻刻、注釈（前半）。大阪市立大学初代学長で芥川龍之介の親友であった恒藤恭の中学時代の日記（明治 37 年）を題材に、原資料にもとづき翻刻と校注を行う。そこに書かれた書物や、日露戦争の戦況報告を新聞記事で確認するなどの細かな作業にあたり、明治期の青年の文学環境・社会環境を研究する。

●到達目標

本文校訂と注釈の作業を通じて、明治期の文学環境や恒藤恭の思想形成に対する理解を深める。あわせて近代文学研究の方法を身につける。

●授業内容・授業計画

受講生の人数に合わせて担当箇所を決めて調査研究を行い、発表する。発表者以外の受講生は質疑を行い全員で討論する。

第 1 回　ガイダンス 1
第 2 回　ガイダンス 2
第 3 回　発表と質疑、討論 1

第 4 回　発表と質疑、討論 2
第 5 回　発表と質疑、討論 3
第 6 回　発表と質疑、討論 4
第 7 回　発表と質疑、討論 5
第 8 回　発表と質疑、討論 6
第 9 回　発表と質疑、討論 7
第 10 回　発表と質疑、討論 8
第 11 回　発表と質疑、討論 9
第 12 回　発表と質疑、討論 10
第 13 回　発表と質疑、討論 11
第 14 回　発表と質疑、討論 12
第 15 回　まとめ

●評価方法
発表内容と討論への参加状況。
●受講生へのコメント
毎回の担当箇所は各授業前に再度熟読しておくこと。また、質疑、討論には積極的に参加すること。
●参考文献・教材
テキスト：原資料の画像コピーを配布する。
参考文献：関口安義『恒藤恭とその時代』（平一四・五　日本エディタースクール出版部）
山崎時彦編著『恒藤恭の青年時代』（平一五・一〇　未來社）
『向陵記―恒藤恭　一高時代の日記―』（平一五・三　大阪市立大学大学史資料室編）
『袖珍；翡翠記』（井川恭著、宍倉忠臣編及解説、山陰中央新報社、平一六）
『松江北高等学校百年史』（松江北高等学校百年史編集委員会編、昭五一）
『島根の百年』（NHK 松江放送局編、昭四三）
『松江市史研究』（松江市教育委員会編）（松江市歴史叢書、平二二～）
『島根県史』（島根県編　名著出版、昭四七）
『人物島根県史』（島根郷土研究会編、昭三四）
その他必要に応じて授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2508	開講期	単位数
M124	**国文学研究演習 4**			後月 3	2 単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Japanese Literature 4			担当教員名 奥野 久美子 准教授	

●科目の主題
井川（恒藤）恭日記の翻刻、注釈（後半）。大阪市立大学初代学長で芥川龍之介の親友であった恒藤恭の中学時代の日記（明治 37 年）を題材に、原資料にもとづき翻刻と校注を行う。そこに書かれた書物や、日露戦争の戦況報告を新聞記事で確認するなどの細かな作業にあたり、明治期の青年の文学環境・社会環境を研究する。
●到達目標
本文校訂と注釈の作業を通じて、明治期の文学環境や恒藤恭の思想形成に対する理解を深める。あわせて近代文学研究の方法を身につける。
●授業内容・授業計画
受講生の人数に合わせて担当箇所を決めて調査研究を行い、発表する。発表者以外の受講生は質疑を行い全員で討論する。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　発表と質疑、討論 1
第 3 回　発表と質疑、討論 2
第 4 回　発表と質疑、討論 3
第 5 回　発表と質疑、討論 4
第 6 回　発表と質疑、討論 5
第 7 回　発表と質疑、討論 6
第 8 回　発表と質疑、討論 7
第 9 回　発表と質疑、討論 8

第 10 回　発表と質疑、討論 9
第 11 回　発表と質疑、討論 10
第 12 回　発表と質疑、討論 11
第 13 回　発表と質疑、討論 12
第 14 回　発表と質疑、討論 13
第 15 回　まとめ

●評価方法
発表内容と討論への参加状況。
●受講生へのコメント
内容は前期国文学研究Ⅳに続くものであるが、必ずしも前期の受講を必要とはせず、後期のみの履修も可。毎回の担当箇所は各授業前に再度熟読しておくこと。また、質疑、討論には積極的に参加すること。
●参考文献・教材
テキスト：原資料の画像コピーを配布する。
参考文献：関口安義『恒藤恭とその時代』（平一四・五　日本エディタースクール出版部）
山崎時彦編著『恒藤恭の青年時代』（平一五・一〇　未來社）
『向陵記―恒藤恭　一高時代の日記―』（平一五・三　大阪市立大学大学史資料室編）
『袖珍；翡翠記』（井川恭著、宍倉忠臣編及解説、山陰中央新報社、平一六）
『松江北高等学校百年史』（松江北高等学校百年史編集委員会編、昭五一）
『島根の百年』（NHK 松江放送局編、昭四三）
『松江市史研究』（松江市教育委員会編）（松江市歴史叢書、平二二～）
『島根県史』（島根県編　名著出版、昭四七）
『人物島根県史』（島根郷土研究会編、昭三四）
その他必要に応じて授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2509	開講期	単位数
M125	**国語学研究**			前月 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese Literature			担当教員名 丹羽 哲也 教授	

●科目の主題
日本語文法の研究。
●到達目標
日本語文法の諸領域についての基本的文献を精読しながら、研究の現状を把握し、今後の研究の方向について考察する。
●授業内容・授業計画
日本語を専門とする各受講生の研究テーマに即して、基本的文献をいくつか選び、毎回それを精読する。担当の受講生は、論文を要約し、例文を補ったり、反例を考えたりしながら、その論文の達成点と問題点を把握することが求められる。

第 1 回　発表と議論（1）
第 2 回　発表と議論（2）
第 3 回　発表と議論（3）
第 4 回　発表と議論（4）
第 5 回　発表と議論（5）
第 6 回　発表と議論（6）
第 7 回　発表と議論（7）
第 8 回　発表と議論（8）
第 9 回　発表と議論（9）
第 10 回　発表と議論（10）
第 11 回　発表と議論（11）
第 12 回　発表と議論（12）
第 13 回　発表と議論（13）
第 14 回　発表と議論（14）
第 15 回　発表と議論（15）

●評価方法
平常点による。
●受講生へのコメント
自分の研究テーマに関連する論文を各自でたくさん読んでいくこと。そういう中で、授業で重要文献を精読することが大切である。
●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2510	開講期	単位数
M126	国語学研究演習			後月 2	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Japanese Linguistics			担当教員名 丹羽 哲也 教授	

●科目の主題
日本語文法の研究。
●到達目標
日本語文法の諸領域についての基本的文献や最先端の文献を精読しながら、研究の現状を把握し、受講生各自の研究の方向と課題について議論する。
●授業内容・授業計画
日本語を専門とする各受講生の研究テーマに即して、文献をいくつか選び、毎回それを精読する。担当の受講生は、論文を要約し、例文を補ったり、反例を考えたりしながら、その論文の達成点と問題点を把握するとともに、学説間の異同を把握し、今後の研究の方向性について提案していく。担当以外の受講生も、問題点を十分に把握し、議論に参加することが求められる。

第 1 回　発表と議論（1）
第 2 回　発表と議論（2）
第 3 回　発表と議論（3）
第 4 回　発表と議論（4）
第 5 回　発表と議論（5）
第 6 回　発表と議論（6）
第 7 回　発表と議論（7）
第 8 回　発表と議論（8）
第 9 回　発表と議論（9）
第 10 回　発表と議論（10）
第 11 回　発表と議論（11）
第 12 回　発表と議論（12）
第 13 回　発表と議論（13）
第 14 回　発表と議論（14）
第 15 回　発表と議論（15）

●評価方法
平常点による。
●受講生へのコメント
論文をめぐる議論の中で、各自の研究方法を構築する足がかりを得るように努めることが重要である。
●参考文献・教材
参考文献は授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2511	開講期	単位数
M127	国語国文学研究			前木 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Japanese Language and Literature			担当教員名 水谷 隆 非常勤講師	

●科目の主題
和歌作品の注釈的読解
●到達目標
平安時代の和歌テキストを、文法や表現技法に注意しながら、正確・精密に読み解く能力を身につける。

中古語で記されたテキストの包含する内容を、的確な現代語で説明する能力を身につける。

●授業内容・授業計画

はじめ、和歌史および和歌の表現技法について確認する。しかる後に、紀貫之撰『新撰和歌』中の歌を、受講生それぞれが担当して、文法や表現技法等に注意しながら調査・精読し、発表する。担当者以外の受講生も討議に加わり、理解を深めるという形式で授業を進める。

第 1 回　和歌史および『新撰和歌』についての概説
第 2 回　和歌の表現技法等の再確認 ①
第 3 回　和歌の表現技法等の再確認 ②
第 4 回　和歌テキストの読解と討議 ①
第 5 回　和歌テキストの読解と討議 ②
第 6 回　和歌テキストの読解と討議 ③
第 7 回　和歌テキストの読解と討議 ④
第 8 回　和歌テキストの読解と討議 ⑤
第 9 回　和歌テキストの読解と討議 ⑥
第 10 回　和歌テキストの読解と討議 ⑦
第 11 回　和歌テキストの読解と討議 ⑧
第 12 回　和歌テキストの読解と討議 ⑨
第 13 回　和歌テキストの読解と討議 ⑩
第 14 回　和歌テキストの読解と討議 ⑪
第 15 回　授業の総括

●評価方法

平常点（発表および討議への参加等）40%
学期末レポート 60%

●受講生へのコメント

担当者以外も、各回の授業で取り上げる歌について十分な予習をしてから授業に臨んでもらいたい。

●参考文献・教材

授業時に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2512	開講期	単位数
M128	**国語国文学研究演習**			後木 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Japanese Language and Literature			担当教員名 水谷 隆 非常勤講師	

●科目の主題

『新撰和歌』の注釈的読解

●到達目標

平安時代の和歌テキストを、歌集という文脈の中において理解する能力を身につける。
文学史・文化史を視野に入れながら、個々の和歌テキストの価値を多面的に把握する態度と方法を身につける。

●授業内容・授業計画

『新撰和歌』に収載された歌を、歌集における位置に注意しながら精読する。受講生それぞれが担当した歌について、調査・検討した結果を発表する。担当者以外の受講生も討議に加わり、理解を深めるという形式で授業を進める。

第 1 回　『新撰和歌』の構成に関する概説 ①
第 2 回　『新撰和歌』の構成に関する概説 ②
第 3 回　『新撰和歌』の読解と討議 ①
第 4 回　『新撰和歌』の読解と討議 ②
第 5 回　『新撰和歌』の読解と討議 ③
第 6 回　『新撰和歌』の読解と討議 ④
第 7 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑤
第 8 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑥
第 9 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑦
第 10 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑧
第 11 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑨
第 12 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑩

第 13 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑪
第 14 回　『新撰和歌』の読解と討議 ⑫
第 15 回　授業の総括

●評価方法
平常点（発表および討議への参加等）40%
学期末レポート60%
●受講生へのコメント
担当者が、担当する作品について十分に調査・検討することは当然であるが、担当者以外も自分なりの解釈をした上で授業に参加し、実質的な討議ができるよう努力してもらいたい。
●参考文献・教材
授業時に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2513	開講期	単位数
M129	国語国文学総合研究Ⅰ			前火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Japanese Language and Literature Ⅰ			担当教員名 丹羽 哲也 教授／小林 直樹 教授／ 久堀 裕朗 准教授／奥野 久美子 准教授	

●科目の主題
国語学・国文学研究を進めるための基礎的な素養を身につける。それぞれの時代のそれぞれに特殊性を持った研究対象に深く分け入るだけでなく、そうした枠にとらわれることなく、総合的見地に立って、問題の核心に迫る方法を探り、対象を共時的・通時的座標の上に正確に位置づけるセンスを養う。
●到達目標
総合的な知見を深める。
●授業内容・授業計画
受講生は次のことが求められる。
・指定された課題研究文献について、指導教員と議論し、レポートを作成する。
・自らの研究領域について、指導教員と議論を重ね、研究の課題と方向を探る。
その他、大学院生の各種の研究発表会に参加し、発表や議論の方法について学んだり、学部の授業を聴講し、議論に参加したりするなど、自分の専門領域にとらわれずに、学ぶ機会を見つけること。
●評価方法
平常点とレポートによる。
●受講生へのコメント
自分の研究領域だけでなく、どんなことでも貪欲に吸収していくことが大切です。
●参考文献・教材
課題文献は適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN2514	開講期	単位数
M130	国語国文学総合研究Ⅱ			後火 5	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Japanese Language and Literature Ⅱ			担当教員名 丹羽 哲也 教授／小林 直樹 教授／ 久堀 裕朗 准教授／奥野 久美子 准教授	

●科目の主題
「国語国文学総合研究Ⅰ」と同様に、基礎的な素養を身につけるとともに、各自の研究の方向を見定め、修士論文作成に向けて具体的に課題を絞り込んでいく。
●到達目標
修士論文への目標を定める。
●授業内容・授業計画
受講生は次のことが求められる。
・指定された課題研究文献について、指導教員と議論し、レポートを作成する。
・自らの研究領域について、指導教員と議論を重ね、研究テーマを具体的に定めていく。
その他、大学院生の各種の研究発表会に参加し、発表や議論の方法について学んだり、学部の授業を聴講し、

議論に参加するなど、自分の専門領域にとらわれずに、学ぶ機会を見つけること。

●評価方法

平常点とレポートによる。

●受講生へのコメント

研究テーマを絞っていきつつも、幅広い関心を持ち続けることが大切です。

●参考文献・教材

課題文献は適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN3601	開講期	単位数
M131	**国語国文学研究指導Ⅰ**			前月 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Japanese Language and Literature Ⅰ			担当教員名 丹羽 哲也 教授／小林 直樹 教授	

●科目の主題

国語学・国文学の修士論文作成のための指導を行う。

●到達目標

修士論文の構想を立て、具体化する。

●授業内容・授業計画

論文テーマの設定、テーマとそれを追究する方法の適合性、論文の構成など、論文作成に必要な事項について議論する。

学生はそれぞれの研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（小林直樹教授） 国文学に関する指導を行う。

（丹羽哲也教授） 国語学に関する指導を行う。

●評価方法

平常点と修士論文の中間報告による。

●受講生へのコメント

個々の問題に対する調査・考察を丹念に続けていくとともに、論文全体が何をめざすのか、その構想を常に自らに問い続けること。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN3602	開講期	単位数
M132	**国語国文学研究指導Ⅱ**			後月 5	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Japanese Language and Literature Ⅱ			担当教員名 丹羽 哲也 教授／小林 直樹 教授	

●科目の主題

国語学・国文学の修士論文作成のための指導を行う。

●到達目標

修士論文を完成する。

●授業内容・授業計画

論文のテーマ設定の妥当性、テーマとそれを追究する方法の適合性、論文の構成、論文細部の考察の妥当性など、論文作成に必要な事項について議論し、論文完成に至らしめる。

学生はそれぞれの研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（小林直樹教授） 国文学に関する指導を行う。

（丹羽哲也教授） 国語学に関する指導を行う。

●評価方法

平常点と修士論文の中間報告による。

●受講生へのコメント

個々の問題に対する調査・考察を丹念に続けていくとともに、論文全体が何をめざすのか、その構想を常に自らに問い続けること。論旨が明快であるか、表現が正確であるかといったことを十分に点検すること。

●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2501	開講期	単位数
M133	中国文学研究			前木 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Chinese Literature			担当教員名 松浦 恆雄 教授	

●科目の主題
中国文学はどのようにして中国 20 世紀の諸課題に向かい合おうとしたのかを 1920 ～ 1990 年代の代表的な作家・作品を通して考察する。
●到達目標
テクストに現れた表現の意味を多層的に理解する鑑賞力を養うことにより、中国文学の新しい課題を明確に認識することを目標とする。
●授業内容・授業計画
1980 年代以降に発表された重要な関係論文を取り上げる。受講生に一篇ずつ担当してもらい、検討を加える。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　論文第一の検討 1
第 3 回　論文第一の検討 2
第 4 回　論文第二の検討 1
第 5 回　論文第二の検討 2
第 6 回　論文第三の検討 1
第 7 回　論文第三の検討 2
第 8 回　論文第四の検討 1
第 9 回　論文第四の検討 2
第 10 回　論文第五の検討 1
第 11 回　論文第五の検討 2
第 12 回　論文第六の検討 1
第 13 回　論文第六の検討 2
第 14 回　まとめ 1
第 15 回　まとめ 2
●評価方法
平常点（出席・授業への積極性・課題の提出内容）に拠る。
●受講生へのコメント
第一回の授業時に、プリントを配布し、授業の進め方を指示するので、受講生は必ず出席すること。
●参考文献・教材
プリントを配布する

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2502	開講期	単位数
M134	中国文学研究演習			後木 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Chinese Literature			担当教員名 松浦 恆雄 教授	

●科目の主題
中国文学はどのようにして中国 20 世紀の諸課題に向かい合おうとしたのかを 30 年代の京派の文学を中心として考察する。
●到達目標
テクストに現れた表現の意味を多層的に理解する鑑賞力を養うことにより、中国文学の新しい課題を明確に認識することを目標とする。
●授業内容・授業計画
本年度は廃名『橋』を精読した後、関連する論文を読み、『橋』上・下巻の総合的評価について、受講生とともに考える。
第 1 回　ガイダンス

第 2 回　『橋』上巻一
第 3 回　『橋』上巻二
第 4 回　『橋』上巻三
第 5 回　『橋』上巻四
第 6 回　『橋』上巻五
第 7 回　『橋』下巻一
第 8 回　『橋』下巻二
第 9 回　『橋』下巻三
第 10 回　『橋』下巻四
第 11 回　『橋』下巻五
第 12 回　『橋』論文一
第 13 回　『橋』論文二
第 14 回　『橋』論文三
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点（出席・授業への積極性・課題の提出内容）に拠る。
●受講生へのコメント
第一回の授業時に、プリントを配布し、授業の進め方を指示するので、受講生は必ず出席すること。
●参考文献・教材
プリントを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2503	開講期	単位数
M135	中国文化学研究			前木 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Chinese Culture			担当教員名 張 新民 教授	

●科目の主題
「満映」映画研究
●到達目標
満洲映画協会は、日中戦争時に「満洲」（中国東北地区）に設立された国策映画会社である。東北地域だけでなく、中国全体の映画発展にも大きな影響を与えた。本講義では当時の映画作品や映画誌『満洲映画』を通して、「満映」の映画制作実態を考察する。
●授業内容・授業計画
本講義は、映画誌『満洲映画』の検討を中心にすすめていく。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　『満洲映画』を読む・俳優編 1
第 3 回　『満洲映画』を読む・俳優編 2
第 4 回　『満洲映画』を読む・俳優編 3
第 5 回　『満洲映画』を読む・監督編 1
第 6 回　『満洲映画』を読む・監督編 2
第 7 回　『満洲映画』を読む・監督編 3
第 8 回　『満洲映画』を読む・監督編 4
第 9 回　『満洲映画』を読む・作品論 1
第 10 回　『満洲映画』を読む・作品論 2
第 11 回　『満洲映画』を読む・作品論 3
第 12 回　『満洲映画』を読む・作品論 4
第 13 回　『満洲映画』を読む・映画上映 1
第 14 回　『満洲映画』を読む・映画上映 2
第 15 回　総括
●評価方法
平常点により評価する。
●受講生へのコメント
中国語ができることが望ましい。

●参考文献・教材
プリント配布。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2504	開講期	単位数
M136	中国文化学研究演習			後木 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Chinese Culture			担当教員名 張 新民 教授	

●科目の主題
「満映」映画研究
●到達目標
満洲映画協会は、日中戦争時に「満洲」(中国東北地区)に設立された国策映画会社である。東北地域だけでなく、中国全体の映画発展にも大きな影響を与えた。本講義では当時の映画作品や映画誌『満洲映画』を通して、「満映」の映画制作実態を考察する。
●授業内容・授業計画
本講義は、映画作品の検討を中心にすすめていく。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　『迎春花』1
第 3 回　『迎春花』2
第 4 回　『晩香玉』1
第 5 回　『晩香玉』2
第 6 回　『皆大歓喜』1
第 7 回　皆大歓喜』2
第 8 回　『熱砂の誓ひ』1
第 9 回　『熱砂の誓ひ』2
第 10 回　『蘇州の夜』1
第 11 回　『蘇州の夜』2
第 12 回　『啓民映画』1
第 13 回　『啓民映画』2
第 14 回　『啓民映画』3
第 15 回　総括
●評価方法
平常点により評価する。
●受講生へのコメント
中国語ができることが望ましい。
●参考文献・教材
プリント配布。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2505	開講期	単位数
M137	中国語学研究			前火 4	2 単位
	英文名 Advanced studies in Chinese Linguistics			担当教員名 岩本 真理 教授	

●科目の主題
資料の精読を通して、清代の語彙・語法の変化の一端に触れ、言語変化のメカニズムについて検討していく
●到達目標
清代の口語資料として、従来、白話小説が取り上げられがちであったが、本年度は、満州語との対照により編纂された会話書を資料として用いる。
●授業内容・授業計画
次の内容を扱う。
第 1 回　ガイダンス　清代資料における≪清文指要≫の位置と意義
第 2 回　精読 1
第 3 回　精読 2

第 4 回　精読 3
第 5 回　精読 4
第 6 回　精読 5
第 7 回　精読 6
第 8 回　精読 7
第 9 回　精読 8
第 10 回　精読 9
第 11 回　精読 10
第 12 回　精読 11
第 13 回　精読 12
第 14 回　精読 13
第 15 回　まとめ

●評価方法
授業中の発表とレポートによる。
●受講生へのコメント
明代資料群との連続性や、現代漢語との相違点に留意して、精読に取り組んでほしい。
●参考文献・教材
張美蘭　劉曼『≪清文指要≫彙校与語言研究』上海教育出版社　コピーを配布する。
参考資料：内田慶市他編『語言自邇集の研究』（文化交渉と言語接触研究・資料叢刊 4）好文出版

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2506	開講期	単位数
M138	中国語学研究演習			後火 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Chinese Linguistics			担当教員名 岩本 真理 教授	

●科目の主題
江戸時代における琉球・日本における中国語学習の系譜と実態にふれる。
●到達目標
中国近世語の一バリエーションとして、その内容を理解する。
●授業内容・授業計画
琉球において写本として継承されてきた教材『人中画』の精読を主とし、唐話語彙資料群との共通点・相違点をも視野に収めておきたい。前代からの継承という側面と、対象言語の転換・変化にともなって同時代的に即応する側面があることにも焦点をあてていきたい。
第 1 回　ガイダンス―琉球資料の紹介
第 2 回　ガイダンス―唐話資料の紹介
第 3 回　『人中画』1
第 4 回　『人中画』2
第 5 回　『人中画』3
第 6 回　『人中画』4
第 7 回　『人中画』5
第 8 回　『人中画』6
第 9 回　『人中画』7
第 10 回　『人中画』8
第 11 回　『人中画』9
第 12 回　『人中画』10
第 13 回　『人中画』11
第 14 回　『人中画』12
第 15 回　まとめ
●評価方法
授業中の発表とレポートによる。
●受講生へのコメント
通事養成資料の特徴に習熟してほしい。
●参考文献・教材
プリントを配布する。

木津祐子「琉球写本『人中画』『白姓』」臨川書店
李丹丹『清琉球官話課本≪人中画≫語法研究』北京大学出版社
李胃煒『清代琉球官話課本語法研究』北京大学出版社
奥村佳代子『唐話課本五種』関西大学出版部

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2507	開講期	単位数
M139	**中国文献文化学研究 I**			前月 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Chinese Literature I			担当教員名 大岩本 幸次 准教授	

●科目の主題
中国音韻学概説。
●到達目標
漢語の音韻史や音韻学史について、実際に原資料を検討しながら概説的な知識を得る。
●授業内容・授業計画
おおよその進捗計画は以下の通り。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　第 1 回
第 3 回　第 2 回
第 4 回　第 3 回
第 5 回　第 4 回
第 6 回　第 5 回
第 7 回　第 6 回
第 8 回　第 7 回
第 9 回　第 8 回
第 10 回　第 9 回
第 11 回　第 10 回
第 12 回　第 11 回
第 13 回　第 12 回
第 14 回　関連論文紹介
第 15 回　まとめ
●評価方法
期末のレポートに授業参加度を加味して評価を決定する。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
授業の際に配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2508	開講期	単位数
M140	**中国文献文化学研究演習 1**			後月 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Chinese Linguistics 1			担当教員名 大岩本 幸次 准教授	

●科目の主題
近世音韻資料研究。
●到達目標
漢語音韻史に関わる資料について実際に整理や検討を行い、音韻研究の方法を具体的に知る。
●授業内容・授業計画
おおよその進捗計画は以下の通り。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　第 1 回
第 3 回　第 2 回
第 4 回　第 3 回

第 5 回　第 4 回
第 6 回　第 5 回
第 7 回　第 6 回
第 8 回　第 7 回
第 9 回　第 8 回
第 10 回　第 9 回
第 11 回　第 10 回
第 12 回　第 11 回
第 13 回　第 12 回
第 14 回　第 13 回
第 15 回　まとめ

●評価方法
毎回の発表による平常点。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
授業の際に配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2509	開講期	単位数
M141	中国文献文化学研究Ⅱ			後集中	2 単位
	英文名 Higher Studies in Chinese Philology Ⅱ			担当教員名 秋岡 英行 非常勤講師	

●科目の主題
老荘思想（道家思想）について概説した上で、『荘子』を原典で読みながら、その思想的特徴を考察する。
●到達目標
老荘思想への理解を深めるとともに、『荘子』の原典を読むことを通じて、漢文資料の扱い方も学ぶ。
●授業内容・授業計画
おおむね以下のような予定で授業を進める。
第 1 回　老荘の人と書物
第 2 回　老荘思想の歴史
第 3 回　老荘思想と儒教、老荘思想と仏教
第 4 回　老荘思想と文学・芸術
第 5 回　『荘子』内篇を読む（1）
第 6 回　『荘子』内篇を読む（2）
第 7 回　『荘子』内篇を読む（3）
第 8 回　『荘子』内篇を読む（4）
第 9 回　『荘子』外篇を読む（1）
第 10 回　『荘子』外篇を読む（2）
第 11 回　『荘子』外篇を読む（3）
第 12 回　『荘子』雑篇を読む（1）
第 13 回　『荘子』雑篇を読む（2）
第 14 回　『荘子』雑篇を読む（3）
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点と試験による総合評価。
●受講生へのコメント
訳本などを参照してもらって構わないが、できるだけ自力で読み解いてほしい。
●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2510	開講期	単位数
M142	**中国語応用研究**			前金 2	2 単位
	英文名 Applied studies in Chinese			担当教員名 松浦 恆雄 教授／ 張 新民 教授	

●科目の主題

中国語による学術交流に積極的に参加することのできる人材育成。

●到達目標

学術的な報告や論文執筆ができるような中国語運用能力を身につける。

●授業内容・授業計画

中国語運用能力を高めるために、中国語論文の日本語訳（松浦）と日本語論文の中国語訳（張新民）の基礎訓練を行う。毎回、事前に訳文を提出してもらい、授業では、提出していただいた訳文に、受講者全員で検討を加える。

第 1 回　ガイダンス。テキスト配布。
第 2 回　中国語論文の日本語訳（一）
第 3 回　中国語論文の日本語訳（二）
第 4 回　中国語論文の日本語訳（三）
第 5 回　中国語論文の日本語訳（四）
第 6 回　中国語論文の日本語訳（五）
第 7 回　中国語論文の日本語訳（六）
第 8 回　中国語論文の日本語訳のまとめ
第 9 回　日本語論文の中国語訳（一）
第 10 回　日本語論文の中国語訳（二）
第 11 回　日本語論文の中国語訳（三）
第 12 回　日本語論文の中国語訳（四）
第 13 回　日本語論文の中国語訳（五）
第 14 回　日本語論文の中国語訳（六）
第 15 回　日本語論文の中国語訳のまとめ

●評価方法

平常点（出席・授業への積極性・課題の提出内容）に拠る。

●受講生へのコメント

第 1 回の授業時にプリントを配布し、授業の進め方についての具体的な指示をするので、受講生は必ず出席すること。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2511	開講期	単位数
M143	**中国語中国文学総合研究Ⅰ**			前金 1	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Chinese Literature Ⅰ			担当教員名 松浦 恆雄 教授／岩本 真理 教授／ 張 新民 教授	

●科目の主題

中国語・中国文学・中国文化学の研究の手引き。

●到達目標

中国語・中国文学・中国文化学の研究を進める上で必要な基礎的知識、研究方法を総合的に修得し、修士論文作成に向けた基礎力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

中国語・中国文学・中国文化学のそれぞれの研究分野において、身につけるべき知識、研究方法を数回に分けて講義する。その上で、学生各自の専攻分野に即した課題を与えてレポートを提出してもらう。また、修士論文の構想発表会、ならびに大阪市立大学中国学会に参加して、若手研究者の問題意識や研究方法を学ばせる。

●評価方法

平常点。

●受講生へのコメント
研究の基礎を確立するための授業なので、積極的に取り組んでもらいたい。
●参考文献・教材
教材はプリントを配布する。
参考文献は適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN2512	開講期	単位数
M144	中国語中国文学総合研究Ⅱ			後金 1	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Chinese Literature Ⅱ			担当教員名 松浦 恆雄 教授／岩本 真理 教授／張 新民 教授	

●科目の主題
中国語・中国文学・中国文化学の研究の手引き。
●到達目標
中国語・中国文学・中国文化学の研究を進める上で必要な基礎的知識、研究方法を総合的に修得し、修士論文作成に向けた基礎力を養うことを目標とする。
●授業内容・授業計画
学生各自に研究課題を設定させ、それにかかわる資料を収集させる。その上で、それぞれの研究課題に関する先行研究の状況等を整理させ、発表・討議させる。また、大阪市立大学中国学会、および『中国学志』の合評会に参加させ、先輩の研究方法やその成果に学ばせる。
●評価方法
平常点。
●受講生へのコメント
研究の基礎力を養成する授業なので、積極的に取り組んでもらいたい。
●参考文献・教材
教材はプリントを配布する。
参考文献は適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN3601	開講期	単位数
M145	中国語中国文学研究指導Ⅰ			前木 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Chinese Literature Ⅰ			担当教員名 松浦 恆雄 教授／岩本 真理 教授／張 新民 教授	

●科目の主題
修士論文作成に至る研究の指導。
●到達目標
中国語・中国文学・中国文化学に関する諸テーマを専門的に研究するために必要な知識や研究方法を身につけることを目標とする。また学術論文やレポートの書き方等も具体的に指導する。
●授業内容・授業計画
修士論文の研究課題を取り扱うために必要な基礎的知識、研究方法の修得に努めさせる。同時に、関連する資料の調査、収集にも当たらせる。学生の研究課題に応じて、その分野の先行研究、関連書物の読解を行わせ、課題にかかわる問題点を整理、把握させる。またそれと並行して、主要なテクストの講読を行い、問題点に関する理解を深化させる。学生はその研究テーマに応じて、研究指導の教員の指導を受けるものとする。
（松浦恆雄教授） 中国近現代文学分野の課題に関して研究指導を行う。
（岩本真理教授） 中国語学分野の課題に関して研究指導を行う。
（張　新民教授） 中国文化学分野の課題に関して研究指導を行う。
●評価方法
平常点とレポート。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN3602	開講期	単位数
M146	**中国語中国文学研究指導Ⅱ**			後木 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Chinese Literature Ⅱ			担当教員名 松浦 恆雄 教授／岩本 真理 教授／ 張 新民 教授	

●科目の主題

修士論文作成に至る研究の指導。

●到達目標

中国語・中国文学・中国文化学に関して、専門的に研究する上で必須の知識や方法を身につけることを目標とする。また学術論文やレポートの書き方等を具体的に指導する。

●授業内容・授業計画

中国語中国文学研究指導Ⅰを受けて、収集した資料、文献の読解と整理を行わせ、主要なテクストの分析を進めさせると同時に、研究課題に即した論述のあり方を指導し、修士論文の完成を目指す。学生はその研究テーマに応じて、研究指導の教員の指導を受けるものとする。

（松浦恆雄教授） 中国近現代文学分野の課題に関して研究指導を行う。

（岩本真理教授） 中国語学分野の課題に関して研究指導を行う。

（張　新民教授） 中国文化学分野の課題に関して研究指導を行う。

●評価方法

平常点。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2503	開講期	単位数
M147	**英文学研究Ⅱ**			前木 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in English Literature Ⅱ			担当教員名 田中 孝信 教授	

●科目の主題

19 世紀イギリス小説の系譜や背景の解説と個別作品の分析を行なう。

●到達目標

文学テクストの精読と多読を通して高度な読解力を培うとともに、文学研究の基本知識や論理的思考力、さらには資料収集法を身につける。

●授業内容・授業計画

ジョージ・ギッシング文学の全体像を概観した上で、『三文文士』（1891）を読む。彼の写実主義的側面と知的貴族主義的側面との混淆がどのような効果を生み出しているかに注目する。特に、世紀末という「性のアナーキー」の時代にあって「男らしさ」「女らしさ」とは何かを、同時代のさまざまな文献にも当たりながら考察する。

第 1 回　ギッシングと世紀末イギリス社会
第 2 回　ギッシング文学概観
第 3 回　『三文文士』を読む①
第 4 回　『三文文士』を読む②
第 5 回　『三文文士』を読む③
第 6 回　『三文文士』を読む④
第 7 回　『三文文士』を読む⑤
第 8 回　『三文文士』を読む⑥
第 9 回　『三文文士』を読む⑦
第 10 回　『三文文士』を読む⑧
第 11 回　『三文文士』を読む⑨
第 12 回　『三文文士』を読む⑩
第 13 回　『三文文士』を読む⑪
第 14 回　『三文文士』を読む⑫
第 15 回　全体のまとめ

●評価方法
レポート・平常点
●受講生へのコメント
訳書で構わないので、ギッシングの他の作品も読んでおくこと。
●参考文献・教材
George Gissing, *New Grub Street* (Oxford World's Classics)

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2504	開講期	単位数
M148	英文学研究演習 2			後木 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in English Literature 2			担当教員名 田中 孝信 教授	

●科目の主題
19 世紀イギリス小説が孕む様々な問題を、精神分析学、ディコンストラクション、ニューヒストリシズム、フェミニズムといった現代の批評理論を用いて分析し、作品の時代性とともに現代性を明らかにする。
●到達目標
さまざまな批評理論のテクストへの応用を通して、テクスト分析能力と論理的思考力を培う。
●授業内容・授業計画
前期に引き続きギッシングの『三文文士』を読み、同時に批評論文を取り上げる。出版当時から現代に至るまでの批評の流れを概観しつつ、特に都市とジェンダーに着目した論文を検討し、最新のギッシング研究の一端に触れる。それらを踏まえた上で、研究発表を通して受講生の問題意識を高める。

第 1 回　『三文文士』について
第 2 回　『三文文士』を読む①
第 3 回　『三文文士』を読む②
第 4 回　『三文文士』を読む③
第 5 回　『三文文士』を読む④
第 6 回　『三文文士』を読む⑤
第 7 回　『三文文士』を読む⑥
第 8 回　『三文文士』批評論文を読む (1)
第 9 回　『三文文士』批評論文を読む (2)
第 10 回　ギッシング文学批評論文の紹介と討論 (1)
第 11 回　ギッシング文学批評論文の紹介と討論 (2)
第 12 回　ギッシング文学批評論文の紹介と討論 (3)
第 13 回　受講生の研究発表と質疑応答 (1)
第 14 回　受講生の研究発表と質疑応答 (2)
第 15 回　全体のまとめ

●評価方法
レポート・平常点
●受講生へのコメント
ギッシングをジェンダーの観点から論じる際、スティーヴンスン、キプリング、ハガードといった男性ロマンス作家たちとの係わりも大きいので、それらの作品についても訳書で構わないので読んでおくこと。
●参考文献・教材
George Gissing, *New Grub Street* (Oxford World's Classics) およびプリント

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2505	開講期	単位数
M149	英文学研究Ⅲ			前木 4	2 単位
	英文名 Advaced Studies in English Literature Ⅲ			担当教員名 杉井 正史 教授	

●科目の主題
リチャード・シェリダンの喜劇　*The Scool for Scandal*
●到達目標
リチャード・シェリダンの喜劇、*The School for Scandal* を精読し、学生各自の視点から研究考察する。

●授業内容・授業計画
さまざまな観点から、シェリダンの劇を精読する。
第 1 回　シェリダンの時代の英語
第 2 回　*The School for Scandal* の上演史（1）
第 3 回　*The School for Scandal* の上演史（2）
第 4 回　*The School for Scandal* の批評（1）
第 5 回　*The School for Scandal* の批評（2）
第 6 回　シェリダンの経歴
第 7 回　感傷喜劇との関係（1）
第 8 回　感傷喜劇との関係（2）
第 9 回　18 世紀の文学・演劇状況（1）
第 10 回　18 世紀の文学・演劇状況（2）
第 11 回　シェリダンの機知（1）
第 12 回　シェリダンの機知（2）
第 13 回　登場人物の役割（1）
第 14 回　登場人物の役割（2）
第 15 回　レポート相談日

●評価方法
平常点とレポート

●受講生へのコメント
きちんと予習に努めること。

●参考文献・教材
田島博編、*The School for Scandal*（大阪教育図書）

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2506	開講期	単位数
M150	英文学研究演習 3			後木 4	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in English Literature 3			担当教員名 杉井 正史 教授	

●科目の主題
オリバー・ゴールドスミスの喜劇、*She Stoops to Conquer*.

●到達目標
She Stoops to Conquer の機知を理解する。

●授業内容・授業計画
さまざまな観点に注意しながら、*She Stoops to Conquer* を精読する。
第 1 回　・18 世紀の英語について（1）
第 2 回　・18 世紀の英語について（2）
第 3 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（1）
第 4 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（2）
第 5 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（3）
第 6 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（4）
第 7 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（5）
第 8 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（6）
第 9 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（7）
第 10 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（8）
第 11 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（9）
第 12 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（10）
第 13 回　・*She Stoops to Conquer* の精読（11）
第 14 回　・*She Stoops to Conquer* の批評
第 15 回　・レポート相談日

●評価方法
平常点とレポート

●受講生へのコメント
きちんと予習に努めること。

●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2507	開講期	単位数
M151	米文学研究			前火 4	2 単位
	英文名 Advaced Studies in American Literature			担当教員名 古賀 哲男 准教授	

●科目の主題
［主題］米文学研究上の主要なテーマ（特に現代文学論・詩・批評）。ただし、本年度は昨年度に引き続き、文学史の新たなる構築例（*A New Literary History of America* [2007] eds. Greil Marcus Werner Sollors）を研究する。
●到達目標
［目標］米文学について主要な知識を教授し、受講生が博士課程前期を修了するのに適切な助言等を行う。
●授業内容・授業計画
［授業内容］
主として、講義形式により、テーマについての主要な解説を行うと同時に、演習計式でテーマを議論し、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。

第 1 回　第 1 回：イントロダクション：米文学とは何か
第 2 回　第 2 回：米文学研究のテーマ 1 の講義（現代文学論の概説 1）
第 3 回　第 3 回：米文学研究のテーマ 1 の講義（現代文学論の概説 2）
第 4 回　第 4 回：米文学研究のテーマⅠの演習（現代文学論の議論 1）
第 5 回　第 5 回：米文学研究のテーマⅠの演習（現代文学論の議論 2）
第 6 回　第 6 回：米文学研究のテーマⅡの講義（批評理論の概説 1）
第 7 回　第 7 回：米文学研究のテーマⅡの講義（批評理論の概説 2）
第 8 回　第 8 回：米文学研究のテーマⅡの演習（批評理論の議論 1）
第 9 回　第 9 回：米文学研究のテーマⅡの演習（批評理論の議論 2）
第 10 回　第 10 回：米文学研究のテーマⅢの講義（米詩研究の概説 1）
第 11 回　第 11 回：米文学研究のテーマⅢの講義（米詩研究の概説 2）
第 12 回　第 12 回：米文学研究のテーマⅢの演習（米詩研究の議論 1）
第 13 回　第 13 回：米文学研究のテーマⅢの演習（米詩研究の議論 2）
第 14 回　第 14 回：米文学研究のまとめ
第 15 回　試験

●評価方法
出席・試験・レポート等の総合評価による。
●受講生へのコメント
専門的に米文学を研究する以外に、ひろく文学・文化研究の基礎を学ぶつもりで受講されたい。
●参考文献・教材
主としてプリントによる。参考文献については授業中に指示。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2508	開講期	単位数
M152	米文学研究演習			後水 3	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in American Literature			担当教員名 古賀 哲男 准教授	

●科目の主題
［主題］米文学研究の応用的テーマとして個別の作家研究（「米文学研究」で取り上げたテーマの具体的実践）を行う。
●到達目標
［目標］「米文学研究」で行った講義・演習内容を受講生が研究するテーマに即して指導し、受講生が博士課程前期を修了するのに適切な助言等を行う。
●授業内容・授業計画
［授業内容］
主として、演習形式で受講生が選択した各応用テーマを議論し、受講生による口頭発表やレポート提出で研究

テーマの遂行を確認する。

第 1 回　第 1 回：イントロダクション：修士論文の作成にむけて
第 2 回　第 2 回：米文学研究のテーマの応用的議論 1
第 3 回　第 3 回：米文学研究のテーマの応用的議論 2
第 4 回　第 4 回：米文学研究のテーマの応用的議論 3
第 5 回　第 5 回：米文学研究のテーマの応用的議論 4
第 6 回　第 6 回：米文学研究のテーマの応用的議論 5
第 7 回　第 7 回：米文学研究のテーマの口頭発表 1
第 8 回　第 8 回：米文学研究のテーマの口頭発表 2
第 9 回　第 9 回：米文学研究のテーマの口頭発表 3
第 10 回　第 10 回：米文学研究のテーマの口頭発表 4
第 11 回　第 11 回：米文学研究のテーマの口頭発表 5
第 12 回　第 12 回：米文学研究のテーマの口頭発表 6
第 13 回　第 13 回：米文学研究のテーマの口頭発表 7
第 14 回　第 14 回：米文学研究のテーマの口頭発表 8
第 15 回　まとめの議論

●評価方法

口頭発表およびレポートによる評価

●受講生へのコメント

専門的に米文学を研究する以外に、ひろく文学・文化研究の基礎を学ぶつもりで受講されたい。

●参考文献・教材

主としてプリントによる。参考文献については授業中に指示。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2509	開講期	単位数
M153	**英米文化学研究**			前月 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in English and American Culture			担当教員名 イアン・リチャーズ 准教授	

●科目の主題

To improve students' understanding of the themes and styles of classic British and American fiction

●到達目標

Students will be given prints to read each week.

●授業内容・授業計画

Students will be given a weekly reading assignment. There will be a written test on the assignment in class. The remainder of the class will be used for discussion of topics related to the reading assignment.

第 1 回　Introduction
第 2 回　Short Story 1
第 3 回　Short Story 2
第 4 回　Short Story 3
第 5 回　Short Story 4
第 6 回　Short Story 5
第 7 回　Short Story 6
第 8 回　Short Story 7
第 9 回　Short Story 8
第 10 回　Short Story 9
第 11 回　Short Story 10
第 12 回　Short Story 11
第 13 回　Short Story 12
第 14 回　Short Story 13
第 15 回　Review Test

●評価方法

Attendance. Weekly written tests.

●受講生へのコメント

You will need to attend at least 70% of classes in order to pass the course.

●参考文献・教材
プリント用

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2510	開講期	単位数
M154	英米文化学研究演習			後月 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in English and American Culture			担当教員名 イアン・リチャーズ 准教授	

●科目の主題
To improve students' understanding of the themes and styles of classic British and American fiction.
●到達目標
Students will be given prints to read each week.
●授業内容・授業計画
Students will receive a novel extract as a reading assignment each week. There will be a weekly written test and the remainder of the class will be used for discussion of topics related to the reading assignment.

第 1 回 Introduction
第 2 回 Novel Extract 1
第 3 回 Novel Extract 2
第 4 回 Novel Extract 3
第 5 回 Novel Extract 4
第 6 回 Novel Extract 5
第 7 回 Novel Extract 6
第 8 回 Novel Extract 7
第 9 回 Novel Extract 8
第 10 回 Novel Extract 9
第 11 回 Novel Extract 10
第 12 回 Novel Extract 11
第 13 回 Novel Extract 12
第 14 回 Novel Extract 13
第 15 回 Review Test

●評価方法
Attendance. Weekly tests.
●受講生へのコメント
You will need to attend at least 70% of classes in order to pass the course.
●参考文献・教材
プリント用

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2511	開講期	単位数
M155	英語学研究 I			前火 2	2 単位
	英文名 Advaced Studies in English Linguistics I			担当教員名 豊田 純一 准教授	

●科目の主題
知覚動詞を学際的に考察し、英語や他のインド・ヨーロッパ語でどの様に話されているかを考察する。
●到達目標
英語という言語を英語とさせている文法的要素の通時的、共時的な考察に慣れることを目標とする。
●授業内容・授業計画
毎週、特定の構造や機能を選び、その内容を他のインド・ヨーロッパ語などと比較しながら、英語はどのような言語かを考えていきます。

第 1 回 知覚動詞とインド・ヨーロッパ語 I
第 2 回 知覚動詞とインド・ヨーロッパ語 II
第 3 回 知覚動詞とインド・ヨーロッパ語 III
第 4 回 知覚動詞と類型論 I

第 5 回　知覚動詞と類型論 II
第 6 回　知覚動詞と類型論 III
第 7 回　まとめ
第 8 回　英文法と知覚動詞 I
第 9 回　英文法と知覚動詞 II
第 10 回　英文法と知覚動詞 III
第 11 回　知覚動詞と社会言語学 I
第 12 回　知覚動詞と社会言語学 II
第 13 回　知覚動詞と社会言語学 III
第 14 回　知覚動詞と社会言語学 IV
第 15 回　全体のまとめ

●評価方法
試験・レポート（60%）、平常点（40%）
●受講生へのコメント
出席率が 70% に満たないものは、単位の対象外になります。
試験、レポートは定期的にありますので、授業中の指示に従ってください。
●参考文献・教材
授業中に随時指示します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2512	開講期	単位数
M156	英語学研究演習 1			後木 2	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in English Linguistics 1			担当教員名 豊田 純一 准教授	

●科目の主題
社会言語学における使用域（register）を言語の志向性（linguistic orientation）を通し考察する。
●到達目標
英文法の特異性を構成している要素の通時的、共時的な考察に慣れることを目標とする。
●授業内容・授業計画
毎週、特定の構造や機能を選び、その内容を他の言語語などと比較しながら、英語はどのような言語かを考えていきます。
第 1 回　言語の志向性 I
第 2 回　言語の志向性 II
第 3 回　言語の志向性 III
第 4 回　言語の志向性 IV
第 5 回　まとめ
第 6 回　口語体と文語体 I
第 7 回　口語体と文語体 II
第 8 回　メディアと使用域 I
第 9 回　メディアと使用域 II
第 10 回　まとめ
第 11 回　志向性と使用媒体 I
第 12 回　志向性と使用媒体 II
第 13 回　志向性と使用媒体 III
第 14 回　志向性と使用媒体 IV
第 15 回　全体のまとめ
●評価方法
試験・レポート（60%）、平常点（40%）
●受講生へのコメント
出席率が 70% に満たないものは、単位の対象外になります。
試験、レポートは定期的にありますので、授業中の指示に従ってください。
●参考文献・教材
授業中に随時指示します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2515	開講期	単位数
M157	英米言語文化論			前集中	2 単位
	英文名 Studies in English and American Language and Culture			担当教員名 原 英一 非常勤講師	

●科目の主題

19 世紀から 21 世紀までのイギリス学校小説の系譜をたどり、時代背景とテーマの変遷を解明する。

●到達目標

学校小説の系譜とそのテーマの変遷を理解し、文学作品の歴史的背景を解明するための方法論を身につける。

●授業内容・授業計画

この講義ではヴィクトリア朝の「堕ちた女」の絵画表象の分析から始めて、「堕ちた女」、「孤児」、さらに「魔法」など、現代に至る学校小説の基本的モチーフの変遷を歴史的にたどる。扱う小説は、ヴィクトリア朝の *Jane Eyre*、*David Copperfield* 等、20 世紀の *Goodby Mr. Chips*、20 世紀から 21 世紀にかけての *Harry Potter*、*Never Let Me Go* 等である。

第 1 回　イントロダクション：ヴィクトリア朝絵画と「堕ちた女」
第 2 回　「堕ちた女」の文学表象（1）：George Eliot, *Adam Bede*, Elizabeth Gaskell, *Ruth*
第 3 回　「堕ちた女」の文学表象（2）：Charlotte Brontë, *Jane Eyre* ①
第 4 回　「堕ちた女」の文学表象（3）：Charlotte Brontë, *Jane Eyre* ②
第 5 回　「堕ちた女」の文学表象（4）：Mary Elizabeth Braddon, *Lady Audley's Secret*
第 6 回　「学校小説」としての *Jane Eyre*
第 7 回　ディケンズの学校小説（1）：Charles Dickens, *David Copperfield* ①
第 8 回　ディケンズの学校小説（2）：Charles Dickens, *David Copperfield* ②
第 9 回　魔法と学校（1）：Theodore R. Cogswell, "The Wall Around the World"
第 10 回　魔法と学校（2）：J. K. Rowling, *Harry Potter and the Philosopher's Stone*
第 11 回　魔法と学校（3）：Roald Dahl, *Matilda*
第 12 回　戦争の世紀と学校小説（1）：James Hilton, *Goodbye, Mr. Chips*
第 13 回　戦争の世紀と学校小説（2）：Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* ①
第 14 回　戦争の世紀と学校小説（3）Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go* ②
第 15 回　全体のまとめ

●評価方法

平常点（60%）とレポート（40%）による。

●受講生へのコメント

集中講義の期間中、毎日 reaction paper に講義の感想、意見、質問などを書いて提出してもらいます。reaction paper に書かれた内容に対しては、担当者からのフィードバックを行います。ウェブを通じて行う場合もあります。フィードバック用のウェブサイト URL は教室で示します。

●参考文献・教材

教室で指示します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG2516	開講期	単位数
M158	英語英米文学総合研究 I			前金 1	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in English and American Language and Literature I			担当教員名 杉井 正史 教授／田中 孝信 教授	

●科目の主題

英語圏の文学・文化に関する各種研究方法の概説や研究資料の扱い方など。

●到達目標

英語圏の文学・文化に関する各種研究方法の概説や研究資料の扱い方など様々な観点からの講義やそれに基づく討論を通して、受講生が総合的見地に立った研究が行なえるように、その基本的姿勢を習得させることを目的とする。

●授業内容・授業計画

担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマ（「イギリス文学・文化における〈他者〉の諸相」「演劇とさまざまな文化背景との関係」）を取り上げて講じる。

●評価方法
研究報告・平常点。
●受講生へのコメント
積極的に参加し、自分自身の明確な問題意識を持つように希望する。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LCENG2517	開講期	単位数
M159	英語英米文学総合研究Ⅱ			後金 2	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in English and American Language and Literature Ⅱ			担当教員名 杉井 正史 教授／田中 孝信 教授	

●科目の主題
英語圏の文学・文化に関する個別のテーマを巡る講義や討論。
●到達目標
英語圏の文学・文化に関する個別のテーマを巡る講義や討論を通して、受講生に修士論文作成の方向性や自らの研究の位置づけを明確化させ、考察を深めさせる。
●授業内容・授業計画
担当教員が個別のテーマ（「ヴィクトリア朝小説と社会」「シェイクスピア演劇と政治・宗教」）を取り上げて論じる。
●評価方法
研究報告・平常点。
●受講生へのコメント
積極的に参加し、自分自身の明確な問題意識を持つように希望する。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LCENG3601	開講期	単位数
M160	英語英米文学研究指導Ⅰ			前金 2	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in English and American Language and Literature Ⅰ			担当教員名 杉井 正史 教授／田中 孝信 教授	

●科目の主題
英語圏の文学・文化に関する修士論文作成の指導を行なう。
●到達目標
具体的なテーマに則しつつ、論述の仕方などを含めて、論文作成の手法を獲得させる。
●授業内容・授業計画
論文テーマの設定、テーマと研究方法の適合性、テクストと先行研究の綿密な検証、論文の構成、論述の説得的展開法（論旨の明晰性、一貫性および説得性）など、修士論文執筆に際して体得すべき必要な事項を指導する。
（杉井正史教授） 英文学、特に演劇に関して、綿密な読みを基盤にし、その背景への十分な考察を深めた修士論文作成のための指導を行なう。
（田中孝信教授） 英文学、特に小説に関して、文学テクストの精緻な読みを主軸に、背景となる社会的・文化的事象を視野に入れた研究指導を行なう。
●評価方法
研究報告・平常点。
●受講生へのコメント
積極的に参加し、自分自身の明確な問題意識を持つように希望する。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG3602	開講期	単位数
M161	**英語英米文学研究指導Ⅱ**			後金 1	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in English and American Language and Literature Ⅱ			担当教員名 杉井 正史 教授／田中 孝信 教授	

●科目の主題

英語圏の文学・文化に関する修士論文作成の指導を行なう。

●到達目標

研究指導Ⅰで獲得した能力をさらに発展させ、独自性のある論文作成の能力を獲得する。

●授業内容・授業計画

「英語英米文学研究指導Ⅰ」を継承し、さらに実践的な指導を行なう。

（杉井正史教授） 英文学、特に演劇に関して、綿密な読みを基盤にし、その背景への十分な考察を深めた修士論文作成のための指導を行なう。

（田中孝信教授） 英文学、特に小説に関して、文学テクストの精緻な読みを主軸に、背景となる社会的・文化的事象を視野に入れた研究指導を行なう。

●評価方法

研究報告・平常点。

●受講生へのコメント

積極的に質問し、自分自身の明確な問題意識を持つように希望する。

●参考文献・教材

適宜指導する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX2501	開講期	単位数
M162	**ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅰ**			後木 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in German and Francophon Language and Culture Ⅰ			担当教員名 髙井 絹子 准教授	

●科目の主題

ドイツ語圏の 13 作品を取り上げ、女性像に焦点を当てつつ作品の解題を試みる。

●到達目標

ドイツ語圏の歴史、文化、文学について理解を深める。

●授業内容・授業計画

初回に説明します。

第 1 回　導入
第 2 回　ゲーテ『ファウスト』
第 3 回　シラー『オルレアンの乙女』
第 4 回　クライスト『O 侯爵夫人』
第 5 回　フケー『水妖記』
第 6 回　シュトルム『みずうみ』
第 7 回　フォンターネ『エフィ・ブリースト』
第 8 回　ムージル『ポルトガルの女』
第 9 回　ブレヒト『セチュアンの善人』
第 10 回　トーマス・マン『ワイマールのロッテ』
第 11 回　フォイヒトヴァンガー『トレド風雲録』
第 12 回　ヴェーデキント『ルル』
第 13 回　ヴォルフ『カッサンドラ』
第 14 回　バッハマン『ジムルターン』
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点 30%、レポート 70%による評価です。

●受講生へのコメント

文学作品には様々な女性が登場しますが、彼女たちにはどのような時代状況が映し出されているのか、あるいはその造形には作家のどのような意図が込められているのか。女性たちを作品解読の手がかりとしてドイツ語圏文学の

作品世界を逍遥しましょう。

●参考文献・教材

授業中に指示します。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LCDFD2501	開講期	単位数
M163	ドイツ語圏文学研究 I			前木 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in German Literature I			担当教員名 髙井 絹子 准教授	

●科目の主題

戦後ドイツ文学を牽引した文学集団「47 年グループ」に関するテクストを読み、当時の文学状況について考察します。

●到達目標

中・上級程度のドイツ語を読み、戦後ドイツ語圏文学・文化について理解を深めます。

●授業内容・授業計画

ドイツ語テクストを精読しつつ、登場する作家たちの作品も適宜紹介します。

第 1 回　導入
第 2 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (1)
第 3 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (2)
第 4 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (3)
第 5 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (4)
第 6 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (5)
第 7 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (6)
第 8 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (7)
第 9 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (8)
第 10 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (9)
第 11 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (10)
第 12 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (11)
第 13 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (12)
第 14 回　Hermut Böttiger: *Die Gruppe 47.* (13)
第 15 回　総括

●評価方法

平常点（50%）、試験（50%）で評価します。

●受講生へのコメント

事前に指定された範囲は必ず予習してきてください。

●参考文献・教材

授業中にプリントを配布します。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LCDFD2502	開講期	単位数
M164	ドイツ語圏文学研究演習 1			後木 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies and Seminar in German Literature 1			担当教員名 髙井 絹子 准教授	

●科目の主題

「47 年グループ」にかかわりのある作家 I. Bachmann の作品を読みます。

●到達目標

ドイツ語読解力を高め、ドイツ語圏の文化・文学に対する理解を深めます。

●授業内容・授業計画

文学テクストを精読します。そのあと作品論を読みます。

第 1 回　導入：作家紹介
第 2 回　I. Bachmann: *Simultan.* (1)
第 3 回　I. Bachmann: *Simultan.* (2)
第 4 回　I. Bachmann: *Simultan.* (3)

第 5 回　I. Bachmann: *Simultan.*（4）
第 6 回　I. Bachmann: *Simultan.*（5）
第 7 回　I. Bachmann: *Simultan.*（6）
第 8 回　I. Bachmann: *Simultan.*（7）
第 9 回　I. Bachmann: *Simultan.*（8）
第 10 回　I. Bachmann: *Simultan.*（9）
第 11 回　作家・作品論講読 1
第 12 回　作家・作品論講読 2
第 13 回　作家・作品論講読 3
第 14 回　作家・作品論講読 4
第 15 回　総括

●評価方法
平常点（50%）、試験（50%）による総合評価です。
●受講生へのコメント
事前に指定した範囲は必ず予習してきてください。
●参考文献・教材
授業中に指示します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFD2503	開講期	単位数
M165	**ドイツ語圏文学研究Ⅱ**			前水 3	2 単位
	英文名 Higher Studies in German Literature Ⅱ			担当教員名 廣瀬 千一 非常勤講師	

●科目の主題
ドイツ語圏近代およびそれ以前の文学について研究する。
●到達目標
ドイツ語圏近代およびそれ以前の文学テクストの精読、研究方法の検討、文献の調査、作品分析、個別テーマによる研究、作家研究、作品の背景となる歴史・文化状況の研究などを行う。
●授業内容・授業計画
ゲーテ（J.W.Goethe 1749-1832）の『ファウスト』*Faust* のいくつかの重要箇所を読み、ゲーテがこの作品に盛り込もうとしたイデーや作品の構想について考える。この作品は 16 世紀の民衆本『ファウスト博士の物語』を典拠としており、その後様々な作家がこの素材を扱ったが、ゲーテの作はファウスト素材の系譜の中でどのような特別な意義をもっていたのか、本授業ではこの点について、主として「天上の序曲」および『ファウスト 第 1 部』のいくつかの箇所を取り上げ、ドイツ語を精読することによって考える。ドイツ語原文を読むことで、この作品の卓越した表現力（イデーの文学言語化、レトリックや表象など）も味わう。
以下の進行予定でテクストを読み、考察する。
第 1 回　ファウスト素材とゲーテの『ファウスト』について（1）
第 2 回　ファウスト素材とゲーテの『ファウスト』について（2）
第 3 回　Prolog im Himmel（1）
第 4 回　Prolog im Himmel（2）
第 5 回　Prolog im Himmel（3）
第 6 回　Nacht（*Erster Teil*）（1）
第 7 回　Nacht（*Erster Teil*）（2）
第 8 回　Nacht（*Erster Teil*）（3）
第 9 回　Nacht（*Erster Teil*）（4）
第 10 回　Studierzimmer（*Erster Teil*）（1）
第 11 回　Studierzimmer（*Erster Teil*）（2）
第 12 回　Studierzimmer（*Erster Teil*）（3）
第 13 回　Studierzimmer（*Erster Teil*）（4）
第 14 回　Studierzimmer（*Erster Teil*）（5）
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点（30 点）、試験（70 点）

●受講生へのコメント
ゲーテの『ファウスト』はドイツ文学史における最も有名な作品といってもよく、また、現代においてなお色あせない魅力を持っています。この作品を原文で読むことにチャレンジしましょう。
●参考文献・教材
Johann Wolfgang Goethe: *Faust. Der Tragödie. Erster Teil.* (Reclam Universal-Bibliothek Nr.1) 2000.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFD2505	開講期	単位数
M166	ドイツ語圏文化学研究			後月 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in German Culture			担当教員名 髙井 絹子 准教授	

●科目の主題
スイスのゲルマニスト Emil Staiger の美術評論テクストを読みます。
●到達目標
上級レベルのドイツ語読解力を身につけ、ゲーテ時代の文化について理解を深めます。
●授業内容・授業計画
ドイツ語テクストを読むことが中心になります。内容について歴史的、文化的な理解を深めるため、適宜資料を配布します。
第 1 回　導入
第 2 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 1
第 3 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 2
第 4 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 3
第 5 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 4
第 6 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 5
第 7 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 6
第 8 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 7
第 9 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 8
第 10 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 9
第 11 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 10
第 12 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 11
第 13 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 12
第 14 回　Emil Staiger: *Georg Friedrich Kersting: Lesender beim Lampenlicht.* 13
第 15 回　総括
●評価方法
平常点（50%）と試験（50%）の総合評価です。
●受講生へのコメント
事前に指示した範囲は必ず予習して授業にのぞんでください。
●参考文献・教材
授業中に指示します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFD2507	開講期	単位数
M167	ドイツ語学研究			前水 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in German Linguistics			担当教員名 神竹 道士 教授	

●科目の主題
本講義では、ドイツ語正書法の基本原理について扱う。
●到達目標
ドイツ語正書法の基本原理を通して、綴り（文字）と発音（音声）の関係について理解を深めることが、本講義の目標である。
●授業内容・授業計画
本講義では、主に次の様な項目について取り上げる。
第 1 回　導入

第 2 回　正しい書き方とは何か
第 3 回　一次体系としての文字
第 4 回　音素と書記素の関係
第 5 回　音素と形態素
第 6 回　表音文字
第 7 回　音節と綴り方
第 8 回　形態素と綴り方
第 9 回　外来語と綴り方
第 10 回　大文字書きと小文字書き
第 11 回　分綴法
第 12 回　分かち書きとつなぎ書き
第 13 回　句読法
第 14 回　正書法改革と新正書法
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点により評価します。
●受講生へのコメント
毎回必ず下調べをした上で授業に臨んでください。
●参考文献・教材
Nanna Fuhrhop: *Orthografie*. 3. Aufl., Heidelberg 2009.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFD2508	開講期	単位数
M168	**ドイツ語学研究演習**			後水 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies and Seminar in German Linguistics			担当教員名 神竹 道士 教授	

●科目の主題
本講義では、ドイツ語音韻論について扱う。
●到達目標
ドイツ語音韻論の学習を通して、音声と文字の関係について理解を深めることが、本講義の目標である。
●授業内容・授業計画
本講義では、主に次の様な項目について取り上げる。
第 1 回　導入
第 2 回　音声学と音韻論
第 3 回　音声学の基本概念
第 4 回　母音の調音
第 5 回　子音の調音
第 6 回　ドイツ語の母音体系
第 7 回　ドイツ語の子音体系
第 8 回　音の大きさ（長さ・強さ・高さ）
第 9 回　語のアクセント
第 10 回　音韻論と正書法
第 11 回　音と文字の関係
第 12 回　音節と綴り
第 13 回　生成音韻論
第 14 回　音韻論と文字学習
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点により評価します。
●受講生へのコメント
毎回必ず下調べをした上で授業に臨んでください。
●参考文献・教材
Christina Noack: *Phonologie*. Heidelberg 2010.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2501	開講期	単位数
M169	フランス語圏文学研究			後月 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Francophone Literature			担当教員名 津川 廣行 教授	

●科目の主題

十九世紀のフランス文学史の流れについて概観したあと、この一世紀のあいだに相次いでおこった諸々の文学流派を個別に取り上げ、それらの特徴を理論と例示によって明らかにする。

●到達目標

十九世紀フランス文学史についての総合的、立体的な知識を獲得する。

●授業内容・授業計画

初回での概観のあと、2 回目以降は、以下に示したような項目にしたがって論を進めてゆく。

第 1 回　概観
第 2 回　前ロマン主義
第 3 回　ロマン主義
第 4 回　ロマン主義の詩
第 5 回　ロマン主義の演劇
第 6 回　ロマン主義の小説
第 7 回　レアリスム（1）
第 8 回　レアリスム（2）
第 9 回　自然主義（1）
第 10 回　自然主義（2）
第 11 回　高踏派
第 12 回　デカダン
第 13 回　象徴主義文学運動――詩
第 14 回　象徴主義文学運動――演劇
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点およびレポート。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2502	開講期	単位数
M170	フランス語圏文学研究演習			前水 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Francophone Literature			担当教員名 津川 廣行 教授	

●科目の主題

十九世紀から二十世紀にかけてのフランス文学史の流れについて概説したあと、そのなかから主要な作家を毎回一人ずつとりあげ、その代表作を抜粋で読む。また毎回、その文学史的意味について討論形式で考察してもらう。

●到達目標

十九世紀から二十世紀にかけてのフランス文学史の流れについての知識を、実作に即しながら獲得し、修論を書くために必要な程度のフランス語力を身につける。

●授業内容・授業計画

初回での概観のあと、2 回目以降は、以下に示したような作家をとりあげ、その代表作を抜粋で読む。

第 1 回　概観
第 2 回　Chateaubriand
第 3 回　Hugo
第 4 回　Balzac
第 5 回　Stendhal
第 6 回　Nerval

第 7 回　Flaubert
第 8 回　Zola
第 9 回　Maupassant
第 10 回　Gide
第 11 回　Proust
第 12 回　Breton
第 13 回　Camus
第 14 回　Sartre
第 15 回　Robbe-Grillet

●評価方法
平常点およびレポート。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2503	開講期	単位数
M171	**フランス語圏文化学研究**			後月 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Francophone Linguistics			担当教員名 白田 由樹 准教授	

●科目の主題
ベルギーの応用芸術運動家、ヴァン・デ・ヴェルデの活動を中心に、19 世紀末から 20 世紀にかけてのヨーロッパ全土に広がったアール・ヌーヴォーや工芸デザイン運動の動向と各国の運動をけん引した人物たちとの影響関係を、各々の主張が発表された雑誌記事などの資料を元に検討する。
●到達目標
これまで主に美術史や建築の領域で扱われてきたアール・ヌーヴォーの主題について、文化学としての切り口から検討することで研究の視点を広げ、フランス語圏の歴史や社会と深く結びついた芸術・文化の理解につなげる。
●授業内容・授業計画
アール・ヌーヴォーや応用芸術の理論としてヴァン・デ・ヴェルデが残した著作と、その主張の変遷をたどりながら、彼に影響を与えたイギリスのモリスやラスキンの思想、フランスの美術商ビングとの共同関係、ワイマールにおける活動やドイツのムテジウスとの論争といった、他国の運動家との関係性を論じていく。
なお、本講義にはフランス語または英語の文献講読を含める予定である。

第 1 回　19 世紀末ベルギーとその背景
第 2 回　ヴァン・デ・ヴェルデとアール・ヌーヴォー
第 3 回　脱アカデミズムと「20 人組」の活動
第 4 回　ラスキン、モリスの思想と運動①
第 5 回　ラスキン、モリスの思想と運動②
第 6 回　ベルギーの産業革命と都市
第 7 回　オルタ、アンカールとの関係、応用芸術の位置
第 8 回　初期「アール・ヌーヴォー」の概念
第 9 回　ビングの店と「アール・ヌーヴォー」展
第 10 回　ドレスデンからワイマールへ（ドイツの状況）
第 11 回　グロピウスと「規格化論争」
第 12 回　第二次大戦とスイスへの亡命
第 13 回　ベルギーへの帰還と軋轢
第 14 回　ヴァン・デ・ヴェルデと応用芸術の変遷
第 15 回　レポート・総括

●評価方法
平常点（60%）とレポート（40%）による。
●受講生へのコメント
一方的な講義ではなく、日・英・仏語の資料を読みながら履修者にも各自に考察をおこなってもらいます。資料はその前の回に配布するので、準備をしてのぞんでください。

●参考文献・教材
講義の中で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2504	開講期	単位数
M172	フランス語圏文化学研究演習			前月 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Francophone Culture			担当教員名 白田 由樹 准教授	

●科目の主題
P. Nora 編纂による *Les Lieux de mémoire* を扱い、「フランスらしさ」や「国民性」などの文化アイデンティティが生成されてきた経緯について書かれた論考を講読しながら、文化研究につながる視点を探る。
●到達目標
フランスで実現された「新しい歴史学」の成果と視点から、各自の研究テーマに応用しうる姿勢や方法論を学び取る。また、原文講読を通じてフランス語の文献を正確に読解する力を養成する。
●授業内容・授業計画
Les Lieux de mémoire のうち、日本語版に収録されていない論文をいくつか原文で講読し、その内容と背景を理解しながら、研究のための視点を考察していく。

第 1 回 Préface pour l'édition française
第 2 回 Symboles de la République (1)
第 3 回 Symboles de la République (2)
第 4 回 Symboles de la République (3)
第 5 回 Monuments de la République (1)
第 6 回 Monuments de la République (2)
第 7 回 Monuments de la République (3)
第 8 回 Commémorations (1)
第 9 回 Commémorations (2)
第 10 回 Contre-mémoire (1)
第 11 回 Contre-mémoire (2)
第 12 回 La patrimoine (1)
第 13 回 La patrimoine (2)
第 14 回 La patrimoine (3)
第 15 回 レポート・総括

●評価方法
平常点（70%）とレポート（30%）。
●受講生へのコメント
フランス語のテクストを単に下読みするだけでなく、なるべくその背景を調べて授業にのぞんでください。
●参考文献・教材
授業で配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2505	開講期	単位数
M173	フランス語学研究			前水 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in French Linguistics			担当教員名 福島 祥行 教授	

●科目の主題
近代言語学者たちの足跡をたどりつつ、言語学研究の方法論と思想について考察するとともに、フランス言語学の方法論を学ぶ。
●到達目標
言語学の基礎的概念を身につけ、言語研究のよってたつ思想と方法論について深く思弁するなかで、人間存在についての思索方法を身につける。
●授業内容・授業計画
受講生とともに、言語研究者たちにかんする概説的なフランス語のテクストを読みつつ、その内容について考察し、各自の意見をのべてゆく。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　フェルディナン・ド・ソシュール
第 3 回　プラハ学派
第 4 回　ロマーン・ヤーコブソン
第 5 回　ルイ・イェルムスレウ
第 6 回　ギュスタヴ・ギヨーム
第 7 回　リュシアン・テニエール
第 8 回　レナード・ブルームフィールド
第 9 回　ノーム・チョムスキー
第 10 回　ミハイル・バフチン
第 11 回　ジョン・L・オースティン
第 12 回　ルートヴィッヒ・ヴィトゲンシュタイン
第 13 回　ポール・グライス
第 14 回　ジル・フォーコニエ
第 15 回　ふりかえりとまとめ

●評価方法

ポートフォリオと自己評価、相互評価

●受講生へのコメント

言語に憑かれたひとびとの姿をとおして、言語そのもの、そして人間そのものについて思弁されたい。
また、受講生の関心にあわせて、テキストを変更することもある。

●参考文献・教材

■参考文献

ソシュール『一般言語学講義』岩波書店
ポティエ『一般言語学』岩波書店
フォーコニエ『メンタル・スペース』白水社
レイコフ『認知意味論』紀伊國屋書店
チョムスキー『ミニマリスト・プログラム』翔泳社
ハートル『数詞と内部空間』勁草書房
グライス『論理と会話』勁草書房 .

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2506	開講期	単位数
M174	**フランス語学研究演習**			後水 2	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in French Linguistics			担当教員名 福島 祥行 教授	

●科目の主題

近代言語学の歴史をたどりつつ、言語学の基礎を身につけるとともに、フランス言語学の方法論を学ぶ。

●到達目標

言語学の基礎的概念を身につけ、言語研究のよってたつ思想と方法論について深く思弁するなかで、人間存在についての思索方法を身につける。

●授業内容・授業計画

受講生とともに、言語学にかんする概説的なフランス語のテクストを読みつつ、その内容について考察し、各自の意見をのべてゆく。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　一般文法
第 3 回　歴史言語学・比較言語学
第 4 回　文献学
第 5 回　方言学・地理言語学
第 6 回　社会言語学
第 7 回　音声学
第 8 回　音韻論
第 9 回　語彙論
第 10 回　形態論
第 11 回　統辞論

第 12 回　意味論
第 13 回　語用論
第 14 回　神経言語学
第 15 回　ふりかえりとまとめ

●評価方法
ポートフォリオと自己評価、相互評価
●受講生へのコメント
言語学の諸相から、言語そのもの、そして人間そのものについて思弁されたい。
また、受講生の関心にあわせて、テキストを変更することもある。
●参考文献・教材
■参考文献
ソシュール『一般言語学講義』岩波書店
ポティエ『一般言語学』岩波書店
フォーコニエ『メンタル・スペース』白水社
レイコフ『認知意味論』紀伊國屋書店
チョムスキー『ミニマリスト・プログラム』翔泳社
ハートル『数詞と内部空間』勁草書房

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2507	開講期	単位数
M175	フランス語圏言語文化論 I			後木 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Francophone Language and Culture I			担当教員名 津川 廣行 教授	

●科目の主題
第三共和制の前半、すなわち 1870 年から第一次世界大戦までのフランスについて、文化史的、歴史的、政治史的、文学史的観点から論ずる。なお、フランス語力向上の目的もかねて、フランス語で書かれた資料を読んでもらう。
●到達目標
第三共和制前半のフランスについて、文化史的、歴史的、政治史的、文学史的観点から論ずることにより、フランス文化の特質についての理解を深める。また、修論執筆に必要な程度のフランス語力を身につける。
●授業内容・授業計画
初回での概観のあと、2 回目以降は、以下に示したような項目にしたがって論を進めてゆく。
第 1 回　概観
第 2 回　普仏戦争
第 3 回　パリ・コミューン
第 4 回　五月十六日事件
第 5 回　opportunisme と radical-socialisme
第 6 回　植民地主義政策、教育政策
第 7 回　パナマ事件
第 8 回　シュネブレ事件からブーランジェ事件へ
第 9 回　ドレフュス事件
第 10 回　タンジール事件
第 11 回　アガディール事件
第 12 回　ナショナリズムと平和主義
第 13 回　第一次世界大戦（1）
第 14 回　第一次世界大戦（2）
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点およびレポート。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFF2508	開講期	単位数
M176	フランス語圏言語文化論Ⅱ			前木 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Francophone Language and Culture Ⅱ			担当教員名 白田 由樹 准教授	

●科目の主題

ピエール・ノラの主導で 120 名もの歴史家が執筆したフランス文化－社会史の大著『記憶の場』(1984-92 年)より、日本語版（2002-3 年）に収録された論考のいくつかを読み、彼らの研究がめざした複合的視点や方法を概観するとともに、文化研究における実践例を示す。

●到達目標

『記憶の場』を生み出したアナール学派の分野総合的な取り組みから、文学・文化学研究の方法やヴィジョンを模索するとともに、それぞれの研究対象に対する視点の広がりを目指す。

●授業内容・授業計画

毎回、『記憶の場』に収められた論考を読み、その内容や視点、方法論についての討議をおこなう。また後半には、受講生の関心や研究対象に応じた発表を課す。

第 1 回　『記憶の場』と文化史研究
第 2 回　「フランス人」とは誰か①
第 3 回　「フランス人」とは誰か②
第 4 回　政治的対立
第 5 回　宗教的対立
第 6 回　フランス人と外国人
第 7 回　共和国①
第 8 回　共和国②
第 9 回　共和国③
第 10 回　共和国④
第 11 回　栄光と伝統①
第 12 回　栄光と伝統②
第 13 回　栄光と伝統③
第 14 回　栄光と伝統④
第 15 回　レポート・総括

●評価方法

平常点（70%）と発表・レポート（30%）による。

●受講生へのコメント

授業であつかう章節は毎回、前週に指定するので、あらかじめ読んで授業にのぞんでください。

●参考文献・教材

ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場―フランス国民意識の文化＝社会史―』全 3 巻，岩波書店

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX2504	開講期	単位数
M177	多文化学研究			前火 2	2 単位
	英文名 Higher Studies in Multiculture			担当教員名 福島 祥行 教授	

●科目の主題

主としてフランス語圏の、いわゆる「多文化」的状況を考察すべく、「文化」とはなにかについて思弁することのなかから、現実の「多文化」的状況のもたらす諸問題について論じつつ、「複文化主義」によってそれをのりこえる可能性について考える。

●到達目標

「文化」とはなにかについて思弁することのなかから、現実の「多文化」的状況のもたらす諸問題を批判的に検討し、「複文化主義」について考えるための視点／支点を身につける。

●授業内容・授業計画

そもそも「文化」とはなにかという根源的な問いよりスタートして、「文化」「民族」などを「本質主義的」にとらえることから生ずる「問題」と、その「解決策」について、受講生諸君とともに考えてゆく。

第 1 回　「文化」とはなにか
第 2 回　「文化」と「多文化」
第 3 回　「民族」と「共同体」
第 4 回　「同化」と「統合」と「嵌込」
第 5 回　「異文化間コミュニケーション」という問題
第 6 回　「文明の衝突」？
第 7 回　フランス語圏のケース
第 8 回　ドイツ語圏のケース
第 9 回　アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアのケース
第 10 回　「共和主義」と「多文化主義」
第 11 回　「アイデンティティ」と「認知」
第 12 回　「本質主義」と「構築主義」
第 13 回　「多文化主義」と「複文化主義」
第 14 回　ふたたび「文化」とはなにか
第 15 回　ふりかえりとまとめ

●評価方法

グループによる討論およびポートフォリオによるふりかえりと自己評価。どんな些細なことでも、気づきをしるせるよう、授業内容についてあれこれ思弁することがもとめられる。

くわえて、とうぜんのことながら、出席は重視される。

●受講生へのコメント

ひとまず、「あたりまえ」のことを疑ってみる習慣を身につけ、「文化」について、じぶんがいかに「思い込み」に捕らわれていたかを感じてほしい。

●参考文献・教材

ジャン＝ピエール・シュヴェヌマン『〈共和国〉はグローバル化を超えられるか』（平凡社）
アンドレア・センプリーニ『多文化主義とは何か』（白水社）
サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』（集英社）
マルク・クレポン『文明の衝突という欺瞞』（新評論）
小坂井敏晶『民族という虚構』（東京大学出版会）
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』（丸善）
三浦信孝『現代フランスを読む』（大修館書店）
西阪仰『相互行為分析という視点：文化と心の社会学的記述』（金子書房）
その他、授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX2505	開講期	単位数
M178	**地域社会文化学研究Ⅰ**			後火 4	2 単位
	英文名 Advanced Area Studies in Society and Culture Ⅰ			担当教員名 神竹 道士 教授	

●科目の主題

18 世紀の後半、プファルツ侯国の首都マンハイムで多彩な才能を開花させた Johann Jakob Hemmer（1733－1790）の生涯と功績について論じる。

●到達目標

ドイツの郷土史研究家たちによるヘマー研究フォーラム「アカデミア・ドミトル」から、2008 年 6 月に *Johann Jakob Hemmer* が刊行された。本書を参考文献として読むことで、プファルツ侯国の歴史の一端を学ぶことが本講義の目標である。

●授業内容・授業計画

本講義の授業内容と授業計画は、以下の通りである。

第 1 回　導入
第 2 回　ヘマー研究フォーラム「アカデミア・ドミトル」
第 3 回　ヘマーの生誕地ホアバッハ
第 4 回　18 世紀のプファルツ侯国
第 5 回　物理学での功績
第 6 回　気象学での功績
第 7 回　医学での功績

第 8 回　現存するヘマーの避雷針
第 9 回　熱気球の打ち上げ
第 10 回　マンハイム科学アカデミー
第 11 回　ヘマーの規範文法
第 12 回　ヘマーの正書法改革
第 13 回　マンハイム・ドイツ語協会
第 14 回　ヘマーとクラインの対立
第 15 回　まとめ

●評価方法
出席と平常点とで総合的に評価する。
●受講生へのコメント
ドイツ語の文献を毎回読むので、必ず予習すること。
●参考文献・教材
Studienforum Jahann Jakob Hemmer e.V.（herausgegeben）: *Johann Jakob Hemmer. Geistlicher, Sprachforscher, erfolgreicher Physiker, Meteorologe und Vollender des Blitzableiters.* Aachen 2008.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX2507	開講期	単位数
M179	ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅰ			前金 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in German and Francophone Language and Culture Ⅰ			担当教員名 神竹 道士 教授／高井 絹子 准教授／津川 廣行 教授／福島 祥行 教授／白田 由樹 准教授	

●科目の主題
ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化に関する基本的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。それと平行して各種研究方法について概説し、研究資料の扱いについても講じる。また受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討議をする。
●到達目標
受講生が広い総合的見地に立った研究を行えるよう、その基礎を与えることを目的とする。
●授業内容・授業計画
主として、ドイツ語圏の文学・語学・文化に関する問題を取り上げる。
●評価方法
平常点とレポートにより、総合的に評価する。
●受講生へのコメント
出席を重視します。
●参考文献・教材
適宜、プリントを配布し、参考文献を紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX2508	開講期	単位数
M180	ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅱ			後金 2	2 単位
	英文名 Advanced Studies in German and Francophone Language and Culture Ⅱ			担当教員名 神竹 道士 教授／高井 絹子 准教授／津川 廣行 教授／福島 祥行 教授／白田 由樹 准教授	

●科目の主題
ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化に関する基本的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。それと平行して各種研究方法について概説し、研究資料の扱いについても講じる。また受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討議をする。
●到達目標
受講生が広い総合的見地に立った研究を行えるよう、その基礎を与えることを目的とする。
●授業内容・授業計画
主として、フランス語圏の文学・語学・文化に関する問題を取り上げる。

●評価方法
平常点とレポートにより、総合的に評価する。
●受講生へのコメント
出席を重視します。
●参考文献・教材
適宜、プリントを配布し、参考文献を紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX3601	開講期	単位数
M181	ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ			前火 5	2 単位
	英文名 Reserch Guidance in German and Francophone Language and Culture Ⅰ			担当教員名 神竹 道士 教授／津川 廣行 教授／福島 祥行 教授	

●科目の主題
ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化に関する修士論文作成の指導を行う。
●到達目標
論文テーマの設定、論文の構成、主題とそれを論じる研究方法の適合性、主題に即した論述の一貫性、論文の形式的統一（表題、目次、章立てなどの論文全体の体裁の統一、注や文献資料の表記の統一）など、修士論文作成に必要な事項について指導し、論文完成に至らしめる。
●授業内容・授業計画
（神竹道士教授）ドイツ語学に関して、歴史的あるいは現代的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。
（津川廣行教授）フランス語圏文学に関して、文化・思想・歴史なども含めた広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。
（福島祥行教授）フランス語学に関して、社会的、文化的、歴史的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。
●評価方法
平常点とレポートにより総合的に評価する。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
適宜、参考文献を紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX3602	開講期	単位数
M182	ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ			後火 5	2 単位
	英文名 Reserch Guidance in German and Francophone Language and Culture Ⅱ			担当教員名 神竹 道士 教授／津川 廣行 教授／福島 祥行 教授	

●科目の主題
ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化に関する修士論文作成の指導を行う。
●到達目標
論文テーマの設定、論文の構成、主題とそれを論じる研究方法の適合性、主題に即した論述の一貫性、論文の形式的統一（表題、目次、章立てなどの論文全体の体裁の統一、注や文献資料の表記の統一）など、修士論文作成に必要な事項について指導し、論文完成に至らしめる。
●授業内容・授業計画
（神竹道士教授）ドイツ語学に関して、歴史的あるいは現代的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。
（津川廣行教授）フランス語圏文学に関して、文化・思想・歴史なども含めた広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。
（福島祥行教授）フランス語学に関して、社会的、文化的、歴史的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。
●評価方法
平常点とレポートにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
適宜、参考文献を紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2501	開講期	単位数
M183	言語応用学研究 I			前火 4	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Linguistics Applied I			担当教員名 関 茂樹 教授	

●科目の主題
英語の意味論の分野を対象とする。講義を通じて、論文の構成、議論の組み立て、言語資料の収集およびその利用法といった基本的な事柄を確認することと各自の研究分野に積極的に取り組むことを課題とする。
●到達目標
新しい言語理論とともに伝統的な文法論の成果を取り入れ、基本的な方法論の理解を深めることを目標とする。同時に、文の統語構造と情報伝達機能の双方をバランスよく考察できるような能力を身につけることを目標とする。
●授業内容・授業計画
意味論の分野で、とくに情報構造を扱った部分を精読し、様々な観点から分析の妥当性を検討する。

第 1 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 2 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 3 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 4 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 5 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 6 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 7 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 8 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 9 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 10 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 11 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 12 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 13 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 14 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。
第 15 回　Quirk et al.（1985）第 18 章を精読する。

●評価方法
平常点とレポートにより評価する。
●受講生へのコメント
関連する文献を読んで、積極的に議論に参加すること。
●参考文献・教材
プリント配布。参考文献は授業で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2502	開講期	単位数
M184	言語応用学研究演習 1			後火 4	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Linguistics Applied 1			担当教員名 関 茂樹 教授	

●科目の主題
主として、英語の意味論の分野の文献を取り上げ、その議論の組み立てとその妥当性および言語資料の提示の方法について理解を深めることを課題とする。
●到達目標
基本的文献の精読により、文の統語構造と意味の対応関係が個別の言語でどのように反映されているかを考察する。同時に、個別言語の分析から得られた知見をもとに、諸言語に共通と考えられる情報伝達の一般的な特性を、新しい言語理論の成果を取り入れながら検討し、理解を深めることを目標とする。
●授業内容・授業計画
Lambrecht（1994）を取り上げ、資料の分析方法、論文の構成、資料の提示方法について、多様な観点から検

討する。

第 1 回　Lambrecht（1994）の第 1 章を精読する。
第 2 回　Lambrecht（1994）の第 1 章を精読する。
第 3 回　Lambrecht（1994）の第 2 章を精読する。
第 4 回　Lambrecht（1994）の第 2 章を精読する。
第 5 回　Lambrecht（1994）の第 2 章を精読する。
第 6 回　Lambrecht（1994）の第 2 章を精読する。
第 7 回　Lambrecht（1994）の第 2 章を精読する。
第 8 回　Lambrecht（1994）の第 2 章を精読する。
第 9 回　Lambrecht（1994）の第 3 章を精読する。
第 10 回　Lambrecht（1994）の第 3 章を精読する。
第 11 回　Lambrecht（1994）の第 3 章を精読する。
第 12 回　Lambrecht（1994）の第 3 章を精読する。
第 13 回　Lambrecht（1994）の第 3 章を精読する。
第 14 回　Lambrecht（1994）の第 3 章を精読する。
第 15 回　Lambrecht（1994）の第 3 章を精読する。

●評価方法

平常点およびレポートによる。

●受講生へのコメント

関連する文献を読んで、議論に積極的に参加すること。

●参考文献・教材

プリント配布。授業で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2503	開講期	単位数
M185	**言語応用学研究Ⅱ**			前水 4	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Linguistics Applied Ⅱ			担当教員名 井狩 幸男 教授	

●科目の主題

神経心理学と心理言語学の学際領域である神経心理言語学分野の問題を取り上げ、人間と言語の関係を、脳における言語処理の共時的観点、並びに言語発達の通時的観点から考察し、人間にとって言語とは何かという問題を検討しながら、従来の言語研究とは異なった視点から、言語の本質に迫ることを目的とする。

●到達目標

主に次の 2 つを目標とする。
(1) 神経心理言語学に関わる様々な問題について、基本的な知識を得る。
(2) 修士論文のテーマとの関係性を探る。

●授業内容・授業計画

2 冊の本を取り上げ、神経心理言語学に関する問題について深く考察する。

第 1 回　授業の導入
第 2 回　早期のカテゴリー表象と概念
第 3 回　初期の語彙
第 4 回　脳と認知の発達
第 5 回　子どもの文法理解の発達
第 6 回　小児期における実行機能：発達と障害、心の理解
第 7 回　数学的・科学的思考
第 8 回　これまでのまとめと今後の展開
第 9 回　意識の実験、無意識の深さを測る
第 10 回　意識は何のためにあるのか？
第 11 回　意識的思考のしるし
第 12 回　意識を理論化する
第 13 回　究極のテスト
第 14 回　意識の未来
第 15 回　授業のまとめ

●評価方法

出席・発表・レポートを総合的に評価する。

●受講生へのコメント
テキストを読み進める中で、言語現象に関わる諸相を多面的に深く考察することに習熟して欲しい。
●参考文献・教材
ジョン・オーツ 他（2010）『子どもの認知と言語はどう発達するか』松柏社
スタニスラス・ドゥアンヌ（2015）『意識と脳』紀伊國屋書店

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2504	開講期	単位数
M186	言語応用学研究演習 2			後水 4	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Linguistics Applied 2			担当教員名 井狩 幸男 教授	

●科目の主題
本授業では、母語獲得研究と言語に関する脳科学研究から得られる知見に基づき、日本の英語教育において生きたことばとして英語を習得するための条件を検討するとともに、その条件を可能とする脳内神経機構について考察する。
●到達目標
母語獲得と脳科学の研究成果から、言語応用学の諸相を深く考察する。
●授業内容・授業計画
論文を読み、母語獲得と脳科学の研究成果から得られる知見を纏め、発表する。
第 1 回　本科目の進め方について
第 2 回　母語獲得研究の基礎知識、並びにアフォーダンス・非線形力学系理論の解説
第 3 回　運動と自己組織
第 4 回　歩行における脳と環境の強結合
第 5 回　身体の自由度問題と脳のバインディング問題
第 6 回　初期発達過程における U 字型現象
第 7 回　脳と身体のデザイン原理
第 8 回　これまでのまとめ
第 9 回　母語獲得における脳内原理の解説
第 10 回　言語習得のための神経基盤 - 同期 -
第 11 回　言語習得のための神経基盤 - 統合 -
第 12 回　言語習得のための神経基盤 - 調整 -
第 13 回　「同期」「統合」「調整」と英語教育
第 14 回　これまでのまとめ
第 15 回　総括
●評価方法
出席・発表・レポートを総合的に評価する。
●受講生へのコメント
言語現象を多面的に深く考察する姿勢を身につけ、修士論文、博士論文の執筆に繋がることを期待する。
●参考文献・教材
多賀厳太郎（2002）『脳と身体の動的デザイン－運動・知覚の非線形力学と発達』金子書房
井狩幸男（2009）『生きたことばを習得するための英語教育－母語獲得と脳科学の研究成果を踏まえて－』

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2505	開講期	単位数
M187	言語応用学研究Ⅲ			前木 3	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Linguistics Applied Ⅲ			担当教員名 山崎 雅人 教授	

●科目の主題
講義の内容については、できるだけ受講生の要望に柔軟に対応できるようにするが、修士課程の大きな目標である修士論文の研究方法をいかに理解・習得するかについて、言語応用学専修の修士論文の分析（特にそこで用いられている研究手段の分析）等を通じて、受講生自身の論文作成に資するように、講義を行う。
●到達目標
修士論文に要求されるレベルとはどのようなものかを、具体的に理解することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

本講義では、当専修で過去に執筆された修士論文の分析により、扱われているさまざまな課題を横断的に検討する作業を行い、当該学問の核となる問題意識を映し出すよう努めて行く。受講生には、各自が興味を抱いた言語学・言語応用論上のテクニカル・タームを手がかりとして、それに関連する論文や研究書を紹介することで、共有知識を増やすよう解説及び議論を行う。さらに最終段階では、各自の研究計画書に基づいた方針を発展させることで、その後の研究方向を発展させる手がかりを得られるよう努める。

第 1 回　講義の進め方
第 2 回　修士論文の分析 1
第 3 回　修士論文の分析 2
第 4 回　修士論文の分析 3
第 5 回　修士論文の分析 4
第 6 回　修士論文の分析 5
第 7 回　修士論文の研究テーマを見出すために 1
第 8 回　修士論文の研究テーマを見出すために 2
第 9 回　修士論文の研究テーマを見出すために 3
第 10 回　修士論文の研究テーマを見出すために 4
第 11 回　修士論文の研究テーマを見出すために 5
第 12 回　研究計画書に基づく発展研究 1
第 13 回　研究計画書に基づく発展研究 2
第 14 回　研究計画書に基づく発展研究 3
第 15 回　補遺とまとめ

●評価方法

上記の計画にそって、報告担当者には資料を伴った発表が求められる。講義は、その内容への解説と報告者以外の受講生によるコメントを主軸に進められる。こうした平常の講義への参画により、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

言語応用学専修の大学院生のみならず、言語学・言語応用学を通じて、各自の学問的地平を広げようと思う他専修の大学院生の求めにも応じる体制を思量している。

●参考文献・教材

教室で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2506	開講期	単位数
M188	**言語応用学研究演習 3**			後木 2	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Linguistics Applied 3			担当教員名 山崎 雅人 教授	

●科目の主題

修士論文の雛型もしくは習作となる小論文の作成を通じて、翌年の修士論文の作業手順を学ぶ。

●到達目標

研究課題の検討やデータの取扱など、論文執筆で直面するさまざまな問題について自ら考察し、解決策を案出することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

全十五回を、前半と後半の二期に分け、前半では先行研究をよい意味で「換骨奪胎」してみることで、修士論文の骨格を組み立てる。後半ではデータ部分を仮想的に扱いつつ、方法論を組み立てることで修士論文の習作を作り上げ、二年次での実際の研究作業を進める手がかりとする。

第 1 回　演習の進め方について
第 2 回　先行研究の分析　その 1
第 3 回　先行研究の分析　その 2
第 4 回　先行研究の分析　その 3
第 5 回　仮想データの操作　その 1
第 6 回　仮想データの操作　その 2
第 7 回　方法論の研究　その 1　仮説が実証されない場合
第 8 回　方法論の研究　その 2　実証方法の再検討
第 9 回　方法論の研究　その 3　実験環境の変更
第 10 回　レジュメ期　その 1

第 11 回　レジュメ期　その 2
第 12 回　文章期　その 1
第 13 回　文章期　その 2
第 14 回　プレゼン予行演習
第 15 回　補遺とまとめ

●評価方法
出席・課題作業・コメントや質疑応答など、受講生に求められることをどれだけ積極的にこなしたかで、総合的に判断する。
●受講生へのコメント
修士論文の完成度が修士課程の満足度に比例する。全力を尽くしてほしい。
●参考文献・教材
教室で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2507	開講期	単位数
M189	**言語応用学研究Ⅳ**			前火 2	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Linguistics Applied Ⅳ			担当教員名 田中 一彦 教授	

●科目の主題
英語、日本語の意味論、語用論に関する講義、および文献講読を通じて、ことばの分析力を養う。
●到達目標
講義、および文献の精読により、事実観察の仕方、データ収集、およびその分析方法を理解する。
●授業内容・授業計画
英語の時制とモダリティーに関する論文を批判的に検討していく。
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　Salkie（2010）1
第 3 回　Salkie（2010）2
第 4 回　Salkie（2010）3
第 5 回　Salkie（2010）4
第 6 回　Salkie（2010）5
第 7 回　Salkie（2010）6
第 8 回　Depraetere and Verhulst（2008）1
第 9 回　Depraetere and Verhulst（2008）2
第 10 回　Depraetere and Verhulst（2008）3
第 11 回　Depraetere and Verhulst（2008）4
第 12 回　Depraetere and Verhulst（2008）5
第 13 回　Depraetere and Verhulst（2008）6
第 14 回　Depraetere and Verhulst（2008）7
第 15 回　まとめ
●評価方法
平常点（出席点を含む）ならびにレポートの成績を総合的に評価する。
●受講生へのコメント
十分な予習を行い、授業中の議論に積極的に参加することが望ましい。
●参考文献・教材
プリント配布 Salkie（2010）“Will: tense or modal or both?”, *English Language and Linguistics*.Depraetere and Verhulst（2008）” Source of modality: a reassessment”, *English Language and Linguistics*.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2508	開講期	単位数
M190	**言語応用学研究演習 4**			後木 3	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Linguistics Applied 4			担当教員名 田中 一彦 教授	

●科目の主題

英語、日本語の意味論、語用論に関する文献の読解を通じて、論文の構成法を含めたことばの分析力を養う。

●到達目標

特定のテーマに絞ったことばのデータ収集を行い、その問題点を発見し、その解決策を探る。

●授業内容・授業計画

我々のコミュニケーションに文化がどのように関わっているかを分析した論文を精読し、Cross-cultural Pragmatics とは何かを明らかにしていく。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　Culture and Communication 1
第 3 回　Culture and Communication 2
第 4 回　Culture and Communication 3
第 5 回　Culture and Communication 4
第 6 回　Appologies in Japanese and Englsih 1
第 7 回　Appologies in Japanese and Englsih 2
第 8 回　Appologies in Japanese and Englsih 3
第 9 回　Appologies in Japanese and Englsih 4
第 10 回　Appologies in Japanese and Englsih 5
第 11 回　Appologies in Japanese and Englsih 6
第 12 回　Appologies in Japanese and Englsih 7
第 13 回　Appologies in Japanese and Englsih 8
第 14 回　Appologies in Japanese and Englsih 9
第 15 回　まとめ

●評価方法

平常点（出席点を含む）ならびにレポートの成績を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

十分な予習を行い、授業中の議論に積極的に参加することが望ましい。

●参考文献・教材

プリントを配布 Helen Spencer-Oatey (ed.) (2008) *Culturally Speaking: Managing Rapport across Cultures.*

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2509	開講期	単位数
M191	**言語応用学総合研究 I**			前金 1	2 単位
	英文名 Advanced Comprehensive Studies in Linguistics Applied I			担当教員名 関 茂樹 教授／井狩 幸男 教授／ 山崎 雅人 教授／田中 一彦 教授	

●科目の主題

前期博士課程入学初年度において、言語応用学に関わる諸分野について総合的な知見が得られるような講義を行う。担当教員の専門分野は意味論、語用論、心理言語学、比較言語文化学であり、それぞれの分野の基本文献と方法論について習熟することを目標とする。

●到達目標

修士論文を書くための構想の土台をつくることを目標とする。

●授業内容・授業計画

各教員の研究対象は主として英語であり、参考用書物にはもっぱら英語のものを用いる。教員のそれぞれの専門分野について、これまでの研究内容を講義し、議論の組み立て方、資料の収集方法、その適切な引用の仕方、効果的な表現法などに習熟してもらうことを目標とする。その過程で、修士論文のテーマを見出し、各自の構想発表へつなげることを期待している。

第 1 回：研究にあたっての心構え
第 2 回から第 4 回：各自の研究テーマをもとに基本論文の紹介
第 5 回から第 10 回：各自の研究テーマをもとに基本論文の考察

第 11 回から第 14 回：各自の研究テーマをもとに基本論文について議論を深める
第 15 回：まとめ

●評価方法

レポートおよび平常点による。

●受講生へのコメント

さまざまな分野の文献を多く読むことが必要であり、各自が研究対象とする分野、テーマについて、積極的に取り組むことが必要である。

●参考文献・教材

主にプリントを使用する。参考文献は授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG2510	開講期	単位数
M192	**言語応用学総合研究Ⅱ**			後金 1	2 単位
	英文名 Advavced Comprehensive Studies in Linguistics and Information Ⅱ			担当教員名 関 茂樹 教授／井狩 幸男 教授／ 山崎 雅人 教授／田中 一彦 教授	

●科目の主題

前期博士課程入学初年度において、言語応用学に関わる諸分野について総合的な知見が得られるような講義を行う。担当教員の専門分野は意味論、語用論、心理言語学、比較言語文化学であり、それぞれの分野の基本文献と方法論について習熟することを目標とする。

●到達目標

様々な分野の論文を読み、自分の修士論文の研究テーマを決定する。

●授業内容・授業計画

各教員の研究対象は主として英語であり、参考用書物にはもっぱら英語のものを用いる。教員のそれぞれの専門分野について、議論の組み立て方、資料の収集方法、その適切な引用の仕方、効果的な表現法などに習熟してもらうことを目標とする。その過程で、修士論文のテーマを見出し、各自の構想発表へつなげることを期待している。

●評価方法

レポートと平常点による。

●受講生へのコメント

それぞれの研究課題を明確にし、研究課題と研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。

●参考文献・教材

主としてプリントを使用する。授業中に参考文献を指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG3601	開講期	単位数
M193	**言語応用学研究指導Ⅰ**			前金 2	2 単位
	英文名			担当教員名 関 茂樹 教授／井狩 幸男 教授／ 山崎 雅人 教授／田中 一彦 教授	

●科目の主題

言語応用学の分野に関する修士論文作成の指導を行う。具体的には、論文の主題の設定の妥当性、議論の組み立て方、参考文献の取り扱い方、資料の収集方法の妥当性、およびその分析の妥当性について指導を行う。

●到達目標

すぐれた修士論文にむけて、分析資料を整理し、論考を完成させる。

●授業内容・授業計画

（関　茂樹教授）主に、語用論の立場から、関連する専攻分野について指導する。専攻研究の中で重要な文献については、議論の構成、展開の仕方、資料の妥当性などについて詳しく検討し、論文作成へと導く。

（井狩幸男教授）神経心理言語学の立場から、母語獲得、第二言語習得、バイリンガリズム、失語症、失読症において観察されるさまざまな言語現象を通して、人間にとって言語とは何かという問題を検討し、同時に、言語への応用を探る。

（山崎雅人教授）言語類型論と認知言語学の視点から諸言語の多様性を貫く原理の分布状況を考察し、様々なデータを一貫した論理に基づいて分析する論考を構築できるように指導する。

（田中一彦教授）伝統的な言語理論を考慮しつつ、現代の代表的な言語理論を考察する。主に、小説・新聞・

雑誌などを言語資料として、特定の言語現象を意味論、語用論、さらには談話といった多角的側面から分析できるように指導する。

●評価方法

平常点による。

●受講生へのコメント

論文作成のための資料の妥当性、論述の方法、文章表現について絶えず注意を心がけたい。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG3602	開講期	単位数
M194	**言語応用学研究指導Ⅱ**			後金 2	2 単位
	英文名 Supervision of a Master's Thesis in Linguistics Applied Ⅱ			担当教員名 関 茂樹 教授／井狩 幸男 教授／山崎 雅人 教授／田中 一彦 教授	

●科目の主題

言語応用学の分野に関する修士論文作成の指導を行う。具体的には、論文の主題の設定の妥当性、議論の組み立て方、参考文献の取り扱い方、資料の収集方法の妥当性、およびその分析の妥当性について指導を行う。

●到達目標

すぐれた修士論文にむけて、分析資料を整理し、論考を完成させる。

●授業内容・授業計画

（関　茂樹教授）主に、語用論の立場から、関連する専攻分野について指導する。専攻研究の中で重要な文献については、議論の構成、展開の仕方、資料の妥当性などについて詳しく検討し、論文作成へと導く。

（井狩幸男教授）神経心理言語学の立場から、母語獲得、第二言語習得、バイリンガリズム、失語症、失読症において観察されるさまざまな言語現象を通して、人間にとって言語とは何かという問題を検討し、同時に、言語への応用を探る。

（山崎雅人教授）言語類型論と認知言語学の視点から諸言語の多様性を貫く原理の分布状況を考察し、様々なデータを一貫した論理に基づいて分析する論考を構築できるように指導する。

（田中一彦教授）伝統的な言語理論を考慮しつつ、現代の代表的な言語理論を考察する。主に、小説・新聞・雑誌などを言語資料として、特定の言語現象を意味論、語用論、さらには談話といった多角的側面から分析できるように指導する。

第 1 回から第 3 回　先行研究についての調査と考察
第 4 回から第 7 回　具体的な独自の研究成果の発表と考察
第 8 回から第 11 回　議論をふまえた独自の研究成果の再考と考察
第 12 回から第 15 回　論文の完成にむけての考察と推敲

●評価方法

平常点による。

●受講生へのコメント

論文作成のための資料の妥当性、論述の方法、文章表現について絶えず注意を心がけたい。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2501	開講期	単位数
M195	**表現文化学研究Ⅰ**			前火 4	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Culture and Representation Ⅰ			担当教員名 小田中 章浩 教授	

●科目の主題

フィクションにおける物語の構造

●到達目標

文学や映画、演劇（さらにはマンガやゲーム）のようなフィクションに見られる物語の基本的な構造とは何か。本講は、表現文化学的な研究を行うために必要な、物語論の基礎的な知識を与えることを目的とする。

●授業内容・授業計画

本年度は、David Herman（ed.），*The Cambridge Companion to Narrative*, Cambridge University Press, 2007 をテキストとして、その中から Time and Space, Focalization, Genre のようないくつかの章を受講者と共に訳読する。その際、前年度までテキストとして用いた Abott, *The Cambridge Introduction to Narrative* の内容も参考にする。

第 1 回　授業ガイダンス
第 2 回　テクスト講読とディスカッション（1）
第 3 回　テクスト講読とディスカッション（2）
第 4 回　テクスト講読とディスカッション（3）
第 5 回　テクスト講読とディスカッション（4）
第 6 回　テクスト講読とディスカッション（5）
第 7 回　テクスト講読とディスカッション（6）
第 8 回　テクスト講読とディスカッション（7）
第 9 回　テクスト講読とディスカッション（8）
第 10 回　テクスト講読とディスカッション（9）
第 11 回　テクスト講読とディスカッション（10）
第 12 回　テクスト講読とディスカッション（11）
第 13 回　テクスト講読とディスカッション（12）
第 14 回　テクスト講読とディスカッション（13）
第 15 回　授業のまとめ

●評価方法

毎回の講読における受講者の理解度に基づいて評価する。

●受講生へのコメント

無し。

●参考文献・教材

テクスト：

David Herman（ed.），*The Cambridge Companion to Narrative*, Cambridge University Press,2007

参考文献：

H.Porter Abbott, *The Cambridge Introduction to Narrative*, Second edition,Cambridge University Press,2008

必要に応じてプリントを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2502	開講期	単位数
M196	**表現文化学研究演習 1**			後火 2	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Culture and Representation1			担当教員名 小田中 章浩 教授	

●科目の主題

物語におけるドラマ、ドラマとしての物語

●到達目標

文学や演劇、映画、あるいはマンガなど、さまざまな表現に見られる物語性について、そこにあるドラマ的なものとの関係性について考察することを目標とする。

●授業内容・授業計画

前期で読んだ *The Cambridge Companion to Narrative* および *The Cambridge Introduction to Narrative* あるいは他の参考文献で得られた知識に基づき、まず物語とドラマの類似性と共通点について整理を行う。次に受講者の個別の研究分野の中で、そこに見られる物語性とドラマ的なものとの関係について報告してもらい、ディスカッションを行う。

第 1 回　授業ガイダンス
第 2 回　物語とドラマに関する理論的検討（1）
第 3 回　物語とドラマに関する理論的検討（2）
第 4 回　物語とドラマに関する理論的検討（3）
第 5 回　受講者による事例報告と検討（1）
第 6 回　受講者による事例報告と検討（2）
第 7 回　受講者による事例報告と検討（3）
第 8 回　受講者による事例報告と検討（4）

第 9 回　受講者による事例報告と検討（5）
第 10 回　受講者による事例報告と検討（6）
第 11 回　受講者による事例報告と検討（7）
第 12 回　受講者による事例報告と検討（8）
第 13 回　受講者による事例報告と検討（9）
第 14 回　受講者による事例報告と検討（10）
第 15 回　授業のまとめ

●評価方法
受講生は各自の専門分野における物語性とドラマ的なものとの関係についてリサーチを行い、報告することが求められる。
評価は、毎回の授業において与えられた課題を確実に達成したかどうかに基づいて行う。

●受講生へのコメント
無し。

●参考文献・教材
教科書：
前期「表現文化学研究Ⅰ」と同じ。参考文献：
Luc Herman & Bart Vervaeck, *Handbook of Narrative Analysis* , University of Nebraska Press, 2001.
Susana Onega and Jose Angel Garcia Landa, (ed.) *Narratology* , Longman, 1996. 必要に応じてプリントを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2503	開講期	単位数
M197	**表現文化学研究Ⅱ**			後火 4	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Culture and Representation Ⅱ			担当教員名 野末 紀之 教授	

●科目の主題
西欧では 19 世紀から 20 世紀にかけてカルチャー（文化・教養）をめぐるさまざまな主張や論争があった。これらは、現代日本の（また、現代日本において）ポピュラー・カルチャーを研究するさいに重要なバックグラウンドを提供してくれる。そこで議論された問題点を把握し、現代の視点から考察を加えることが主題である。

●到達目標
歴史的な議論をたどるなかで、みずからの関心のある文化的現象と関係づけて論じること。

●授業内容・授業計画
演習形式でテキストを読み進める。
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　テキスト読解（1）
第 3 回　テキスト読解（2）
第 4 回　テキスト読解（3）
第 5 回　テキスト読解（4）
第 6 回　テキスト読解（5）
第 7 回　テキスト読解（6）
第 8 回　テキスト読解（7）
第 9 回　テキスト読解（8）
第 10 回　テキスト読解（9）
第 11 回　テキスト読解（10）
第 12 回　テキスト読解（11）
第 13 回　テキスト読解（12）
第 14 回　まとめ
第 15 回　レポート作成のために

●評価方法
出席、発表、授業への参加度、試験・レポートを総合的に判断する。

●受講生へのコメント
十分な予習が必要。

●参考文献・教材
John Storey, *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader* (Prentice Hall)。

プリント配布。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2504	開講期	単位数
M198	**表現文化学研究演習 2**			前木 4	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Culture and Representation2			担当教員名 野末 紀之 教授	

●科目の主題

フーコー『性の歴史』第 1 巻を中心に精読し、（ホモ）セクシュアリティをめぐる「抑圧」言説や権力のあり方、身体の規律などの記述について批判的に考察する。

●到達目標

当該テーマにかんする基本的な知識に加え、批判的な視点を得る。

●授業内容・授業計画

テキストを演習形式で読みすすめる。適宜、サブテキストを使用する。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　テキスト読解（1）
第 3 回　テキスト読解（2）
第 4 回　テキスト読解（3）
第 5 回　テキスト読解（4）
第 6 回　テキスト読解（5）
第 7 回　テキスト読解（6）
第 8 回　テキスト読解（7）
第 9 回　テキスト読解（8）
第 10 回　テキスト読解（9）
第 11 回　テキスト読解（10）
第 12 回　テキスト読解（11）
第 13 回　テキスト読解（12）
第 14 回　論文読解
第 15 回　総括

●評価方法

出席、発表、試験、レポートを総合的に判断する。

●受講生へのコメント

十分な予習が必要。

●参考文献・教材

Michel Foucault, *The History of Sexuality:An Introduction* (Vintage) および翻訳書『知への意志』(新潮社)。プリントを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2505	開講期	単位数
M199	**表現文化学研究Ⅲ**			前木 2	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Culture and Representation Ⅲ			担当教員名 三上 雅子 教授	

●科目の主題

performance という語は現代では、身体による演技・演劇的行為のみならずさまざまな文化現象や日常的行動を評するときに使用される。本授業では、狭義の意味の performance を取り扱うのみならず、こんにち我々をとりまく文化的・社会的現象を performance として捉えその演技性に着目して考察していく。

●到達目標

特定の芸術作品・文化的営為を、社会的・歴史的観点から複合的に分析・研究する方法論の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* を参考文献として使用し、その他の performance に関する議論をあわせて紹介していく。さらに受講生各自の研究テーマに関連する諸問題についても講じる。

第 1 回　イントロダクション、アイスブレーキング。
第 2 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（1）

第 3 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introductio*n の紹介（2）
第 4 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introductio*n の紹介（3）
第 5 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（4）
第 6 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（5）
第 7 回　中間総括（1 回目）
第 8 回　事例研究（1）
第 9 回　事例研究（2）
第 10 回　事例研究（3）
第 11 回　中間総括（2 回目）。
第 12 回　受講生による事例研究（1）
第 13 回　受講生による事例研究（2）
第 14 回　受講生による事例研究（3）
第 15 回　全体総括、レポート作製に関する注意

●評価方法
出席、発表、レポートを総合的に評価する。
●受講生へのコメント
自己の関心領域との関連で、授業テーマに関する事例を考えてきてほしい。授業中の討論への積極的参加が望まれる。
●参考文献・教材
Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* を参考文献として使用する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2506	開講期	単位数
M200	**表現文化学研究演習 3**			後木 4	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Culture and Representation 3			担当教員名 三上 雅子 教授	

●科目の主題
本授業では参加者による事例研究に基づいた発表を中心とする。
●到達目標
表現文化学研究に必要な方法論を確認するとともに、学会発表や論文執筆にあたって必要とされるスキルについても、学んでいく。
●授業内容・授業計画
20 世紀の諸芸術ジャンルに関して、受講生に個別発表を行ってもらう。
第 1 回　イントロダクション、アイスブレーキング
第 2 回　受講生各自の発表テーマについて確認、参考文献指示
第 3 回　第 1 回発表ならびに討論
第 4 回　第 2 回発表ならびに討論
第 5 回　第 3 回発表ならびに討論
第 6 回　中間総括（1 回目）
第 7 回　第 4 回発表ならびに討論
第 8 回　第 5 回発表ならびに討論
第 9 回　第 6 回発表ならびに討論
第 10 回　小レポート提出にあたっての注意、討論
第 11 回　中間総括（2 回目）
第 12 回　小レポートに関して総括
第 13 回　最終発表（1）
第 14 回　最終発表（1）
第 15 回　総合総括
●評価方法
出席、発表、レポートを総合的に評価する。
●受講生へのコメント
討論における積極的参加が望まれる。
●参考文献・教材
授業中に適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2507	開講期	単位数
M201	表現文化学研究Ⅳ			前水 3	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Culture and Representation Ⅳ			担当教員名 海老根 剛 准教授	

●科目の主題

今年度は、一年間を通して映画研究者 D・N・ロドウィックの著作 The Virtual Life of Film を講読します。この本でロドウィックは、映像のデジタル化が映画表現と映画理論にもたらす諸帰結を議論しています。フィルムの消滅（アナログ媒体からデジタル媒体への移行）はシネマ（映画）にいかなる影響を及ぼすのか、この移行にはどのような連続性と断絶が見出されるのか。こうした問いに導かれる考察は、映画だけにとどまらず今日の動画文化一般を考える手がかりにもなるでしょう。

●到達目標

今日の映像文化の分析のための基本概念と理論的な視座を学び、みずからの研究に活用できるようにする。

●授業内容・授業計画

テキストの講読を行う。随時、本文で取り上げられている作品を参照しながら授業を進める。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　The Virtual Life of Film（1）
第 3 回　The Virtual Life of Film（2）
第 4 回　The Virtual Life of Film（3）
第 5 回　The Virtual Life of Film（4）
第 6 回　What Was Cinema?（1）
第 7 回　What Was Cinema?（2）
第 8 回　What Was Cinema?（3）
第 9 回　What Was Cinema?（4）
第 10 回　What Was Cinema?（5）
第 11 回　What Was Cinema?（6）
第 12 回　What Was Cinema?（7）
第 13 回　What Was Cinema?（8）
第 14 回　What Was Cinema?（9）
第 15 回　What Was Cinema?（10）

●評価方法

発表によって評価する。

●受講生へのコメント

専修、専門分野を問わず、今日の映像文化の考察に関心を持つ院生の受講を歓迎する。

●参考文献・教材

D. N. Rodowick. The Virtual Life of Film. Harvard University Press, 2007.
授業ではプリントを使用。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2508	開講期	単位数
M202	表現文化学研究演習 4			後水 3	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Culture and Representation 4			担当教員名 海老根 剛 准教授	

●科目の主題

前期に続き、映画研究者 D・N・ロドウィックの著作 The Virtual Life of Film を講読します。この本でロドウィックは、映像のデジタル化が映画表現と映画理論にもたらす諸帰結を議論しています。フィルムの消滅（アナログ媒体からデジタル媒体への移行）はシネマ（映画）にいかなる影響を及ぼすのか、この移行にはどのような連続性と断絶が見出されるのか。こうした問いに導かれる考察は、映画だけにとどまらず今日の動画文化一般を考える手がかりにもなるでしょう。

●到達目標

今日の映像文化の分析のための基本概念と理論的な視座を学び、みずからの研究に活用できるようにする。

●授業内容・授業計画

テキストの講読を行う。随時、本文で取り上げられている作品を参照しながら授業を進める。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　A New Landscape（Without Image）(1)
第 3 回　A New Landscape（Without Image）(2)
第 4 回　A New Landscape（Without Image）(3)
第 5 回　A New Landscape（Without Image）(4)
第 6 回　A New Landscape（Without Image）(5)
第 7 回　A New Landscape（Without Image）(6)
第 8 回　A New Landscape（Without Image）(7)
第 9 回　A New Landscape（Without Image）(8)
第 10 回　A New Landscape（Without Image）(9)
第 11 回　A New Landscape（Without Image）(10)
第 12 回　A New Landscape（Without Image）(11)
第 13 回　A New Landscape（Without Image）(12)
第 14 回　A New Landscape（Without Image）(13)
第 15 回　A New Landscape（Without Image）(14)

●評価方法

発表による。

●受講生へのコメント

専修、専門分野を問わず、今日の映像文化の考察に関心を持つ院生の受講を歓迎する。前期開講の「表現文化学研究 4」の履修を受講の条件とはしないが、講読は前期の授業の続きとなるので、前期開講科目の受講が望ましい。必要であれば前期分のコピーも配布する。

●参考文献・教材

D. N. Rodowick. The Virtual Life of Film. Harvard University Press, 2007.
授業ではプリントを使用。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2509	開講期	単位数
M203	**表現文化学研究Ⅴ**			前水 4	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Culture and Representation Ⅴ			担当教員名 高島 葉子 准教授	

●科目の主題

日本と他地域（ヨーロッパ、アイヌ、東アジア、北方ユーラシア、ネイティブ・アメリカンなど）の民話に関する比較研究。

●到達目標

民話研究、比較民話研究の基本的方法を学んだ上で、異なる民族の民話比較を通して世界観の違い検討する方法を学ぶ。また、民話の比較研究による異文化理解、文化比較などの可能性を考える。

●授業内容・授業計画

前半は民話研究の基本事項を英語による入門書を読むことで学ぶ。後半は民話の比較研究の文献を輪読する。担当者にレジュメを作成して報告してもらった後、受講生全員で討論し理解を深める。学期末には各自のテーマで発表し、レポートにまとめてもらう。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　英語文献講読
第 3 回　英語文献講読
第 4 回　英語文献講読
第 5 回　英語文献講読
第 6 回　英語文献講読
第 7 回　英語文献の講読
第 8 回　日本語論文の報告とディスカッション
第 9 回　日本語論文の報告とディスカッション
第 10 回　日本語論文の報告とディスカッション
第 11 回　日本語論文の報告とディスカッション
第 12 回　日本語論文の報告とディスカッション
第 13 回　日本語論文の報告とディスカッション
第 14 回　発表
第 15 回　まとめ

●評価方法
平常点 50%、レポート 50%で評価する。
●受講生へのコメント
アイヌやネイティブ・アメリカンの民話など馴染みのない民話も取り上げるので、視野を広げる機会としてほしい。
●参考文献・教材
プリントを配布する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2510	開講期	単位数
M204	表現文化学研究演習 5			後水 2	2 単位
	英文名 Advaced Seminar in Culture and Representation 5			担当教員名 中川 眞 教授	

●科目の主題
アーツマネージメントの実践現場として奈良県吉野郡の山村を想定し、過疎地に対応するアーツマネジメントとは何かということを、現地でフィールドワークを行いながら学ぶ。
●到達目標
はじめにアーツマネジメントの理論を学習する。その実践的理解のために、日本（奈良県吉野郡）においてフィールドワークを行い、実際のマネジメントに参画しながら、学問と市民実践の協働を肌で感じ取る。村落におけるフィールドワークが中心であり、その基本的ノウハウを身につける。
●授業内容・授業計画
基本的にはフィールドにおける集中的な演習となる。初めに理論的展望も含めたオリエンテーションを行ったのち、フィールドでは過疎地における文化資源の有効活用による地域振興の方法や効果について、実践的な理解を深める。成果をフォーラム等によって公表する。
第 1 回　オリエンテーション（1）アーツマネジメント理論とは何か
第 2 回　オリエンテーション（2）社会包摂型アーツマネジメントの可能性
第 3 回　フィールドワーク（1）
第 4 回　フィールドワーク（2）
第 5 回　フィールドワーク（3）
第 6 回　フィールドワーク（4）
第 7 回　フィールドワーク（5）
第 8 回　フィールドワーク（6）
第 9 回　フィールドワーク（7）
第 10 回　フィールドワーク（8）
第 11 回　フィールドワーク（9）
第 12 回　フィールドワーク（10）
第 13 回　フィールドワーク（11）
第 14 回　フォーラム準備
第 15 回　フォーラムにて口頭発表
●評価方法
評価はフィールドワークにおける取り組み・成果とフォーラム発表内容に基づいて行う。万が一、フォーラムが開催されない場合は、レポートに代える。
●受講生へのコメント
この授業はアーツマネジメントの実践であり、通常の授業時間の枠組み（特定の曜日・時限）の外で行われる。受講者はそれを念頭において受講すること。但し、アーツマネジメントに関するこれまでの経験は必要ではない。本授業において、日本でも先駆的な社会包摂型のアーツマネジメントの方法論を学ぶこととなる。
●参考文献・教材
中川眞（編著）『これからのアートマネジメント』フィルムアート社、東京、2011
中川眞『アートの力』和泉書房、大阪、2013

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2512	開講期	単位数
M205	表現文化学特殊研究			前集中	2 単位
	英文名 Advaced Studies in Selected Topics in Culture and Representation			担当教員名 日比野 啓 非常勤講師	

●科目の主題

アメリカン・ミュージカル研究入門

●到達目標

アメリカン・ミュージカルを演劇学の対象として研究するのに必要な基礎概念を「身につける」＝ただ理解するのではなく、自分で使いこなせるようにする。

●授業内容・授業計画

統合ミュージカルの最高傑作といわれる『ウェスト・サイド物語』（1957 年初演）を題材として取り上げ、必要に応じてその映画版や他のフィルム・ミュージカルを見ながら、アメリカン・ミュージカルとはどんなもので、研究対象としてどんな分析ができるのか、を講義します。

第 1 回　イントロダクション（1）この講義で何を学ぶのか・大学の講義で何を学ぶのか
第 2 回　イントロダクション（2）『ウェスト・サイド物語』を参照項にする意義・「芝居見たまま」の意義
第 3 回　レヴューと統合ミュージカル
第 4 回　真正性と贋物性（1）物語
第 5 回　意味と非意味（1）ナンバー
第 6 回　意味と非意味（2）ダンスミュージカル
第 7 回　アメリカン・ミュージカル以外の世界各地の音楽劇
第 8 回　中間試験：「『ウェスト・サイド物語』見たまま」
第 9 回　作品外のインフラストラクチャー
第 10 回　アメリカン・ミュージカル以外のアメリカ演劇
第 11 回　セクシュアリティ：作品内、作り手、観客
第 12 回　エスニシティ：作品内、作り手、観客
第 13 回　階級：作品内、作り手、観客
第 14 回　真正性と贋物性（2）
第 15 回　期末試験

●評価方法

授業への積極的な参加（32%）：授業時にレスポンスペーパーを書いてもらいます（計 8 回）。

中間試験（30%）：映画『ウェスト・サイド物語』の任意の 5 分程度のシークエンスを上映し、そのシークエンスであなたが何を見たか、何を聞いたかを書いてもらいます（「見たまま」を書く要領です。「見たまま」については講義で説明します）。

期末試験（38%）：用語説明＋記述式の、よくあるタイプの期末試験を実施します。もし受講者が十分少なければ口頭試問に代えるかもしれません（後者のほうが理解度の判定がより容易なので）。

●受講生へのコメント

アメリカン・ミュージカルは他の多くの商業演劇同様、折衷主義がその特徴です。つまり手法としては「何でもあり Anything Goes」のジャンルで、歌舞伎と同じく、他ジャンルの演劇形態を貪欲に吸収して発展・変化してきたので、アメリカン・ミュージカルとは何であり、研究対象としてどんな分析ができるか、と問われると、包括的な回答がしにくいのです。事実、1990 年代以降、合衆国ではミュージカル研究が本格化しますが、その実態は音楽学、演劇学、映画学、ゲイ・スタディーズなどの寄り合い所帯であり、ディシプリンとして共有されている理念は当初は余りありませんでした。とはいえ、もうそれから十五年近くたったので、アメリカン・ミュージカル研究者間での共通の基盤はできつつあります。本講義では、集中講義のかたちで、日本では殆ど紹介されてこなかった、アメリカン・ミュージカル研究の最新の知見を受講者の皆さんに披露します。

●参考文献・教材

受講希望者は、受講前に映画『ウェスト・サイド物語』を事前に（少なくとも）一度見ておいてください。日本語の研究文献は皆無に等しい（あるいはそう銘打っているものの内容は出鱈目に近い）ので、受講者の関心・意欲及び語学力に応じて、英語文献を紹介したり、あるいは講義で引用したりします。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2513	開講期	単位数
M206	表現文化学総合研究Ⅰ			前金 2	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Culture and Representation Ⅰ			担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識（文化理論等）について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

●到達目標

表現文化学研究にあたって必要とさせる知見・学問的方法論を習得させる。

●授業内容・授業計画

表現文化学を研究するにあたって必要とされる文献を扱い、研究の前提となる文化理論等に関する知識を習得させる。受講生は得た知見に基づいて、研究対象・研究方法等について、討論・報告する。

●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

●受講生へのコメント

授業参加に際しては、自己の研究領域のみではなく、表現文化学研究全般における基本的概念等についても習得・確認することを常に意識すること。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART2514	開講期	単位数
M207	表現文化学総合研究Ⅱ			後金 2	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Culture and Representation Ⅱ			担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識（文化理論等）について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

●到達目標

総合研究Ⅰで習得した知見・スキルの基礎の上に立って、さらに修士論文執筆に向けて総合的知見を獲得させる。

●授業内容・授業計画

受講生の研究分野にかかわる具体的なテーマを取り上げて講じる。受講生は、修士論文で取り組むテーマを絞り込み、研究の方向について報告する。

●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

●受講生へのコメント

修士論文のテーマについて、教員と相談しつつ準備を重ね、授業での発表にのぞむこと。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART3601	開講期	単位数
M208	表現文化学研究指導Ⅰ			前金 3	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Culture and Representation Ⅰ			担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題

表現文化学の修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

修士論文作成に必要な知見・方法論等に習熟させる。

●授業内容・授業計画

研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。

（三上　雅子教授）現代演劇ならびに映画等を対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に立脚して研究することを指導する。

（小田中章浩教授）フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究等を対象とし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。

（野末　紀之教授）19 世紀以後のイギリスを中心とする言語表現および身体表象、身体を重要な契機とする現代日本の言語文化を対象とし、それらにかんする論文作成、発表、研究について指導を行なう。

●評価方法

授業での発表等で評価。

●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談しつつ綿密な計画を立ててのぞむこと。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART3602	開講期	単位数
M209	表現文化学研究指導Ⅱ			後金 3	2 単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Culture and Representation Ⅱ			担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題

表現文化学の修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

研究指導Ⅰで習得した知見・方法論の基礎の上に立って、修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。

（三上　雅子教授）現代演劇ならびに映画等の非言語的テクストを対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に立脚して研究することを指導する。

（小田中章浩教授）フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究を対象とし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。

（野末　紀之教授）19 世紀以後のイギリスを中心とする言語表現および身体表象、身体を重要な契機とする現代日本の言語文化を対象とし、それらにかんする論文作成、発表、研究について指導を行なう。

●評価方法

授業中の発表に基づいて評価する。

●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談のうえ綿密な計画をたててのぞむこと。

●参考文献・教材

授業中に指示。

アジア都市文化学専攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA1501	開講期	単位数
M210	アジア都市文化学基礎研究Ⅰ			後月 2	2 単位
	英文名 Basic Studies of Asian Culture and Urbanism Ⅰ			担当教員名 中川 眞 教授／多和田 裕司 教授	

●科目の主題

アジア都市文化を学ぶための基本概念について、主に東南アジアを対象としながら、文化人類学、民族音楽学、都市文化学の立場からアプローチする。

●到達目標

東南アジア諸都市を対象とした事例分析を通して、アジア都市文化研究のための視点や方法論を身につける。

●授業内容・授業計画

前半は多和田裕司教授が、後半は中川眞教授が授業を行う。

第 1 回　序論
第 2 回　「アジア」概念について
第 3 回　アジア世界へのアプローチ
第 4 回　「都市」概念について
第 5 回　「都市」「都市的」なるものへの考察
第 6 回　「文化」概念について
第 7 回　本質主義的文化観 vs 構築主義的文化観
第 8 回　（中間発表）私が考える「アジア都市文化学」1
第 9 回　（中間発表）私が考える「アジア都市文化学」2
第 10 回　グローバリゼーションとアジアの都市文化
第 11 回　インドネシアの事例研究
第 12 回　タイの事例研究
第 13 回　アートと社会的課題（災害、貧困など）
第 14 回　アジアのサウンドスケープ
第 15 回　アジアにおける身体性

●評価方法

平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業時に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA1502	開講期	単位数
M211	アジア都市文化学基礎研究Ⅱ			前火 5	2 単位
	英文名 Basic Studies of Asian Culture and Urbanism Ⅱ			担当教員名 野崎 充彦 教授／増田 聡 准教授	

●科目の主題

（増田）アジア都市文化学を学ぶために必要となる記述・執筆の方法を改めて振り返りつつ再考する。
（野崎）アジア都市文化を学ぶための基本概念を論じる。とりわけ東アジアを主題とする。

●到達目標

（増田）自身の研究テーマを適切なかたちで文章化し、論文へとまとめあげるための基礎的な技能を身につける。
（野崎）日々目の前で起きる韓国社会のトピックを取り上げ、それを通じた韓国社会の理解、および日本や中国との関わりについて考察する。

●授業内容・授業計画

授業は以下のように実施する。第 1 回～第 7 回は増田が、第 8 回～第 15 回は野崎が担当。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　アジア都市文化学における論文執筆の目的
第 3 回　主張と根拠

第 4 回　参考文献の機能
第 5 回　引用の諸相
第 6 回　剽窃と引用の間
第 7 回　ここまでのまとめ
第 8 回　1 韓国社会のトピック
第 9 回　2 韓国社会のトピック
第 10 回　3 韓国社会のトピック
第 11 回　4 韓国社会のトピック
第 12 回　5 韓国社会のトピック
第 13 回　6 韓国社会のトピック
第 14 回　7 韓国社会のトピック
第 15 回　8 韓国社会のトピック　まとめ

●評価方法
平常評価とレポート。出席を重視する。
●受講生へのコメント
熱心な受講を望む。
●参考文献・教材
授業中に随時、提示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2501	開講期	単位数
M212	都市文化学研究			前水 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Urban Cultures			担当教員名 増田 聡 准教授	

●科目の主題
都市の現代文化研究のための方法論を学ぶ。都市論、メディア論、文化研究、大衆文化論、芸術学などの分野から、受講生の能力と関心に基づいて選択された日本語あるいは英語文献を講読すると共に、大阪都市圏におけるフィールドワークを行い、都市とそこでの文化実践に対するアプローチ方法を身につける。
●到達目標
都市の現代文化研究のための方法論的視座を身につけ、各人の研究テーマに即しつつ用いることができる能力を獲得する。
●授業内容・授業計画
受講生による文献調査や報告を適宜行う。受講者との相談の上、学外での現地調査を適宜行なうため、下記スケジュールは予定にとどまる。
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　文献講読と討論（1）
第 3 回　文献講読と討論（2）
第 4 回　文献講読と討論（3）
第 5 回　文献講読と討論（4）
第 6 回　フィールドワーク（1）
第 7 回　文献講読と討論（5）
第 8 回　文献講読と討論（6）
第 9 回　文献講読と討論（7）
第 10 回　フィールドワーク（2）
第 11 回　文献講読と討論（8）
第 12 回　文献講読と討論（9）
第 13 回　文献講読と討論（10）
第 14 回　フィールドワーク（3）
第 15 回　文献講読と討論（11）およびまとめ
●評価方法
平常点。報告内容および討議について総合的に評価する。
●受講生へのコメント
授業の進め方についてのガイダンスを行うので初回の授業には必ず出席すること。受講生の報告と議論を中心に授業は進行するので積極的な授業参加が望まれる。単に専門的知識を教授するのではなく、都市文化研究のため

の学際的な視点を（受講生各々の多様な関心をふまえて）養成することが主眼となる授業であるため、アジア都市文化学専攻所属以外の学生の受講を大いに歓迎する。

●参考文献・教材

授業内で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2502	開講期	単位数
M213	**都市文化学研究演習**			後水 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Urban Environment			担当教員名 増田 聡 准教授	

●科目の主題

都市の現代文化研究に関連する諸理論を学ぶ。都市論、メディア論、文化研究、大衆文化論、芸術学などの分野から、受講生の能力と関心に基づいて選択された日本語あるいは英語文献を講読すると共に、受講生が進める各々の研究テーマについて討議を行い、都市における文化的蓄積や文化実践の諸相への適切なアプローチを可能にする方法論的基盤の養成を目指す。必要に応じて大阪都市圏でのフィールドワークを実施する。

●到達目標

都市の現代文化研究に関連する諸理論を身につけ、各自の研究関心に応用できる能力を獲得する。

●授業内容・授業計画

初回受講時に、受講者の専攻や関心、語学力に応じて講読テキストや授業方針を決定し、受講者による発表をもとに議論する。初回の授業には必ず出席すること。「都市文化学研究」を受講しておくことが望ましいが絶対条件ではない。

第 1 回　授業方針と講読文献の決定
第 2 回　文献講読と討論（1）
第 3 回　文献講読と討論（2）
第 4 回　文献講読と討論（3）
第 5 回　文献講読と討論（4）
第 6 回　文献講読と討論（5）
第 7 回　文献講読と討論（6）
第 8 回　文献講読と討論（7）
第 9 回　文献講読と討論（8）
第 10 回　文献講読と討論（9）
第 11 回　文献講読と討論（10）
第 12 回　文献講読と討論（11）
第 13 回　文献講読と討論（12）
第 14 回　文献講読と討論（13）
第 15 回　文献講読と討論（14）およびまとめ

●評価方法

平常点。報告内容と討議を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

授業の進め方についてのガイダンスを行うので初回の授業には必ず出席すること。受講生の報告と議論を中心に授業は進行するので積極的な授業参加が望まれる。単に専門的知識を教授するのではなく、都市文化研究のための学際的な視点を（受講生各々の多様な関心をふまえて）養成することが主眼となる授業であるため、アジア都市文化学専攻所属以外の学生の受講を大いに歓迎する。

●参考文献・教材

授業内で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2503	開講期	単位数
M214	**都市環境学研究**			前月 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Urban Environment			担当教員名 中川 眞 教授	

●科目の主題

グローバル化になかの都市環境と文化を多様な観点から考察する。

●到達目標

2008 年の世界的な金融破綻から生じた様々な社会的問題に、芸術・文化はどのような形でかかわり得るのか、グローバリゼーションのなかでの都市文化のあり方を、アートや文化政策の現状などに焦点をあてながら考える方法を身につける。

●授業内容・授業計画

都市環境を文化的側面からアプローチする方法を文献、AV資料などによって学び、いくつかの個別のトピックを設定して、フィールドワークを行う。特に、社会包摂な視点を軸に、都市と文化、特にアートとの関係を明らかにする。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　都市環境に関する文献の精読 1
第 3 回　都市環境に関する文献の精読 2
第 4 回　AV資料を事例に討論 1
第 5 回　大阪市内にてフィールドワーク 1
第 6 回　都市環境に関する文献の精読 3
第 7 回　AV資料を事例に討論 2
第 8 回　AV資料を事例に討論 3
第 9 回　社会包摂型アーツマネジメント 1
第 10 回　社会包摂型アーツマネジメント 2
第 11 回　社会包摂型アーツマネジメント 3
第 12 回　大阪市内にてフィールドワーク 2
第 13 回　文化政策とアーツカウンシル
第 14 回　アートと社会関係資本
第 15 回　まとめ

●評価方法

授業時に適宜レポートなどを指示し、フィールドワークの成果などを含めて総合的に評価する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

中川眞『アートの力』和泉書院、2013

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2504	開講期	単位数
M215	**都市環境学研究演習**			後月 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Urban Environment			担当教員名 中川 眞 教授	

●科目の主題

コミュニティ・マネジメントの一環としてのアーツマネジメントの手法や思想を、現場の実例に触れることによって学ぶ。

●到達目標

大阪市中央区、西成区などの現場に赴き、アーツマネジメントの実際に触れ、その方法を習得する。また、その過程を映像等でドキュメントし、データベース作成の技術を身につける。主に社会包摂型のアーツマネジメントに触れることから、当該の社会的課題についての理解を深め、社会的困難や弱者についてさらに深い洞察を得られるようにする。

●授業内容・授業計画

都市文化に関する研究を実践的に行う。大阪市西成区などで活動するアート NPO の活動に（部分的に）参画しながら、その可能性や問題点などを議論することによって、都市の文化環境のあり方を考察する。NPO ココルームが主宰する「釜ヶ崎芸術大学」にも参加する。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　アーツマネジメント概論 1
第 3 回　アーツマネジメント概論 2
第 4 回　大阪市西成区にて実習（ブレーカープロジェクト）
第 5 回　大阪市西成区にて実習（釜ヶ崎芸術大学）
第 6 回　実習の報告と討論
第 7 回　前半のまとめ
第 8 回　大阪市立大空小学校にて実習

第 9 回　関係性のアートに関する討論
第 10 回　アートとコミュニティに関する討論
第 11 回　大阪市西成区にて実習（釜ヶ崎芸術大学）
第 12 回　大阪市西成区にて実習（釜ヶ崎芸術大学）
第 13 回　データ整理
第 14 回　フィールドワーク等の成果発表、討論
第 15 回　まとめ

●評価方法
授業時に適宜レポートなどを指示し、イベント参加、フィールドワークの成果などを含めて総合的に評価する。
●受講生へのコメント
授業の時間が不規則になることが多いので、留意されたい。西成区釜ヶ崎など、生活困難地域などでのフィールドワークが多くなる。当該地域への先入観をもたず、しかし（同時に）地域の歴史を事前学習しながら、実りのある時間を過ごしてもらいたい。
●参考文献・教材
中川眞『これからのアートマネジメント』フィルムアート社、2011

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2505	開講期	単位数
M216	アジア地域文化学研究Ⅰ			前水 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Asian Cultures Ⅰ			担当教員名 中川 眞 教授	

●科目の主題
社会包摂型アーツマネジメントの実践研究の一環として、過疎地における文化表現の力について考える。
●到達目標
アーツマネジメント理論を実践的に適用する訓練を行い、その実践的能力を高めることを目標とする。特に、地域のかかえる問題を聞き取り調査等によって明らかにし、それを文化的な手法を用いて解決することを学ぶ。
●授業内容・授業計画
基本的にはフィールド（奈良県吉野郡）における集中的な実践研究となる。初めに理論的展望も含めたオリエンテーションを行ったのち、フィールドでは盆踊り行事などへの参与観察的なアプローチで理解を深める。
第 1 回　オリエンテーション（1）
第 2 回　オリエンテーション（2）
第 3 回　フィールドワーク（1）
第 4 回　フィールドワーク（2）
第 5 回　フィールドワーク（3）
第 6 回　フィールドワーク（4）
第 7 回　フィールドワーク（5）
第 8 回　フィールドワーク（6）
第 9 回　フィールドワーク（7）
第 10 回　フィールドワーク（8）
第 11 回　フィールドワーク（9）
第 12 回　フィールドワーク（10）
第 13 回　フィールドワーク（11）
第 14 回　フォーラム準備
第 15 回　フォーラムにて口頭発表
●評価方法
評価はフィールドワークの成果とフォーラム発表に基づいて行う。万が一フォーラムが開催されない場合は、レポート提出に代える。
●受講生へのコメント
この授業はアーツマネジメントの実践的学習が中心となり、通常の授業時間の枠組み（特定の曜日・時限）の外で行われる（夏季を予定）。受講者はそれを念頭において受講すること。
●参考文献・教材
中川眞（編著）『これからのアートマネジメント』フィルムアート社、東京、2011
中川眞『アートの力』和泉書房、大阪、2013

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2506	開講期	単位数
M217	アジア地域文化学研究演習 1			後水 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Asian Cultures 1			担当教員名 中川 眞 教授	

●科目の主題

社会包摂型アーツマネージメントの実践と理論のフィードバック。

●到達目標

「アジアの地域文化研究 1」で行った実践研究を、理論へとフィードバックする手法を、フィールド先の住民と協同して構築する。実践的な理論の研磨に注力する。

●授業内容・授業計画

基本的にはフィールド（奈良県吉野郡）における集中的な演習となる。初めに「アジアの地域文化研究 1」で得られた成果を共有、再確認したのち、今後の展望を仮説的に構築し、フィールドにおいて実践的に検証する。成果をフォーラム等によって公表する。域学連携授業である。

第 1 回　理論的検証（1）
第 2 回　理論的検証（2）
第 3 回　フィールドワーク（1）
第 4 回　フィールドワーク（2）
第 5 回　フィールドワークの成果検証 1
第 6 回　フィールドワークの成果検証 2
第 7 回　フィールドワーク（3）
第 8 回　フィールドワーク（4）
第 9 回　フィールドワークの成果検証 3
第 10 回　フィールドワークの成果検証 4
第 11 回　フィールドワーク（5）
第 12 回　フィールドワークの成果検証 5
第 13 回　課題の提出、整理と討論
第 14 回　フォーラム準備
第 15 回　フォーラムにて口頭発表

●評価方法

評価は平常点とフォーラム発表の成果に基づいて行う。万が一フォーラムが開催されない場合は、レポート提出に代える。

●受講生へのコメント

通常の授業時間の枠組み（特定の曜日・時限）の外で行われることがある。受講者はそれを念頭において受講すること。「アジア地域文化学研究Ⅰ」と組み合わせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

中川眞（編著）『これからのアートマネジメント』フィルムアート社、東京、2011
中川眞『アートの力』和泉書房、大阪、2013

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2507	開講期	単位数
M218	アジア地域文化学研究Ⅱ			前火 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Asian Cultures Ⅱ			担当教員名 野崎 充彦 教授	

●科目の主題

現代韓国に至るまで深い影響を及ぼしている伝統文化の諸相を時代別のトピックを通じて考察する。

文献資料のみならずドキュメンタリーや映画作品など映像資料なども駆使し、様々な歴史・文化的な事象がどのように表現されているかを分析しながら、各時代の朝鮮韓国文化のセルフイメージの形成過程を追う。

●到達目標

通史的・学際的な考察を通じ、韓国を中心に日本や東アジア諸国における文化的な類似性と相違点を総合的に把握することをめざす。

●授業内容・授業計画

Ⅰ．朝鮮・韓国と日本の文化史的考察

第 1 回　(1) 朝鮮の伝統文化①風水思想
第 2 回　(2) 朝鮮の伝統文化②風水思想
第 3 回　(3) 朝鮮の伝統文化③始祖神話
第 4 回　(4) 朝鮮の伝統文化④始祖神話
第 5 回　(5) 朝鮮の伝統文化⑤三国時代
第 6 回　(6) 朝鮮の伝統文化り⑥統一新羅
第 7 回　(7) 朝鮮の伝統文化⑦高麗
第 8 回　(8) 朝鮮の伝統文化⑧高麗
第 9 回　(9) 朝鮮の伝統文化⑨朝鮮王朝・前期
第 10 回　(10) 朝鮮の伝統文化⑩朝鮮王朝・中期
第 11 回　(11) 朝鮮の伝統文化⑪朝鮮王朝・後期
第 12 回　(12) 朝鮮の伝統文化⑫近代
第 13 回　(13) 朝鮮の伝統文化⑬近代
第 14 回　(14) 朝鮮の伝統文化⑭現代
第 15 回　(15) 朝鮮の伝統文化⑮現代

●評価方法
出席とレポート。

●受講生へのコメント
東アジアの文化には共通する基盤は多いものの、展開過程は大いに異なり、その影響は現代社会にまで色濃く影を落としている。類型的な既成観念にとらわれることなく、柔軟な思考で見直す必要があるだろう。

●参考文献・教材
参考書『朝鮮の物語』野崎充彦（大修館書店、1998 年）
『韓国の風水師たち』（人文書院、1984 年）
その他、授業中に適宜、指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2508	開講期	単位数
M219	**アジア地域文化学研究演習 2**			後火 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Asian Cultures 2			担当教員名 野崎 充彦 教授	

●科目の主題
近年、韓国映画は躍進めざましいが、歴史モノにせよ犯罪モノにせよ、実際にあった歴史や事件を題材にした作品の多いことが特徴である。そのような韓国映画の世界を通じ、韓国社会の動向と今後の展開を考察する。

●到達目標
韓国社会を可能な限り、その具体相において把握・理解することを目的とする。

●授業内容・授業計画
多様な映像作品をジャンル別に紹介しながら、韓国映画の全体像を把握する。
第 1 回　(1) 韓国映画の世界①歴史モノ
第 2 回　(2) 韓国映画の世界②歴史モノ
第 3 回　(3) 韓国映画の世界③歴史モノ
第 4 回　(4) 韓国映画の世界④歴史モノ
第 5 回　(5) 韓国映画の世界⑤歴史モノ
第 6 回　(6) 韓国映画の世界韓国①戦争・南北関係モノ
第 7 回　(7) 韓国映画の世界②戦争・南北関係モノ
第 8 回　(8) 韓国映画の世界③戦争・南北関係モノ
第 9 回　(9) 韓国映画の世界④戦争・南北関係モノ
第 10 回　(10) 韓国映画の世界⑤戦争・南北関係モノ
第 11 回　(11) 韓国映画の世界①犯罪モノ
第 12 回　(12) 韓国映画の世界②犯罪モノ
第 13 回　(13) 韓国映画の世界③犯罪モノ
第 14 回　(14) 韓国映画の世界④犯罪モノ
第 15 回　(15) 韓国映画の世界⑤犯罪モノ

●評価方法
出席とレポート

●受講生へのコメント
漫然と映像作品を見るのではなく、その背後に隠された社会現象に思いを致すこと。
授業内容は多岐にわたり、時間配分はしばしば変更されるので、柔軟に対応されたい。
●参考文献・教材
参考文献
参考文献は多数に上るので、授業時に示す。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LDASA2511	開講期	単位数
M220	アジア民族文化学研究			前月 3	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Asian Culture and Ethnicity			担当教員名 多和田 裕司 教授	

●科目の主題
「アジア」「民族」「文化」を主題とする基礎的文献の講読やそれをもとにした討論をとおして、国民国家における民族文化、消費社会の成立と発展、グローバリゼーションと民族文化の変容等、現代アジアに生起する諸課題について、主として文化人類学の観点から考察する。
●到達目標
アジアにおける「グローバル化とナショナリズム」および「現代消費社会」を基軸にしつつも毎回の文献の選択や講義テーマはなるべく広範なものとし、受講者各人がアジア研究を進めるための自らの課題と方法論を見つけ出すことを目指していく。
●授業内容・授業計画
上記主題に即した日本語ないし英語の文献をゼミ形式で読み進める。授業は受講者による文献の報告とその後の討論によって進めていく。文献の選択は、受講者の研究テーマも考慮した上で、第 1 回目の授業時に決定する。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　グローバル化とナショナリズムに関する文献講読（1）
第 3 回　グローバル化とナショナリズムに関する文献講読（2）
第 4 回　グローバル化とナショナリズムに関する文献講読（3）
第 5 回　グローバル化とナショナリズムに関する文献講読（4）
第 6 回　グローバル化とナショナリズムに関する文献講読（5）
第 7 回　グローバル化とナショナリズムに関する文献講読（6）
第 8 回　現代消費社会に関する文献講読（1）
第 9 回　現代消費社会に関する文献講読（2）
第 10 回　現代消費社会に関する文献講読（3）
第 11 回　現代消費社会に関する文献講読（4）
第 12 回　現代消費社会に関する文献講読（5）
第 13 回　現代消費社会に関する文献講読（6）
第 14 回　総合討論
第 15 回　授業の総括

●評価方法
平常点によって評価を行う。
●受講生へのコメント
「アジア民族文化学研究演習」とあわせて受講することが望ましい。
●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LDASA2512	開講期	単位数
M221	アジア民族文化学研究演習			後月 3	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Asian Culture and Ethnicity			担当教員名 多和田 裕司 教授	

●科目の主題
内外の代表的研究論文の講読と討論を通して、文化人類学におけるアジア研究、東南アジア研究についての研究動向を把握する。

●到達目標
「アジア民族文化」を基軸にしつつも毎回の文献の選択や講義テーマはなるべく広範なものとし、受講者各人が最新の研究動向を把握することで自らの課題と方法論をより一層明確にすることを目指していく。

●授業内容・授業計画
上記主題に即した日本語ないし英語の文献をゼミ形式で読み進める。授業は受講者による文献の報告とその後の討論によって進めていく。文献の選択は、受講者の研究テーマも考慮した上で、第 1 回目の授業時に決定する。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　アジア研究に関する文献講読（1）
第 3 回　アジア研究に関する文献講読（2）
第 4 回　アジア研究に関する文献講読（3）
第 5 回　アジア研究に関する文献講読（4）
第 6 回　アジア研究に関する文献講読（5）
第 7 回　アジア研究に関する文献講読（6）
第 8 回　東南アジア研究に関する文献講読（1）
第 9 回　東南アジア研究に関する文献講読（2）
第 10 回　東南アジア研究に関する文献講読（3）
第 11 回　東南アジア研究に関する文献講読（4）
第 12 回　東南アジア研究に関する文献講読（5）
第 13 回　東南アジア研究に関する文献講読（6）
第 14 回　総合討論
第 15 回　授業の総括

●評価方法
平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント
「アジア民族文化学研究」とあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2513	開講期	単位数
M222	アジア比較文化学研究			前水 2	2 単位
	英文名 Higher Comparative Studies in Asian Culture			担当教員名 堀 まどか 准教授	

●科目の主題
本科目では、「境界の文学・文学の境界」をキーワードに、アジアの都市を題材にした日本語で書かれた近現代文学を読み、アジアの都市文化の形成と歴史をまなび、さらには従来の文学史の陥穽について考える。世界の読者の視点を意識しながら作品を読み、同時にそこに関連していた政策、政治、経済など、諸理論をあわせて理解していくことで、アジア都市文化への理解の幅を深める。文学を読むを通して、日本文化の多様性と特質を学び、文学研究や文化研究の〈可能性〉と〈普遍性〉がどこにあるのかを、議論し考える。
今年度は、1945 年直後の引揚者文学を扱う予定。

●到達目標
1. アジア都市を題材にした、幾つかの文体やジャンルの日本語文学に触れ、日本文学や日本文化、日本史に対する理解を深める。
2. 文学理論や比較文化研究の方法分析の基礎を学び、領域横断的な研究に関心をもつ。
3. 講義を通して感じたことや疑問に思ったことについて、適切な質疑やディスカッションを行うことができる。

●授業内容・授業計画
購読と討論が中心。受講者は、日本近代文学の作品を幅広く読み味わいながら、それらテキストや作家を一国文学史観を超えて国際的な文脈の中に位置づけることを学ぶ。横断と越境のダイナミズムを探りながら、同時に、作品の描かれている同時代の政策史や都市形成史、研究史を読み、作品世界の周辺の理解をふかめる。

第 1 回　イントロダクション／「境界者」のまなざし
第 2 回　翻訳と日本語①
第 3 回　翻訳と日本語②
第 4 回　文学の証言性と象徴①
第 5 回　文学の証言性と象徴②

第 6 回　文学の証言性と象徴③
第 7 回　文学の証言性と象徴④
第 8 回　アジアのなかの都市文学①
第 9 回　アジアのなかの都市文学②
第 10 回　アジアのなかの都市文学③
第 11 回　アジアのなかの都市文学④
第 12 回　多文化主義のいま①
第 13 回　多文化主義のいま②
第 14 回　多文化主義のいま③
第 15 回　多文化主義のいま④＆まとめ

●評価方法
平常点（出席・質疑／ディスカッション）（60%） レポート（40%）
●受講生へのコメント
取り上げる作品は、受講生各々の関心や研究内容をふまえて柔軟に変更する可能性があります。
文学にはあまり縁がなかった学生でも、文化や社会に関心がある学生には好奇心が持てる講座だと思います。
アジア都市文化学専攻所属以外の学生の受講も、おおいに歓迎します。
●参考文献・教材
授業内で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2514	開講期	単位数
M223	アジア比較文化学研究演習			後水 2	2 単位
	英文名 Higher Comparative Studies and Seminar in Asian Calture			担当教員名 堀 まどか 准教授	

●科目の主題
日本語の（もしくは日本語に翻訳された）近現代文学のなかの、都市文化表象をさぐることが主題。
受講者個々人の研究対象に関連する地域を扱っている文芸・芸術表現の作品を選び、歴史や時事問題や地理風土と合わせて分析して研究発表を行う。扱う作品は、おもに戦間期の日本語文学を想定している。が、受講者の関心に合わせて、文芸作品（小説・詩・評論・戯曲）を中心とした複合ジャンル（映画、舞踊、アニメ・マンガ）からも題材を選んで分析アプローチを試みてもよいこととする。近現代のメディアやツーリズムの発達、植民地支配による異文化接触などの問題を意識しながら、当該地域の歴史や文学についての知識を深めていく。自分のことばで表現し、他者に解説する技術を培う。
（演習の課題や、対象としたい文学作品が見つけられない場合は、教員がテーマを提案する。）
●到達目標
1. 自らが研究する地域や領域に関連する文芸作品について、基礎的な知識を持つこと。
2. 自らが演習発表し、また他者の演習を聞き、意見交換することを通して、さまざまな地域の文学や歴史事情についても関心をもち、比較して考える視点を養うこと。
3. 他者に説明する技術と方法を工夫し、効果的なプレゼンテーションの方法と技術をみがいて、コミュニケーション能力を高めること。
●授業内容・授業計画
演習発表・ディスカッションの形態。
「調べる」「読む」「書く（思考・分析・構成）」「話す（発表）」の能力を養成し、研究発表や実用的なプレゼンテーションの基礎的な練習・訓練をおこなう。互いに演習内容を批評しあい、よりよい発表方法のための改善案や修正ポイントを提案しあい、切磋琢磨して表現技術をみがく。
第 1 回　イントロダクション／演習授業の目的と方法について
第 2 回　演習の課題設定と構想について／講義＆個別相談
第 3 回　演習と討論①
第 4 回　演習と討論②
第 5 回　演習と討論③
第 6 回　演習と討論④
第 7 回　演習と討論⑤
第 8 回　演習と討論⑥

第 9 回　演習と討論⑦
第 10 回　演習と討論⑧
第 11 回　演習と討論⑨
第 12 回　演習と討論⑩
第 13 回　演習と討論⑪
第 14 回　演習と討論⑫
第 15 回　最終的なまとめ

●評価方法
出席（20%）、発表内容（発表資料の提出をふくむ）（50%）、授業内参加・質疑・討論（30%）
●受講生へのコメント
地域の文学という、誰にでも身近に取り組めるテーマを設定しています。
初めから完璧な演習発表を求めているのではなく、数回の演習発表を経て、よい発表形態を仕上げていきます。
文学研究を中心にして、ハイブリッドな文化現象を考え比較文化研究のダイナミズムを感じながら、自分の専門分野をさらに強化してほしいです。
学生同士の幅広い討論や学際的関心を深めるための演習授業のため、アジア都市文化学専攻所属以外の学生の受講も、おおいに歓迎します。
●参考文献・教材
授業内で指示する

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2518	開講期	単位数
M224	**アジア観光文化学研究**			前木 4	2 単位
	英文名 Advanced Studies in Asian Culture and Tourism			担当教員名 天野 景太 准教授	

●科目の主題
現代はグローバリゼーションに伴い国境を越えた人々や資本、モノの移動はますます増加、多様化していますが、その中にあって観光という社会現象は、最も先鋭的かつ具体的に、異なる社会・文化の接触、交流、衝突 etc... がおこる現場といえます。本科目では、そこにおいて展開する観光文化のダイナミズムを捉える理論的枠組みを検討した上で、それらを援用しつつ、日本を含むアジアの諸都市における実際の観光文化のあり方に関して、比較の視点を意識ながら解読を試みます。
●到達目標
◆グローバルな文脈における人々や文化の移動という現象と、ローカルな文脈における観光文化の編成、再編成という現象とを関連づけて捉えられるようにします。
◆「観光」という切り口から、アジア都市文化のアクチュアリティに迫ることで、他の科目とのシナジーを通じて、より多角的に都市や地域の文化の諸相にアプローチ出来るようにします。
◆参加者の修士論文のテーマとも重なり合う形での報告、議論を通じ、各自の修士論文や将来の進路に向けてのブレーンストーミングを行います。
●授業内容・授業計画
ゼミ形式で進めます。前半は、観光学、観光文化論に関する基礎的知識の確認の後、ガイダンス時に提示する観光に関連する（社会学・文化人類学・地理学・都市計画学的視点を中心とする）学際的な文献・論文の輪読を通じ、「ポスト・ツーリスト」「オーセンティシティ」「場のマネジメント」「世界都市」その他の概念を用いて、観光文化を捉える枠組みに関して検討します。後半は自由報告形式とし、前半の輪読の成果を参考にしながら、主に日本を含むアジアの諸都市において展開する観光文化の事例に関して各自で自由に対象と視点を設定し、考察した成果を報告、議論します。
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　観光学の歴史と視点（講義形式）
第 3 回　観光文化学の対象と視点（講義形式）
第 4 回　関連論文に関する報告と議論（1）
第 5 回　関連論文に関する報告と議論（2）
第 6 回　関連論文に関する報告と議論（3）
第 7 回　関連論文に関する報告と議論（4）
第 8 回　関連論文に関する報告と議論（5）
第 9 回　アジア諸都市の観光文化に関する事例研究の報告と議論（1）

第 10 回　アジア諸都市の観光文化に関する事例研究の報告と議論（2）
第 11 回　アジア諸都市の観光文化に関する事例研究の報告と議論（3）
第 12 回　アジア諸都市の観光文化に関する事例研究の報告と議論（4）
第 13 回　アジア諸都市の観光文化に関する事例研究の報告と議論（5）
第 14 回　観光文化の国際比較研究（1）
第 15 回　観光文化の国際比較研究（2）

●評価方法
平常点により評価します。内訳は、全 2 回の報告がそれぞれ 25%ずつ、授業への主体的な関わりの度合いを 50%とします。

●受講生へのコメント
日頃から 観光に関するニュースや調査データを親しんでおくことが望ましい。また、自らの観光経験や旅ロケ番組等の視聴経験を振り返り、それらを観光文化学的な視点から省察する習慣をつけておくことが望ましい。また、観光学は理論と実際（現場）との往復を繰り返してナンボの学問でもあります。昨年度は履修者のテーマに応じて宝塚、住吉大社などの巡検を行いましたが、本年度も観光地域の視察をはじめ、他の教員の科目とのジョイントによる大阪の都市文化視察、講師が担当する学部の演習系科目の取り組みとのジョイントなども企画予定なので、積極的に参加してください。

●参考文献・教材
安福恵美子他『観光まちづくり再考』古今書院、2016
D. マキァーネル（安村克己他訳）『ザ・ツーリスト : 高度近代社会の構造分析』学文社、2012
E.M. ブルーナー（安村克己他訳）『観光と文化 : 旅の民族誌』学文社、2007
飯田芳也『観光文化学 : 旅から観光へ』古今書院、2012
石森秀三編『観光の 20 世紀 : 20 世紀に於ける諸民族文化の伝統と変容』ドメス出版、1997
井口貢『まちづくり・観光と地域文化の創造』学文社、2005
ほか、授業中に紹介します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2519	開講期	単位数
M225	アジア観光文化学研究演習			後木 4	2 単位
	英文名 Advanced Seminar in Asian Culture and Tourism			担当教員名 天野 景太 准教授	

●科目の主題
「観光文化の編成、再編成の現場を“あるく、みる、きく”」を、本演習のテーマとします。現在日本の諸地域では、アジア地域を中心とした外国人観光者を含むさまざまな来訪者にとって魅力ある観光経験の提供が課題となっています。特に、かつてのマス・ツーリズム全盛期における事業者、行政主体による観光開発、というアプローチに代わり、住民や地域の組織が主体となり、ローカルな自然や文化を観光対象化し、観光者との直接的交流を通じてそれらを呈示する実践のあり方が模索されています。本演習では、これらの地域の中から複数のフィールドを選定し、それらに関するケーススタディ、および実際に現地に出向いたフィールドワークを行い、これらの実践がもたらす新たな観光文化の生成、展開の可能性について考察すすることで、各自の修士論文作成への足がかりを提供します。

●到達目標
観光文化に関する理論的検討の成果（アジア観光文化学研究）を応用し、フィールド調査（観光文化の展開現場の観察、関係者へのヒアリング等）と、そこで得られたデータの分析を通じて、“観光学的想像力（創造力）”を養います。自ら思考し、試行錯誤し、行動する経験を通じ、観光地調査の基礎や調査データの理論化への流れを体得します。本科目はどんな研究対象・研究方法の修士論文等であってもその作成において重要なプロセスとなるであろう 1 次データの収集・解釈に関する技法やセンスを身につけることにつながりますので、文化と観光・都市・地域・まちづくり・景観などのキーワードに直接関連しない研究テーマをもつ学生の履修も歓迎します。

●授業内容・授業計画
前半は、観光まちづくりや着地型観光の実践例をサーベイし、修士論文のテーマ等と結び合うフィールドの選定と調査の企画と設計を行います。調査を実施した後、後半はそこで得られたデータを整理、解釈し、調査報告または調査レポートを作成します。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　観光まちづくり、着地型観光、デスティネーションマネジメントと観光文化（講義形式）
第 3 回　観光まちづくり、着地型観光に関する報告・討論（1）
第 4 回　観光まちづくり、着地型観光に関する報告・討論（2）

第 5 回　観光まちづくり、着地型観光に関する報告・討論（3）
第 6 回　対象フィールドに関する文献・論文の検討（1）
第 7 回　対象フィールドに関する文献・論文の検討（2）
第 8 回　対象フィールドに関する文献・論文の検討（3）
第 9 回　フィールド調査の企画・設計（1）
第 10 回　フィールド調査の企画・設計（2）
第 11 回　データの整理と解釈（1）
第 12 回　データの整理と解釈（2）
第 13 回　データの整理と解釈（3）
第 14 回　ラウンドテーブル
第 15 回　調査報告書（調査レポート）のまとめ

●評価方法
ゼミにおける報告や議論（34%）、現地調査のプロジェクトワーク（33%）、調査報告書の分担執筆または調査レポートの作成（33%）で評価します。

●受講生へのコメント
フィールドワークを含む演習の運営は、参加者のイニシアティブに基づいて行います。また、観光学は理論と実際（現場）との往復を繰り返してナンボの学問でもあります。前期開講のアジア観光文化学研究との接続を意識しつつ、本年度の履修が予想される学生の関心が高いであろう宝塚、心斎橋、温泉観光地、鉄道駅、森林セラピーの現場への巡検をはじめ、他の教員の科目とのジョイントによる都市文化の視察、講師が担当する学部の演習系科目の取り組みとのジョイントなどを企画予定なので、積極的に参加してください。

●参考文献・教材
安福恵美子編『観光まちづくり再考』古今書院、2016
井口貢編『観光文化と地元学』古今書院、2011
大社充『体験交流型ツーリズムの手法：地域資源を活かす着地型観光』学芸出版社、2008
西村幸夫編著『観光まちづくり：まち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社、2009
山中速人編『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣、2001
ほか、授業時に紹介します。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2520	開講期	単位数
M226	アジア都市文化学特講Ⅰ			前集中	2 単位
	英文名 Special Lecture on Asian Culture and Urbanism 1			担当教員名 橋本 裕之 非常勤講師	

●科目の主題
現代の社会的課題と芸能の役割を検証する。実際は私が東日本大震災以降に岩手県沿岸部で手がけてきた民俗芸能支援、および私が大阪府内の数か所でかかわってきた伝統芸能公演などをとりあげることによって、災害や貧困のような地球規模の苦境が地域社会に波及したさい、芸能がはたす役割がきわめて大きいことを強調したい。

●到達目標
現代の社会的課題、とりわけ災害や貧困のような地球規模の苦境において、芸能がはたす役割を検証することによって、市民が協働する新しい形態の可能性を模索する。受講者は文化復興と芸術創造に関する実践的な成果を創造する過程にかかわる積極的な姿勢を獲得してほしい。

●授業内容・授業計画
以下の話題をあつかうが、受講生の学力・関心によって、参考作品など、大幅な変更もありうる。
第 1 回　授業の内容を紹介する
第 2 回　「課題と芸能」を概観する
第 3 回　「課題と芸能」を検証する
第 4 回　「課題と芸能」を討議する
第 5 回　「災害と芸能」を概観する
第 6 回　「災害と芸能」を検証する
第 7 回　「災害と芸能」を討議する
第 8 回　授業の内容を小括する
第 9 回　「貧困と芸能」を概観する
第 10 回　「貧困と芸能」を検証する

第 11 回　「貧困と芸能」を討議する
第 12 回　「観光と芸能」を概観する
第 13 回　「観光と芸能」を検証する
第 14 回　「観光と芸能」を討議する
第 15 回　授業の内容を総括する

●評価方法
平常点（30%）、学期中の小レポート（30%）、学期末のレポート（40%）。
●受講生へのコメント
この授業は現代の社会的課題と芸能の役割を検証するものであるが、受講者自身が文化復興と芸術創造に関する実践的な成果を創造する過程にかかわっているという当事者意識を持って受講してほしい。
●参考文献・教材
橋本裕之『舞台の上の文化――まつり・民俗芸能・博物館』（追手門学院大学出版会、2014 年）、同『震災と芸能――地域再生の原動力』（追手門学院大学出版会、2015 年）。その他の参考書は授業中に紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2522	開講期	単位数
M227	**アジア都市文化学総合研究Ⅰ**			前金 1	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Asian Culture and Urbanism I			担当教員名 中川 眞 教授／野崎 充彦 教授／ 多和田 裕司 教授／増田 聡 准教授／ 堀 まどか 准教授／天野 景太 准教授	

●科目の主題
アジア都市文化学に関係する個別のトピックについて教員と学生が討論する。
●到達目標
アジアの都市文化に関する課題を認識するとともに、それへの適切な接近方法、研究手法、成果発表の方法などを学ぶ。基本的には修士論文作成に向けての指導を兼ねる。
●授業内容・授業計画
学生による発表が授業の中心となる。担当教員がそれぞれの専門分野の観点から、発表者（学生）の提示する諸観点や論点に基づいて（出席学生を交えて）討論を行うとともに、修士論文作成に関する方法（文献収集・解読、フィールドワーク、語学、情報機器操作等）について総合的な基礎訓練を行う。発表は適宜行われ、年度初めに予定が告知される。
●評価方法
平常点によって評価を行う。
●受講生へのコメント
発表者は十分な準備を行い、それを聴く学生は積極的に討論に参加すること。
●参考文献・教材
授業内で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA2523	開講期	単位数
M228	**アジア都市文化学総合研究Ⅱ**			後金 1	2 単位
	英文名 Comprehensive Studies in Asian Culture and Urbanism Ⅱ			担当教員名 中川 眞 教授／野崎 充彦 教授／ 多和田 裕司 教授／増田 聡 准教授／ 堀 まどか 准教授／天野 景太 准教授	

●科目の主題
アジア都市文化学に関係する個別のトピックについて教員と学生が討論する。
●到達目標
論文、特に修士論文、博士（課程）論文作成に向けての準備を着実に行う。
●授業内容・授業計画
前期に引き続いて、学生の個別テーマに即した内容の討論や指導を各教員が行うとともに、アジア都市文化学を総合的に理解するための方法（各ディシプリンの綜合など）についての議論を活発に行う。定期的に後期博士課程の学生の研究発表会や前期博士課程学生生の中間報告会を開くなどして、各学生の論文作成能力を高める。

特に前期博士課程の学生については、M1 時に 2 ～ 3 回、M2 時に 3 ～ 4 回の発表が課せられる。後期博士課程の学生については発表は不定期であるが、指導教員の判断によって適時行う。

●評価方法

平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント

発表の準備は十分に行い、発表を聴く学生は積極的に討論に参加すること。

●参考文献・教材

授業内で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA3601	開講期	単位数
M229	**アジア都市文化学研究指導Ⅰ**			前水 1	2 単位
	英文名 Supervision of a Master's Thesis in Asian Culture and Urbanism I			担当教員名 中川 眞 教授／野崎 充彦 教授／ 多和田 裕司 教授	

●科目の主題

アジア都市文化学に関する修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

アジア都市文化学に関する高度な内容の修士論文を作成する。

●授業内容・授業計画

1 年次にたてた研究計画に基づき、データの収集、分析を引き続き行うとともに、分析の問題点や結果を明確にし、整合性のとれた論文構成となるよう特に留意して指導を行う。

●評価方法

平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業内で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA3602	開講期	単位数
M230	**アジア都市文化学研究指導Ⅱ**			後水 1	2 単位
	英文名 Supervision of a Master's Thesis in Asian Culture and Urbanism Ⅱ			担当教員名 中川 眞 教授／野崎 充彦 教授／ 多和田 裕司 教授	

●科目の主題

アジア都市文化学に関する修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

アジア都市文化学に関する高度な内容の修士論文を作成する。

●授業内容・授業計画

アジア都市文化学研究指導Ⅰに引き続いて、1 年次にたてた研究計画に基づき、データの収集、分析を引き続き行うとともに、分析の問題点や結果を明確にし、整合性のとれた論文構成となるよう特に留意して指導を行う。

●評価方法

平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業内で指示する。

共 通 科 目

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LXGEN2502	開講期	単位数
M231	**比較文化交流論Ⅱ**			前集中	2 単位
	英文名 Comparative Cultural Exchange II			担当教員名 レイモンド・ラングリー非常勤講師／ 小野原教子非常勤講師 インターナショナルスクール運営委員長 草生久嗣准教授	

●科目の主題

当科目は文学研究科インターナショナルスクール（IS）による国際発信力育成事業の一環として、また「都市文化」という大枠の主題に沿いながら、英語による講義とディスカッションの形式で提供される授業である。

インターナショナルスクールは文学部創立 50 周年記念を機に企画され、平成 15 年度に文学研究科が採択された COE の事業（都市文化研究センター）として発足し、以来、国内外から実績のある研究者を招聘して、集中講義を行なってきた。また、平成 19 年度より同 21 年度までの 3 年間、文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）として文学研究科「国際発信力育成インターナショナルスクール」が採択されてからは IS 集中科目として発展し、大学院 GP の終了後もその理念とともに継続されている。

近年はさらに、本学が目指すグローバル人材育成とも連動し、将来国際社会での活躍が期待される全学部・研究科の学生と大学院生に履修の機会を広げている。

この授業は、文学研究科共通科目のひとつであり、大学院生が修了に必要な単位として算入できる。ただし、哲学歴史学専攻については、IS 集中科目を共通科目に含めることはできないが、4 単位までを「他専攻分野専攻科目」とみなして分野専攻科目に算入することができる。

IS 集中科目には、「比較文化交流論Ⅰ」「比較文化交流論Ⅱ」「国際都市文化論Ⅰ」「国際都市文化論Ⅱ」「国際都市社会論Ⅰ」「国際都市社会論Ⅱ」の 6 科目があり、原則として 1 年に 1 科目ずつ提供される。講師と個々の講義内容は毎年入れ替わり、科目名を変えて提供されるので、毎年受講することができる。

本年度は「比較文化交流論 II」が提供される。講義内容の詳細については、平成 28 年 3 月下旬に、掲示板やポータルサイト、インターナショナルスクールのウェブサイト上に掲載する予定。

●到達目標

インターナショナルスクール集中科目に共通する目標は次のとおりである。

（1）英語による講義を聴いて、内容を理解し、考察する。 （2）講義内容に関するディスカッションを英語で行い、意見を述べる。

●授業内容・授業計画

集中講義の日程は、9 月下旬を予定している。

講義期間中は、2 名の招聘講師（現在選定中）が 2 日ずつ（合計 4 日）担当する。

4 日間を通じて、まず各講師による講義が英語によって行なわれ、続いて講義の内容に関する講師と受講者間の質疑やディスカッションが英語で行われる。

第 1 回　インターナショナルからのオリエンテーション
第 2 回　1 人目の講師による講義（1）
第 3 回　1 人目の講師による講義（2）
第 4 回　ディスカッション
第 5 回　1 人目の講師による講義（3）
第 6 回　1 人目の講師による講義（4）
第 7 回　ディスカッション
第 8 回　1 人目の講師による講義のまとめ
第 9 回　2 人目の講師による講義（1）
第 10 回　2 人目の講師による講義（2）
第 11 回　ディスカッション
第 12 回　2 人目の講師による講義（3）
第 13 回　2 人目の講師による講義（4）
第 14 回　ディスカッション
第 15 回　2 人目の講師による講義のまとめ

●評価方法

平常点（毎回の出席、授業への参加、アンケート）とレポートによる。

●受講生へのコメント

当科目は、英語による講義とディスカッションを通じた、学術コミュニケーションの訓練・経験の場として提供される。

本学の研究科には、研究対象・方法が本来グローバルであるため、英語による研究成果や成果発表が日常化している分野がある。また、国際的競争ゆえに英語による発表が必須となっている分野もある。それにまた、英語を用いることの少ない研究分野においても、研究方法の示唆に国境はなく、またその研究成果の世界への発信を求められているのが現在の情況である。国際発信力の育成が社会的にも学問的にも求められている時代にあって、インターナショナルスクール集中科目を履修することには大きな意義がある。

講義内容を十分理解するため、事前に公表・配布される資料にあらかじめ目を通し、概要をつかんでおくことを勧める。また、英語で自分の考えを述べることは決して容易ではないが、将来につながる経験として積極的に取り組んでほしい。

●参考文献・教材

配布資料は開講までにポータルサイトや学生サポートにて提供される予定（事前に確認のこと）。また、昨年度までの集中科目に関する情報は、以下の URL から参照できる。

http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/IS/ja/courses/intensive-course

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LXGEN2507	開講期	単位数
M232	アカデミック・コミュニケーション演習Ⅰ a.b			前水 5 ／前木 4	2 単位
	英文名 Academic Communication Course Ⅰ			担当教員名 エリザベス・リー 非常勤講師	

●科目の主題

To introduce and develop Academic Presentation skills.

この科目は、文学研究科インターナショナルスクールが提供する「国際発信力育成」プログラムの一環として、英語によるプレゼンテーションの基礎的スキルを養成するものである。英語の使用を通じて、また内容を体系的に構成する原則を学ぶことで、発表をより明確かつ論理的に示し、適確に伝わる言葉や方法を身につける訓練となる。

●到達目標

The Academic Communications 1 course is designed to allow the students to make quick, visible progress and to gain enough confidence and skill to make effective presentations in English both during and after the course. (A student DVD provides an excellent model for students to emulate!) .

●授業内容・授業計画

Appropriate supplementary materials apart from the core-textbook will be prepared each week; these materials will provide the students will specifically academic input. (This course outline is provisional and may be subject to alterations) .

第 1 回 Physical Aspects - Posture and Eye Content
第 2 回 Physical Aspects - Gestures
第 3 回 Physical Aspects - Voice Inflection
第 4 回 Visual Aspects - Effective Visuals
第 5 回 Visual Aspects - Explaining Visuals
第 6 回 Transmitting Information - The Introduction
第 7 回 Transmitting Information - The Body
第 8 回 Transmitting Information - The Conclusion
第 9 回 First Structured Presentations and Evaluation
第 10 回 Individual Presentations Practice & Evaluation
第 11 回 Individual Presentations Practice & Evaluation
第 12 回 Individual Presentations Practice & Evaluation
第 13 回 Individual Presentations Practice & Evaluation
第 14 回 Individual Presentations Practice & Evaluation
第 15 回 Individual Presentations Practice & Evaluation

●評価方法

Students will be introduced to and provided with frequent opportunities to practice their presentation skills; there will be a strong emphasis on practice. Students will be required to prepare their own short presentations which will be evaluated byother class members and the instructor.

●受講生へのコメント

The course is designed to allow the students to make quick, visible progress and to gain enough confidence and

skill to make effective presentations in English both during and after the course. (A student DVD provides an excellent model for studentsto emulate!) .

●参考文献・教材

Students will be expected to purchase a core text:

"Speaking of Speech - New Edition - Basic Presentation Skills for Beginners - David Harrington & Charles LeBeau - Macmillan (2009) .

Supplementary materials may come from several of the following resources:

"Your First Speech and Presentation" - Kobayashi Toshiko and Shawn M. Clankie - Nan`un-do (2010) .

"Fifty Ways to Improve Your Presentation Skills in English" - Bob Dignen - Summertime Publishing.

"The Craft of ScientificPresentations" - Michael Alley - Springer.

"Presenting in English" - Mark Powell - Thomson.

"Dazzle `em with Style" - Robert R.H.Anholt - Elsevier Academic Press.

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LXGEN2508	開講期	単位数
M233	アカデミック・コミュニケーション演習Ⅱ a.b			後水 5 ／後木 4	2 単位
	英文名 Academic Communication Course Ⅱ			担当教員名 エリザベス・リー 非常勤講師	

●科目の主題

To introduce and practice major patterns of Academic Writing.

この科目は、文学研究科インターナショナルスクールが提供する「国際発信力育成」プログラムの一環として、学術的な英文ライティングの基礎的スキルを養成するものである。英語の使用を通じて、また論文を書くために必要とされる明確な文章表現や構成を学ぶことで、論理的な思考力や内容を的確に伝える力を向上させる機会ともなる。

●到達目標

This course aims to get the participants to master several major rhetorical patterns of academic writing at the paragraph level, then moves on to apply and extend what they have learned in essay-length compositions. Each week a large number of appropriate suggested topics will be provided, in addition to key phrases and sentence patterns common to different types of writing, as well as easy to understand example paragraphs or essays. Each week, the students will be supplied with all they need toconfidently write what they want, or what they are assigned.

●授業内容・授業計画

An introduction to the POWER system approach to academic writing, and including practice of the main patterns of organization such as description,comparison-contrast,narrative,summary,explanation and arguement.

第 1 回 Unit 1, Unit 2, Unit 3: Prewriting and Organizing stages (Writing stage as homework)

第 2 回 Unit 3: Evaluating stage, First Peer Evaluating of Self-Introduction Paragraph (Rewriting stage as homework)

第 3 回 Unit 3: Evaluating stage, Second Peer Evaluating of Self-Introduction Paragraph (Rewriting stage as homework) Unit 5: Prewriting and Organizing stages (Writing stage as homework)

第 4 回 Unit 5: Evaluating stage, First Peer Evaluating of Comparison-Contrast Paragraph (Rewriting stage as homework)

第 5 回 Unit 5: Evaluating stage, Second Peer Evaluating of Comparison-Contrast Paragraph (Rewriting stage as homework) Unit 8 : Prewriting and Organizing stages (Writing stage as homework)

第 6 回 Unit 8: Evaluating stage, First Peer Evaluating of Summary Paragraph (Rewriting stage as homework)

第 7 回 Unit 8: Evaluating stage, Second Peer Evaluating of Summary Paragraph (Rewriting stage as homework) Unit 13, Unit 14: Prewriting and Organizing stages (Writing stage as homework)

第 8 回 Unit 14: Evaluating stage, First Peer Evaluating of Essay (Rewriting stage as homework)

第 9 回 Unit 14: Evaluating stage, Second Peer Evaluating of Essay (Rewriting stage as homework) Unit 15 : Prewriting and Organizing stages (Writing stage as homework)

第 10 回 Unit 15: Evaluating stage, First Peer Evaluating of Essay (Rewriting stage as homework)

第 11 回 Unit 15: Evaluating stage, Second Peer Evaluating of Essay (Rewriting stage as homework) Unit 16 : Prewriting and Organizing stages (Writing stage as homework)

第 12 回 Unit 16: Evaluating stage, First Peer Evaluating of Review Essay (Rewriting stage as homework)

第 13 回　Unit 16: Evaluating stage, Second Peer Evaluating of Review Essay (Rewriting stage as homework) Unit 17: Prewriting and Organizing stages (Preparation for writing Examination Essay as homework)

第 14 回　Unit 17: Writing Examination Essay, First Evaluating stage, Rewriting stage (Draft 2)

第 15 回　Reflection - Examination Essay Draft 2 Returned.

●評価方法

The participants will be continually assessed according to their weekly class participation and written assignments; this will be combined with a grade for the examination essay at the end of the course.

●受講生へのコメント

The core text provides an easy, practical and rational approach to learning academic writing; it makes academic writing easy for students to learn. The careful, step-by-step guidance built into the book will enable the instructor to focus more on thespecific writing needs of individual students. (Peer evaluation will also be encouraged, although not directly considered in the grading) .

●参考文献・教材

The core text which every student should buy is:

"Basic Steps to Academic Writing - From Paragraph to Essay" - Matthew A. Taylor & David E. Kluge - Cengage Learning (2012)

Supplementary materials may come from the following resources:

"Basic Steps to Writing Research Papers" - David E. Kluge & Matthew A. Taylor - Cengage Learning (2007)

"EAP now!" English for Academic Purposes - Kathy Cox and David Hill - Pearson/Longman (2004)

"Introduction to Academic Writing" Third Edition - Alice Oshima and Ann Hogue - Pearson/Longman (2007)

"Writing Academic English" Fourth Edition - Alice Oshima and Ann Hogue - Pearson/Longman (2006)

Students do not need to purchase the supplementary textbooks.

後期博士課程

・哲学歴史学専攻

・人間行動学専攻

・言語文化学専攻

・アジア都市文化学専攻

後期博士課程科目

科目番号	科目名	教員名	単位数	備考
■哲学歴史学専攻				
D 1	哲学論文指導	仲原・高梨	12単位	
D 2	日本史学論文指導	塚田･仁木・岸本・佐賀	12単位	
D 3	東洋史学論文指導	平田	12単位	
D 4	西洋史学論文指導	大黒・北村	12単位	
■人間行動学専攻				
D 5	社会学論文指導	進藤・石田・伊地知	12単位	
D 6	心理学論文指導	池上・山	12単位	
D 7	教育学論文指導	柏木	12単位	
D 8	地理学論文指導	大場・水内・山﨑（孝）	12単位	
■言語文化学専攻				
D 9	国語国文学論文指導	丹羽・小林	12単位	
D10	中国語中国文学論文指導	松浦・岩本・張	12単位	
D11	英語英米文学論文指導	杉井・田中（孝）	12単位	
D12	ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導	神竹・津川・福島	12単位	
D13	言語情報学論文指導	関・井狩・山崎（雅）・田中（一）	12単位	
D14	言語応用学論文指導	関・井狩・山崎（雅）・田中（一）	12単位	
D15	表現文化学論文指導	三上・小田中・野末	12単位	
D14	言語応用学論文指導	関・井狩・山崎（雅）・田中（一）	12単位	
D15	表現文化学論文指導	三上・小田中・野末	12単位	
■アジア都市文化学専攻				
D16	アジア都市文化学論文指導	中川・野崎・多和田	12単位	
D17	アジア比較文化学特論Ⅰ	野崎	2 単位	
—	アジア比較文化学特論Ⅱ		2 単位	
D18	アジア都市文化学特論Ⅰ	中川	2 単位	
D19	アジア都市文化学特論Ⅱ	多和田	2 単位	

哲 学 歴 史 学 専 攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAPHL4701	開講期	単位数
D1	哲学論文指導			前後月 1	12 単位
	英文名 Supervision of Doctoral Thesis in Philosophy			担当教員名 仲原 孝 教授／高梨 友宏 教授	

●科目の主題

哲学、哲学史、倫理学、宗教哲学、美学の諸問題を主たるテーマとする博士論文の作成に必要な指導を行う。

●到達目標

博士論文の完成を目標とする。

●授業内容・授業計画

年に数回の研究発表を通じて、哲学固有の考え方、論文構成の手法、必要な資料の扱い方などについて、博士論文作成のための具体的な指導を行う。学会発表や論文投稿を通じて業績を積み重ねるためのアドバイスを与えるとともに、具体的なテーマに則しつつ、論文指導を行う。各担当者の指導内容は以下の通り。

（仲原　孝教授）哲学を宗教との関連で考察することに比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・宗教哲学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解と最新の研究成果に対する幅広い知見にもとづいた博士論文の作成のための指導を行う。

（高梨友宏教授）ドイツ近現代美学・芸術学、京都学派の芸術論に比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・美学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解と最新の研究成果に対する幅広い知見にもとづいた博士論文の作成のための指導を行う。

●評価方法

平常点で評価する。

●受講生へのコメント

学会発表や論文投稿を通じて、積極的かつ着実に業績を積み重ねること。

●参考文献・教材

指導の過程で適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LAJPH4701	開講期	単位数
D2	日本史学論文指導			前後水 1	12 単位
	英文名 Supervision of a Doctoral Thesis in History			担当教員名 塚田 孝 教授／仁木 宏 教授／ 岸本 直文 教授／佐賀 朝 教授	

●科目の主題

博士論文の指導を行う。

●到達目標

3 年間の受講を通して博士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

1 年次では、修士論文をまとめて学術雑誌に発表するとともに、博士論文の研究テーマの設定と研究計画の策定を行う。そのため各学生の研究テーマに即した研究分野の専門書や学術論文の体系的かつ批判的検討を行うとともに、研究テーマとする時代の歴史史料の調査・読解・分析のより高度な応用力の獲得をめざす。1 年次終了時には、各自の研究計画書を提出するものとする。

2 年次では、研究計画に基づき、各自の研究を遂行する。具体的には、研究テーマに関わる史料の収集を行い、その分析に基づく研究報告を順次行うとともに、その上に立って、2 年次終了時には、博士論文作成にむけた中間報告書を提出する。

3 年次には、引き続き史料の収集・読解・分析を行い、それらをまとめて博士論文を完成させる。このために博士論文の構成と論述の仕方など具体的な指導を行うこととする。

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（岸本直文教授）主に、考古学分野と古代の研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行う。

（仁木　宏教授）主に、古代から中世にかけての時代の研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行う。

（塚田　孝教授）主に、中世から近世にかけての時代の研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行う。

（佐賀　朝教授）主に、近世から近代にかけての時代の研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行う。

●評価方法
平常点（出席と研究報告）。
●受講生へのコメント
博士論文の作成は大きな山である。その山頂に向け一歩づつ登ってほしい。
●参考文献・教材
プリント配布。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
D3	東洋史学論文指導	前後月 5	12 単位
	英文名 Supervision of Doctoral Thesis in Oriental History	担当教員名 平田 茂樹 教授	

●科目の主題
歴史学、東洋史学、各自の研究テーマの特徴を充分に理解したうえで、研究に取り組むことを考える。
●到達目標
史料の収集・読解・分析能力、論述能力を高めて、博士論文を段階的に完成させられるようにする。
●授業内容・授業計画
1 年次では、研究目的・方法を明確にし、博士論文の研究テーマの設定と研究計画の立案を行う。そのため基本的専門書・論文を収集・読解・分析し、史料の所在を確認・収集して、より高度な応用能力の会得を目指す。1 年次終了時に、研究計画書を提出するものとする。
2 年次では、研究計画に基づき史料の収集・読解・分析を行う。その際、史料解析の問題点を指摘し、データの整理の仕方を会得するよう努める。2 年次の終了時に、先行研究の問題点、研究テーマの問題の所在、論文全体の構想を明らかにした中間報告を行うものとする。
3 年次では、論文の構成、執筆上の問題点などを指摘しながら、論文の完成を目指す。その際、博士論文の構成と論述の仕方など、具体的な指導を行うこととする。
学生はそのテーマに応じて教員の指導を受けるものとする。
中国史に関する文献史料の解析能力、および未刊行史料の収集・読解・分析能力を高める指導を中心に行う。
●評価方法
出席（30%）と報告内容（70%）
●受講生へのコメント
各自の研究テーマを相対化し、オリジナリティを充分発揮できるようにしてください。
●参考文献・教材
随時紹介する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LAWHW4701	開講期	単位数
D4	西洋史学論文指導			前後木 5	12 単位
	英文名 Supervision of Doctoral Thesis in Western History			担当教員名 大黒 俊二 教授／北村 昌史 教授	

●科目の主題
博士学位論文の作成指導。
●到達目標
学界が要求する水準の論文を完成することを目指す。
●授業内容・授業計画
1 年次では、研究目的・方法を明確にし、博士論文の研究テーマの設定と研究計画の立案を行う。そのため基本的専門書・論文を収集・読解・分析し、史料の所在を確認・収集して、より高度な応用能力の会得を目指す。1 年次終了時に、研究計画書を提出するものとする。
2 年次では、研究計画に基づき史料の収集・読解・分析を行う。その際、史料解析の問題点を指摘し、データの整理の仕方を会得するよう努める。2 年次の終了時に、先行研究の問題点、研究テーマの問題の所在、論文全体の構想を明らかにした中間報告を行うものとする。
3 年次では、論文の構成、執筆上の問題点などを指摘しながら、論文の完成を目指す。その際、博士論文の構成と論述の仕方など、具体的な指導を行うこととする。
学生はそのテーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。
（大黒俊二教授） 主に、古代から中世に関する研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行なう。

（北村昌史教授） 主に、近代から現代に関する研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行なう。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

論文内容とともに口頭によるプレゼンテーションの方法にも工夫してほしい。

●参考文献・教材

随時指示。

人 間 行 動 学 専 攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBSOC4701	開講期	単位数
D5	社会学論文指導			前後木 5	12 単位
	英文名 Supervision of a Doctoral Thesis in Sociology			担当教員名 進藤 雄三 教授／石田 佐恵子 教授／伊地知 紀子 教授	

●科目の主題

社会学の分野における博士論文の作成に必要な研究上の指導を行う。

●到達目標

社会学の分野における博士論文の作成・完成を目標とする。

●授業内容・授業計画

1 年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な社会学の理論の習得とともに、フィールド・ワークの方法、並びにデータ処理のための分析法に関する広範な知識と技能の習得に努める。このため、学生の研究課題に即した研究分野の専門書や学術論文の批判的検討を行わせ、研究課題に関する計画立案に向けた指導を行う。

2 年次は、博士論文の研究課題に関連する内外の論文の検討を行いながら、立案した調査計画に基づいて、文献収集、フィールド・ワークを実施し、得られた知見の整理とデータの分析を行う。

3 年次は、博士論文の研究課題のために行った調査結果をまとめ、博士論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受ける。

●評価方法

学生による博士論文の内容に関する報告を主な評価対象とする。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

随時指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBPSY4701	開講期	単位数
D6	心理学論文指導			前後水 5	12 単位
	英文名 Supervision of a Doctoral Thesis in Psychology			担当教員名 池上 知子 教授／山 祐嗣 教授	

●科目の主題

心理学の各分野のテーマに関する博士論文の作成に必要な基本的事項を指導し、博士論文の完成を目指す。

●到達目標

体系的で一貫性の高い長大な論文を作成する能力を形成する。

●授業内容・授業計画

1 年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な理論的知識の習得、実験・調査などの方法並びにデータ処理のための解析法に関する応用的な知識と技能の習得に努める。このため、各院生の研究課題に即した研究分野の専門書や学術論文の批判的検討を行わせ、研究課題に関する実験・調査の計画の立案に向けた指導を行う。

2 年次は、博士論文の研究課題に関連する国内外の論文の検討を行いながら、立案した研究計画に基づいて実験・調査を実施し、集められたデータの解析を行う。こうした研究遂行の指導を通して、博士論文の完成を目指す。

3 年次は、博士論文の研究課題のために行った実験・調査のデータをまとめ、博士論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。

なお、学生は、各自の研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

〔池上知子教授〕 主に、社会的行動の基礎をなす認知と感情、自己と社会的アイデンティティなど、社会心理学の分野に関する博士論文の指導を行う。

〔山　祐嗣教授〕 主に、思考と推論、認知の文化差など、認知心理学の分野に関する博士論文の指導を行う。

●評価方法

平常点により評価する。

●受講生へのコメント

主体的に研究課題を遂行することを期待する。

●参考文献・教材
適宜、紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBEDU4701	開講期	単位数
D7	教育学論文指導			前後木 4	12 単位
	英文名 Supervision of Doctoral Thesis in Education			担当教員名 柏木 敦 教授	

●科目の主題
教育学の各分野における学識を深め、かつ博士論文作成へ向けて指導を行う。
●到達目標
1 年次は、博士論文の研究課題遂行に必要な理論や方法に関する基礎的な知識と技能を習得する。
2 年次は、博士論文の研究課題遂行に必要な理論や方法に関する応用的・実際的な知識と技能を習得する。
3 年次は、博士論文の研究課題遂行によって得た研究結果をまとめ、博士論文の構成や論述の方法を習得する。
●授業内容・授業計画
1 年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な理論や調査などに関する基礎的な知識と技能の習得に努める。各院生の研究課題に即した研究分野の専門書・学術論文の批判的検討を行い、研究課題に関する調査計画の立案に向けた指導を行う。また、研究成果の学会発表や学術雑誌への投稿について基本的な指導を行う。
2 年次は、博士論文の研究課題に関する内外の論文の検討を行いながら、立案した研究計画に基づいて、文献収集・フィールドワークを実施し、集めたデータや資料の分析を行う。こうした研究遂行を通して、博士論文の完成を目指す。1 年次に引き続いて、研究発表及び論文投稿について指導する。
3 年次は、博士論文の研究課題のために行った調査結果をまとめ、博士論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。必要に応じて、研究発表ならびに論文投稿について指導する。
●評価方法
平常点で行う。特に、学会での研究発表、学会誌投稿への努力や成果を考慮する。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
特になし。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LBGEO4701	開講期	単位数
D8	地理学論文指導			前後火 5	12 単位
	英文名 Preparation for Doctoral Thesis in Geography			担当教員名 大場 茂明 教授／水内 俊雄 教授／ 山﨑 孝史 教授	

●科目の主題
博士論文作成に必要な研究指導を行う。
●到達目標
1 年次は、博士論文の研究課題を確定し、課題の考察に必要な方法論の習得とともに、フィールドワークの技法やデータ処理のための分析手法を身につけることに重点を置く。このため、院生の研究課題に即した専門分野の学術書や論文の批判的研究を行いつつ、研究・調査計画の立案に向けた指導を行う。
2 年次は、博士論文の研究課題に関連する内外の論文の検討を行いながら、立案した研究計画に基づいて資料収集とフィールドワークを実施し、得られた資料・データの整理と分析を行う。こうした研究遂行の指導を通じて、博士論文の完成をめざす。
3 年次は、博士論文の研究課題のために行った調査結果をまとめ、論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。
●授業内容・授業計画
受講者の専門分野に応じて指導担当教員を定め、個別指導を行う。担当教員の主たる指導分野は下記の通りである。
（大場茂明教授） 主に地域地理学、都市政策に関する博士論文の指導を行う。
（水内俊雄教授） 主に都市地理学、社会地理学に関する博士論文の指導を行う。
（山崎孝史教授） 主に政治地理学、地域研究に関する博士論文の指導を行う。

●**評価方法**

研究成果の蓄積と発表状況による。

●**受講生へのコメント**

所定の在学年限内に博士論文を提出できるよう研究計画を立てて、着実に成果を蓄積してほしい。

言 語 文 化 学 専 攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCJPN4701	開講期	単位数
D9	**国語国文学論文指導**			前後木 5	12 単位
	英文名 Thesis Guidance in Japanese Language and Literature			担当教員名 丹羽 哲也 教授／小林 直樹 教授	

●科目の主題

国語学・国文学の博士論文作成のための指導を行う。

●到達目標

博士論文を完成する。

●授業内容・授業計画

1 年次は、博士論文のために必要な方法論、調査や分析の進め方などに関する知識や技能の習得をはかる。先行の研究理論や研究成果について批判的に検討を加えるとともに、それぞれの研究計画の立案に向けた指導を行う。

2 年次は、各人の主題と方法に応じて先行の研究理論や研究成果について批判的に検討を加えるとともに、それぞれの研究計画の具体化に向けた指導を行う。

3 年次は、各人の主題と方法に応じて、学会の水準と最新の成果を踏まえて、それぞれの研究計画の実現をはかる。

学生はそれぞれの研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（小林直樹教授） 国文学に関する指導を行う。

（丹羽哲也教授） 国語学に関する指導を行う。

●評価方法

平常点や研究報告による。

●受講生へのコメント

指導教員に指導を受けるのは当然だが、それだけでなく、外部で積極的に研究発表を行い、自らを客観的に見つめる機会を持つようにすること。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCCHN4701	開講期	単位数
D10	**中国語中国文学論文指導**			前後月 1	12 単位
	英文名 Thesis Guidance in Chinese Language and Literature			担当教員名 松浦 恆雄 教授／岩本 真理 教授／ 張 新民 教授	

●科目の主題

中国語・中国文学に関わる博士論文作成のための指導。

●到達目標

各自が博士論文執筆に向けて解決しなければならない諸課題を取り上げ、3 年間で博士論文を書き上げることができるよう指導する。

●授業内容・授業計画

1 年次は、修士論文で扱った課題の達成状況を確認し、それを踏まえて新たな研究課題を設定し、文献の読解、資料の調査、整理に当たらせる。一方で、修士論文の内容を整理させ、学術論文として公表させる。その作業を通じて、学術論文の書き方の指導も行う。また、関連する学会における口頭発表も行わせる。

2 年次は、1 年次に取り組んだ新しい課題に関して問題点を整理させ、主要なテーマを絞って、学術論文として公表させる。その作業を通じて、新たなテーマに到達するよう指導する。

3 年次は、2 年次に得た新たなテーマについて研究を進め、学術論文としてまとめさせる一方、これまでの研究を総合する形での課程博士論文の執筆に当たらせる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（松浦恆雄教授） 中国近現代分野の課題に関する論文指導を行う。

（岩本真理教授） 中国語学分野の課題に関する論文指導を行う。

（張　新民教授） 中国文化学分野の課題に関する論文の指導を行う。

●評価方法
平常点とレポート。
●受講生へのコメント
特になし。
●参考文献・教材
適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCENG4701	開講期	単位数
D11	英語英米文学論文指導			前後水 5	12 単位
	英文名 Supervision of Doctoral Thesis in English and American Language and Literature			担当教員名 杉井 正史 教授／田中 孝信 教授	

●科目の主題
英語圏の文学・文化に関する博士論文作成の指導。
●到達目標
博士論文の完成。
●授業内容・授業計画
1 年次は博士論文の研究テーマを設定させ、論文作成のために必要な先行研究の評価法、アイデア提示の方法などを指導する。
2 年次は、選択した研究テーマがいっそう明確なものとなるよう指導し、博士論文の構築法と精密な分析法を習得させ、中間発表の場を設けて相互批判の場とする。
3 年次は、博士論文作成の過程を見ながら、草稿の検討や推敲を通じ、個別に綿密な指導を行ない、論文を完成させる。また、学会発表や紀要への投稿等の形で研究発表を行なわせる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。
（杉井正史教授） 英文学、特に演劇に関する博士論文作成のための指導を行なう。
（田中孝信教授） 英文学、特に小説に関する博士論文作成のための指導を行なう。
●評価方法
研究報告・平常点。
●受講生へのコメント
積極的な学会発表や論文投稿を通じて着実に業績を積み重ねるように希望する。
●参考文献・教材
指導の過程で適宜指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCDFX4701	開講期	単位数
D12	ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導			前後木 5	12 単位
	英文名 Thesis Guidance in German French Language and Literature			担当教員名 神竹 道士 教授／津川 廣行 教授／福島 祥行 教授	

●科目の主題
ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化の分野における博士論文の作成に必要な研究上の指導を行う。
●到達目標
博士論文完成に至らしめる。
●授業内容・授業計画
1 年次は博士論文の研究テーマを設定し、それに関わる問題意識を熟成させていく。このためにテーマに関わるテクストの精読を行い、関連する文献を収集し検討する。また各種研究方法についての検討も行う。こうして論文の一部をなす、あるいは論文の基礎となるような予備研究を仕上げる。
2 年次は、さらに研究テーマを明確にし、論文の構成について概略を定め、一貫性のある研究方法を取りつつ論文作成の作業に取りかかる。そして博士論文の一部分をなす研究を仕上げる。
3 年次は、1・2 年次の研究成果をもとに研究テーマを体系的な形で論述し、博士論文として完成させる。この間 3 年間にわたって、研究テーマと研究方法、さらに論の構成や論述の仕方に至るまで、論文作成の指導を行う。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。
（神竹道士教授）ドイツ語学に関して、言語分析におけるさまざまな理論や視点をふまえた上で、広い視野に立っ

た博士論文が完成できるよう、適切な指導を行う。
（津川廣行教授）フランス語圏文学に関して、文化・思想・歴史なども含めた広い視野に立った博士論文が完成できるよう、適切な指導を行う。
（福島祥行教授）フランス語学に関して、社会的、文化的、歴史的問題意識をもち、広い視野に立った博士論文が完成できるよう、適切な指導を行う。

●評価方法

平常点とレポートにより、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

適宜、参考文献を紹介する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG4701	開講期	単位数
D13	**言語情報学論文指導**			前後水 5	12 単位
	英文名 Supervision of a Doctoral Thesis in Linguistics and Language Processing			担当教員名 関 茂樹 教授／井狩 幸男 教授／山崎 雅人 教授／田中 一彦 教授	

●科目の主題

言語構造論・神経心理言語学・語用論・英語語法研究などを研究する人材育成のため、博士論文の作成指導だけでなく、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。

●到達目標

各自のテーマに基づいた論文を作成し、指導教員による助言と指導による研究活動を行う。

●授業内容・授業計画

第 1 年次初期には、修士論文などを参考にしながら、学生が後期博士課程において研究すべき内容について指導し、博士論文作成にかかわる 3 年間の研究計画を立てさせる。

第 1 年次の後半および第 2 年次には、博士論文作成に必要な理論、文献などについて指導し、論文作成の過程を見ながら、各要所で学術的な議論構築の方法について助言する。

第 3 年次には論文草稿を読んで長所短所を指摘し、全面推敲させるという過程を繰り返す。その間、論文内容にかかわる先行研究について」さらに学ばせ、充実した論文の完成へ導く。学生はその研究テーマに応じて、下記のいずれかの教員の指導を受けるものとする。

（関　茂樹教授）主に語用論の分野のテーマについて、関連する先行研究と重要な文献について指導し、当該の分野に貢献する論文が完成できるように、指導を行う。
（井狩幸男教授）神経心理言語学の立場から、母語獲得、第二言語習得、バイリンガリズム、失語症、失読症など、さまざまな言語現象を通して、人間にとってことばとは何かという問題を検討し、同時に、ことばの応用を探る研究の指導を行う。
（山崎雅人教授）言語類型論と認知言語学の視点から諸言語の多様性を貫く原理の分布状況を考察し、様々なデータを一貫した論理に基づいて分析する論考を構築できるように指導する。
（田中一彦教授）伝統的な言語理論を考慮しつつ、現代の代表的な言語理論を考察する。主に、小説・新聞・雑誌などを言語資料として、特定の言語現象を意味論、語用論、さらには談話といった多角的側面から分析できるように指導する。

●評価方法

平常点による。

●受講生へのコメント

各自の研究テーマに関して、できるだけ多様な角度から考察することを目標としたい。

●参考文献・教材

担当教員が個別に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCLNG4702	開講期	単位数
D14	言語応用学論文指導			前後水 5	12 単位
	英文名 Supervision of a Doctoral Thesis in Linguistics Applied			担当教員名 関 茂樹 教授／井狩 幸男 教授／山崎 雅人 教授／田中 一彦 教授	

●科目の主題

言語構造論・神経心理言語学・語用論・英語語法研究などを研究する人材育成のため、博士論文の作成指導だけでなく、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。

●到達目標

各自のテーマの設定と今後の研究方針の決定。

●授業内容・授業計画

第 1 年次初期には、修士論文などを参考にしながら、学生が後期博士課程において研究すべき内容について指導し、博士論文作成にかかわる 3 年間の研究計画を立てさせる。

第 1 年次の後半および第 2 年次には、博士論文作成に必要な理論、文献などについて指導し、論文作成の過程を見ながら、各要所で学術的な議論構築の方法について助言する。

第 3 年次には論文草稿を読んで長所短所を指摘し、全面推敲させるという過程を繰り返す。その間、論文内容にかかわる先行研究について」さらに学ばせ、充実した論文の完成へ導く。学生はその研究テーマに応じて、下記のいずれかの教員の指導を受けるものとする。

（関　茂樹教授）主に語用論の分野のテーマについて、関連する先行研究と重要な文献について指導し、当該の分野に貢献する論文が完成できるように、指導を行う。

（井狩幸男教授）神経心理言語学の立場から、母語獲得、第二言語習得、バイリンガリズム、失語症、失読症などにおいて観察されるさまざまな言語現象を通して、人間にとって言語とは何かという問題を検討し、同時に、言語への応用を探る研究の指導を行う。

（山崎雅人教授）言語類型論と認知言語学の視点から諸言語の多様性を貫く原理の分布状況を考察し、様々なデータを一貫した論理に基づいて分析する論考を構築できるように指導する。

（田中一彦教授）伝統的な言語理論を考慮しつつ、現代の代表的な言語理論を考察する。主に、小説・新聞・雑誌などを言語資料として、特定の言語現象を意味論、語用論、さらには談話といった多角的側面から分析できるように指導する。

●評価方法

平常点による。

●受講生へのコメント

各自の研究テーマに関して、できるだけ多様な角度から考察することを目標としたい。

●参考文献・教材

担当教員が個別に指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LCART4701	開講期	単位数
D15	表現文化学論文指導			前後金 4	12 単位
	英文名 Supervision of a Doctoral Thesis in Cultural Studies			担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題

博士論文作成に関する指導を行う。

●到達目標

博士論文執筆に必要な知見を習得させ、博士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

1 年次は、研究課題を決定し、論文作成のために必要な理論や、文献・資料の調査・研究の方法を学ばせる。また修士論文の内容をさらに発展させて論文にまとめ、学会誌への執筆・学会等での発表を指導する。

2 年次は、1 年次で学んだことをふまえて、博士論文の作成にむけて具体的な計画を提出させる。研究課題に関する多数の論文等を比較検討し、独自の明確な論点を定め、一貫した研究方法で論文作成に取り掛かるよう指導する。博士論文の一部を公表させる。

3 年次は、論文の作成に即して、構成や論述の仕方等について具体的に指導を行う。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（三上　雅子教授）日本現代演劇と欧州演劇の比較研究、特に戯曲を読むだけでなく、実際の上演・受容に即した比較研究を指導する。また現代日本の表象文化の指導も行う。
（小田中章浩教授）現代フランス演劇、19 世紀から 20 世紀にかけてのフランスを中心とした現代西洋の表象文化、および日本と西洋に共通した演劇のテーマ的研究（復讐と演劇、アウトローと演劇など）について、研究指導を行う。
（野末　紀之教授）19 世紀末以後のイギリスを中心とする西欧文化におけるジェンダーおよびセクシュアリティの表現にかんして研究指導を行なう。

●評価方法

授業中の発表によって評価する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

適宜指示する。

アジア都市文化学専攻

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA4701	開講期	単位数
D16	アジア都市文化学論文指導			前後月 1	12 単位
	英文名 Supervision of Doctoral Thesis in Asian Culture and Urbanism			担当教員名 中川 眞 教授／野崎 充彦 教授／ 多和田 裕司 教授／	

●科目の主題

アジア都市文化学に関する博士論文作成に向けての研究指導を行う。

●到達目標

1 年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な研究方法を確立させる。文献研究、フィールドワークに加えて、感性論的方法、対話的方法などによって自分の研究課題に即した研究の計画を立案させ、立案した計画に基づいて、アジア諸国・諸地域の調査・研究機関のもとで、文献収集やフィールドワークを実施させる。

2 年次は、集められたデータや資料の分析を行わせ、研究発表や学会発表を重ねて論文作成の構想を練る。

3 年次は、博士論文の作成のために行った調査結果に基づき、論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文をまとめさせる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

●授業内容・授業計画

〈都市文化領域〉

（中川　　眞教授）主に、アジアの音楽・音文化論・芸能、ならびに社会包摂型アーツマネジメントに関する博士論文の指導を行う。

〈比較文化領域〉

（野崎　充彦教授）韓国・朝鮮文化に関する研究テーマを追求するうえで、歴史的・文化的に関わりの深い中国・日本との比較的視野を保持し、現代日本においてコリア文化研究に携わる意義についての自覚を促しつつ、個性的な研究成果をめざす。

（多和田裕司教授）主に、東南アジアの地域文化論、宗教文化論に関する博士論文の指導を行う。

●評価方法

平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業内で指示する。

掲載№	授業科目名	科目 NO.	LDASA4702	開講期	単位数
D17	アジア比較文化学特論Ⅰ			前月 5	2 単位
	英文名			担当教員名 野崎 充彦 教授	

●科目の主題

韓国の宗教文化

●到達目標

韓国文化を宗教の側面からアプローチする。

●授業内容・授業計画

仏教・儒教・シャーマニズムなど、伝統的な宗教文化の過去と現在に対する包括的な理解をめざす。

●評価方法

出席とレポート

●受講生へのコメント

文献のみならず、フィールドワークも重視するので、全身の感覚を研ぎ澄ますことが求められる。

●参考文献・教材

随時、提示する。

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LDASA4704	開講期	単位数
D18	アジア都市文化学特論Ⅰ			後火 3	2 単位
	英文名			担当教員名 中川 眞 教授	

●科目の主題

サウンドスケープを含む音響環境文化

●到達目標

都市における音響環境への有効なアプローチ法を、サウンドスケープという手法を用いて獲得する。

●授業内容・授業計画

サウンドスケープに関する文献購読とフィールドワーク（日本、インドネシア、タイのいずれか）で学ぶ。

●評価方法

平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント

録音などの機器は教室で準備する。

●参考文献・教材

中川真『平安京　音の宇宙』平凡社（2004 増補版）
中川真『サウンドアートのトポス』昭和堂（2007）

掲載No.	授業科目名	科目 NO.	LDASA4705	開講期	単位数
D19	アジア都市文化学特論Ⅱ			後火 2	2 単位
	英文名			担当教員名 多和田 裕司 教授	

●科目の主題

東南アジアにおける宗教についての文化人類学ならびに隣接分野の最新の研究動向を把握する。とくに近年の経済発展にともなう東南アジア都市社会の変容を視野に入れながら、消費社会と宗教実践の相関、市民社会における宗教の制度化、ナショナリズムと宗教実践などについて検討する。

●到達目標

受講者に東南アジア宗教研究の最新の動向を把握させるとともに、先行研究にたいする批判的読解力を身につけさせる。

●授業内容・授業計画

上記主題に即した英語の文献をゼミ形式で読み進める。授業は受講者による文献の報告とその後の討論によって進めていく。文献の選択は、受講者の研究テーマも考慮した上で、第 1 回目の授業時に決定する。

●評価方法

平常点によって評価を行う。

●受講生へのコメント

受講希望者は授業についての打ち合わせを行うので、必ず事前に多和田まで連絡すること。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

Appendix

●教員名簿

教員研究室電話番号／メールアドレス

●教室見取り図

●杉本キャンパスマップ

教 員 名 簿

平成 28 年 4 月 1 日現在

1．氏名の配列は、専修ごとに専任教員、特任教員とし、非常勤講師は五十音順とし た。
2．専任教員の氏名の順は、職階別に年齢順とし、非常勤講師の氏名の順は五十音順とした。
3．備考欄には、研究科長、評議員、教務委員、学生担当委員、専修代表を記入した。

氏　　名	職　名	教員研究室 電話番号	メールアドレス	備　　考
哲 学 教 室				
専　任				
仲 原　　孝	教　授	06-6605-2358	JCF05366@nifty.com	専修代表
高 梨 友 宏	教　授	06-6605-2365	takanash@lit.osaka-cu.ac.jp	
土 屋 貴 志	准教授	06-6605-2356	tsuchiya@lit.osaka-cu.ac.jp	
佐 金　　武	講　師	06-6605-2361		
日本史学教室				
専　任				
塚 田　　孝	教　授	06-6605-2390	tsukada@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
仁 木　　宏	教　授	06-6605-2391	niki@lit.osaka-cu.ac.jp	副研究科長
岸 本 直 文	教　授	06-6605-2395	kishimot@lit.osaka-cu.ac.jp	
佐 賀　　朝	教　授	06-6605-2398	a-saga@lit.osaka-cu.ac.jp	
磐 下　　徹	准教授	06-6605-2393	iwashita@lit.osaka-cu.ac.jp	
東洋史学専修				
専　任				
平 田 茂 樹	教　授	06-6605-2394	hirata@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
野 村 親 義	准教授	06-6605-2396	nomura@lit.osaka-cu.ac.jp	
上 野 雅由樹	講　師	06-6605-2397	mueno@lit.osaka-cu.ac.jp	
井 上　　徹	教　授	06-6605-2399	inouet@lit.osaka-cu.ac.jp	
（大阪市立大学理事兼副学長）				
西洋史学専修				
専　任				
大 黒 俊 二	教　授	06-6605-2401	ooguro@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
北 村 昌 史	教　授	06-6605-2378	kitamasa@lit.osaka-cu.ac.jp	教務委員
草 生 久 嗣	准教授	06-6605-2438	kusabu@lit.osaka-cu.ac.jp	

氏　　名	職　名	教員研究室 電話番号	メールアドレス	備　　考
社会学教室				
専　任				
進藤雄三	教　授	06-6605-2368	shindou@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
石田佐恵子	教　授	06-6605-2367	ishita@lit.osaka-cu.ac.jp	教務委員長
伊地知紀子	教　授	06-6605-2370	ijichi@lit.osaka-cu.ac.jp	
川野英二	准教授	06-6605-2366	kawano@lit.osaka-cu.ac.jp	
笹島秀晃	講　師	06-6605-2371	sasajima@lit.osaka-cu.ac.jp	
心理学教室				
専　任				
池上知子	教　授	06-6605-2376	ikegami@lit.osaka-cu.ac.jp	
山　祐嗣	教　授	06-6605-2377	yama@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
川邉光一	准教授	06-6605-2380	kawabe@lit.osaka-cu.ac.jp	
佐伯大輔	准教授	06-6605-2373	saeki@lit.osaka-cu.ac.jp	
教育学教室				
専　任				
柏木　敦	教　授	06-6605-2388	kashiwag@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表・教務委員
添田晴雄	准教授	06-6605-2466	soeda@lit.osaka-cu.ac.jp	
森　久佳	准教授	06-6605-2461	hmori@lit.osaka-cu.ac.jp	
島田　希	准教授	06-6605-2389		
地理学教室				
専　任				
大場茂明	教　授	06-6605-2402	oba@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
山﨑孝史	教　授	06-6605-2407	yamataka@lit.osaka-cu.ac.jp	
祖田亮次	准教授	06-6605-2453	soda@lit.osaka-cu.ac.jp	
木村義成	講　師	06-6605-2404	yoshi@lit.osaka-cu.ac.jp	
水内俊雄	教　授	06-6605-2406	mizuuchi@lit.osaka-cu.ac.jp	
（大阪市立大学都市研究プラザ教授）				

氏　　名	職　名	教員研究室 電話番号	メールアドレス	備　　考
国語国文学教室				
専　　任				
丹　羽　哲　也	教　授	06-6605-2410	niwa@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
小　林　直　樹	教　授	06-6605-2409	kobayasn@lit.osaka-cu.ac.jp	
久　堀　裕　朗	准教授	06-6605-2412	kubori@lit.osaka-cu.ac.jp	
奥　野　久美子	准教授	06-6605-2414	okuno@lit.osaka-cu.ac.jp	
山　本　真由子	講　師	06-6605-2413		
中国語中国文学教室				
専　　任				
松　浦　恆　雄	教　授	06-6605-2421	matuura@lit.osaka-cu.ac.jp	教育研究評議会委員
岩　本　真　理	教　授	06-6605-2418	ybzljp@yahoo.co.jp	専修代表
張　　新　民	准教授	06-6605-2415	cho@lit.osaka-cu.ac.jp	
大岩本　幸　次	准教授	06-6605-3054	ooiwamot@lit.osaka-cu.ac.jp	
英米言語文化学教室				
専　　任				
杉　井　正　史	教　授	06-6605-2433	sugiim@lit.osaka-cu.ac.jp	
田　中　孝　信	教　授	06-6605-2435	tanakat@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
イアン・リチャーズ (Ian,RICHARDS)	准教授	06-6605-2436	richard@lit.osaka-cu.ac.jp	
古　賀　哲　男	准教授	06-6605-2437	koga@lit.osaka-cu.ac.jp	
豊　田　純　一	准教授	06-6605-2428		
ドイツ語フランス語圏言語文化学教室				
専　　任				
神　竹　道　士	教　授	06-6605-2450	kamitake@lit.osaka-cu.ac.jp	学生担当委員
髙　井　絹　子	准教授	06-6605-2446	takai@lit.osaka-cu.ac.jp	
長谷川　健　一	講　師	06-6605-2447	hasek@lit.osaka-cu.ac.jp	
津　川　廣　行	教　授	06-6605-2459	tsugawa@lit.osaka-cu.ac.jp	
福　島　祥　行	教　授	06-6605-2454	fukushim@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表・教務委員
白　田　由　樹	准教授	06-6605-2458	shirata@lit.osaka-cu.ac.jp	
特任教員				
ジモン・エルトレ (Simon,OERTLE)	特任講師			
ロラン・バレイユ (Laurent,BAREILLE)	特任講師			

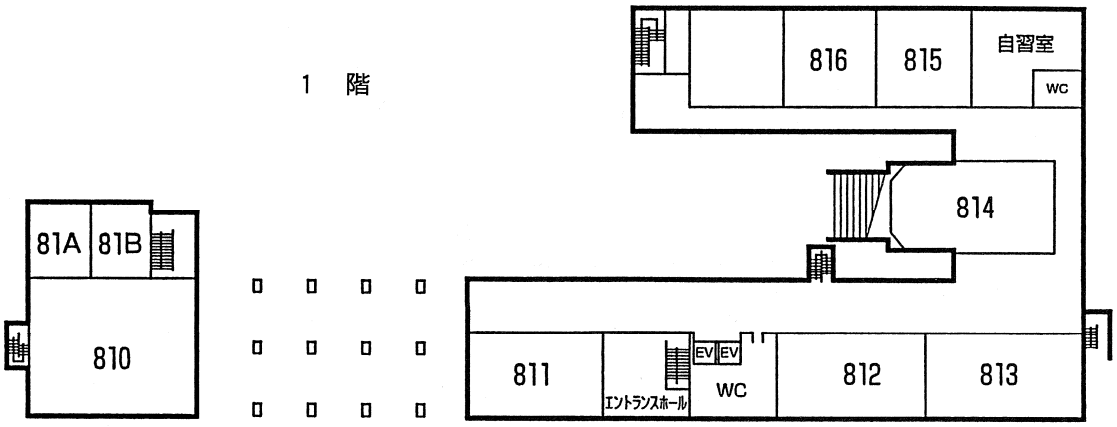
氏　　名	職　名	教員研究室 電話番号	メールアドレス	備　　考
言語応用学教室				
専　　任				
関　　茂　樹	教　授	06-6605-2422	sekis@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
井　狩　幸　男	教　授	06-6605-2423	ikari@lit.osaka-cu.ac.jp	
山　崎　雅　人	教　授	06-6605-2416	yamazaki@lit.osaka-cu.ac.jp	
田　中　一　彦	教　授	06-6605-2467	tanakak@lit.osaka-cu.ac.jp	
表現文化学教室				
専　　任				
三　上　雅　子	教　授	06-6605-2449	mikamimasako@hotmail.com	学生担当委員
小田中　章　浩	教　授	06-6605-2456	odanaka@lit.osaka-cu.ac.jp	研究科長
野　末　紀　之	教　授	06-6605-2425	nozue@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
高　島　葉　子	准教授	06-6605-2434	takashim@lit.osaka-cu.ac.jp	
海老根　　剛	准教授	06-6605-2386	ebine@lit.osaka-cu.ac.jp	
特任教員				
江　村　　公	特　任 講　師			
アジア都市文化学教室				
専　　任				
中　川　　眞	教　授	06-6605-2374	nakagawa@lit.osaka-cu.ac.jp	
野　崎　充　彦	教　授	06-6605-2465	nozaki@lit.osaka-cu.ac.jp	専修代表
多和田　裕　司	教　授	06-6605-2375	tawada@lit.osaka-cu.ac.jp	
堀　　まどか	准教授	06-6605-2198	horimado@lit.osaka-cu.ac.jp	
増　田　　聡	准教授	06-6605-2457	masuda@lit.osaka-cu.ac.jp	
天　野　景　太	准教授	06-6605-2403	amano@lit.osaka-cu.ac.jp	

非常勤講師

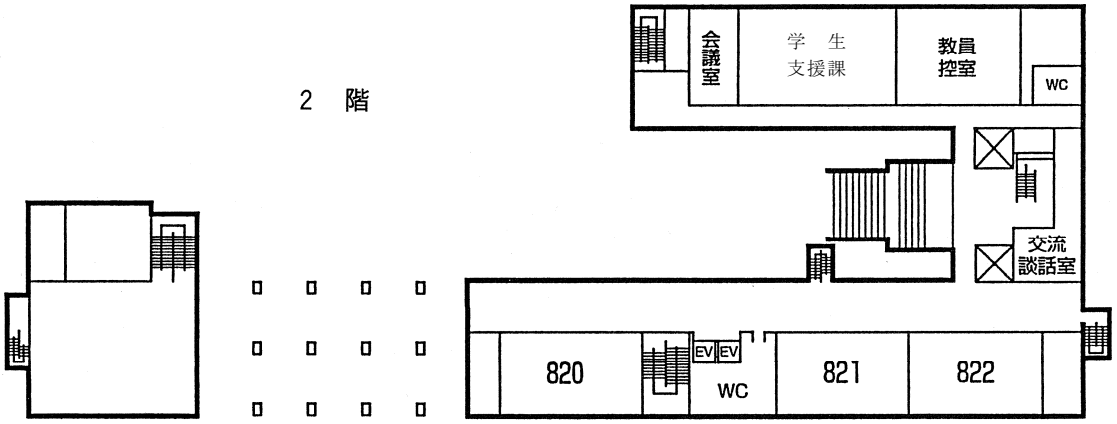
秋岡英之	関西学院大学非常勤講師 中国文献文化学研究Ⅱ
秋葉淳	千葉大学文学部准教授 東洋史学研究Ⅳ
上田貴子	近畿大学文芸学部准教授 東洋史学研究Ⅵ
Elizabeth Leigh（リー）	大阪市立大学英語教育開発センター特任准教授 academic communication Ⅰ・Ⅱ
大東和重	関西学院大学教授 言語文化学研究Ⅰ
小野原教子	兵庫県立大学経営学部准教授 比較文化交流論Ⅱ
後藤雅知	立教大学文学部教授 日本史学研究Ⅵ
白波瀬達也	関西学院大学社会学部 准教授 社会学特殊問題研究Ⅱ
滝沢潤	大阪市立大学非常勤講師 教育学特殊問題研究Ⅰ・教育学特殊問題研究演習 1
田間泰子	大阪府立大学教授 社会学特殊問題研究Ⅳ
中谷功治	関西学院大学文学部教授 西洋史学研究Ⅱ
野村明宏	大谷大学文学部准教授 社会学特殊問題研究Ⅲ
橋本裕之	追手門文学院大学教授 アジア都市文化学特講Ⅰ
原英一	東京女子大学大学院人間科学研究所教授 英米言語文化論
東山篤規	立命館大学大学院文学研究科教授 人間行動学研究Ⅱ
日比野啓	成蹊大学文学部教授 表現文化学特殊研究
廣瀬千一	大阪市立大学非常勤講師 ドイツ語圏文学研究Ⅱ
松本保宣	立命館大学教授 東洋史学研究Ⅴ
水谷隆	大阪女子短期大学幼児教育科准教授 国語国文学研究　国語国文学研究演習
南直人	京都橘大学教授 西洋史学研究Ⅵ
山口覚	関西学院大学文学部 教授 人間行動学研究Ⅳ
山﨑洋子	福山平成大学教授 人間行動学研究Ⅲ
湯浅治久	専修大学文学部教授 日本史学研究Ⅴ
Raymond G. Langley	大分大学准教授 比較文化交流論Ⅱ
脇坂真弥	大谷大学文学部准教授 西洋哲学史研究

全 学 共 通 教 育 棟

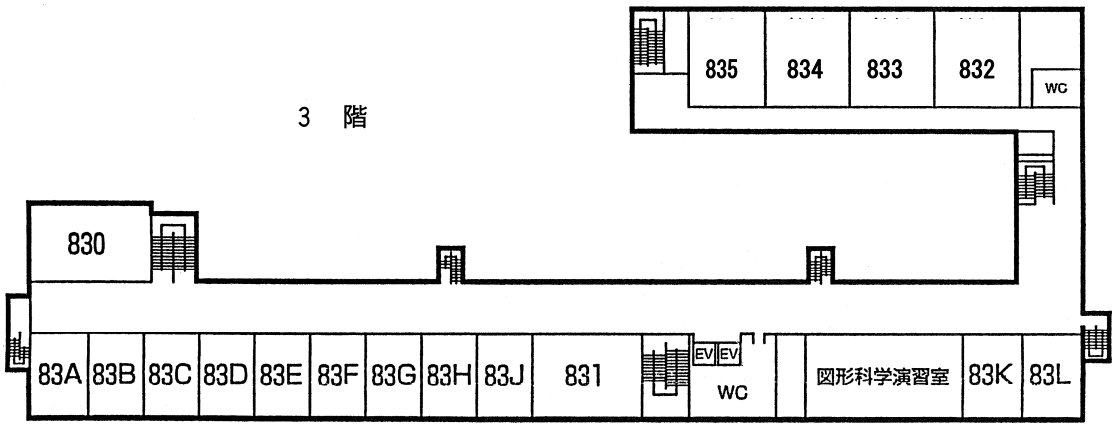
1 階



2 階

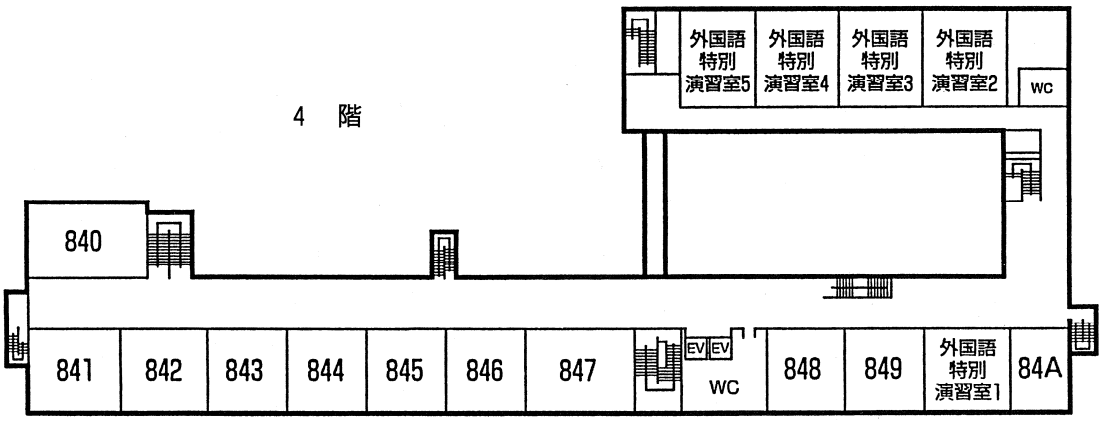


3 階

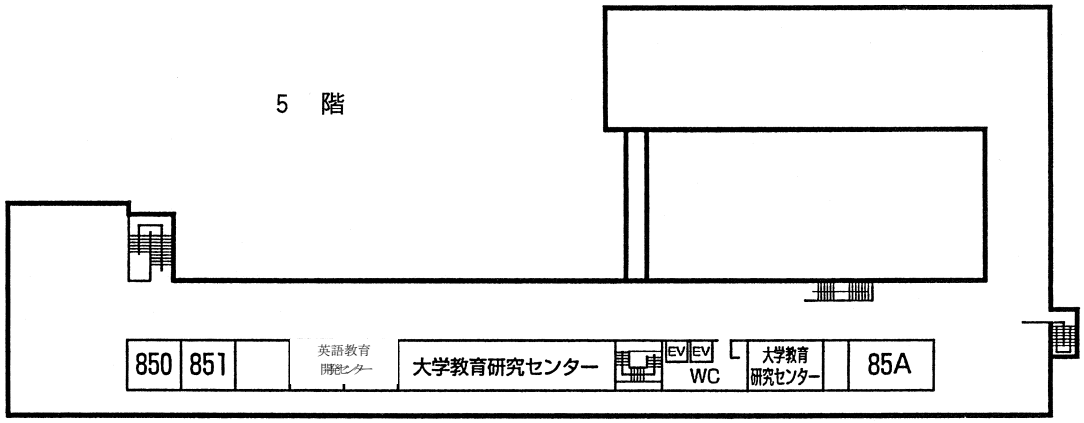


各　教　室　見　取　図

4　階

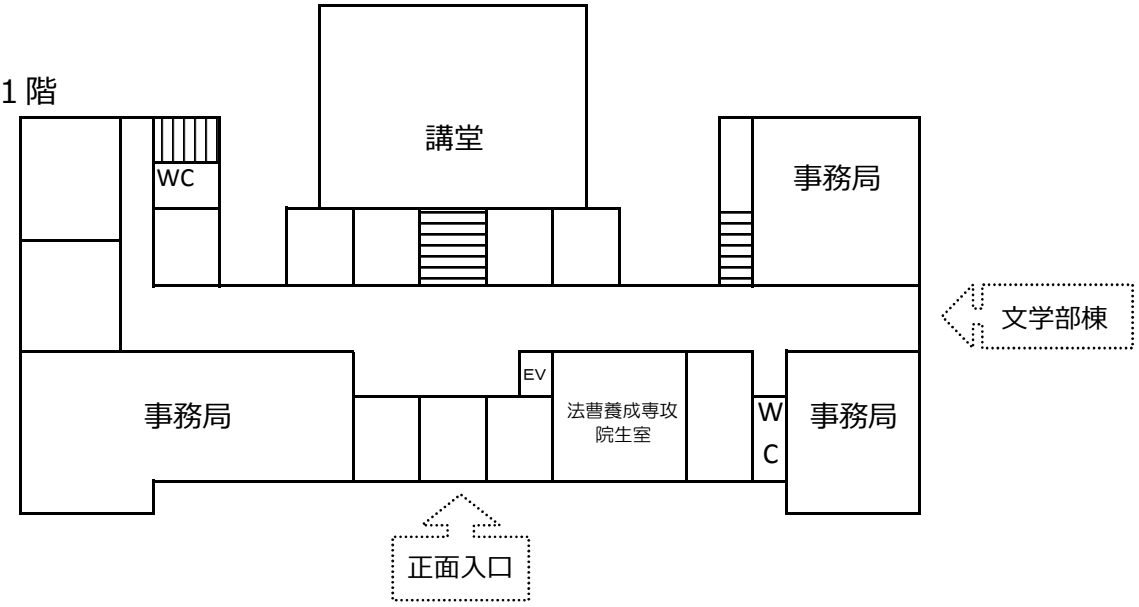

外国語特別演習室5
外国語特別演習室4
外国語特別演習室3
外国語特別演習室2
WC
840
841
842
843
844
845
846
847
EV
EV
WC
848
849
外国語特別演習室1
84A

5　階

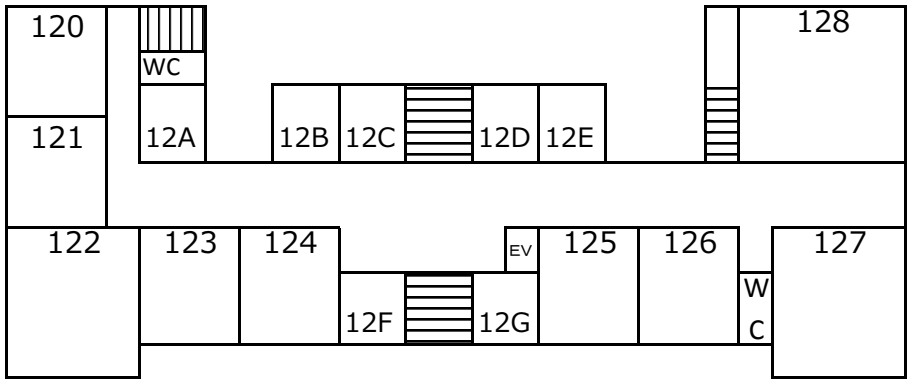

850
851
英語教育開発センター
大学教育研究センター
EV
EV
WC
大学教育研究センター
85A

1号館 教室見取図

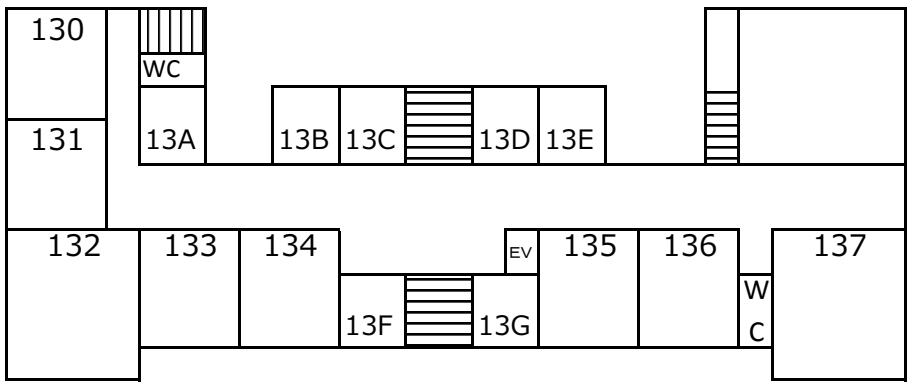
1階



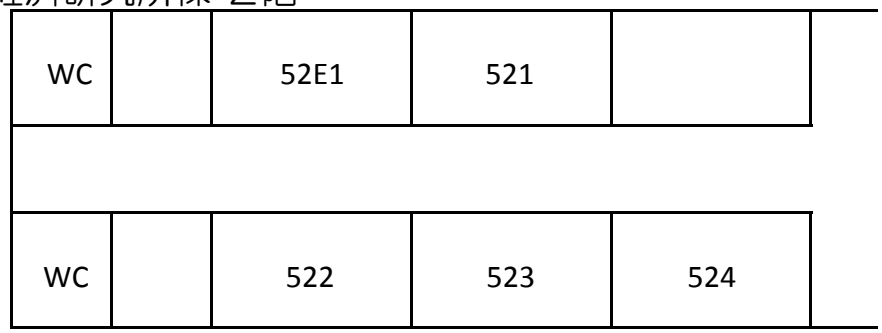
2階



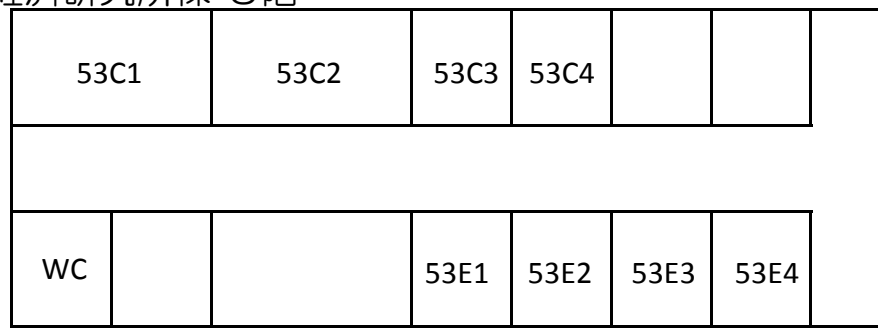
3階



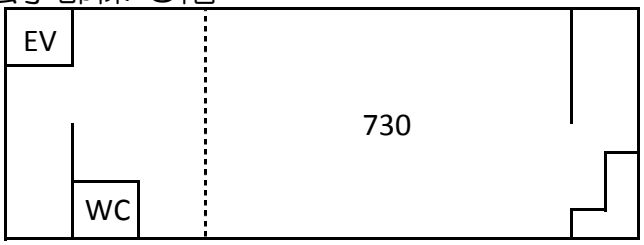
経済研究所棟 ２階



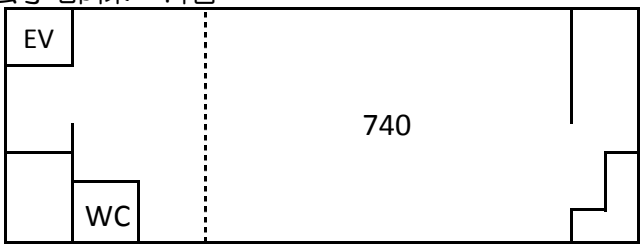
経済研究所棟 ３階



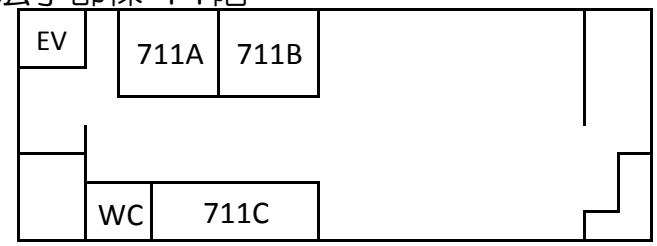
法学部棟 ３階



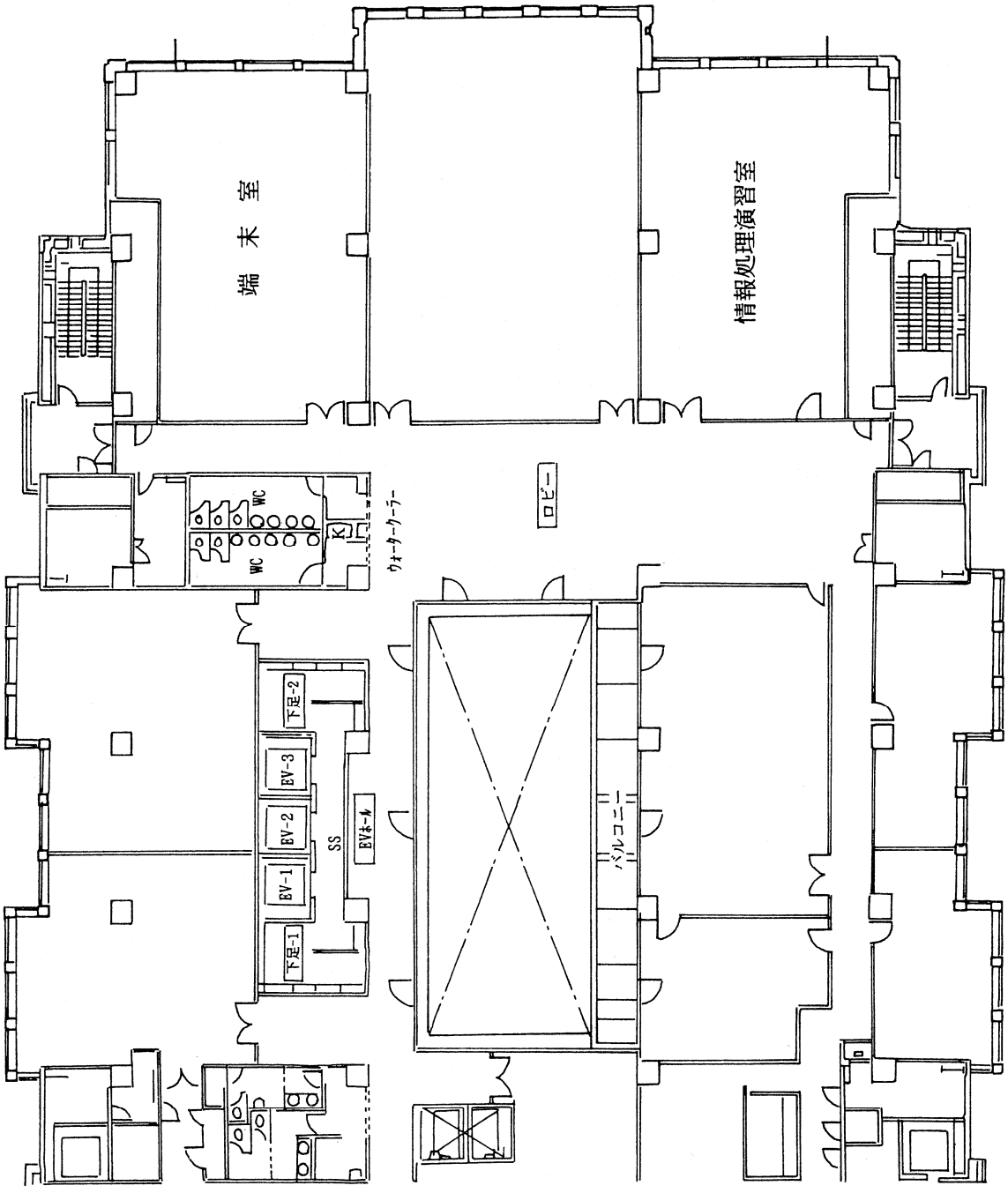
法学部棟 ４階



法学部棟 １１階



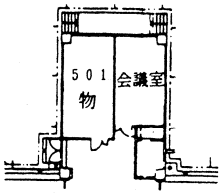
学術情報総合センター　９Ｆ



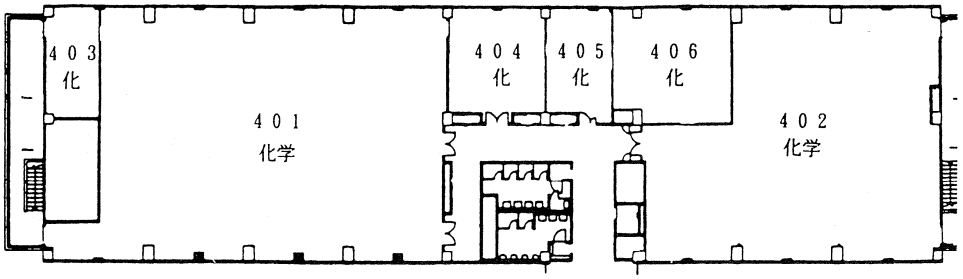
（西側省略）

基礎教育実験棟

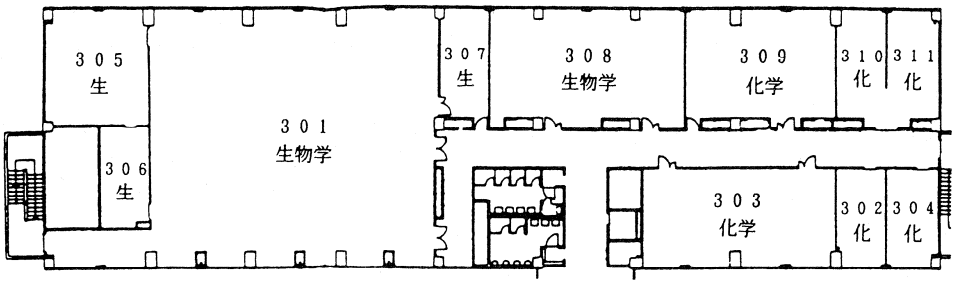
（1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。）



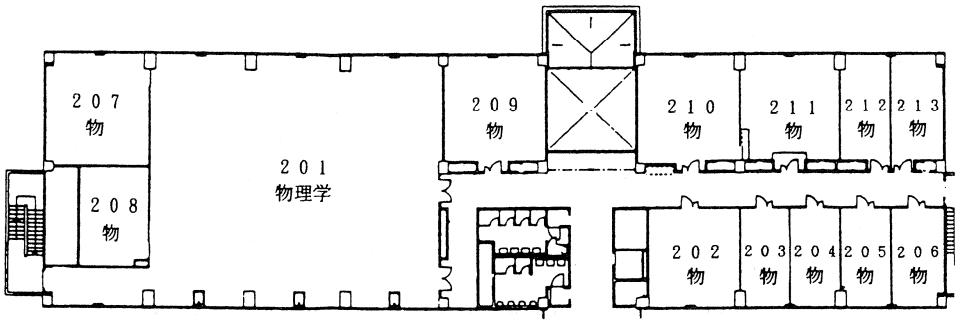
5階



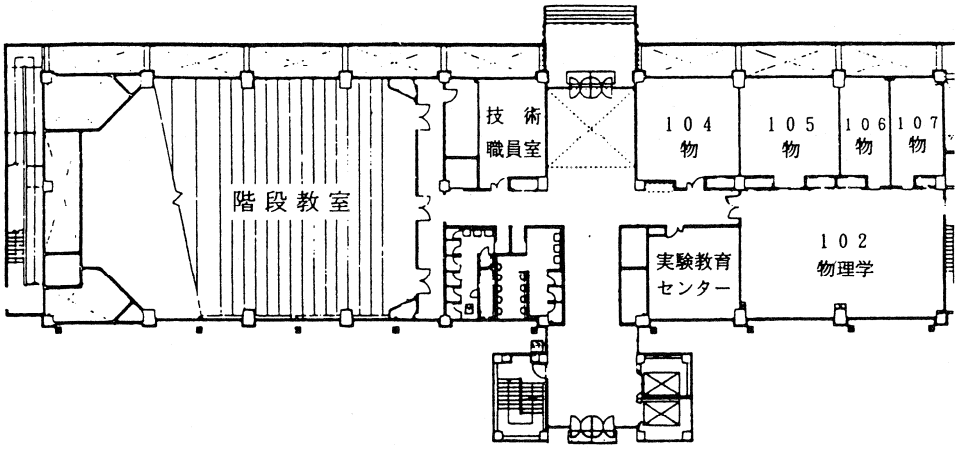
4階



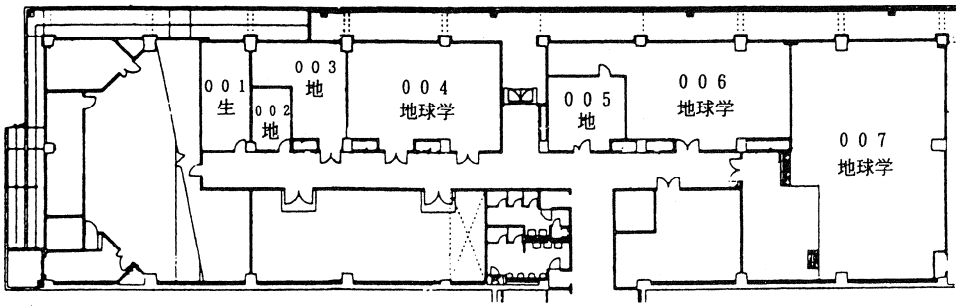
3階



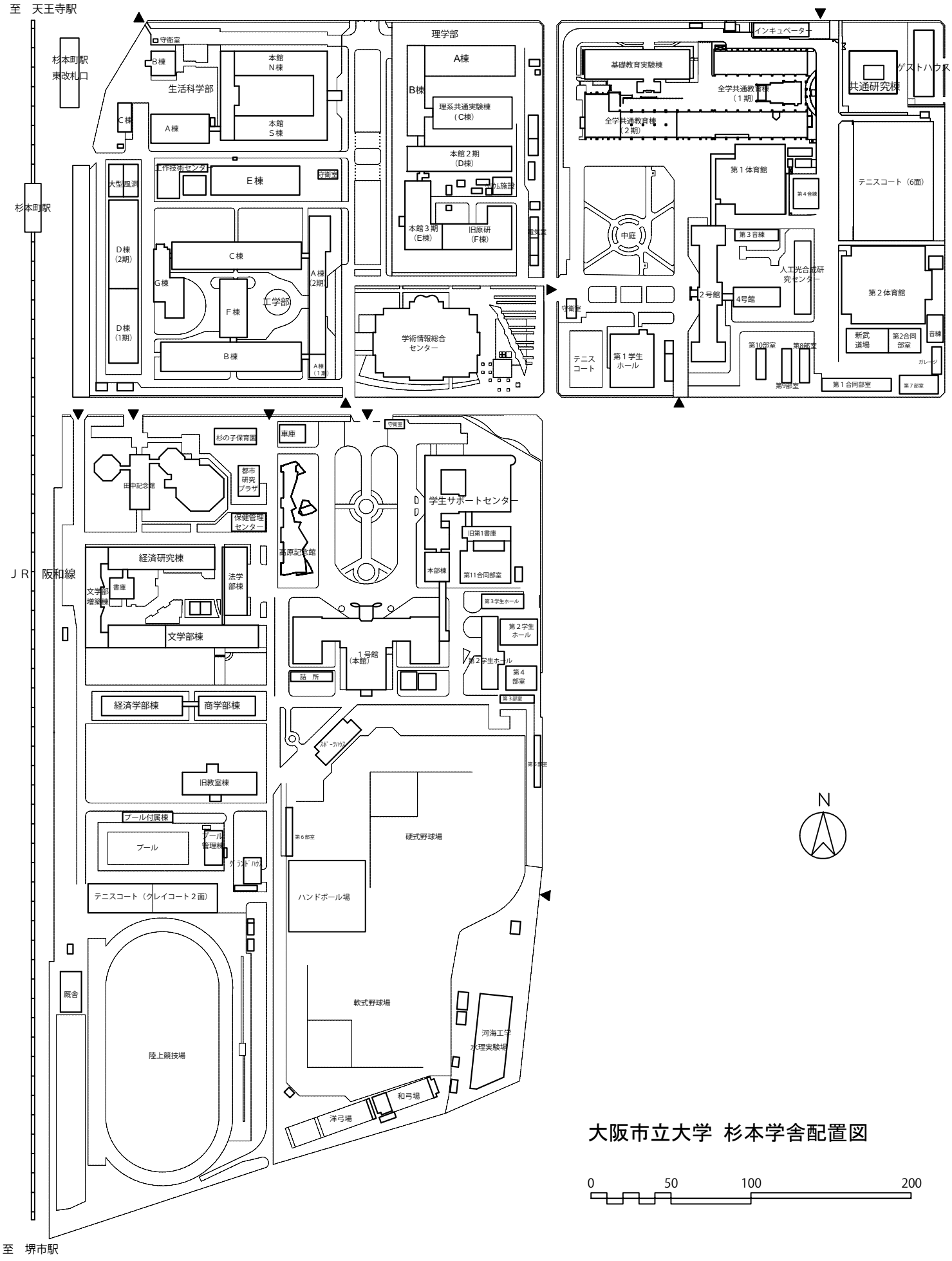
2階



1階



地下1階


至　天王寺駅
杉本町駅
東改札口
杉本町駅
守衛室
B棟
本館
N棟
生活科学部
C棟
A棟
本館
S棟
工作技術センター
E棟
守衛室
大型風洞
D棟
(2期)
D棟
(1期)
C棟
G棟
F棟
工学部
A棟
(2期)
B棟
A棟
(1期)
理学部
A棟
B棟
理系共通実験棟
(C棟)
本館2期
(D棟)
地下施設
本館3期
(E棟)
旧原研
(F棟)
学術情報総合
センター
インキュベーター
基礎教育実験棟
全学共通教育棟
(1期)
全学共通教育棟
(2期)
ゲストハウス
共通研究棟
第1体育館
第4音練
テニスコート（6面）
中庭
第3音練
人工光合成研
究センター
2号館
4号館
第2体育館
守衛室
テニス
コート
第1学生
ホール
第10部室
第8部室
新武
道場
第2合同
部室
音練
ガレージ
第9部室
第1合同部室
第7部室
ＪＲ　阪和線
杉の子保育園
車庫
守衛室
田中記念館
都市
研究
プラザ
保健管理
センター
学生サポートセンター
旧第1書庫
高原記念館
経済研究棟
法学
部棟
本部棟
第11合同部室
文学部
増築棟
書庫
第3学生ホール
第2学生
ホール
文学部棟
1号館
(本館)
第2学生ホール
第4
部室
詰　所
経済学部棟
商学部棟
第3部室
旧教室棟
第5部室
プール付属棟
プール
プール
管理棟
第6部室
硬式野球場
テニスコート（クレイコート2面）
ハンドボール場
厩舎
軟式野球場
陸上競技場
河海工学
水理実験場
和弓場
洋弓場
N
大阪市立大学　杉本学舎配置図
0
50
100
200
至　堺市駅